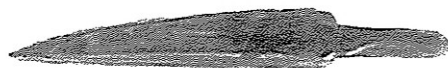


445 木製三稜鏃 古墳中期～後期
 讃良郡糸里遺跡 (W1.1・ℓ7.1) 文献721・831

自然流路内に設けられた堰付近から出土。

鏃身部断面は三角形、茎部断面は円形を呈する。鏃身の先端部を一部欠損するが、茎部は完存する。茎部には湾曲が認められる。鏃身の稜の一部にキズが残るが、実用品か模造品かは不明である。用材はモミ属。近隣より、443（下）弓の破片や鉄鏃の出土がある。

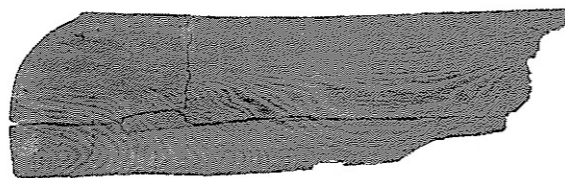
（黒須）



446

446 盾 古墳前期
 久宝寺遺跡 (w36.5・ℓ122.0) 文献759

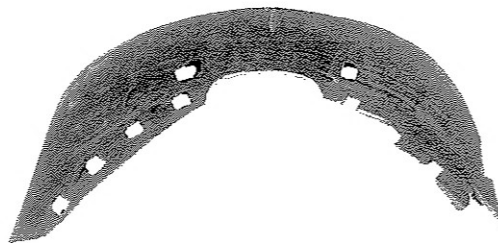
自然流路に設けられた堰の横木として再利用された状態で出土。片側半分と下方部を欠損する。上端（写真左）はゆるやかな弧状を呈し、小段をもってやや内湾する側面へと続く。紐綴溝が表裏面ともに6～7cm間隔で水平方向に切られており、その溝に沿い径3mm程度の紐綴孔が2cm間隔で穿たれている。その他、把手、装飾具の装着孔も遺存する。用材はスギ。（黒須）



447

447 鞍（後輪） 古墳中期～後期
 讃良郡糸里遺跡 (H20.1・W41.8) 文献831

自然流路から出土。鞍橋のうち、騎手の背側にあたる後輪と考えられる。上辺は弧状、底辺は直線状に加工され中央部を丸く抉る。居木を差し込む方形孔が左右に4点、鞍を差し込む方形孔が計2点穿たれている。側面の一部と一方の爪先部を欠損する。方形孔にバリ状箇所が残ることから、製作途中に損じ、放置された可能性が高い。用材はヒノキ。（黒須）

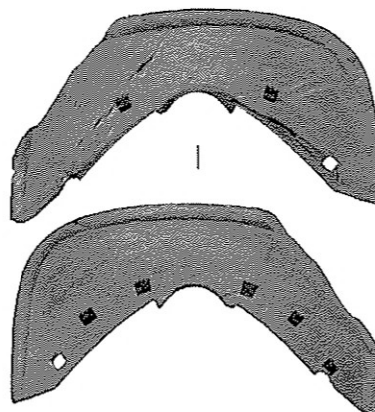


448

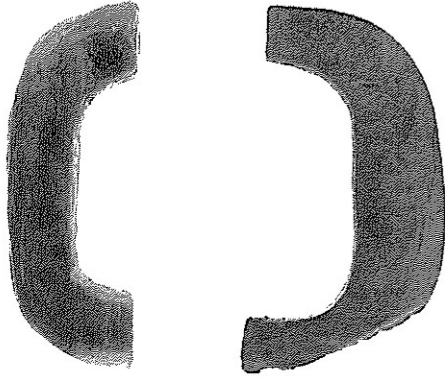
448 鞍（前輪） 古墳後期
 玉櫛遺跡 (H20.0・W36.0) 文献827

集落内に設けられた土坑の最下層から出土。

騎手の腹側にあたる前輪である。外縁は玉縁状に、中央部は厚みをもたせて作られる。馬膚面には溝が抉り込まれている。表面には鞍を差し込む方形孔が2点、裏面には居木を差し込む未貫通穴が左右に3点ずつ設けられている。鞍孔は直角に垂下して馬膚面にいたる。用材はツバキ属。（黒須）



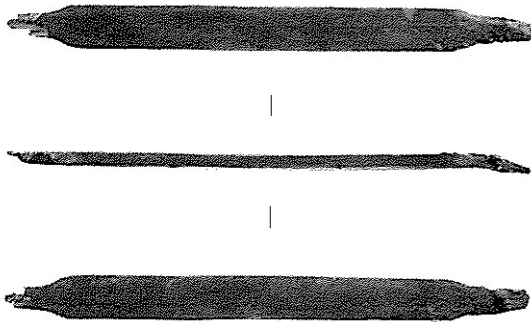
449



449 輪鐙 古墳中期～後期
 讚良郡条里遺跡 (左:ℓ13.7,右:ℓ14.2) 文献721・825・831

自然流路から出土。馬具鐙のうち輪状を呈する類例の一つ。木取りのあり方から輪の側面にあたると推測される。断面形状は楕円形で、やや平たい。脚を掛ける輪の内側が意識的に加工されており、部分的に摩滅も認められる。装飾は特に認められない実用品である。隣接する四條畷市部屋北遺跡では、全体形状が判る輪鐙や馬骨^{わあぶみ}の出土がある。 (黒須)

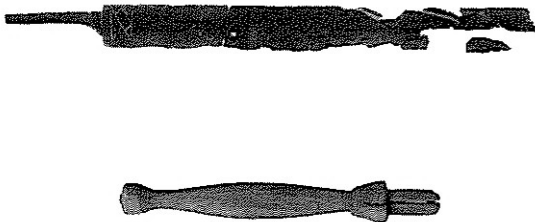
450



450 経返具 古墳中期か
 茄子作遺跡 (W6.9・L76.8) 文献799

谷内の流路から出土。両端を細く削り出した板状品で、一方を折損する。上面の角が丸く加工され、断面形状は∩形に似る。下面は角材状に加工される。この上面の中央部分の約50cm幅と側面の一部に、1cmあたり8～10本の糸擦痕が残ることから、有機台織機^{たかばた}(高機)の経糸を折り返す経返具^{なてかえし}と考えられる。有機台織機の導入は、古墳中期に遡るとみられる。(黒須)

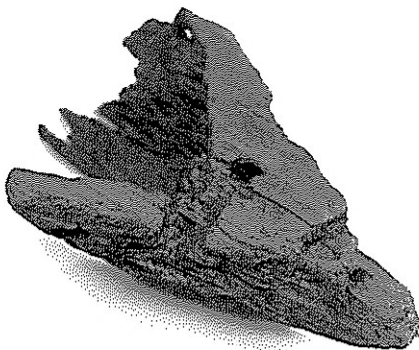
451



451 布送具・総掛の軸 古墳中期～後期
 讚良郡条里遺跡 (上:ℓ64.7,下:ℓ34.4) 文献721・766・825・831

上は自然流路の岸辺から出土。輪状型無機台織機の組み合わせ式布送具(凹型)である。左右突起の一方は折損する。身部側面に幾何学文状線刻を施す。組み合わせ面の凹溝が左右へ貫通しない点に時代的特徴がある。下は集落横の落込みから出土。写真右の角柱部を台座に差し込んで起立させ、その上端に十字に組む総掛^{かせかけ}(舞羽)を装着して使用する道具である。(黒須)

452

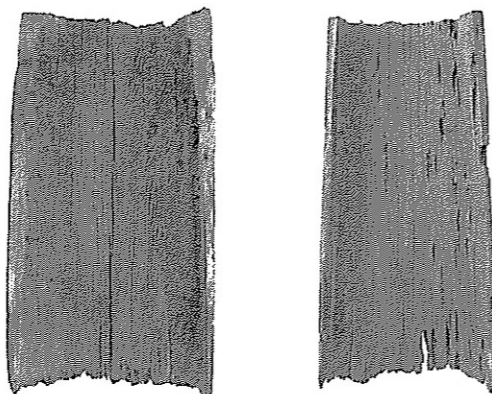


452 船舳先 古墳初頭
 久宝寺遺跡 (w30.2・ℓ53.8) 文献759

古墳時代初頭の包含層から出土。
 半裁材の上面を平坦に整え、舳先^{へびさき}の先端部分は段を設けて突出させる。側面には方形の孔が穿たれており、孔の内部には桜の樹皮が遺存していた。このことから、舷側板^{びんそくばん}などの別材との結合によって船体を構成する、準構造船の船首相当部と考えられる。準構造船は弥生後期から認められる。樹種はスギ。 (正岡)

453 船底板（井戸枠転用） 古墳後期か
 讃良郡条里遺跡（左：ℓ 231, 右：ℓ 230） 文献825
 古墳時代の井戸から出土。

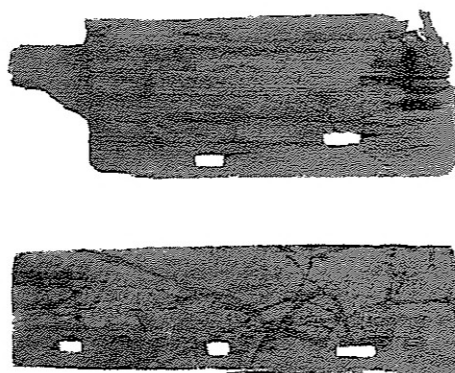
井戸枠に転用されていた材で、半裁材の側縁と心材部を取り去って成形されている。凹面側に部分的に遺存するくぼみは、半円状の仕切り板を組み合わせた痕跡と考えられる。側縁部の平坦面には、部分的に方形の孔が穿たれており、本来は樹皮などを通し舷側板との接合の用をなしていたと考えられる。（正岡）



453

454 船舷側板 古墳中期～後期
 讃良郡条里遺跡（上：ℓ 45.5, 下：ℓ 69.4） 文献831

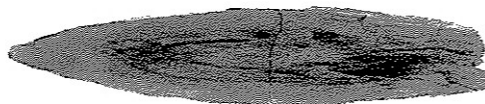
古墳中期～後期の流路から出土。別用途に転用されたらしく、二次加工が施される。部分的に長方形の孔が穿たれており、一部の孔には船底部と結合するための樹皮と、これを固定するための木栓が遺存する。452・453とあわせて、古墳時代における準構造船の仕口と大径材の再利用方法が窺われる好例である。樹種は、上がスギ、下がヒノキ。（正岡）



454

455 船形木製品 古墳中期～後期
 讃良郡条里遺跡（W5.9・ℓ 28.6） 文献831

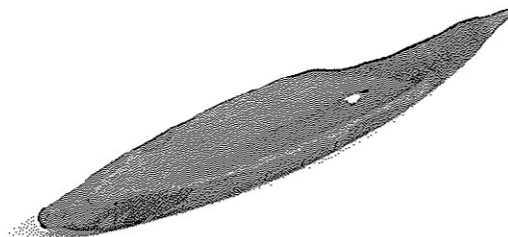
古墳中期～後期の流路から出土。一端を欠くが、同一個体でその部位の可能性がある破片も同時に検出されている。一木の刳船を表現したものだろう。小径材の分割材に刳り込みを施し、船底部を表現する。こうした船形模造祭祀具は、弥生後期ないし古墳前期からマツリに用いられ、古代にいたっても一定量認められる。樹種はヤナギ属。（正岡）



455

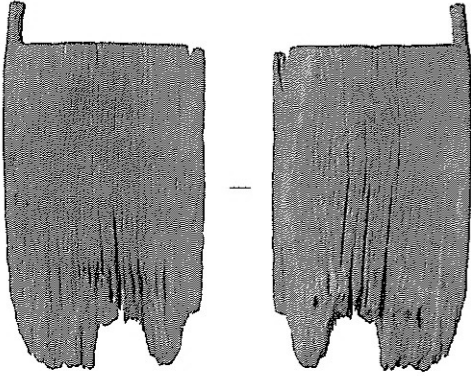
456 船形木製品 古墳前期
 久宝寺遺跡（W11.5・L52.1） 文献759

弥生時代から古墳時代にかけて徐々に埋没した灌漑用の溝から出土。ほぼ完形で、一木の刳船を模したものと考えられる。船先と艫が明確に作り分けられている点の特徴である。一端は、加工を施した後に焼成が加えられており、この種の模造祭祀具を用いたマツリのあり方の一つであったのかもしれない。全長約 52 cmとやや大振りである。樹種はスギ。（正岡）



456

457

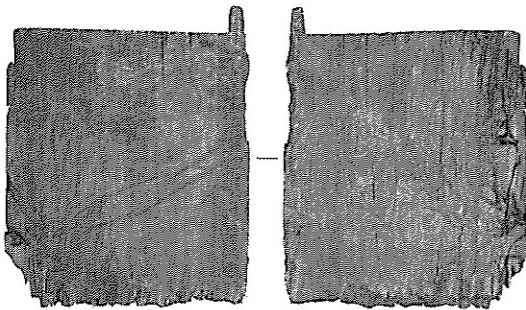


457 扉板 (井戸枿転用) 古墳中期
私部南遺跡 (W47.5・ℓ88.0) 文献865

小規模な谷状地形の底に位置する1-62溝の底面で検出された、1-74井戸から出土。

本来は、スギ材で作られた扉板で、^{かぶき}冠木または蹴放しの軸孔に嵌め込む軸が残っている。検出時点では、他の板材とともに井戸枿の縦板に転用されて使われていた。5世紀前半の遺物が共伴しているため、古墳時代前半期に遡る扉板として貴重なものである。(中村)

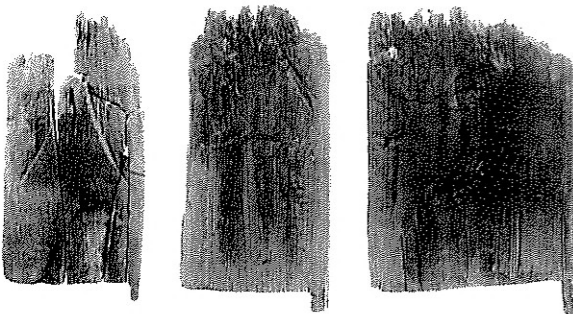
458



458 扉板 古墳前期
久宝寺遺跡 (w56.0・ℓ68.2) 文献759

調査区中央部北寄りで見出された方墳(15号墳)の北西周溝付近から出土。カヤ材で作られた扉板の一部で、板材の両面には整然と並ぶ削り痕が明瞭に残っている。軸部には摩滅がほとんどみられないことから、上部側のものと考えられる。なお、接地面にできる蜘蛛巣状の傷跡が材にみられることから、廃棄後しばらくは地表面にあったことを示している。(中村)

459

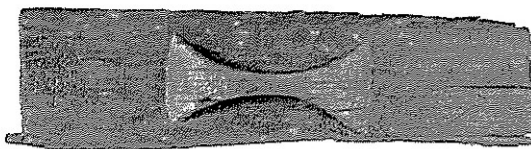


459 扉板 (井戸枿転用) 古墳中期～後期
讚良郡条里遺跡 (左からℓ67.9, ℓ70.3, ℓ70.9) 文献831

微高地の南先端付近に位置する井戸4から出土。

いずれも、井戸枿の縦板に転用されて使われていたものである。左はツブラジイ、それ以外はモミ属の材で作られた扉板の一部である。軸が残っているものはこの3点だが、他にも扉板の可能性のあるものがみられ、井戸枿の縦板に4枚の扉板が用いられていたことになる。(中村)

460



460 扉板 古墳中期
讚良郡条里遺跡 (w32・ℓ126) 文献830

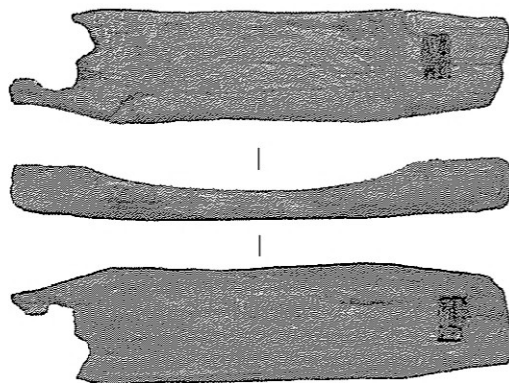
南北にのびる2条の溝である1-59・60溝から出土。南側で合流するため同一の溝である。溝肩に並行して、護岸とみられる杭列が検出されている。

多くの遺物とともに出土したもので、スギ材で作られた扉板の一部である。門受けが付き、一方にのみ軸が残っている。他にも扉板の一部と考えられる木製品がみられる。(中村)

461

461 腰掛座板
久宝寺遺跡 (W12.7・ℓ54.6) 文献.759

水路の中心的な役割をもつ 04043 溝から出土。氾濫堆積物により被覆されていたため良好に残っていたが、溝内の遺物量は少ない。スギの板目材で作られた腰掛の座板である。両側をやや細く削った長方形を呈する。座面はゆるく湾曲し、両側の柄孔にはやや外開きに取り付けられた脚部の上端が残っている。外面に被熱の痕跡が認められる。(中村)

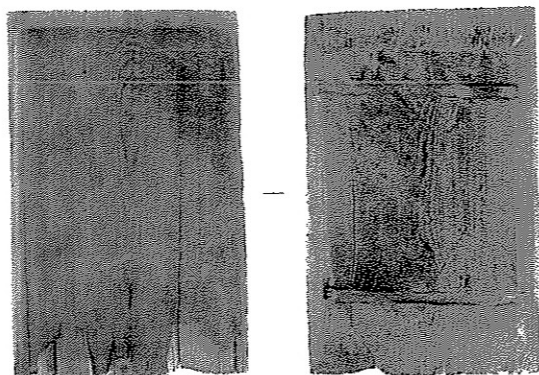


462

462 机天板
茄子作遺跡 (H4.2・L64.0) 文献.799

調査区北半部で検出された流路 33 から出土。

アスナロ材で作られた机の天板である。一木から削り出された板状品であり、上面・下面ともに精緻な加工痕が認められる。全体復原が可能なほど良好に残っていた。下面に脚板を差し込むための蟻溝が設けられていることから、ある程度の木工技術を備えた人物により作られたものと考えられる。(中村)

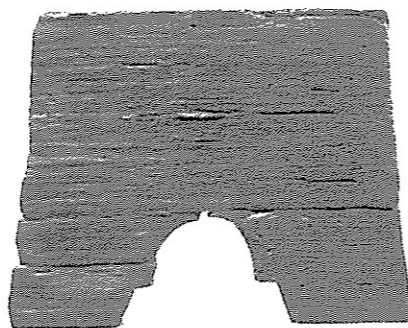


463

463 机脚
讚良郡条里遺跡 (w32.0・ℓ25.0) 文献.830

南北にのびる 2 条の溝である 1-59・60 溝から出土。南側で合流するため同一の溝である。溝肩に並行して、護岸とみられる杭列が検出されている。

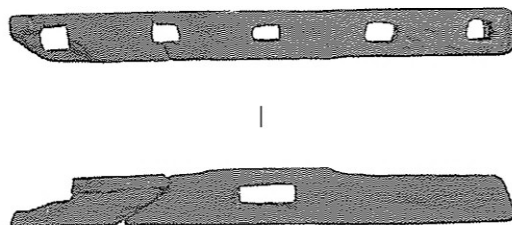
多くの遺物とともに出土したもので、カヤ材で作られた机の脚部である。下部中央に抉りをもつ。脚部みの検出である。同遺構からは他にも多種の材で作られた木製品がみられる。(中村)



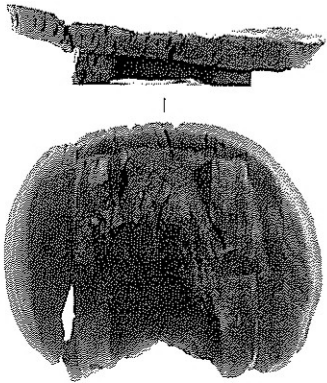
464

464 調度脚台
讚良郡条里遺跡 (w4.0・ℓ40.0) 文献.766・825

古墳時代の堆積層から出土。机や腰掛、その他調度類の脚部と考えられる部材である。角棒状を呈しており、中央部は上方へわずかに出っ張る。上面から下面に断面方形の貫通孔が 5 箇所あけられ、側面にも 1 箇所設けられている。丁寧に仕上げられている。細い棒状の角材を 5 本用いて天板を支える机で、正倉院の多足机に類似し、装飾性の強い調度品といえる。(中村)



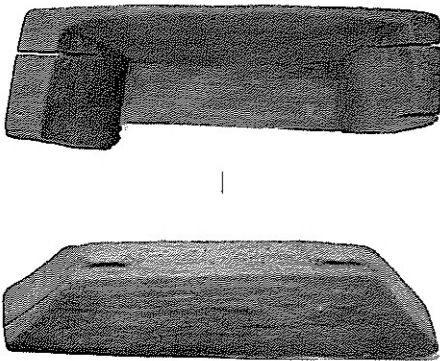
465



465 二脚付槽
古墳初頭
上の山遺跡 (RD37.4・H6.4) 文献.758
160 流路から出土。

クスノキ材で作られた2脚付きの槽で、身の一部を欠損する。平面形は楕円形を呈し、口縁部の外面にはややくぼむ面を作っている。2脚を平行して削り出しているが、脚間の中央部付近では削り出しは浅い。形態的に弥生時代の特徴をもっているものの、庄内式期の土器とともに検出されている。(中村)

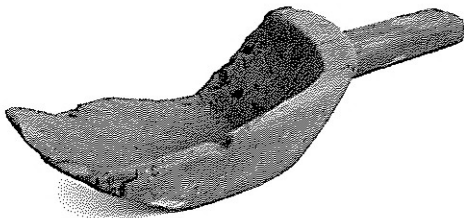
466



466 槽
古墳初頭～前期
尺度遺跡 (H8.5・ℓ52.0) 文献.604

706 水路に取水するために818・821河道のなかに設置された、819・834堰の前面に位置する杭・木製品の集中地点から出土。834堰の倒壊後、同位置に819堰が設けられている。コウヤマキ材で作られた平面長方形の槽で、半分を欠損している。底面両隅には削り出した脚が遺存し、底部から口縁部にかけて斜めに立ち上がる。内外面とも加工痕がみられる。(中村)

467

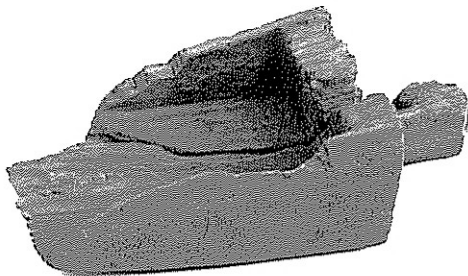


467 アカ取り
古墳前期
久宝寺遺跡 (w21.0・L47.4) 文献.759

調査区の南東に位置する、自然流路と考えられる05421流路から出土。流路からは多くの遺物が伴出しているが、複数時期のものが含まれている。

スギの半裁材を削り出して作られた船道具のアカ取りである。船底に溜まる水をくみ出す道具で、塵取り状を呈している。1/3ほど欠損しているが、側面には補修痕と考えられる方形の小孔がみられる。(中村)

468



468 アカ取り
古墳前期
弓削ノ庄遺跡 (w18.6・ℓ29.0) 文献.705

2調査区北側で検出された2-1流路から出土。

一木を割り抜いて作られた船道具のアカ取りである。側面は強く立ち上がり、後方(把手と反対側)に向かって曲線をえがき取束する。底面は後方側が若干上向きである。把手には柄孔がみられ、柄を差し込んで使ったと考えられる。柄孔はやや斜めに切られており、差し込んだ柄と底面の角度が狭くなる。(中村)

469 剝物桶 古墳初頭
久宝寺遺跡 (h20.3・w19.3) 文献.665

自然河川の流芯部に人為的に手を加えたと考えられる405大溝から出土。大溝からは多くの遺物が検出されており、庄内式期古段階がほとんどであるが、布留式期のものでみられる。

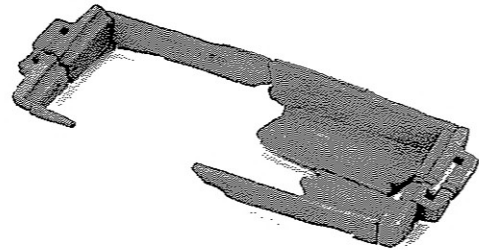
一木を剝り抜いて作られた剝物桶である。底板はなく、側のみである。口縁部外面に平面形が半円を呈する突起を設け、中央に小円孔を穿っている。(中村)



470

470 剝物容器(身) 古墳初頭～前期
久宝寺遺跡 (W19.8・L55.5) 文献.759

05387 塚の北側の5-1(2)層から、小型丸底壺や有稜高杯とともに出土。底部を半分ほど欠損するが、クスノキの半裁材を削り出して作られた剝物容器の身部である。外面には多数の加工痕が残り、口縁端部は浅い段状に加工される。短辺には一对の突起部が削り出され、2個一对の方形紐孔には、締められた状態の紐が残っている。(中村)



471

471 剝物容器(蓋) 古墳中期～後期
讚良郡条里遺跡 (w8.6・ℓ26.5) 文献.766・825

古墳中期～後期の堆積である、調査区中央部の落込み(旧河道)下層から出土。

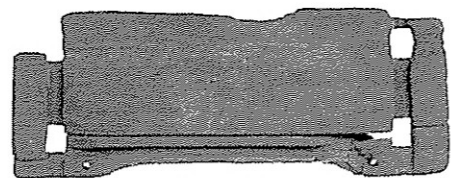
平面長方形を呈する剝物容器の蓋である。短辺の縁はやや広く、長辺の縁は狭く作っている。刃物痕が多く残っており、丁寧に加工をくりかえしたことが判る。材の節部分が硬く加工が困難であるためか、製品の厚さは必ずしも一定にはなっていない。(中村)



472

472 指物容器(側板) 古墳中期～後期
讚良郡条里遺跡 (w11.9・ℓ31.4) 文献.766・825

調査区中央部の落込み(旧河道)下層から出土。指物容器側板の一部である。長方形の板材の下辺中央に剝り込みを入れ、脚状に作る。この容器は、4枚の板を方形に組んで側板とし、底板を嵌め込む箱である。柄孔と溝をもつ側板(凹材)2枚と、柄をもつ側板(凸材)2枚を、平面「Ⅱ」字形ないし「井」字形に組み、下辺の溝に底板を嵌め込んで固定する。(中村)



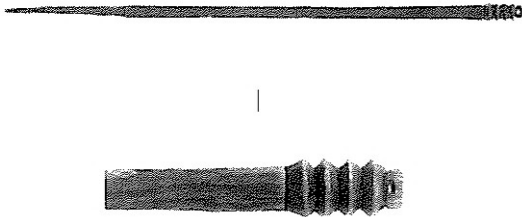
473



473 耳杯 古墳中期～後期
讚良郡条里遺跡 (w6.9・ℓ13.3) 文献.721・831

流路1-1域から出土。用途の判らない材や自然木とともに木製品が検出されている。耳杯と推定される、サクラ属の一本の刳物である。欠損する部分が多いが、楕円形の杯部長辺に台形の耳の付いた平面形をもち、側面観は長・短辺とも逆台形を呈する。底部をのぞく内外面に黒色塗布物(黒漆か)がみられる部分があり、本来は黒色であったと考えられる。(中村)

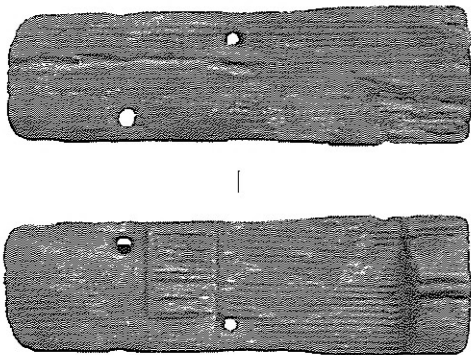
474



474 儀杖 古墳中期～後期
讚良郡条里遺跡 (W2.2・ℓ51.3) 文献.721・831

流路1-1域から出土。具体的な用途が不明な棒状の木製品であるが、儀杖の可能性が考えられる。ヒノキ材で作られており、一方の端を断面円形に細く削り出して整え、反対側の端には算盤玉形の造形と先端に貫通孔のある頭部を削り出す。貫通孔部分には、紐擦れと考えられる痕跡がみられる。儀杖ではなく、立飾り状に使われたとする見解も示されている。(中村)

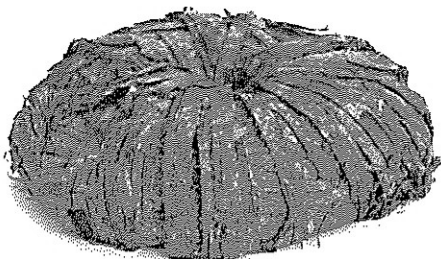
475



475 下駄 古墳中期～後期
讚良郡条里遺跡 (w4.5・ℓ16.0) 文献.766・825

古墳中期～後期の堆積である、落込み(旧河道)下層から出土。2本の歯をもつ連歯タイプの下駄である。縦方向に半折し踵部分を欠損する。歯の先端部は磨耗している。鼻緒孔のうち、後壺を前歯のすぐ後ろに設けている点が特徴的である。通常、後壺は後歯付近に設けられる例がほとんどである。古墳中期～後期の下駄は、最古級といえる。(中村)

476

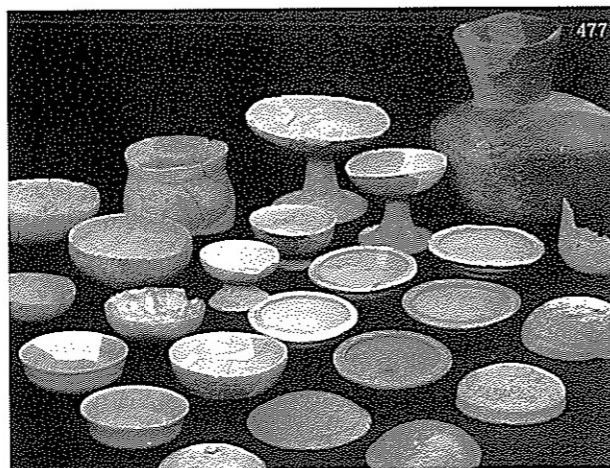


476 不明樹皮製品 古墳初頭か
久宝寺遺跡 (H6.4・W22.3) 文献.759

調査区中央やや東側で検出された自然流路である、05006落込み(流路)から出土。束ねた紐状の樹皮を糸玉のように巻いたもので、検出時点では球形であった。類品は他の遺跡でもみられるものの、用途は不明である。庄内式期古段階を中心とする時期と考えられる。部分的に加工された棒状不明品も多く伴出しており、一部は被熱による炭化がみられる。(中村)

477 土師器・須恵器一括 飛鳥
 総持寺遺跡 (右奥:rd11.0・BD14.9) 文献.664
 集落内の溝から出土。

須恵器杯は最も小形化し、杯蓋には宝珠状のつまみが付く器形が出現する時期のものである。同平瓶の体部はやや丸みをおびる。土師器杯には内面に放射状暗文が施される個体がある。同高杯の杯部はやや丸く、内面に暗文が確認できるものが一部にみられる。当時の食器の特徴や構成をよく表す資料である。(岡本圭)



478 土師器・須恵器一括 飛鳥
 はざみ山遺跡 (左奥:RD18.0・H29.6) 文献.707

船材転用の枠をもつ井戸から出土。多数の掘立柱建物や井戸などで構成される集落は、官衙的な色合いが強いか、有力氏族の居宅と推測される。土師器甕は指オサエが顕著であり、南河内地域産の特徴をもつ。須恵器杯蓋には遠く静岡県西部湖西窯の製品(500)がみられ、当集落の物流流通範囲の広さが窺える。7世紀第3四半期頃の良好な資料である。(岡本圭)



479 土師器・瓦器一括 平安後期
 巢本遺跡 (上左:RD14.1, 下右:RD14.9) 文献.826

古代末～中世の掘立柱建物を溝で区画する集落が検出されており、その区画内の土坑から出土。同遺構からは11世紀後半～13世紀前半の土師器、瓦器、須恵器、白磁、瓦などが多数伴出している。そのうちの掲載遺物は、上が11世紀末～12世紀前半頃の土師器皿、下が12世紀前半頃の楠葉型瓦器碗・皿である。北河内地域における良好な一括資料である。(岡本圭)



480 須恵器・瓦器ほか一括 平安後期
 上町東遺跡 (右奥:rd28.2・H12.0) 文献.795

集落区画溝から出土。土師器皿・甕、瓦器碗・皿、須恵器捏鉢、中国製白磁碗などが共伴している。瓦器碗は和泉型で、内面の見込みに格子状の暗文が施される例が多い。片口をもつ東播磨系捏鉢、宋代の玉縁をもつ厦門碗窯系白磁碗もある。白磁碗の玉縁は少し丸みをおび、やや新しい様相を呈する。泉南地域における12世紀後半頃の良好な資料である。(岡本圭)



481

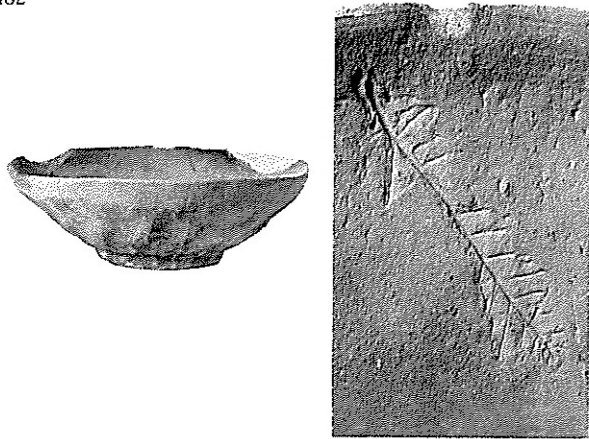


481 土師器一括 平安中期
池内遺跡 (左寄最奥:RD16.7・h13.2) 文献.843

平面78㎡の大形建物をはじめ、新旧38棟以上の掘立柱建物を検出した屋敷地の区画溝から出土。溝は条里地割を意識し、ほぼ南北方向にのびる。出土遺物量は収納コンテナ(容量約28ℓ)にして50箱を数え多い。

土師器では皿、杯、椀、鉢、甕、羽釜などがあり、土錘、瓦、緑釉陶器椀、鞆羽口なども含まれる。府内における10世紀後半頃の良好な資料である。(岡本圭)

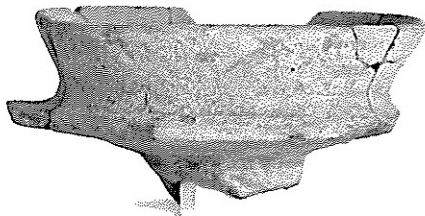
482



482 土師器(木葉圧痕のある椀) 平安中期
池内遺跡 (RD14.0・H4.8) 文献.843

上述の屋敷地縁辺部のピットから出土。体部内面に木葉圧痕がみられる。指オサエを体部外面に多用して成形した後、内面と口縁にナデを施す。高台は貼り付けている。南河内北半域を中心に出土する粗製土師器椀に相当する。偶発的なアクシデントにより圧痕が付いたものと思われるが、意匠とするべく意図的に押印された可能性も捨てきれず興味深い。(岡本圭)

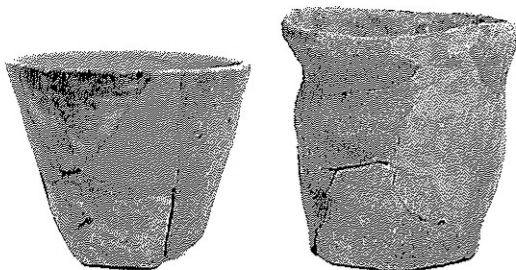
483



483 土師器(異形高杯) 奈良後半
禁野本町遺跡 (RD11.1・h5.2) 文献.884

溝から出土。当地は皇室とも関係のあった渡来系氏族百濟王氏の本拠地とされる地域である。脚部と杯部の大半が欠落し全体の形状は定かではないが、側部を8面に面取りした中空で筒状の脚に、皿状の杯が付けられ、さらに中央に受け皿部を設けていると推測される。8世紀中頃～末の所産であろう。何か特別な目的で製作、使用された可能性が考えられる。(岡本圭)

484

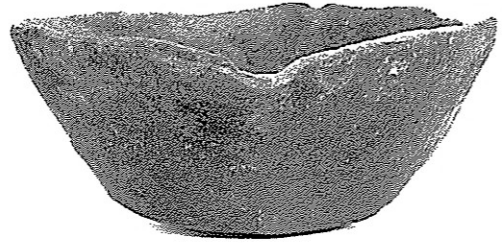


484 土師器(捏鉢・粗製鉢) 飛鳥
はざみ山遺跡 (左:rd14.4,右:rd10.8) 文献.707

左は、供膳具土器が多く出土した溝の下位から出土。外面はタテケズリが施されるが、器内面に粘土紐の痕跡がある。捏鉢形をなすが、用途や機能は不明である。類品は大阪市難波宮跡にある。右は上記とは異なるが、やはり土器が多数検出された溝から出土。粗い胎土を用いて粗雑に製作され、後世の製塩土器を想起させる。底面には木葉圧痕が観察できる。(岡本圭)

485 土師器（片口鉢） 平安後期
 巢本遺跡 (RD21.0・H9.3) 文献.826

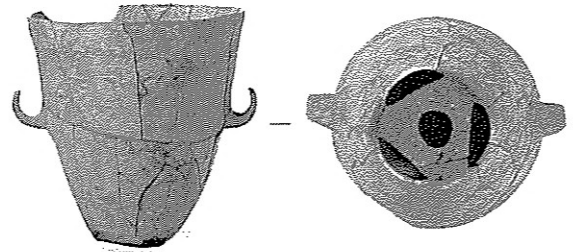
平面形が若干歪んだ円形土坑から、中央より少し左側ではほぼ完形の製品が正置された状態で出土。祭祀関連など、何か特別な状況で使用されたものか。片口が付き、外面には粘土の接合痕、指圧痕が顕著にみられる。全面に煤が付着しており、火処で使用されていたと考えられる。共伴する土師器皿、瓦器碗から11世紀末～12世紀初頭頃の製品と考えられる。（岡本圭）



486

486 土師器（甑） 飛鳥
 船橋遺跡 (RD34.7・H35.7) 文献.676

土坑から出土。調査地はガラス製小玉などを製作した工房跡だが、土坑は中心的な掘立柱建物群に近接する。移動式竈の破片も検出されている。口縁部はヨコナデ、内面底部は指オサエ後にナデ、同体部の大部分はタテケズリ後にナデで仕上げる。鈍い黄橙色を呈する。甑には下半部が破損し欠落する個体が多いが、本例は遺存状況が良く全容が把握できる。（岡本圭）



487

487 土師器（鍋） 奈良
 久宝寺遺跡 (RD27.0・H30.0) 文献.759

谷状地形を堰き止めた池から出土。606 墨書土器や624 人面墨書土器など8世紀末～9世紀初頭の遺物が多数検出されたほか、同じ煮沸具では土師器羽釜・移動式竈が出土している。外面体部にハケメを施し、口縁部をヨコナデする。内面はハケメを施した後、体部上位をヘラケズリする。外面にはほぼ全体に煤が付着し、使用されていた製品である。（岡本圭）



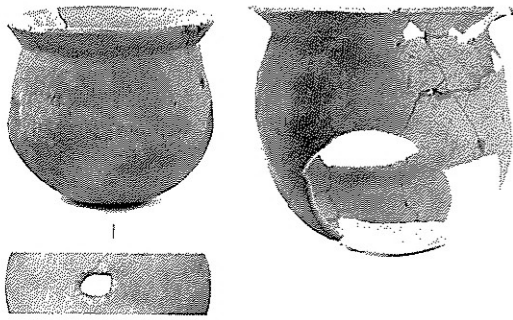
488

488 土師器（羽釜・井戸杵転用） 奈良
 小阪合遺跡 (RD27.6・h33.6) 文献.704

本例の上に甕を重ねて、井戸杵として転用され、下半部を打ち欠いた状態で出土。周辺に柱穴や土坑があり、集落内の井戸と思われる。内側から完形の甕が検出された。体部外面にタテハケメ、内面はナデを施すが指オサエの痕が残る。口縁部は逆ハ字状に開き、胴が長く、頸部直下にめぐる鏝は先端が丸い。色調は橙色である。8世紀の河内産の羽釜である。（岡本圭）



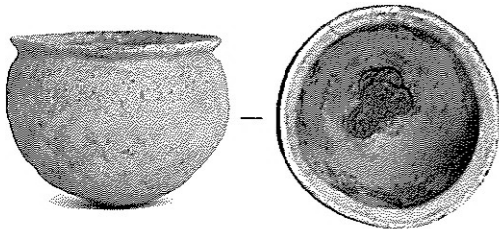
489



489 土師器（穿孔・打欠のある甕） 奈良後半
讚良郡条里遺跡（左：H14.0, 右：h18.2） 文献.634・830

左は、人面墨書土器、人形、絵馬など祭祀関係遺物（591ほか）が多数検出された溝から出土。溝からは同様な穿孔のある土師器甕が他にも数点確認されている。右は、土坑から出土。体部下位を円形に打ち欠いている。共伴する土師器皿から8世紀後半と考えられる。両例とも人為による欠損部がある点から、祭祀に関係する状況下で使用されたと考えられる。（岡本圭）

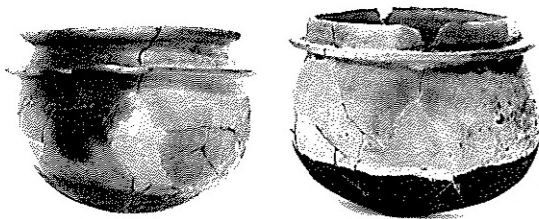
490



490 土師器（錢貨埋納甕） 平安前期
瓜生堂遺跡（RD13.5・H11.0） 文献.632

掘立柱建物に近接する柱穴状のくぼみから、正置した状態で出土。甕は、土師器杯・碗で二重に蓋がされていた。底に貼り付いた5枚の銅銭のうち2枚が隆平永寶（796年初鑄）・貞觀永寶（870年初鑄）と判読できた。共伴土師器から9世紀～10世紀初頭の所産と考えられ、錢貨の時期とも矛盾しない。胞衣壺や地鎮具といった祭祀的性格が考えられる。（岡本圭）

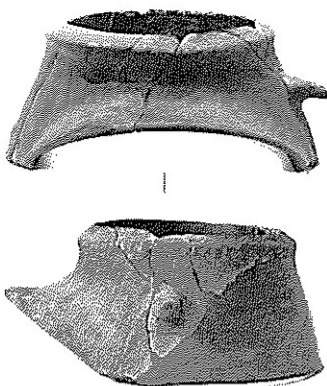
491



491 土師器（羽釜） 平安後期
巢本遺跡（左：rd22.8, 右：RD24.9） 文献.826

479と同じ土坑から出土。左は、球形体部と受口状口縁に特徴があり、外面体部上位に短い鏝をめぐらせる。12世紀前半頃の大和型の土師器羽釜もしくは土釜と呼ばれる。右は、下半部に最大径があり下膨れである。内面はナデとケズリが施される。姥口状の口縁を有する大和型の系譜をひく製品だろう。ともに底部に煤が付着し、実用品であったと思われる。（岡本圭）

492



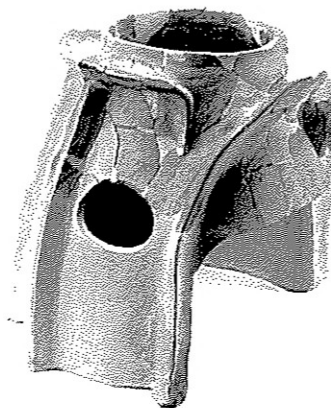
492 土師器（移動式竈） 飛鳥
船橋遺跡（RD26.5・h18.6） 文献.824

上半部のみが、遺構検出面と口縁部が揃った状態で土坑から出土。隣接の土坑から掛口部片や同一個体と思われる焚口を形成する脚も出土している。

やや肉厚の断面長方形に近い把手を、中心よりも少し前面にずれた位置に貼り付け、焚口部内面に幅約3cmの肉厚に突出した段をもつ点が特徴的である。生駒山西麓産品と推測される。（岡本圭）

493 土師器（移動式竈） 奈良
難波宮跡 (RD20.9・w41.0) 文献716

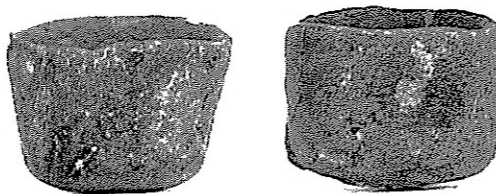
谷から出土。当地は難波宮や関係官衙が存在した地域であり、当谷からも絵馬、漆容器、木簡など特殊品(594ほか)が多数検出された。口縁部の下に鑊がまわる付け庇の竈である。同一個体と考えられる焚口と粘土帯の基部をもとに復原された。体部外面に縦方向に4本の突帯が付され、円形透かし孔が複数存在していたと思われる。類例のない特異品である。(岡本圭)



494

494 土師器（手捏ね土器） 平安中期
はざみ山遺跡 (左:RD2.4,右:RD2.4) 文献707

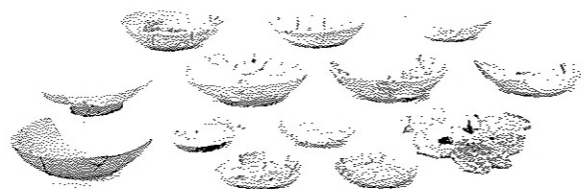
平面が隅丸長方形を呈していたと思われる土坑から出土。伴出遺物には完形品が多く、土師器皿・椀、黒色土器椀、不明鉄器などがある。本例は内外面が黒色で黒色土器B類を想起させる。古代土師器の手捏ねミニチュア土器は主に飛鳥・奈良時代にあるが、同類と考えると平安中期の黒色土器製品は珍しい。共伴した黒色土器椀から10世紀後半と思われる。(岡本圭)



495

495 回転台土師器（皿）ほか一括 平安後期
粟生間谷遺跡 (左端:rd14.8・H3.6) 文献592

これらの製品(左端以外)を焼成したと考えうる焼土坑から出土。府内や近郊では、土師器皿は粘土板を手で捏ね曲げて作った品が通有だが、当土器群のほとんどは轆轤を用い成形され、底部を糸で切り離している。北大阪を中心にこの類が出土することがあり、11世紀頃の可能性が考えられる。出土遺構と同様の焼土坑は高槻市ツゲノ遺跡でも見つかった。(岡本圭)



496 白色土器一括 平安中期
池内遺跡 (右下:rd14.6・H5.3) 文献843

481と同じ屋敷地の区画溝から出土。白色土器は精良な乳白色胎土をもつ。本例は椀で、轆轤で成形される。在地産の赤褐色で手捏ねの土師器椀とは色調も作りも異なる。屋敷地内で広範囲に出土したが、当溝からの検出が多い。類品は平安京にあり、離宮、皇族・高級貴族の邸宅など非一般的な場所での確認が顕著で、特別な状況下で使用されたと思われる。(岡本圭)



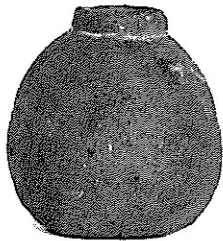
496

497



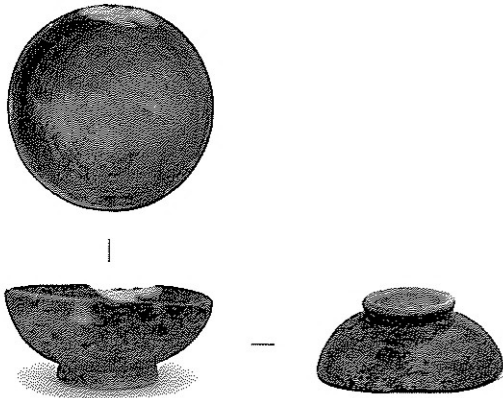
497 黒色土器一括 平安中期
池内遺跡 (右寄最奥:RD15.6・H11.4) 文献.843
481・496と同じ区画溝から出土。当該調査で最多遺物が検出された遺構で、収納コンテナに約50箱ある。黒色土器の器種には碗と鉢があり、碗にはA類(内面黒色)とB類(内外面黒色)の両方、鉢にはA類のみがある。溝からは土師器、須恵器、緑釉陶器、白色土器なども出土しており、集落の位置付けや周辺の土器様相を考えるうえで重要である。(水久保)

498



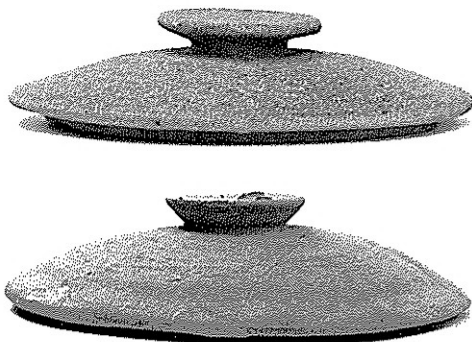
498 黒色土器(水滴) 平安前期
禁野本町遺跡 (RD1.6・H4.2) 文献.884
古代遺構面のピットから出土。
内外全面が黒色を呈するB類である。調整は、外面は指オサエ・ナデ後にヘラミガキ、底部にはヘラミガキが施されている。黒色土器の器種は、碗や皿などの食膳具が主流となっているが、壺や煮炊き用の甕、本資料のような水滴などの特殊品についても検出例がある。(水久保)

499



499 瓦器(小形碗) 平安後期~鎌倉初頭
粟生間谷遺跡 (RD7.7・H3.6) 文献.592
止水堆積がみられ、水に関する何らかの機能をはたしていたと思われる土坑から出土。
ほぼ完形品であるが、調整のミガキは磨滅しており不明瞭である。本資料のような小形の瓦器碗は、同じ遺構から他にも数個体出土しているが、遺跡全体からみるとこの遺構以外からはあまり確認されておらず、遺構を特徴付ける遺物となっている。(水久保)

500



500 須恵器(湖西窯産蓋) 飛鳥
はざみ山遺跡 (上:RD10.0,下:rd10.2) 文献.707
井戸から出土。異様ともいえる大きなつまみを有することで印象付けられ、胎土や焼成の状況、かえりの成形法は一本挽きではなく貼り付け手法を用いる点などの製作技術の各所において、府内の陶邑窯製品とは異なる特徴がみられる。静岡県西部の湖西古窯跡群殿田第4地点古窯跡1号窯灰原出土の「かえり付杯蓋」とされる製品に類品がある。(水久保)

501 須恵器（長頸壺） 奈良末～平安初頭
禁野本町遺跡 （左:rd7.0, 右:bd4.2） 文献.884

古代の包含層から出土。須恵器壺Gに分類されるもので、当該調査ではこの2点が確認されている。壺Gの存続期間は、奈良時代末から平安時代初期までと短い。また官衙遺跡だけでなく堅穴建物等の居住空間から出土する例も多く、日常的に使用する容器であり、東国からの衛士や徴発された兵士の携帯用水筒として持ち込まれた、とも推測されている。（水久保）



502 須恵器（小形壺） 古代
上の山遺跡 （RD11.7・H10.0） 文献.758

飛鳥～奈良時代の遺構面を覆っていた洪水砂から出土。底部外面は剥離しており、調整は不明である。須恵器壺Hに分類される器形にやや近い。肩の張った体部と大きく外反する口縁部をもつ。壺H自体は全国的に検出例の少ない器種であるが、井戸から土馬とともに出土した例などがあり、何らかの祭祀に用いられていたものと考えられている。（水久保）



503 須恵器（小形壺） 平安前期
禁野本町遺跡 （rd4.9・H10.3） 文献.884

包含層から出土。須恵器壺Pに分類される器種を小形化したような形態で、体部には回転ナデ調整が施されている。底部外面は、未調整だが底面端近くには部分的に手で押さえた箇所がある。壺Pは、底部の大きい筒形の体部に外反する口縁部が付く、いわゆる徳利形態であるのが特徴で、肩に稜をもつものもたないものがある。（水久保）



504 須恵器（小形壺） 平安前期
小阪合遺跡 （左:RD5.2, 右:RD3.8） 文献.641

左は平安時代前半のピットから出土。体部外面は回転ケズリ、底部は糸切りである。

右は平安時代前半の井戸から出土。井戸からは製塩土器や曲物なども検出されている。口頸部の調整は回転ナデが施されており、体部外面と底部は、左例と同じく回転ケズリと糸切りとなっている。右の個体にのみ体部に縦方向の2条の刻線が認められる。（水久保）



505



505 須恵器（小形四耳壺） 平安前期
郡戸遺跡 (RD5.7・H10.8) 文献.595

平安時代の溝から出土。溝の規模は、幅1.2～3.9 m、深さ0.2～0.5 m、調査区北端より約57 m南で西に折れてそこから約25 mの地点で消滅する。坪境溝と思われる。短く真っ直ぐに立ち上がる口縁と、なで肩の体部をもつ。体部外面はヘラケズリ、その他はヨコナデによる調整を行う。底部外面には粗いヘラケズリを施すが、粘土紐の痕跡が残る。(水久保)

506



506 須恵器（双耳壺・骨蔵器） 平安前期
津田遺跡 (BD10.8・h25.1) 文献.845

平安時代の114墓から出土。壺の内部からは炭片が検出されている。骨蔵器として用いられており、火葬墓と考えられる。口縁部は打ち欠かれ、逆位に据えられていた。肩部に突帯がめぐり、耳が2箇所が付くが、その付け方は丁寧とはいえない。内面はナデ調整が施されている。播磨地域に類例がある。515(右)灰釉陶器小瓶も同じ遺構から出土している。(水久保)

507

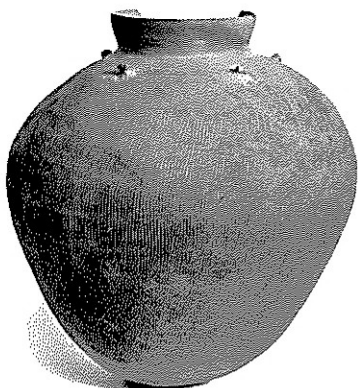


507 須恵器（甕） 奈良
禁野本町遺跡（左:rd12.6, 右:RD54.0）文献.712・884

左は古代の井戸から出土。底部外面は手持ちヘラケズリ、体部外面はカキメ調整で、内面はナデ調整が施されている。土師器の真蛸壺に似ている。

右は古代前期の土坑から出土。体部外面は擬格子タタキののち、螺旋状の雑なナデ調整を施す。口縁部内外面と底部外面付近は摩耗のため調整は不明である。底部内面は丁寧なナデ調整を施す。(水久保)

508



508 須恵器（甕） 飛鳥～奈良
新上小阪遺跡 (RD18.0・H47.3) 文献.859

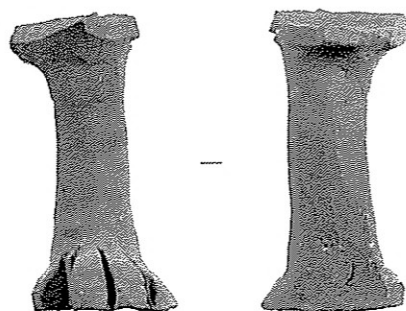
厚い洪水堆積層を除去した面から出土。

口縁部は直線的に上方にのび、口縁端部は丸くおさめる。外面はタタキののち、上半部にランダムに横方向のカキメを施している。肩部には、錠状の耳が4箇所が付く。甕の内部に洪水砂が入り込んでいたが、空洞部分もあり、砂礫とともに流されてきた様子が窺える。(水久保)

509 須恵器（盤脚） 飛鳥
寝屋東遺跡 (w6.3・ℓ13.0) 文献.677

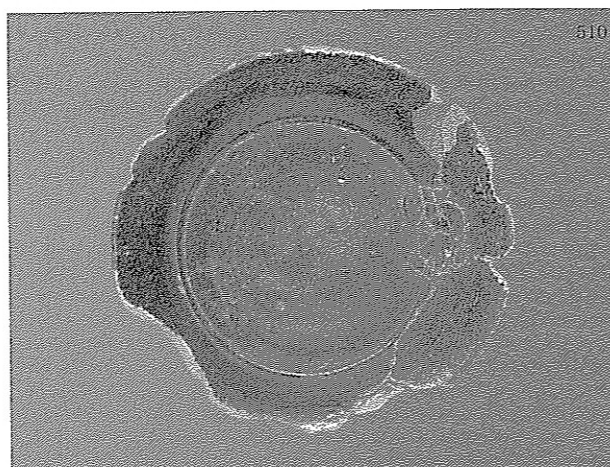
飛鳥時代～近世の土器が含まれる谷から出土。

盤ばんの下部に取り付く脚部と思われる。5指を作り出した獣脚で、1指を欠損している。調整は、ケズリ後にナデ調整が施されている。本遺跡では7世紀前半～8世紀前半の集落が検出されているが、獣脚を付す盤の出土は、その集落が一般的なものとは性格が異なる可能性を示唆する。(水久保)



510 緑釉陶器（皿） 平安中期
池内遺跡 (RD12.7・H2.5) 文献.883

土坑から出土。やや内側に湾曲する底部から、体部が外反しながら上方にのび、口縁端部もそのまま外反して丸くおさまる。底部端に有段輪高台を貼り付け、底部外面には糸切り痕が残る。胎土や高台、底部外面の特徴から、近江産の緑釉陶器と考えられる。当時の河内地域では稀少なものであり、意図的に埋められたとも考えられる。(水久保)



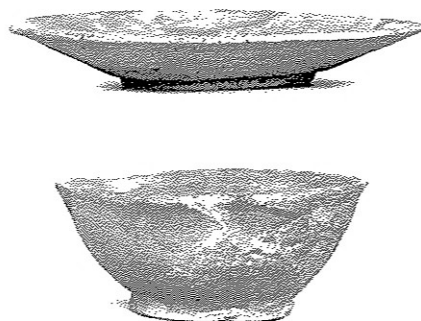
511

511 緑釉陶器（皿・小椀） 平安前期
小阪合遺跡 (上:RD14.4,下:RD8.8) 文献.641

ともに平安時代の包含層から出土。同層からは、土師器、須恵器、黒色土器、製塩土器、瓦質土器、焼土塊など種々の遺物が検出されている。

上は、口縁部にヨコナデが施されており、底部は削り出し高台となっている。全体に釉の剥離が著しい。

下は、口縁部と体部外面にヨコナデが施されており、底部は糸切り円盤状高台となっている。(水久保)

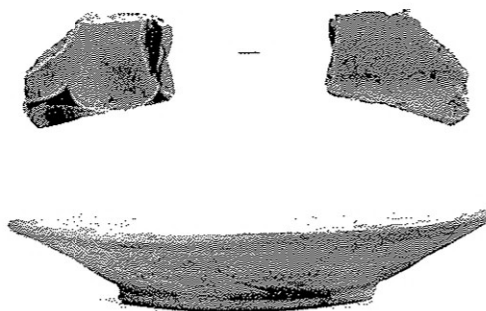


512

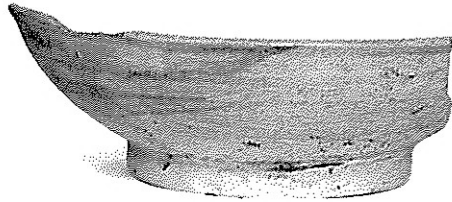
512 緑釉陶器(三足壺)・灰釉陶器(段皿) 平安前期
私部南遺跡 (上:w2.4,下:BD6.2) 文献.857・865

上は第1面調査時に出土。図化が不可能なほどの小片であるが、表面に遺存する陽刻文様の意匠から、京都府平安京西寺跡出土の東海地方産花文三足壺の類品となる可能性が高い。

下は中世の作土層から出土。内面は口縁から底部にかけてわずかに一段低くなる段皿である。底部外面は糸切り技法となっている。(水久保)



513



513 灰釉陶器(碗) 平安中期
吹田操車場遺跡 (rd12.6・H4.4) 文献.846

11世紀前半頃の掘立柱建物を構成するピットから出土。底部外面は回転糸切りののち、輪高台を貼り付けている。見込みにはわずかに重ね焼痕がみられる。胎土は粘りがあり、きめ細かい。東濃(美濃東部)産とみられる。東濃産の灰釉陶器は、粒が細かく白い粘土を使用しており、それにより灰釉の色が鮮やかに見えるのが特徴である。(水久保)

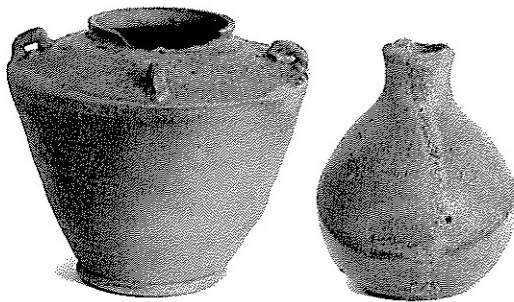
514



514 灰釉陶器(壺・骨蔵器) 平安前期・中期
津田遺跡 (左:h21.1,右:bd10.4) 文献.845

左は平安時代の119墓から出土。壺内部には639火葬骨が納められており、逆位に据えられていた。口縁部は欠損しているが、墓壙埋土にその部分の破片は存在せず、埋葬の際に意図的に打ち欠いたと思われる。右は古代～中世の包含層から出土。本資料もまた口縁部が打ち欠かれており、同様に骨蔵器として使用された可能性がある。ともに東濃産とみられる。(水久保)

515

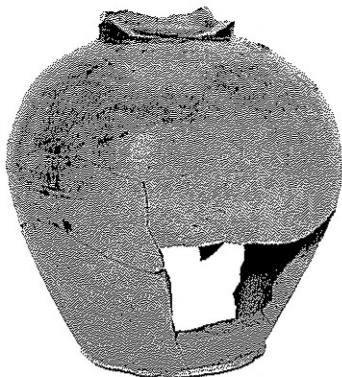


515 灰釉陶器(四耳壺・骨蔵器)・同(小瓶) 平安前期
津田遺跡 (左:H20.5,右:h8.9) 文献.845

左は平安時代の62墓から出土。逆位に据え置かれた状態で検出された。口縁部が打ち欠かれ、骨蔵器として使用されていた。肩部全周と体部の一部分には釉がかかり黄緑色に発色している。尾張産とみられる。

右は506と同じ114墓から出土。同様に口縁部が打ち欠かれており、頸部内面と外面の一部に自然釉がかかり黄緑色に発色している。(水久保)

516

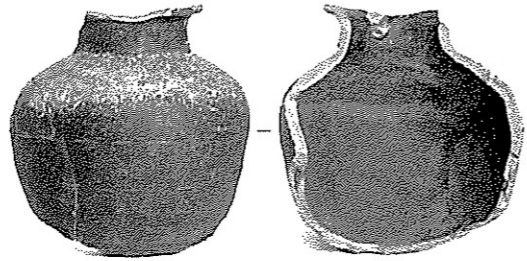


516 灰釉陶器(壺・骨蔵器) 平安中期
東倉治遺跡 (BD13.0・h24.4) 文献.749

土壙から出土。もとは肩部の1箇所に把手あるいは耳が付く特異な形状をしている。逆位に置かれた土師器皿の上に倒立させて載せられていた。また、口縁部を欠いており、高台も壺内部から一部が出土したのみであったので、埋設当初から口縁部および高台が打ち欠かれていた可能性が高く、506・514・515と同様、骨蔵器として使用されたと思われる。(水久保)

517 常滑焼（三筋壺） 平安後期
玉櫛遺跡 (rd10.6・h17.8) 文献.827
建物7の634柱穴から出土。

体部外面には3箇所^{さんしん}にわたる三筋文が施されている。この三筋文は、3本線の櫛描きにより施文されている。内面の肩部には指オサエが残存するが、最終的にはその他の部分はナデ調整によって非常に丁寧^{なで}に仕上げられている。内外面ともに自然釉がかかる良品である。 (河端)



518

518 常滑焼（甕） 平安末
津田遺跡 (rd22.5・H35.3) 文献.845

2層より上位に位置する包含層から、多数の破片が出土。

口縁部は小さく外反し、端部内面がわずかにくぼんでいる。肩部が強く張り、腰部でやや屈曲するが、体部は比較的直線的な形状を呈している。内外面ともに施釉されている。常滑焼に特徴的な体部外面の押印文は明瞭ではない。 (河端)



519

519 新羅系陶質土器（長頸壺） 飛鳥
新上小阪遺跡 (md15.1・h8.8) 文献.859

3-1層から出土。体部片で、頸部から上と高台を欠損している。体部は、下半に最大径をもつ下膨れの形状を呈し、頸部との境には突帯がめぐる。肩部には2条一組の沈線が2箇所^{ふし}に施され、3段に文様帯を区画する。その上・下段に円文、それに挟まれた中段には省略化が進んだ鋸歯文がみられるが、いずれもスタンプによる施文である。 (河端)

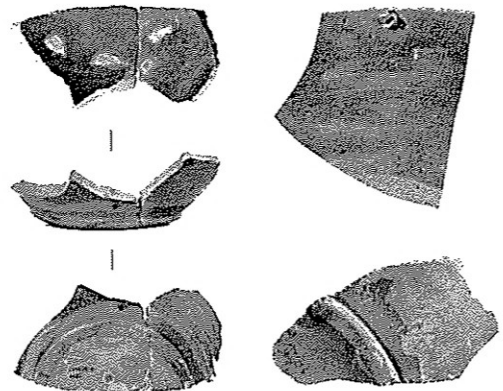


520

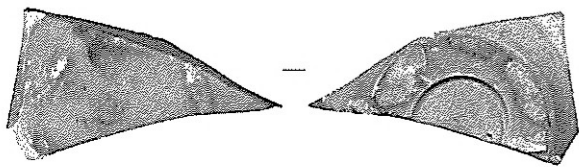
520 越州窯青磁（碗） 平安前期
池内遺跡 (左:bd7.0,右上:rd20.2,右下:bd9.8) 文献.843

左は2868溝、右上は1015土坑、右下は4a層から出土。

左は内面中央および^{なみ}畳付部に重ね焼きの痕跡が明瞭に認められる。右上は口縁部片である。右下は底部片であり、内面に重ね焼きの痕跡が認められる。輸入陶磁器が数多く出土する本遺跡の特徴を考えると、高貴な人物の存在や居住も容易に推定される。 (河端)



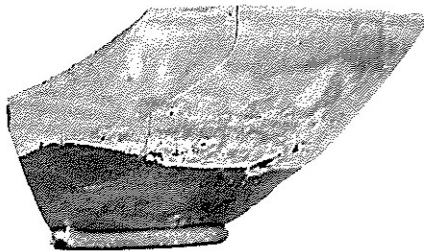
521



521 越州窯青磁 (碗) 平安前期
新上小阪遺跡 (BD5.2・h2.0) 文献.791
4層から出土。

削り出しによる蛇の目高台をもつ。内面中央および
畳付部には、重ね焼きの痕跡が明瞭に認められる。灰
黄色の釉が内面と体部外面に薄く施される。しかし、
高台とその内側は露胎である。胎土は密であり、かつ
精良である。中国の越州窯のものと考えられる破片で
ある。(河端)

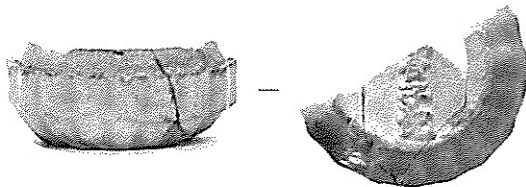
522



522 越州窯青磁 (碗) 平安前期
吹田操車場遺跡 (rd18.0・H5.2) 文献.846
4層から出土。

内面中央に重ね焼きの痕跡が明瞭に認められ、それ
が白く残存している。口縁端部には釉薬がほとんどか
からず、釉薬は内外面ともに貫入が認められる。また、
施釉前には白泥塗りの下地を施している。なお、畳付
部は、非常に滑らかに仕上げられている良品である。
(河端)

523



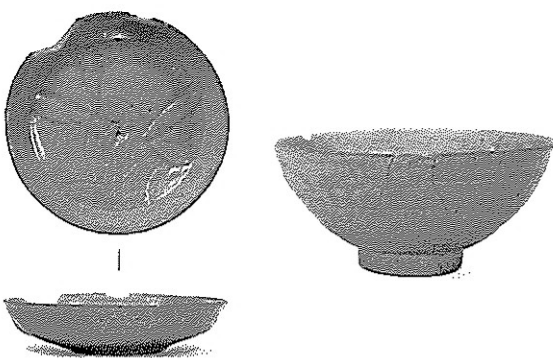
523 青白磁 (合子) 平安後期
粟生間谷遺跡 (RD4.2・H2.2) 文献.592

複数の土層に細分される近世の耕作土層から出土。
内外面ともに、淡い色の釉薬で薄く施釉されている。
底部外面には「□□合子記」と明瞭に陽刻が施されて
いる。

残念ながら約半分を欠損しているが、青白磁合子の
優品と考えられる。

(河端)

524

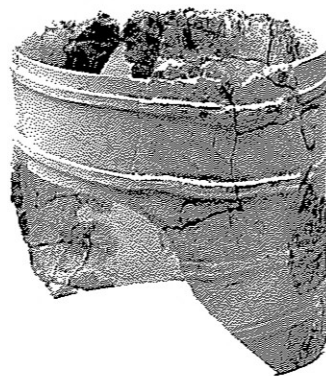


524 白磁 (皿・碗) 平安後期～鎌倉初頭
粟生間谷遺跡 (左:RD10.0,右:RD15.8) 文献.592
左は墓3、右は墓12から出土。

左は、詳細な原位置は判然としない。口縁部は2箇
所欠けているが、死者の器として意図的に打ち欠いた
ものかは不明である。右は、やや傾いた状態で検出さ
れたが、もとは正位置で置かれていたと考えられる。
完形品であり、非常に優れた資料である。なお、上位
からは刀子が出土している。(河端)

525 埴輪転用移動式竈 飛鳥
はざみ山遺跡 (RD44.0・H40.6) 文献.707

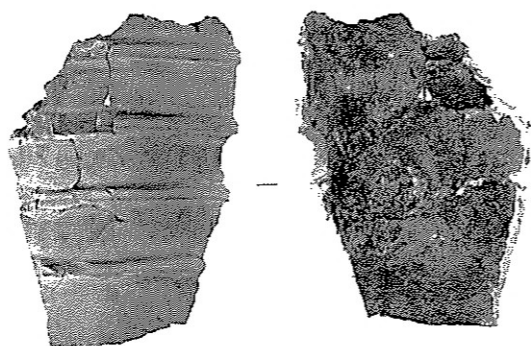
1804 溝から出土。外面にナナメハケメが施された、無黒斑の埴輪の転用資料である。内面上位や掛口に煤が付着していることから、実際に竈として供用されたことは明確である。兵庫県宅原遺跡などで、同様の可能性をもつとされる破片が報告されている。ほぼ全形が窺える状態にまで復原ができたのは、本資料がおそらく初見となろう。(河端)



526

526 埴輪転用煙突 飛鳥
はざみ山遺跡 (d40.9・h29.6) 文献.707

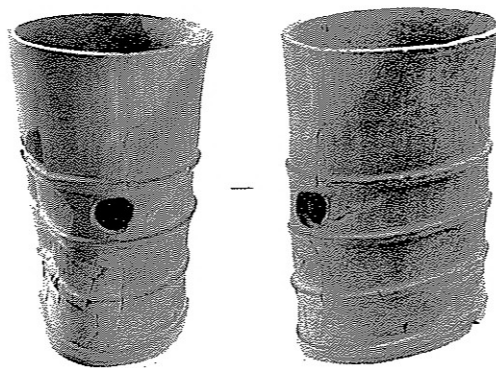
405 井戸から出土。伴出品に完形土器が多く、斎串や船形木製品など祭祀具を含むことから、それらは井戸廃絶時に一括投棄されたと考えられる。外面は一次調整のナナメ・タテハケメのみが施される埴輪片である。内面に煤が非常に厚く付着するため、竈など火を用いる施設で煙突として転用されたと考えられる。松原市ほかの大和川今池遺跡などで類例がある。(河端)



527

527 埴輪転用樋管 飛鳥
はざみ山遺跡 (h48.5・w41.0) 文献.707

1582 溝から出土。埴輪 2 個体が組み合った樋管の一部である。無黒斑で外面にタテハケメを施し部分的にヨコハケメを併用する。亀裂や歪みが認められる。藤井寺市岡ミサンザイ古墳樹立の埴輪と共通要素が多い。松原市大堀遺跡でも飛鳥時代の溝から円筒埴輪が検出されている。これも同様に後世に転用され、樋管の機能をはたした可能性が高いとされる。(河端)



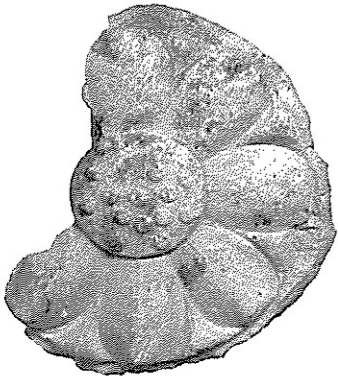
528

528 埴輪転用井戸枠 飛鳥～奈良
大和川今池遺跡 (BD43.9・h31.9) 文献.837

1135 井戸底部から井戸枠に転用されて出土。埴輪は大形品で、基底部を含む 4 段分が残存する。器壁は 2 cm と厚い。基底部から約 10cm の所に断面 M 字状の突帯があり、これより上に約 10cm 間隔で突帯を付す。外面にタテハケメ、内面にナデのち一部にハケメを施す。2 段目の相対する 2 方に径約 5 cm の円形透かし孔を穿つ。いわゆる「日置荘型埴輪」である。(河端)



529



529 単弁八弁蓮華文軒丸瓦 飛鳥
吹田操車場遺跡 (d15.1・t2.4) 文献.846

小土坑の底から出土。根石がわりに使われたと考えられる。大きめの中房内に1+7+8の蓮子をめぐらせ、内区に8弁の蓮弁を配する。蓮弁の表現は古式だが、中房の三重の蓮子という新しい要素から、7世紀後半のものと考えられる。調査地近辺ではこれまでこの時期の寺院や瓦窯の検出例はないが、当資料はそれらの存在を示唆するものである。(奥村)

530



530 重弁八弁蓮華文軒丸瓦 飛鳥
小阪合遺跡 (D17.6・t2.8) 文献.641

古代の包含層から出土。中房に1+6の蓮子、内区に凸線で重弁に表現された蓮弁を8弁配する。内区と外区を隔てる圏線上には、珠文を配する。外縁には不鮮明ながら線鋸歯文様がみられる。時期は7世紀後半にあたる。圏線上に珠文を配するという文様構成は、日本の古代寺院所用瓦には珍しく、むしろ統一新羅の京城所用瓦にみられる特徴である。(奥村)

531



531 重圏文軒丸瓦 奈良中頃
難波宮跡 (D15.0・t3.2) 文献.716

難波宮宮城北西の谷から出土。

重圏文の軒瓦は、聖武朝期(740年代)の難波宮の大極殿院および朝堂院域における主要瓦である。一見何の変哲もない無味乾燥な文様だが、実はこの文様の瓦の発見が、難波宮発見のきっかけとなったのである。ただし、本例と同じ範で作られた軒丸瓦は、今のところ宮域内では出土していない。(奥村)

532

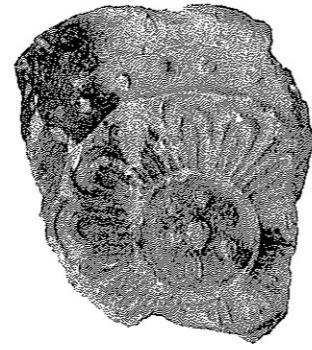


532 複弁八弁蓮華文軒丸瓦 奈良中頃
吹田操車場遺跡 (d14.8・t5.4) 文献.823

土坑から、奈良時代の須恵器、土師器とともに出土。中房に1+6の蓮子、内区には複弁の蓮弁を8弁、外区に珠文、外縁に線鋸歯文を配する。聖武朝期(740年代)の難波宮所用瓦である。本遺跡の北側の丘陵地には、難波宮の瓦を生産した吹田市七尾瓦窯があるため、調査地一帯が難波宮所用瓦の運搬経路地であった可能性が考えられる。(奥村)

533 複弁七弁蓮華文軒丸瓦 奈良後半
新上小阪遺跡 (w12.6・t3.1) 文献.601

古代の包含層から出土。中房に1+6の蓮子、内区に複弁の蓮弁を7弁配し、外区に珠文をめぐらせる。外縁部は欠損。平城宮所用瓦を祖型として作られたこの瓦は、柏原市や京都府大山崎町の離宮推定地で出土する。祖型の軒瓦も平城京内の離宮推定地で多く出土し、本例は離宮造営にかかわる瓦と考えられる。ただし本調査地と離宮の関連性は不明である。(奥村)



534

534 単弁八弁蓮華文軒丸瓦 奈良後半
小路遺跡 (d14.5・t4.1) 文献.638

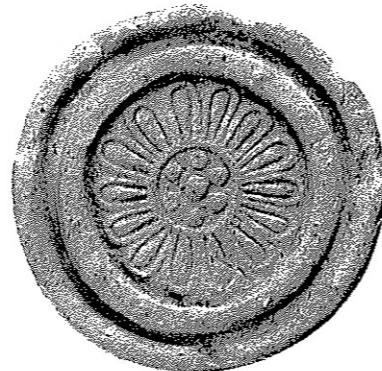
奈良時代の流路から出土。中房に1+6の蓮子を、内区に単弁の蓮弁を8弁配し、外区には珠文をめぐらせる。調査地北東の寝屋川市高宮廃寺で用いられた軒丸瓦で、平城宮式軒丸瓦6314 Aと同範であるとされる。当該資料も含めて、寺域の境界付近で多く出土することから、8世紀後半に行われた同寺の外郭施設造営に伴う軒瓦と考えられる。(奥村)



535

535 細弁十四弁蓮華文軒丸瓦 奈良後半
禁野本町遺跡 (D16.2・t3.0) 文献.712

溝から出土。中房に1+6の蓮子、内区に幅狭で単弁の蓮弁を14弁配する。外区には幅太の圏線がめぐり、圏線上に14単位の珠文が配される。8世紀後半の軒瓦である。圏線上に珠文を配する文様構成は、530同様、日本の軒丸瓦には珍しくむしろ統一新羅にみられる特徴である。同範で作られた瓦は、調査地に近接の枚方市百濟寺跡でも出土している。(奥村)



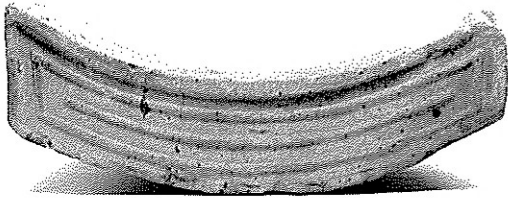
536

536 複弁八弁蓮華文軒丸瓦 平安後期
伽羅橋遺跡 (d16.0・t3.7) 文献.708

中世の包含層から出土。径の大きな中房に1+8の蓮子を、その外側に複弁の蓮弁を8弁配する。中房と蓮弁の間には蕊がめぐる。文様構成からみて12世紀代のものと考えられる。同じ包含層からは、この軒丸瓦よりも時期の下る軒瓦が大量に出土していることから、調査地付近に12世紀代に創建されそれ以後も存続した寺院があったと考えられる。(奥村)



537



537 重郭文軒平瓦 奈良中頃
難波宮跡 (W28.8・T6.6) 文献716

531 同様、難波宮宮城北西の谷から出土。内区の中に、「+」の印を配する重郭文軒平瓦である。文様的には、531と組み合うと考えられる。聖武朝期の難波宮では、重圈文の軒丸瓦と重郭文の軒平瓦の組み合わせが主として用いられた。ただし、同じ難波宮で用いられた532・539の生産瓦窯が判明しているのに対して、この組み合わせの生産地は不明である。(奥村)

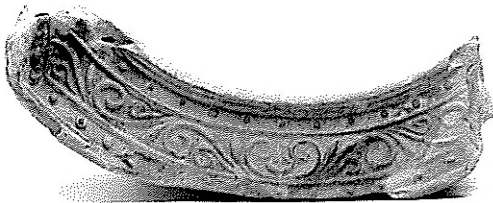
538



538 重郭文軒平瓦 奈良後半
禁野本町遺跡 (w28.8・t4.7) 文献712

井戸と推定される土坑から出土。弧状の四角囲みを二重に表現した軒平瓦で、顎形態は直線顎である。時期は8世紀後半にあてられる。調査地近辺で、これと組み合う重圈文軒丸瓦が出土しており、本遺跡の瓦葺き建物に葺かれていたのであろう。なお重圈文軒丸瓦と重郭文軒平瓦の組み合わせは、近接する枚方市百濟寺跡では用いられていない。(奥村)

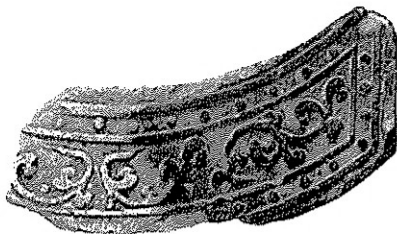
539



539 均整唐草文軒平瓦 奈良中頃
難波宮跡 (w24.2・t5.4) 文献716

531・537 同様、難波宮宮城北西の谷から出土。内区に唐草文、外区に珠文を配する軒平瓦。顎形態は段顎で、平瓦部凸面に横方向の縄タタキ痕がみられるのが特徴である。吹田市七尾瓦窯では、この軒平瓦と532軒丸瓦の組み合わせを、聖武朝期の難波宮造営時に生産していた。532・539ともに、瓦当文様は平城宮で用いられた軒瓦のそれをもとにしている。(奥村)

540

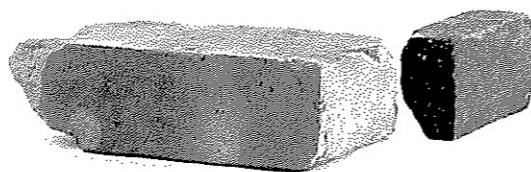


540 均整唐草文軒平瓦 奈良後半
禁野本町遺跡 (w19.4・t7.6) 文献712

古代の包含層から出土。内区に唐草文、外区に珠文を配する。唐草文は左右両側から中心に向かって展開するもので、平城宮東院所用の施釉軒平瓦(760年代)に祖型が求められる。ただしこの文様は当時の軒平瓦のなかでは特殊なもので、むしろ8世紀の渤海の宮城で用いられた磚や、統一新羅の宮城で用いられた軒平瓦に類例を求めることができる。(奥村)

541 埴 奈良中頃
難波宮跡 (左:W12.0・T6.6) 文献.716

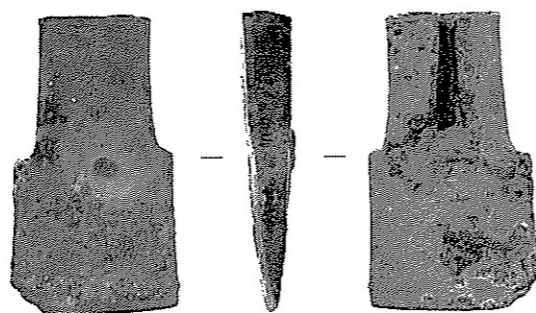
531・537・539 同様、難波宮宮域北西の谷から出土。他の伴出遺物の時期と照らし合わせて、聖武朝期の難波宮(740年代)で使用されたと考えられる。短辺12cmで長辺は欠損のため寸法不明。短辺を五つ並べれば、天平尺(約29cm)のほぼ2尺分にあたる。調査地南には宮内の倉庫群があったとされることから、倉庫等の床に用いられた埴であろうか。(奥村)



542

542 袋状鉄斧 飛鳥
はざみ山遺跡 (w4.6・L8.0) 文献.707

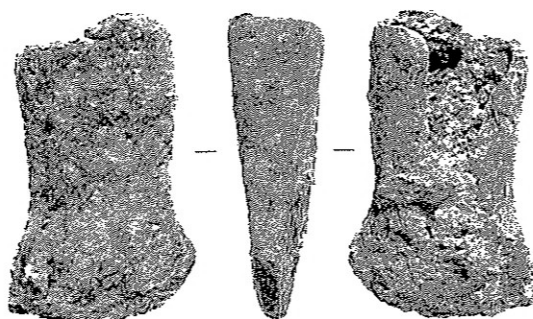
井戸から出土。身部両側が袋部との境から直角に抜がる有肩の小形鍛造横斧で、柄を嵌める袋部は折り返して作るが、合わせ目は密着せず隙間があく。袋部内には柄材が一部残り、樹種はアカガシ亜属である。錆は少なく鑢目が随所に残り刃部も鋭い。木材を削る、剥り抜くなどに使われ、直角に肩が張る形は、古く中国の鑄造品に起源をもち日本では少数である。(三宮)



543

543 袋状鉄斧 平安中期
池内遺跡 (w3.7・ℓ6.0) 文献.843

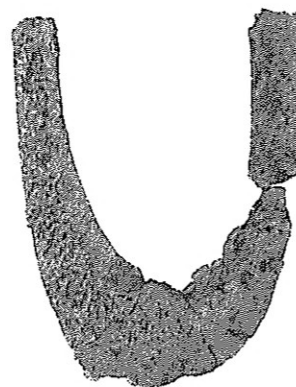
土坑から出土。上例と同じ鍛造の小形有肩袋状横斧だが、肩部はなだらかである。袋部は、両側から折り返した先端同士が約1cmあいたままである。身部端の一部と刃部は欠損する。袋状鉄斧は古墳時代にも多くあるが、542や本例のような袋部断面が長方形例の一般化は飛鳥時代以降であり、柄との装着部分の形と大きさが規格化されていく方向性をみいだせる。(三宮)



544

544 鉄製鋤先 奈良末～平安初頭
瓜生堂遺跡 (W24.0・L29.0) 文献.632

井戸から出土。井戸枠に立てかける状態で検出され、完形で柄を装着しない状態で見られたと思われる。薄く錆が出てわずかな欠損はあるが遺存状態は良好である。U字形内側の、木製身部を受ける袋部分は、片面が膨らみ、反対面は刃部から平坦である。作りや身幅など、標準的なU字形鋤先である。当時の井戸祭祀に供されるほど価値あるものと知れる。(三宮)



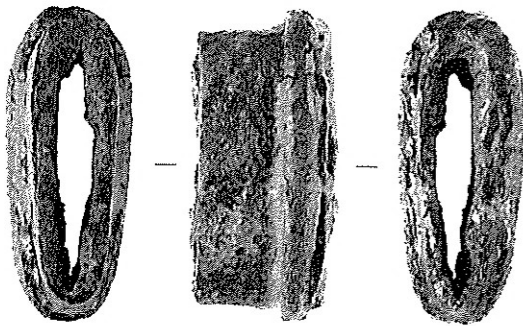
545



545 鉄鎌 平安前期～中期
池内遺跡 (ℓ21.2・t0.4) 文献843

5区の9世紀後葉～11世紀中葉の屋敷地を覆う洪水堆積層、4b層から出土。543袋状鉄斧より古い時期の遺物である。錆が著しいが、写真左端に折り返しが認められ、そこでほぼ直角に柄が取り付けられていたものと思われる。柄に近い部分まで、刃が形成されている。曲刃鎌だが、柄に近い側は直線的で、先端が曲がるタイプのものと思われる。(三宮)

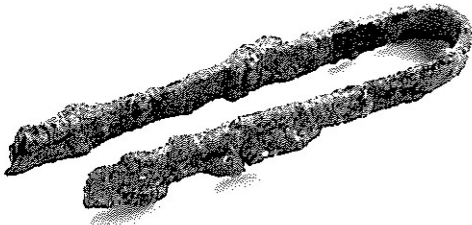
546



546 刀装具 平安中期～後期
池内遺跡 (W2.4・L4.7) 文献843

5区の12世紀建物群の基盤層、4a層から出土。鉄製刀装具である。板状の材を長楕円の筒形に作り、その片側に断面方形の棒状の材を巻く。刀身と柄の境で鐔を挟む切羽金具と思われる。写真上のほうの幅が広くそちらが刀身の棟部、下側が刃部になると思われる。通常は銅製のものである。日本刀の拵えが完成する11・12世紀頃の刀装具は貴重である。(三宮)

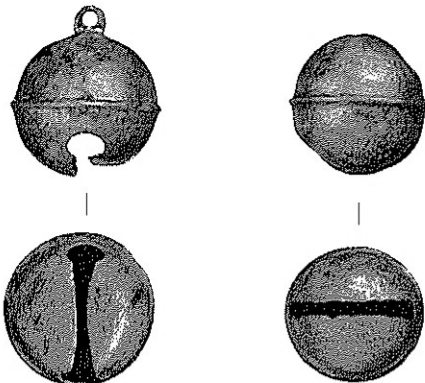
547



547 鉄製毛抜き 平安前期
津田遺跡 (H0.7・ℓ9.4) 文献845

08-2区2面114墓から出土。墓は斜面に立地し、人頭大礫群の下に骨蔵器の506須恵器双耳壺がみられ、他に515(右)灰釉陶器小瓶などが伴出した。本例は、幅7mm、厚さ2mmの鉄材を折り曲げて作る。毛抜きは貴族の化粧道具として定着し平安時代に次第に普及するが、この時期のこの地域のこのような墓を営む階層にまで拡がっていたという良例となる。(三宮)

548

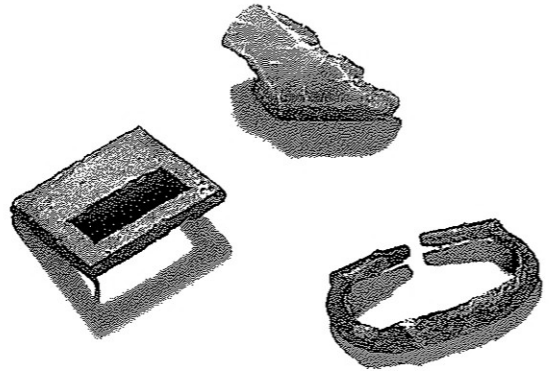


548 銅鈴 平安前期～中期
池島・福万寺遺跡 (左:D2.9,右:D2.6) 文献761

左は96-2区、右は97-2区とともに8層から出土。報告には小穴から出土したような図面があるが、おそらく銅イオンによる土の変色だろう。本遺跡では現代に続く糸里制地割りの最古耕作土である8層から銅鈴が出土する例が多く、しばしば坪境の畦畔から検出される。大規模な土地開発に伴う、地鎮のような祭祀的行為の可能性が考えられるものである。(三宮)

549 巡方・丸柄・鉸具 奈良～平安前期
池内遺跡 (左:W3.2・L2.7) 文献.843

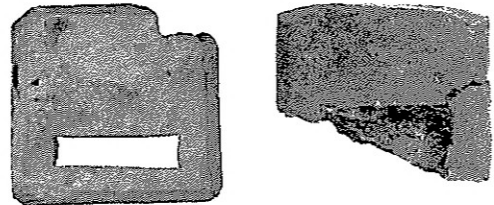
左は3区4 a 層から出土。銅製巡方。裏側の左右辺沿いに3個ずつ取り付け用の鉸足が残り、最長5.5mmである。上は5-4区3 c 層から出土。瑪瑙製丸柄。写真下辺の直線と左上の曲線が輪郭。裏に糸を通す潜り孔が3箇所ある。ともに奈良～平安時代の官人装束の腰帯の飾りである。右下は5区3面159ピットから出土。銅製鉸具。帯の留め金具である。(三宮)



550

550 巡方 奈良～平安前期
岩田遺跡(左)・私部南遺跡(右) (左:W2.8,右:W3.3)文献.668・857

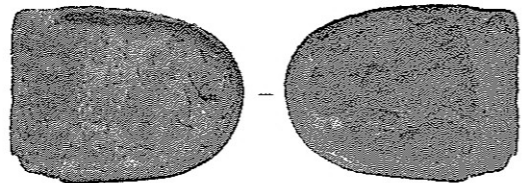
左は04-1区第2面18井戸下層から出土。井戸は、井桁組みの木製枠をもつ平安時代の遺構である。この巡方は裏の四隅に鉸足が付く。銅製と推測されている。右は第3調査区3-1190ピットから出土。青銅製巡方で、表金具だけでなく、裏金具とそれに挟み込まれた革帯までが遺存していた。奈良時代のものである。比較すると透かし孔は奈良時代の方が大きい。(三宮)



551

551 鉈尾 奈良か
久宝寺遺跡 (W2.3・L3.0) 文献.759

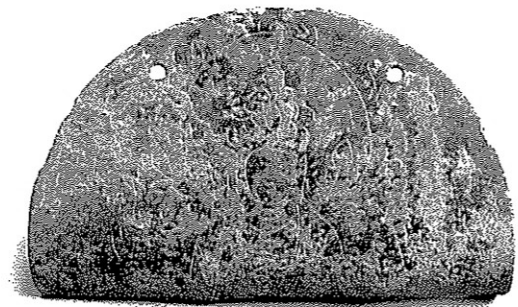
04-1区3-2層、飛鳥～奈良時代頃の耕作土層から出土。本例は銅製と思われる鉈尾で、ベルトの一端に付く金具である。裏面の丸くなった先端付近に1個、鉸足の痕が残る。その鉸足で裏金具とつなぎ、革製帯を挟んで留めるものである。幅が2.3cmと狭く、549・550の巡方・丸柄などが付く腰帯のものではない。馬具などのものか。(三宮)



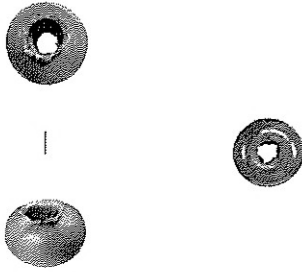
552

552 鏡像 平安後期
津田遺跡 (W8.4・T0.3) 文献.845

08-2区第1面3建物から出土。遺構は16世紀後半の瓦葺礎石建物で、13世紀後半ほかの遺物も多い。仏教関係の小堂跡と思われる。本例は鏡面に蹴彫りで十一面観音を描く。火頭形光背や向かって顔の右側に蓮が認められる。裏面は縁が厚くなり中央につまみが見られるが、上部に2孔があり吊り下げられるようになっている。下方は鑿で意図的に半裁される。(三宮)



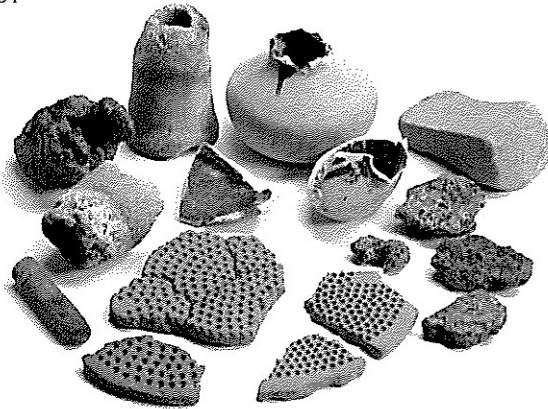
553



553 ガラス製小玉 奈良～平安
久宝寺遺跡(左)・瓜生堂遺跡(右)(左:D0.7,右:D0.7)文献632・759

左は第3-1面03216井戸から出土。土師器皿、須恵器小壺、鉄釘、和同開珎などが伴出している。玉孔は片方が拡がり、そちらの側縁が盛り上がる。右は第2遺構面52井戸下層から出土。544鉄製鋤先とともに検出された。左例よりやや小振りである。こうした古代ガラス製小玉は、半球形の穴の中央に棒を立てた土製鑄型で作られたことが判っている。(三宮)

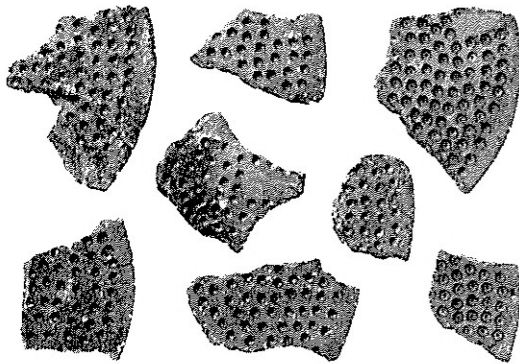
554



554 手工業関係品 飛鳥
船橋遺跡 (奥壺:MD13.0・h9.4) 文献676

02-2・3区第4面から出土。当区には柏原・藤井寺市船橋廃寺の創建時の工房があったと推測される。手前がもと円板状のガラス製小玉鑄型片である。その右上に椀形鉄滓4個、鍛冶炉の底に溜まるものである。その右上は砂岩製砥石、その左は漆を入れた漆壺3個、その左は炉に送風管をつなげる鞆羽口3個、その下は炉内で何かを支えた棒状土製品である。(三宮)

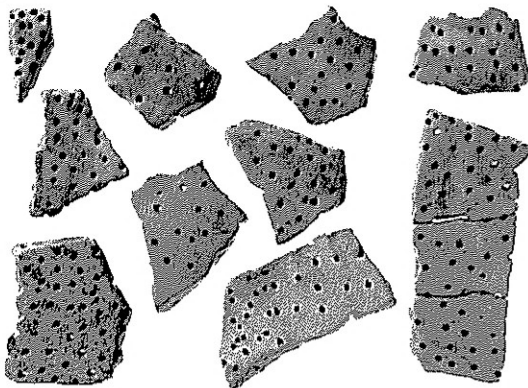
555



555 ガラス製小玉鑄型 飛鳥
船橋遺跡 (右上:w10.0・T1.1) 文献824

07-1区からもガラス製小玉鑄型が出土。円板上に半球形の型穴を螺旋状に配置し、型穴ごとに、小玉の糸通し孔を作るための、針状の棒を挿す役目の小穴が存在する。縁の一部に型穴のない部分があるが、鉄鉋で持つ部分か。ガラス製小玉鑄型は府内や奈良県などで数例出土しているが、型穴を螺旋状に配置するのは本遺跡のこれらの例のみである。(三宮)

556



556 板状多孔土製品 飛鳥
はざみ山遺跡 (右下:w4.3・ℓ10.5) 文献707

400溝下層から土師器に混じり出土。いずれも破片で全形は不明。土師質焼成で片面は無調整、他面はハケメ調整である。後者面から径約1mmの小孔がランダムに穿たれる。孔は円形で垂直のものがほとんどだが貫通しない箇所もある。554・555ガラス製小玉鑄型とも異なり、^{しび}鷗尾など瓦類で金属棒を取り付ける小穴をもつ例とも別である。全く用途不明である。(三宮)

557 仏像鑄型 奈良か
津田遺跡 (w8.4・ℓ6.7) 文献.845

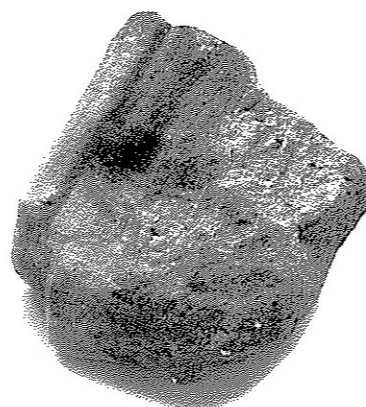
08-2区0層から出土。層自体は552鏡像検出の3建物を覆う近世包含層である。左右の土手状の縁が
いた部分(写真手前)が、溶けた金属を流し込む湯口と推定される。その向こうに火頭光背形のくぼみが見える。被熱により内面は荒れる。鑄型で大まかな形を作り、後で細かい細工を施すと考えられる。寺院内壁を飾る懸仏かけぶつのような小形仏像の鑄型だろう。(三宮)



558

558 仏像鑄型 奈良
津田遺跡 (w8.5・ℓ9.7) 文献.845

08-2区第2面83落込みから出土。須恵器杯・杯蓋・皿や559埴仏が共伴する。三尊仏の鑄型である。残る箇所には、脇侍の足の部分と中央の蓮華座の一部が彫り込まれている。二次的被熱の痕跡があり表面は荒れる。復原すると幅20cm以上の三尊仏像になり、側辺が直線的で懸仏とは考えにくく、小厨子に嵌め込むようなものを作る鑄型であろう。(三宮)



559

559 埴仏 飛鳥~奈良
津田遺跡 (w4.1・ℓ4.3) 文献.845

558と同じ83落込み内の86ピットの東側から出土。火頭形三尊埴仏の、向かって左上部の破片である。天蓋の表現はシャープで、鈴を表現したような珠点为天蓋の上に二つ、下に一つある。表面にはわずかに金箔が残る。胎土はきめ細かい。報告では白鳳時代に類例があるとするが、その時期であるなら、やや時を経て落込みに廃棄されたものと考えられる。(三宮)



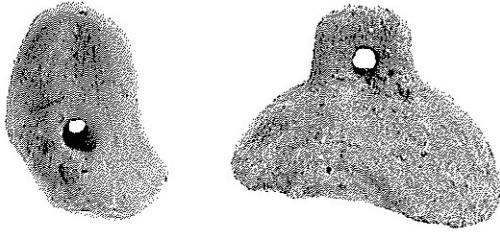
560

560 埴仏 奈良か
津田遺跡 (L4.0・T1.2) 文献.845

08-2区2層(8世紀前半頃の堆積層か)から出土。小形埴仏である。両側が欠け蓮座の可能性もあるが、この形の類例は独尊のようである。頭部は大きめで、蓮華座に結跏趺坐けつがたざしている。膝上で印を結ぶ手は、報告書で「布をかけているように見える」とされるが明瞭でない。胎土は粗い。上下端は直線的だが下部の前面が薄くなり、自立しない形である。(三宮)



561

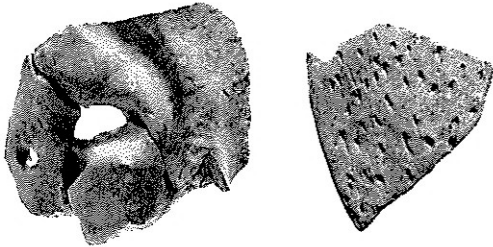


561 土鈴 飛鳥
はざみ山遺跡 (左:h3.4,右:h4.3) 文献.707

左は400溝、右は1溝下層から出土。

左は、釣手と中空部の上端だけが遺存する。釣手には径約0.5cmの円孔が穿たれている。右は、釣手から中空部上半が遺存する。外面はナデによってほとんど消されているが若干ハケメが残存することから、板状工具を用いて成形されたと考えられる。近くでは、羽曳野市茶山遺跡において類例がある。(河端)

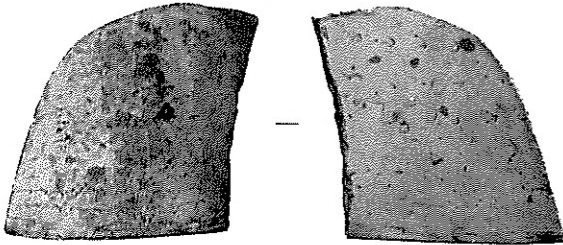
562



562 土製仮面 飛鳥
はざみ山遺跡 (左:w7.6,右:w3.9) 文献.707

3層から出土。左は鼻筋から右眉、目、頬が遺存。耳の部分には径0.8cmの紐掛孔があるが、その周縁に紐擦れの痕跡はない。右は右頬から顎にかけての部位と紐掛孔の一部が遺存。表面には下から上に未貫通の刺突が多数施され、それに獣毛などを挿入すれば髭面となる。西域の胡人を表現した可能性が高く、伎楽の醉胡王あるいは大狐父の面ともみなされる。(河端)

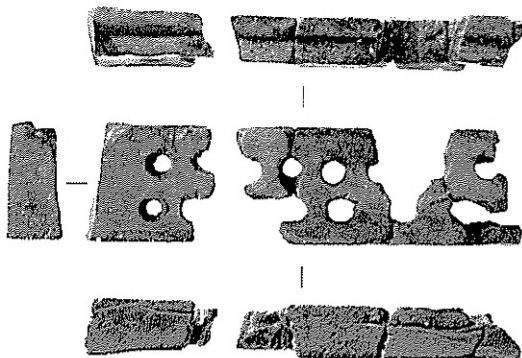
563



563 半円形土製品 飛鳥
はざみ山遺跡 (w21.2・L18.8) 文献.707

526と同じく405井戸から出土。井戸廃絶時に一括投棄されたものと考えられる。右側を欠損する半円形の土製品である。断面は湾曲し、凸面にはハケメが施されているが、粘土紐の接合痕が明瞭である。その形態は、移動式竈の体部を想起させる。また、竈の焚口部を削り抜いた残余の部分に類似しており、焚口の蓋に供するために焼成されたとも考えられる。(河端)

564

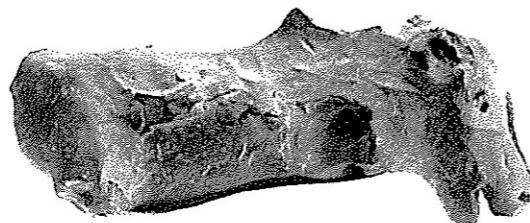


564 磚状土製品 飛鳥
船橋遺跡 (右片:l 25.0・T4.0) 文献.824

4・5層から出土。長辺側小口的一方は平坦で葉脈痕があり、反対側は断面L字形の突起状になっている。短辺側小口の片方は、長軸に対し傾きを有する。表裏面からの穿孔は焼成前の半乾燥時に断続的に施したと考えられるが、その後の調整は不十分で工具痕跡が明瞭である。報告では、壁状構築物を構成する部材の可能性が想定されているが、判然としない。(河端)

565 土馬 飛鳥～奈良
はざみ山遺跡 (h8.4・ℓ20.0) 文献.750

包含層から出土。脚や鬣などが欠損している。胴側面には手綱と思われる表現がみられ、他にも馬具が粘土貼付で表現されていたようだが、剥落するものが多い。目はヘラ状工具で竹管文状に、耳は粘土を貼付したうえで穴をあけ表現している。尾の下には縦2cm、横1cmの穴があり開口部分の中央を粘土紐でつないでいる。古相の土馬の一例と考えられる。(鈴)



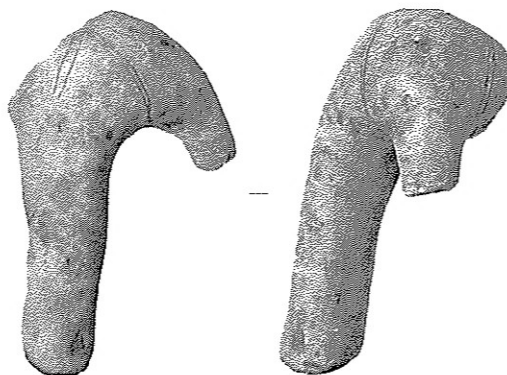
566

566 土馬 飛鳥～奈良
大和川今池遺跡 (h11.7・ℓ7.6) 文献.837

包含層から出土。

土馬の左後脚部と尾基部付近のみの破片で、頭、胴体、前脚、右後脚および尾先端は欠損している。背から尾や後脚部に向かって線刻が施されており、馬具の雲珠や杏葉をつなぐ紐を表現したものと思われる。飛鳥時代以降の土馬である可能性が高い。

(鈴)

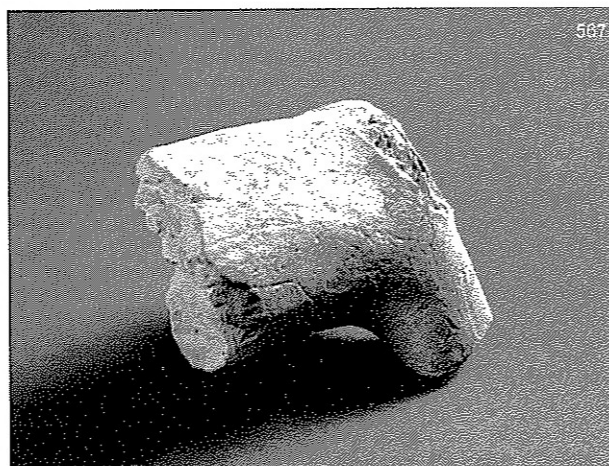


567 土馬 奈良か
金龍寺旧境内跡 (h7.7・ℓ13.3) 文献.880

8世紀後半～9世紀の包含層から出土。

頭や尾、胴体や脚等の一部を欠く。通常の土馬と異なり大形で、最大径約7.5cmの寸胴の胴部に、力強く外方に踏ん張って太い後脚が付く。全体に強いナデが施され、白馬をイメージしたかのように、黄白色で緻密な粘土で覆われている。

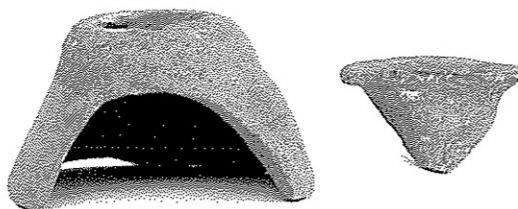
(金光)



568

568 ミニチュア竈・釜 平安前期
小阪合遺跡 (左:H4.9,右:RD5.0) 文献.641

左は方形土坑、右は包含層から出土。土師質ミニチュアの竈(左)と釜もしくは甕(右)である。左は、台形状の本体を作った後、焚口を切り開いたものと思われる。右は、手捏ねで作られており、口縁部を外反させ、端部はつまんでまとめている。このような炊飯具形のミニチュア土器は古墳時代に出現し、古代では祭祀にかかわる遺物の一つと考えられている。(鈴)



569



569 円面硯 飛鳥
はざみ山遺跡 (奥:BD20.7・H6.9) 文献.707

堅穴建物の埋土や窠、溝、包含層から出土。いずれも円面硯である。脚台部に方形や「へ」字形の透かし孔があるものや、脚台部が断面三角形の柱状のものがある。ほぼ完形の1点は、堅穴建物から出土した破片と溝出土の破片が接合したものである。離れた異なる遺構から検出された破片が接合したことは、遺物の使用や廃棄を考えるうえで重要と思われる。(鈴)

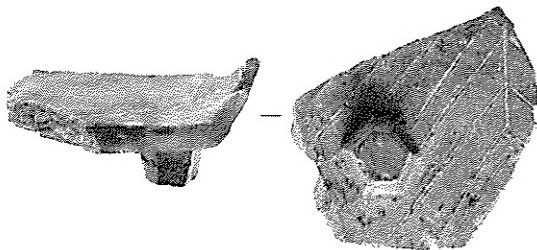
570



570 円面硯 平安前期
郡戸遺跡 (rd9.7・h3.8) 文献.595

ピットから出土。脚台の下端部を欠損し、硯面もおよそ半分しか残存していない。小形品で、陸部は大変使いこまれている。脚台部には、方形の透かし孔を穿ち、透かし孔と透かし孔の間には焼成前に施されたヘラ状工具による線刻があり、陸部には焼成後に描かれた線刻による文様がある。この線刻が施された後も使用されていたことが判る。(鈴)

571



571 風字硯 平安前期～中期
池内遺跡 (h2.9・w6.3) 文献.843

ピットから出土。
須恵質の硯の破片であり、おそらく風字硯であったと思われる。上面には墨を磨った時の使用痕跡がみられ、側堤がやや斜めに立ち上がる。底部外面に、ヘラ描きで木の葉の葉脈のような文様が施されている。断面が六角形で高さ1.4cmの脚が1本残存しているが、少なくとも他に1本付いていた可能性がある。(鈴)

572



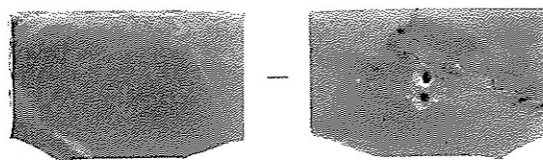
572 獸足硯 平安
池内遺跡 (w3.2・h4.7) 文献.843

包含層から出土。
須恵質で、円面硯(獸足硯)の脚台部分として報告される破片である。もとは十数個あったと推定される脚部の一つで、ケズリによって獸の足をかたどり、5本の指を作り出し、指から足首にかけては稜がみられる。底面にも指や肉球を削り出し、たくましい獸を表現した丁寧な作りである。(鈴)

573 巡方 奈良か
金龍寺旧境内跡 (W3.7・T0.8) 文献.880

包含層から出土。

半透明緑灰色の石材を用いた製品である。もとは方形を呈していたと考えられるが、下半部が欠損している。裏面の中央に縦に2個一対の潜り孔が穿たれ、帯に留めたと考えられる。潜り孔をあけた時に、孔の口付近に小さな傷が入ったようである。各面には光沢があり、研磨により平滑に仕上げられている。(鈴)

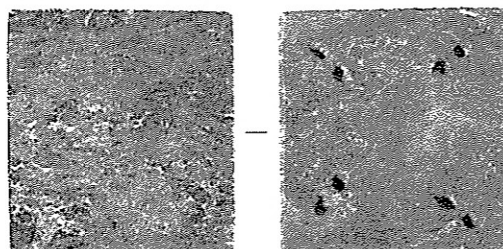


574

574 巡方 奈良～平安
池内遺跡 (W4.2・T0.6) 文献.843

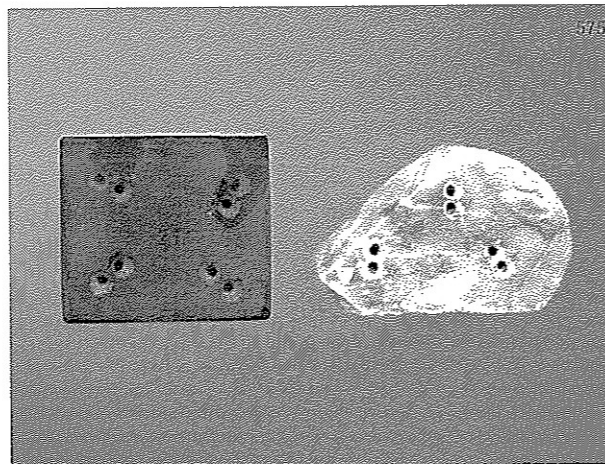
包含層から出土。

ほぼ正方形である。表面は石材のまだら模様がみられ、研磨された時の磨痕が認められる。裏面の四隅近くには、それぞれ2個一対の潜り孔が穿たれている。表面は裏面よりやや小さく、断面は台形を呈している。表面と裏面の角は全て面取りが行われている。(鈴)



575 巡方・丸靱 奈良～平安
讚良郡条里遺跡 (左:W3.5, 右:w4.1) 文献.623・639

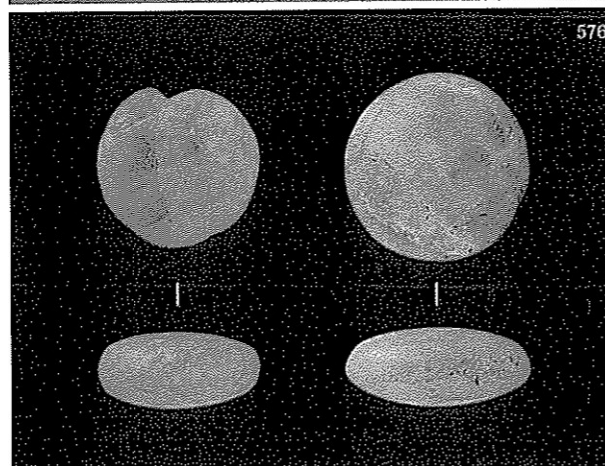
左は土坑から出土。裏面には4箇所に2個一対の潜り孔が穿たれている。表・側面は研磨されるが、裏面は研磨されず擦痕が残っている。石材は頁岩ないし千枚岩。右は近世溝から出土。一部欠損するが、表・側面を研磨し丁寧な作りである。表面の角は面取りされる。裏面には3箇所に2個一対の潜り孔が穿たれている。石材は珪岩。灰白色を呈する。(鈴)



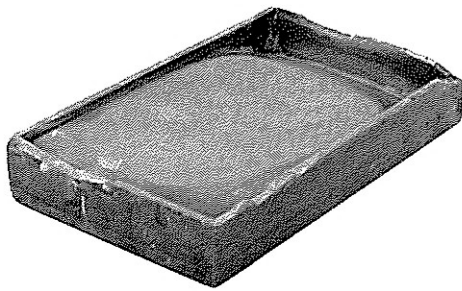
576 平玉 平安中期
池内遺跡 (左:D1.4, 右:D1.7) 文献.843

平安時代の遺構面から出土。

右は完形であるが、左は右例よりやや小さく、端部が少し欠けている。2点とも石英製で、平面が円形をなす。全面が研磨されており、特に表面は丁寧に磨かれている。断面は厚さ6～7mmの楕円形で、碁石のような平玉形状を呈しているが、用途は不明である。(鈴)



577



577 石硯

平安後期～鎌倉

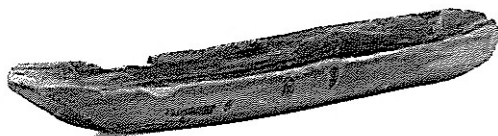
玉櫛遺跡

(W9.4・L14.6) 文献.602

溝から出土。

粘板岩製の方形硯である。陸は中央部分を中心に磨り減っており、かなりの頻度で使用されたものと思われる。海の周りには墨が付着している。12・13世紀以降に多くみられる形態で、少し欠ける部分もあるが、ほぼ完形で見つまっている。現代の硯と同様の規格性をもつ資料である。(鈴)

578



578 船形木製品

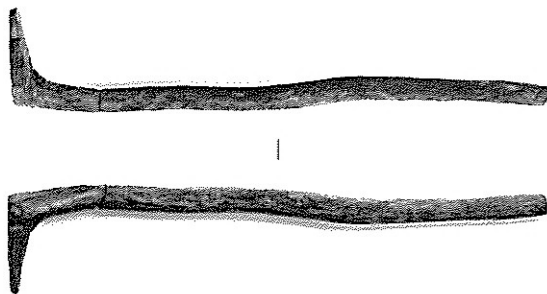
飛鳥

はざみ山遺跡

(W4.4・L26.1) 文献.707

井戸から出土。もとの径が約9cmのケヤキ丸形材を削り出して加工したものである。樹皮を剥ぎ取った材の上下面を、両端にわずかに反りをもたせるように削り取り、船室を作り出した後、両端部を側面から斜め方向に削り出して船先と艫を作りあげている。都城における祭祀と同じように、斎申とともに検出されている点で重要である。(鈴)

579



579 曲柄斧柄

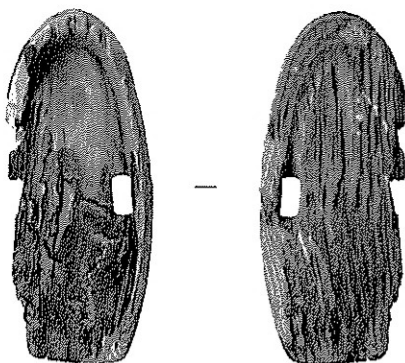
飛鳥

船橋遺跡

(W3.6・L44.1) 文献.824

飛鳥時代の土器とともに溝から出土。心持ちの枝材を削り込んで整形しており、ケズリなど加工の痕跡がみられる。工具の付く箇所が柄からL字形に曲がり、先端に袋状鉄斧を差し込んでいたようである。鉄斧の身を装着する箇所は、側面を削り出して細部調整を施している。その箇所は横長形状をなすことから、装着鉄斧は横斧の可能性が高く手斧のようなものか。(鈴)

580



580 履物

飛鳥

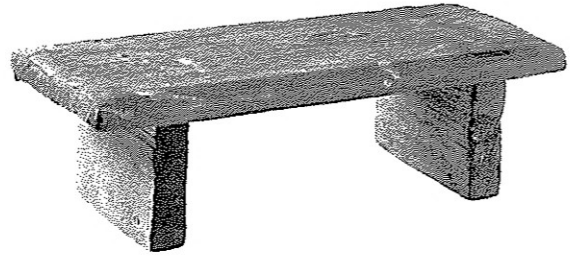
難波宮跡

(L26.5・T3.6) 文献.716

谷から出土。後方をのぞき周縁が削り出される。側面から見ると、先端がやや斜め上方にあがるが、これは当初からのものか、使用過程においてすり減ったためか判別できない。底面の左右両側には2箇所に長方形の穿孔がある。内側を中心に炭化している。履物としては特異な形態をもつが、大阪市長原遺跡、東大阪市新上小阪遺跡からも発見されている。(鈴)

581 案 飛鳥～奈良
難波宮跡 (W16.2・L36.2) 文献.716

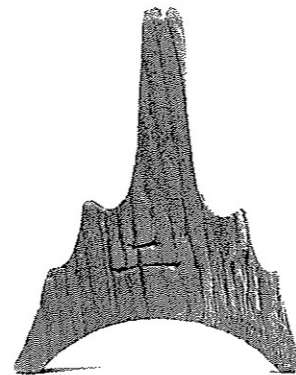
谷の斜面から出土。脚台2本をもつ小形の案(机・台)で、天板の上端面の角はいずれも幅広に面取り成形がなされ、部分的に刃痕が残る。天板の裏面に矩形の柄穴を刳り込み、そこに脚台となる方形板材を差し入れる。さらに天板の上から木釘を各3箇所打ち込んで固定している。天板の年輪年代測定の結果、最外年輪年代は506年(心材型)と計測された (鈴)



582

582 箏柱 奈良
難波宮跡 (H6.3・W4.8) 文献.716

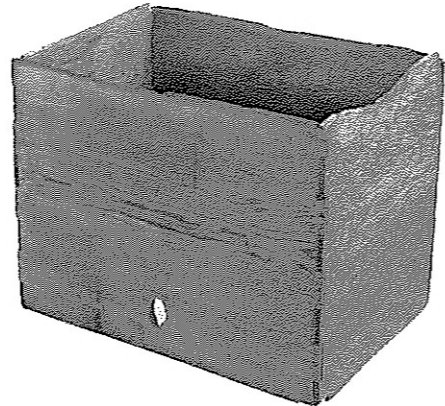
後期難波宮関連地の調査で出土。ほぼ左右対称で丁寧な整形を施す。上端には弦を受ける細い切り込みをもつ。この部分の角が摩滅し、実際の使用を窺わせている。片面に「二」の刻書がある。正倉院南倉や法隆寺献納宝物にも番号を書いた箏柱や琴柱が知られている。このような例から、当品は第2弦の箏柱だった可能性が高いことが判明した貴重資料である。 (鈴)



583

583 櫃(井戸杵転用) 奈良
久宝寺遺跡 (h43.2・W53.2) 文献.665

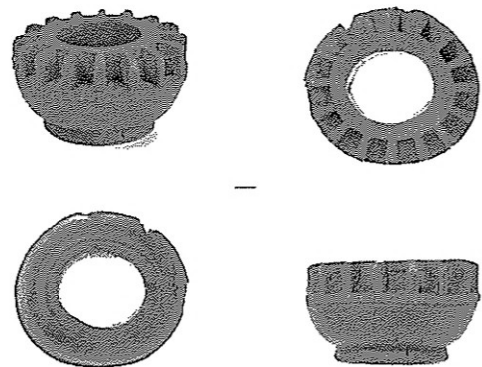
井戸から出土。底板ははずされ側板のみを用い、逆位で杵に使われていた。側板は、厚みが1.3cm前後、板目の木取りをし、板の縦辺に作り出した凹凸を側板同士で互いに組み、鉄釘を打ち込んで組み合わせる。櫃の前面と背面の本来の上部には孔があけられている。身と蓋を固定するための壺金具を差し込むための細工である。板の樹種はヒノキ科のサワラ。 (鈴)



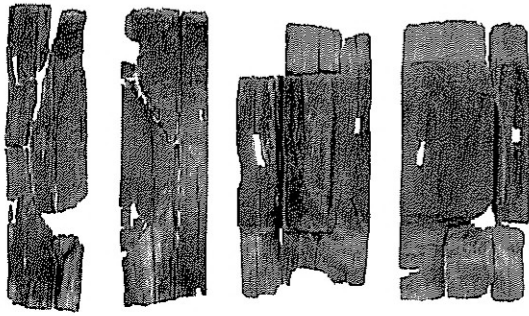
584

584 傘(轆轤部) 平安後期
船橋遺跡 (H4.8・W8.0) 文献.675

土坑から出土。平面楕円形で亀が甲羅を伏したような形の材を、傘の柄の先に取り付け、傘を開閉できるようにする「轆轤」と呼ばれる部品である。臼形の部分と歯車状の刻み部分からなり、中央には傘の柄を挿入する長径3.8cm、短径3.1cmの孔が貫通している。傘の骨を受ける刻み部分には16枚の歯が作り出され、いずれも小孔が穿たれている。 (鈴)



585



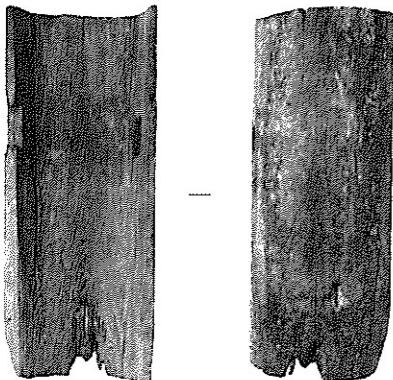
585 船舷側板 (井戸枳敷板転用) 飛鳥
 讚良郡条里遺跡 (左から $\ell 90$, $\ell 88$, $\ell 53$, $\ell 56$) 文献830
 井戸から出土。板材4枚を使用した枳敷板で、右側の短い2枚の上下端を薄く削り出し、その上に直交させて長い2枚を乗せ、中央に長方形の穴があくように配置していた。いずれも短辺断面は弧を描き、それぞれ長方形孔が2、3箇所あり、もとは他材と組み合わせられていたと思われる。船の舷側板の1枚から切り分けられ、転用されたと考えられる。材はスギ。(森屋)

586



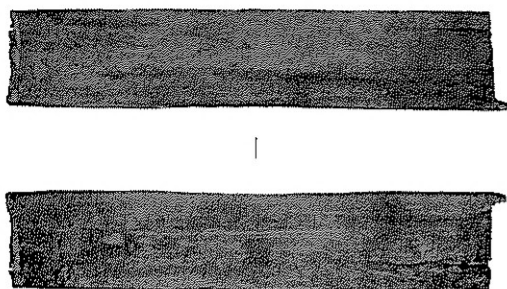
586 船底材 (井戸枳転用) 飛鳥
 讚良郡条里遺跡 (左から $\ell 214$, $\ell 216$, $\ell 214$, $\ell 218$) 文献830
 585の敷板上に立てられ、4枚合わせて円柱状に組んでいた。板材には、部位が異なるが各1箇所に孔が穿たれる。加工痕や一方がすぼまる形状から準構造船の底板と考えられる転用品で、舳先と艫を切り取り、横位に裁断しさらに縦に2分割し、4枚の井戸枳材とする。材はスギ。もとは585船舷側板と組み合っていた準構造船の部材となる可能性がある。(森屋)

587



587 船底材 (井戸枳転用) 飛鳥
 はざみ山遺跡 (W84.0・ $\ell 225.5$) 文献707
 井戸から出土。枳に転用された準構造船の底板で、舳先・艫側を裁断し分割したものである。もともとあった、舷側板を結束するための長方形孔や削り抜きが残る。転用時に隙間なく組み合わせるため、接合部に再加工を施す。材の一端が細いことから、舳先か艫にごく近い部分を切り取ったことが判る。破損部の補強用の鍔かすがいとおぼしき鉄材が残存する。材はスギ。(森屋)

588

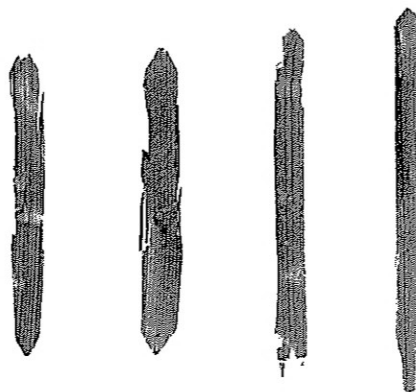


588 扉板 (井戸枳転用) 奈良後半
 讚良郡条里遺跡 (W20.8・ $\ell 104.0$) 文献830
 井戸から出土。
 方形に組まれた井戸枳の西側3段目の板材で、一方にのみ軸が残り、反対側には断ち切られた痕がある。扉の転用材である。片面に加工痕がみられ、一部に炭化が認められる。把手部がないことから、幅がもう少しあった可能性もある。材はヒノキ。同一井戸の枳構築材は、支柱がヤナギ属のほかはスギである。(森屋)

589

589 齋串 飛鳥
はざみ山遺跡 (右端:W1.0・L12.4) 文献.707

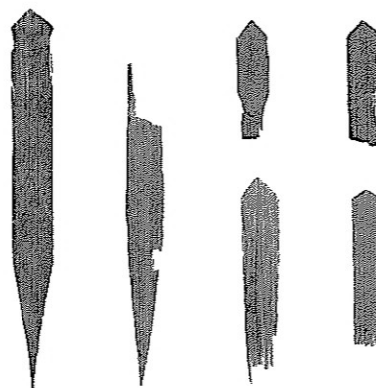
井戸から、多量の土器や埴輪、船形木製品とともに4点が出土。ヒノキの^{まがめ}杵目材を用いる。細長形の板状のもので、両側面の切り込みが二対4箇所のもので一対2箇所のものであり、前者の下端部が三角形状を呈するのに対し、後者は細い棒状となる。2形態のものが2点一組として用いられており、井戸祭祀の具体的一例を示すものと思われる。(森屋)



590

590 齋串 飛鳥～奈良
難波宮跡 (左端:W2.9・L25.2) 文献.716

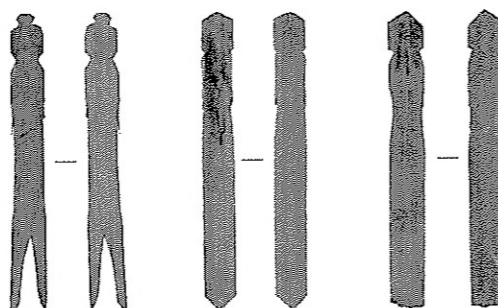
谷地形から出土。残存する各部位から判断して、長方形の板状のものを、上部は圭頭状に整形し、下部は剣先状に加工している。両側に2箇所切り込みがあるものと1箇所のものでみられるが、右下例には切り込みがない。左端の1点が完形であるほかは破損品である。左側2点は同様な作りで、2点セットであった可能性がある。(森屋)



591

591 人形 奈良中頃～平安初頭
讚良郡条里遺跡 (左からL20.3, L23.9, l 22.5) 文献.634

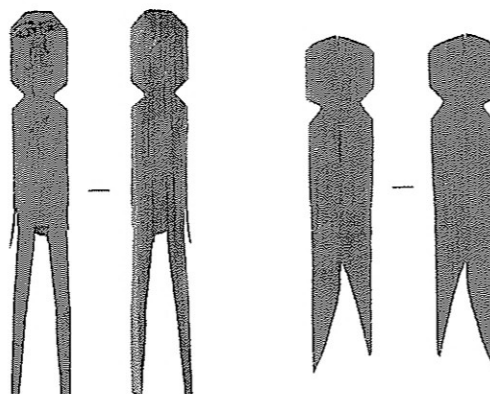
流路(報告では溝)から出土。板に切り込みを入れ人形に作ったもので、左の頭頂部には被り物または髻を表現し、中・右は頭頂部を圭頭状に作っている。腕部はいずれも両側に深い切り込みを加えて表現し、脚部は、左が逆V字形の切り込みを入れ、中は三角形状に作っている。左の腹部には、打ち込み痕がある。中・右には、片面に顔や衣服を墨書で表現する。(森屋)



592

592 人形 奈良中頃～平安初頭
讚良郡条里遺跡 (左:L26.6, 右:L15.5) 文献.634

591人形と同じ流路から、多量の木製品とともに出土。計11点のうち2点である。左は台形状の頭部をなし、頸部、腕部、脚部に切り込みを入れる。表面に丁寧な加工を施し、顔や衣服を墨書で表現している。右は圭頭状の頭部をなし、頸部、腕部に前者と同様の切り込みを入れる。脚部の切り込みは、逆V字状である。墨書はない。(森屋)



593



593 絵馬 奈良
難波宮跡 (W23.2・L15.9) 文献.716

谷から多量の木製品と一緒に出土。

大きく5片に分かれていたがほぼ完存する。表面は平滑に成形されるが、裏面は未整形である。上辺中央に小孔を穿つ。板目の板材いっぱい左向きの牡馬を描いている。残りが悪かったが、赤外線画像によって、非常に丁寧に細部まで描き込まれたことが判る。装具や体部全体に着色していた可能性がある。(森屋)

594



594 絵馬 奈良
難波宮跡 (W25.8・T0.5) 文献.716

谷から出土。下部が欠損し短冊状に割れるが、墨痕は明瞭で概ね全体が知れる。木取りは裏柱目で、表面は平滑な整形だが裏面は未整形である。両側縁ともキリオリで成形され、上辺中央に矩形的穿孔がある。絵画は左向きの馬で、股間の性器表現はない。墨の濃淡を使用し細部まで表現する。臀部周辺が赤く見え、体部彩色していた可能性がある。(森屋)

595



595 絵馬 奈良中頃～平安初頭
讚良郡条里遺跡 (W20.4・L14.6) 文献.634

木製品が多量出土した流路から、小流木を挟んだ状態で2枚検出された絵馬の1点。板材右下角の面取り、その付近の穿孔、樹皮片の遺存から、折敷底板等の転用といえる。左側面にはキリオリにより切断された刃物痕が、上辺中央に紐孔が1個ある。墨書は、左向き牡裸馬が側対歩で尻尾を軽く跳ねあげ、その左に「神馬」と記される。材は板目のヒノキ。(森屋)

596



596 絵馬 奈良中頃～平安初頭
讚良郡条里遺跡 (W27.4・L21.7) 文献.634

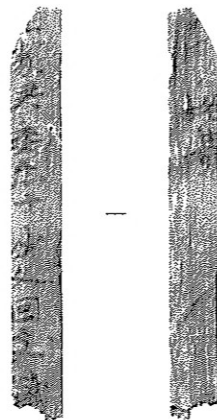
595と一緒に出土した残りの1点。

長方形板材の右端の多くが破損し、上辺中央に紐孔が穿たれる。左向きの両脚を揃えた静止状態の彩色飾牡馬である。白色土を用いた描写後に墨書され、馬の輪郭や稜線、鞍、鐙、轡、手綱、面懸、胸懸、尻懸などの装具を細かく表現する。材は板目のヒノキ。

(森屋)

597 木簡 飛鳥か
難波宮跡 (w1.7・ℓ13.4) 文献.716

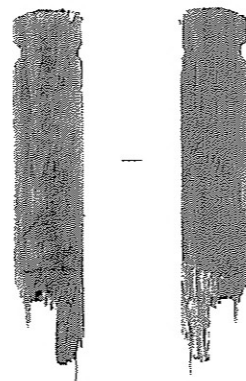
谷から出土。下端部が欠損し、左辺は二次的な削りである。上端およびそこから斜めに下がる面も切断面が平滑で、二次的な削りの可能性がある。表裏とも墨痕が明瞭で、表面に「□家君委尔□〔沙カ〕久因支鉄」、裏面に「□〔格カ〕費 □□□」とある。表面の「委」以下は人名の可能性が高い。裏面の1字目は「洛」とも考えられる。木取りは板目である。(森屋)



598

598 木簡 奈良中頃～平安初頭
讚良郡条里遺跡 (W1.6・ℓ8.2) 文献.634

流路から出土。同所からは他に、絵馬、人面墨書土器、人形、斎串など多数の祭祀関連遺物が検出されている。板状品の先端付近に左右から切り込みを入れる。下半が欠損する。切り込みには使用痕跡が認められないが、荷札などに使用された木簡と考えられる。表面には墨書文字が認められ、「高罌郷尾□□」と記されている。(森屋)



599

599 刻書土器 奈良
津田遺跡 (RD11.0・H2.6) 文献.845

包含層から出土。
須恵器の杯で、裏面に「萬」の字がヘラ書きされている。内面には、灯明皿として使用された痕跡である油由来の炭化物が斑状に付着する。

同じ包含層からは、瓦、須恵器、土師器、緑釉陶器や灰釉陶器などが出土している。

(森屋)



600

600 刻書瓦器 平安後期
玉櫛遺跡 (RD9.8・H2.3) 文献.602

溝状遺構から出土。

口縁部と内面見込み部をヘラミガキする瓦器皿の内面底部に、鋭利な刃先などを用いて「井」と刻書する。口縁部の外面下半にも「卅」のヘラ記号がある。まじないにかかわるものか。この種の意匠は、古代土師器の供膳具などに施された刻書にも散見される。

(駒井)



601

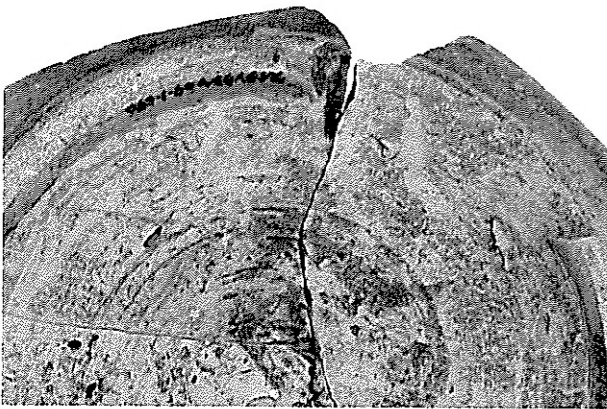


601 墨書土器 奈良中頃
植松遺跡 (RD20.0・H3.9) 文献.789

旧大和川に流れ込んでいた埋没河川の一つに堆積した砂層から出土。

内面底部に螺旋状暗文、内面体部に放射状暗文を施す土師器杯の完形品の外面底部に、「山村」と墨書がある。2字目は「村」の異体字との指摘もある。この墨書は、人名もしくは地名の可能性のあるものの、どちらにしても文献資料では未確認である。(駒井)

602



602 墨書土器 奈良
吹田操車場遺跡 (墨書W2.9・L2.6) 文献.867

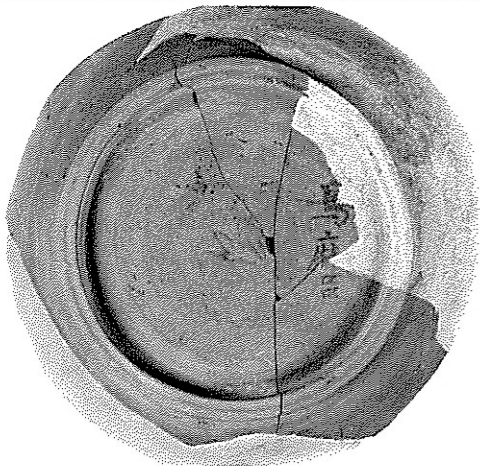
谷地形を埋めつくした埋土から出土。

須恵器杯の外面底部に、「秦」と墨書する。「秦」は集団名か。

調査地付近では当該期の集落を確認しておらず、北側に広がる微高地上に、「秦」もしくは秦某と名乗る集団が居住していた可能性がある。

(駒井)

603



603 墨書土器 奈良
禁野本町遺跡 (RD14.6・H3.6) 文献.712

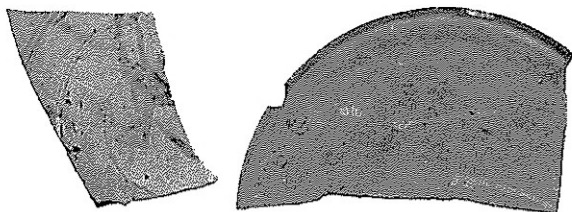
調査区中央にある一連の溝状遺構とも思える、一列に並んだ土坑3基のうち南端の土坑から出土。

完形品ではなく、欠損した須恵器杯の外面底部に、「鳥麻呂」と墨書する。

鳥麻呂という人物の銘々器が破損し、廃棄されたものであろうか。

(駒井)

604



604 墨書土器 奈良後半～末
禁野本町遺跡 (左:墨書ℓ3.7,右:rd20.2) 文献.712・884

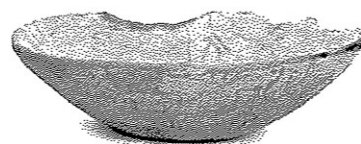
左は、掘立柱建物を構成するピットから出土。須恵器杯もしくは皿片の外面底部に、「東」と墨書する。右は、調査区南端にある不整方形を呈する土坑から出土。須恵器蓋片の内面、口縁端部付近に、「西」と墨書する。このような「東」「西」という方向を表す文字は、土器を保管あるいは収納した場所や施設を示すものかもしれない。(駒井)

605 墨書土器 平安前期
新上小阪遺跡 (RD14.1・H4.0) 文献.601

砂層を掘り抜き桶枠1段を埋め込んだ、隅丸方形を呈する溜め井状土坑の埋め戻し土中から、正置した状態で出土。

内外面をヨコナデ成形した完形品の土師器碗の外面底部に、「村主」と墨書する。当地に、^{すぐり}村主姓を名乗る集団が存在したことを示す資料といえよう。

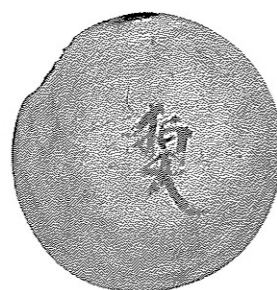
(駒井)



606 墨書土器 平安初頭
久宝寺遺跡 (左:RD14.2, 右:RD13.5) 文献.759

ともに池状遺構から出土。左は、外面口縁部ヨコナデ、外面体部～底部指オサエする土師器碗の外面底部に、「狛大」と墨書する。渡来系氏族狛(高麗)氏の人名の一部である可能性が高いという。右は、同様の調整を施した同種土器の外面底部に、「東」と墨書する。この土器を保管した施設の名称かあるいは人名の一部かもしれない。

(駒井)

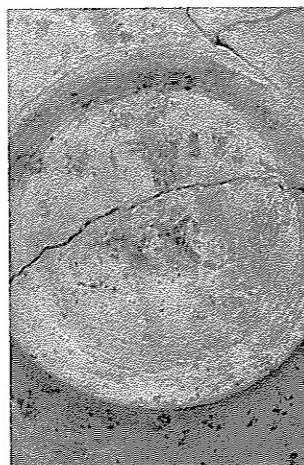


607 墨書土器 平安前期
小阪合遺跡 (左:BD7.2, 右:墨書L2.8) 文献.641

ともに井戸から、多数の土器片とともに出土。

左は、口縁部の一端が欠損する土師器碗の外面底部に、「家」もしくは「承」と墨書する。「家」ならば、私宅の保管施設を示すものか。右は、外面に「井」と墨書した土師器碗もしくは皿の底部片だが、「井」は「井」字の筆法に則しておらず、記号の可能性もある。

(駒井)

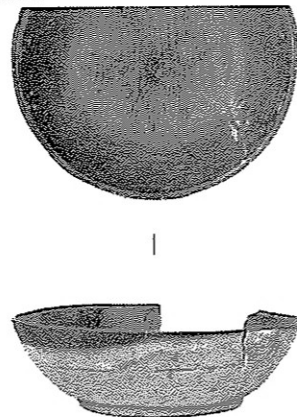


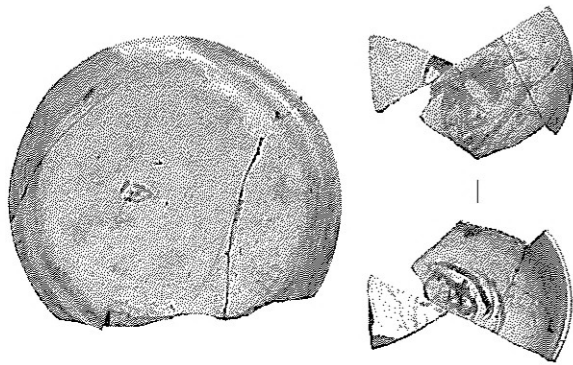
608 墨書土器 平安前期～中期
池内遺跡 (RD16.6・H5.1) 文献.843

三方を溝で区画された屋敷地内の南端で検出した、削り貫き材と板材の枠からなる井戸から出土。

内面は細かく密なヘラミガキ、外面にもヘラミガキを施した黒色土器A類碗で、外面底部の墨書は「相野宮」と読める。相野とは地名もしくは集団名を、宮とはいくつも連なった大きな建物を表現したのか。

(駒井)





609 墨書土器 奈良前半
池島・福万寺遺跡 (左:RD15.9,右:rd12.0) 文献793
福万寺地区で検出した自然流路から出土。流路が機能していた時に投棄され、短期間のうちに埋没したものと考えられる。

左は、底部内面に螺旋状暗文を、体部内面に2段の放射状暗文を施す土師器杯で、外面底部に「田」と墨書する。右は、内外面ともヨコナデを施した土師器碗で、内外面底部に詳細不明の墨書を施す。(駒井)



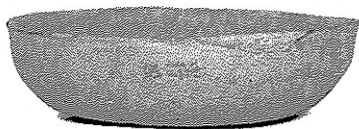
610 墨書土器 奈良前半
池島・福万寺遺跡 (墨書W0.6・L1.8) 文献586
飛鳥時代から平安前期にかけての福万寺地区では多数の土器埋納遺構を検出したが、それらは微高地縁辺に沿って分布すること、つまり水田域と非水田域の境界付近に顕著なことが明らかとなった。

この土師器杯も土器埋納遺構から出土したもので、内外面ともナデ調整を施し、外面底部に吉祥句の「華」と墨書する。(駒井)



611 墨書土器 奈良前半
池島・福万寺遺跡 (左:墨書L2.6,右:同L1.1) 文献871
福万寺地区の土器埋納遺構から、左は破砕した状態で、右は正置して出土。

左は、内面底部に螺旋状暗文、内面体部に連弧状暗文と放射状暗文を施す土師器皿で、外面底部に「土□」と墨書する。なお埋納前に、口縁部の一部を意図的に打ち欠く。右の外面底部にも「土」と墨書し、口縁部を意図的に大きく打ち欠く。(駒井)

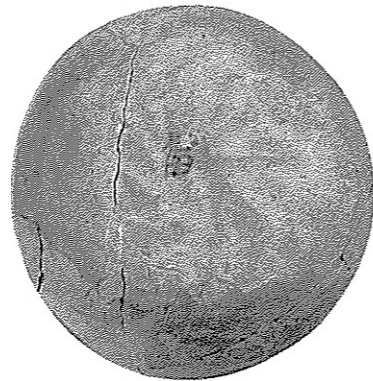


612 墨書土器 奈良後半
池島・福万寺遺跡 (RD14.0・H4.0) 文献828
福万寺地区の土器埋納遺構から、正置した状態で出土。内面底部ナデ、内外面体部ヨコナデを施した土師器碗または杯の体部外面に、「中村田」と口縁部に沿って墨書する。杯、碗、皿は、基本的に外面底部に墨書することが多いが、本例のように外面体部に記す場合もある。「中村田」とは、条里地割内の田畑の名称を表すのかもしれない。(駒井)

613 墨書土器 平安前期
池島・福万寺遺跡 (RD15.8・H5.0) 文献.829

池島地区で検出した上面 1.7 m × 1.5 m、深さ 0.8 m の平面方形を呈する比較的大形の土器埋納遺構から、正置した状態で出土。

内面をナデ、外面口縁部付近をヨコナデする土師器碗で、指オサエが顕著な外面底部に、「富」と墨書する。吉祥句「富」を記して豊穰を祈念し埋納したのであろうか。(駒井)



614 墨書土器 平安前期～中期
池島・福万寺遺跡 (墨書W3.9・L4.4) 文献.586

福万寺地区で検出した土器埋納遺構から出土。

内面をナデ、外面は口縁端部のみヨコナデ、それ以下は指オサエが顕著な土師器碗の外面底部に、「利富」と墨書する。611と同じように、埋納前に口縁部の一部を打ち欠く。

613同様、吉祥句を記すことによって、五穀豊穰を祈願したのだろうか。(駒井)



615

615 墨書土器 平安前期～中期
池島・福万寺遺跡 (RD12.5・H4.0) 文献.840

福万寺地区の微高地上で検出した土器埋納遺構から出土。

内面体部をナデ、内外面口縁部ヨコナデ、外面体部を指オサエする土師器碗の外面底部に、「大」と墨書する。筆法は他例と比較して稚拙であり、607(右)と同様、記号の可能性もある。

(駒井)



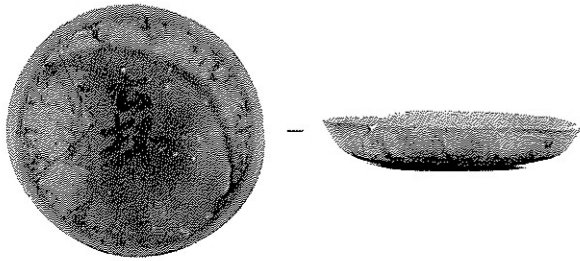
616

616 墨書土器 平安後期
玉櫛遺跡 (rd10.0・H1.7) 文献.602

溝状遺構から出土。口縁部を2段ナデする土師器皿の外面底部に、墨で塗りつぶされ判然としないが「鬼道カ」と墨書する。さらに外面口縁部には、「…口トリヲ [シカ] ロ / チヒロ 个 チロ [アカ] ツ [イカ] ラ カヤツ [イカ] ハム □ [カカ] …」と墨書がみられる。まじないにまつわる短歌ではないかという。それ以外にも墨跡が確認できるが、詳細は判然としない。(駒井)



617



617 墨書瓦器 平安後期
巢本遺跡 (RD9.3・H1.6) 文献.792

包含層から出土。

内面底部に連続直線文を施した瓦器皿で、外面底部に「□坏」と墨書する。□部は「吉」の異体字の可能性が指摘されており、そうであるならば吉祥句であろう。摂河泉の墨書土器類は、奈良時代～平安前期に出土例が多く、平安後期以降は極端に少なくなる。

(駒井)



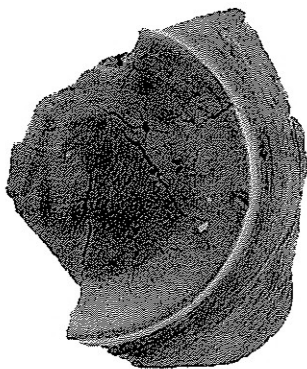
618 墨書瓦器 平安後期
巢本遺跡 (RD15.3・H5.0) 文献.792

包含層から出土。

楠葉型瓦器碗の外面底部に、「訊」の可能性のある文字を墨書する。上述のように、当例の所属時期である平安後期以降に墨書土器類の検出数が極端に減少するなかであり、本遺跡では他にも 617・619・620 のように瓦器や山茶碗やまぢわんに墨書された資料が確認されており重要な位置を占める。

(駒井)

619



619 墨書陶器 平安後期
巢本遺跡 (BD7.4・h2.2) 文献.826

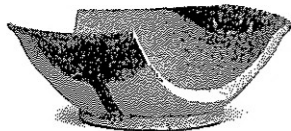
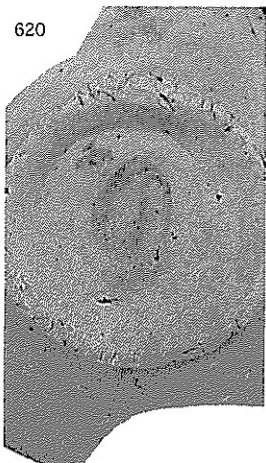
包含層から出土。

底面糸切り後に貼り付けた高台内側に、「僧」と墨書した山茶碗の底部片。

調査では、14～16世紀の寺院の存在を窺わせる遺物が多数検出された。当墨書土器は、それに先立つ12世紀代には仏教施設が存在したことを暗示する資料として評価できる。

(駒井)

620



620 墨書陶器 平安後期
巢本遺跡 (RD15.1・H5.8) 文献.600

包含層から出土。

山茶碗の口縁部に、向かい合うように内と外に半円状の釉がかかる。部分的にその釉が垂れ、簡素な碗に一つの景色をもたらしている。その外面底部に、「の」字状の墨書がみられる。この墨書が、文字なのか記号なのかは不明。617～619同様、墨書土器衰退期の資料にあたる。

(駒井)

621 人面墨書土器集合 奈良中頃～平安初頭
小路遺跡 (最奥:RD29.0・h27.2) 文献.669・721

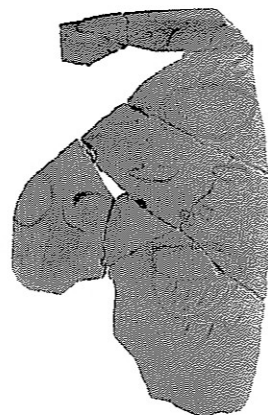
古代寺院である寢屋川市高宮廃寺が立地する丘陵の裾部で、ほぼ直線にのびる流路から出土。流路からは多数の祭祀関連遺物が伴出した。土師器の甕であり、体部に人面が描かれる。小形の球胴甕と大形の長胴甕がある。一つの甕に2～5面の人面が描かれたものもみられる。底部が焼成後に穿孔された甕もあり、祭祀に用いられた遺物と考えられる。(合田)



622

622 人面墨書土器 奈良中頃～平安初頭
小路遺跡 (rd30.7・h25.7) 文献.714

621と同じ流路から出土。この流路からは、破片を含めて200点を超える人面墨書土器が確認されている。土師器の甕であり、体部に、頭髮、額、目、鼻、口、顎髭からなる人面が描かれる。その下方ならびに左側にも線状または円状のものが描かれるが、全体の構図は不明である。疫病神や餓鬼を描いたものとする考え方があある。(合田)



623

623 人面墨書土器類 奈良末～平安初頭
植松遺跡 (RD17.2・H15.5) 文献.789

旧平野川とみられる大規模な自然流路から出土。流路の南・北両側には奈良～平安時代の集落が存在することから、いずれかの集落からもたらされたものであろう。底部が丸く球形に近い体部をもつ南河内型の土師器甕であり、外面に墨書がある。墨書は山形状の線を描き、その内側に上向きの矢印のような文様を加える。水辺での祭祀に伴うものとみられる。(合田)



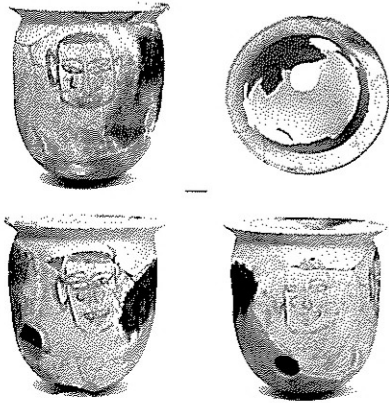
624

624 人面墨書土器 平安初頭
久宝寺遺跡 (RD11.0・h7.5) 文献.759

旧平野川のような流路の氾濫による浸食作用でできた谷から出土。ウシ等の足跡が多く見つかったことから、土砂運搬などが行われ「池」として整備された可能性がある。土師器の小形甕で、前後2面に眉毛、目、鼻、口、口髭をやや抽象的に表現して描く。底部には穿孔がある。水辺祭祀に伴うものとみられる。この人面表現は寢屋川市小路遺跡に類例がある。(合田)



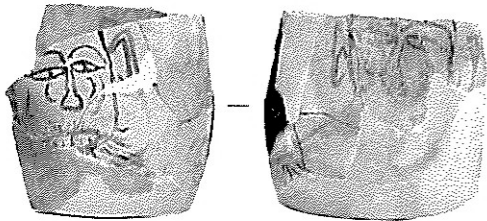
625



625 人面墨書土器 奈良中頃～平安初頭 讚良郡条里遺跡 (RD28.9・h29.5) 文献.634・721

621と同じ流路に設けられた堰の杭列に絡まって出土。土師器の長胴甕であり、体部下半に穿孔が認められる。人面墨書は体部外面の3面に描かれている。人面は、面長の顔に、髪、大きな耳、眉毛、目、鼻、口、口髭が描かれ、頬骨の表現かとも思われる、両頬に描かれた三日月状の印が特徴的である。626と共通し、秋田県秋田城跡出土の人面表現とも類似する。(合田)

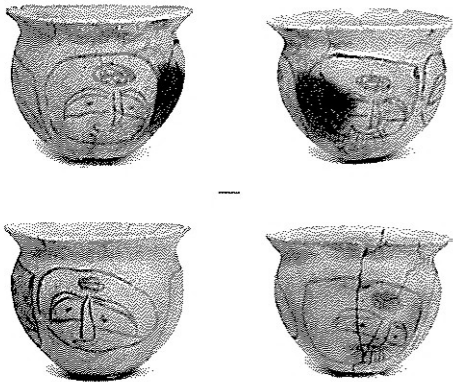
626



626 人面墨書土器 奈良中頃～平安初頭 讚良郡条里遺跡 (md29.2・h15.8) 文献.634・714・721

621と同じ流路およびそこに設けられた堰の杭列間から、同一個体とみられる破片が出土。土師器の長胴甕で、体部外面の2面に人面墨書が描かれる。人面は面長の顔に、大きく張り出した耳、眉毛、目、鼻、口、口髭が表現され、両頬には三日月状の印がそれぞれ複数みられる。625の表現に近く、上記のように秋田県秋田城跡の人面表現とも類似する。(合田)

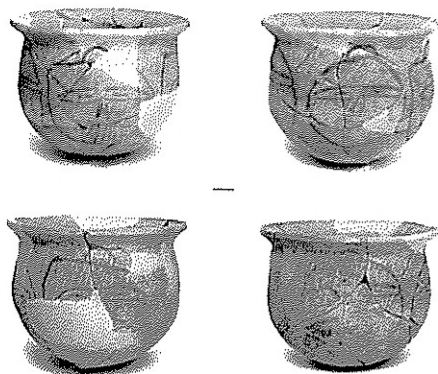
627



627 人面墨書土器 奈良中頃～平安初頭 讚良郡条里遺跡 (RD16.6・H13.0) 文献.634・721

621と同じ流路で、流路に設けられた堰の杭列に絡まって出土。土師器の小形甕であり、丸底のほぼ中央に穿孔が認められる。人面墨書は体部外面の4面に描かれている。丸顔の人面と、髭をはやし頭部が扁平な四角顔の人面が交互に配置される。大きな目と、白毫かとも思われる眉間に描かれた印が特徴的である。628と類似する人面表現である。(合田)

628

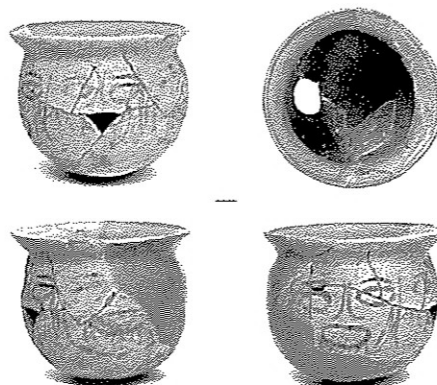


628 人面墨書土器 奈良中頃～平安初頭 讚良郡条里遺跡 (RD15.8・H12.7) 文献.634・721

621と同じ流路から出土。土師器の小形甕であり、丸底のほぼ中央に穿孔が認められる。人面墨書は体部外面の4面に描かれている。人面は、丸顔と、髭をはやし頭部が扁平な四角顔が交互に配置される。頭部には、頭髪を束ねたものか、あるいは被り物かともみられる丸い突起状意匠が描かれている。目、鼻、口、顎髭などは直線的に表現される。627と類似する。(合田)

629 人面墨書土器 奈良中頃～平安初頭
 讚良郡糸里遺跡 (RD15.6・H14.8) 文献.634・721

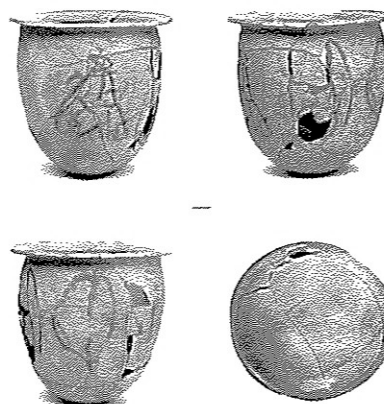
621と同じ流路から出土。土師器の小形甕であり、丸底の中央からややはずれた位置に穿孔がある。全体の約2/3が残存し、そこに人面墨書が3面描かれる。眉毛、目の輪郭、鼻、口、顎髭などが比較的太い筆で表現される。顔の輪郭は判然とししないが、口を大きくあけた人面の間に髭が多い人面があり、627・628同様、交互に配置されている可能性がある。(合田)



630 人面墨書土器類 奈良中頃～平安初頭
 讚良郡糸里遺跡 (RD27.7・H27.5) 文献.634・721

621と同じ流路から出土。

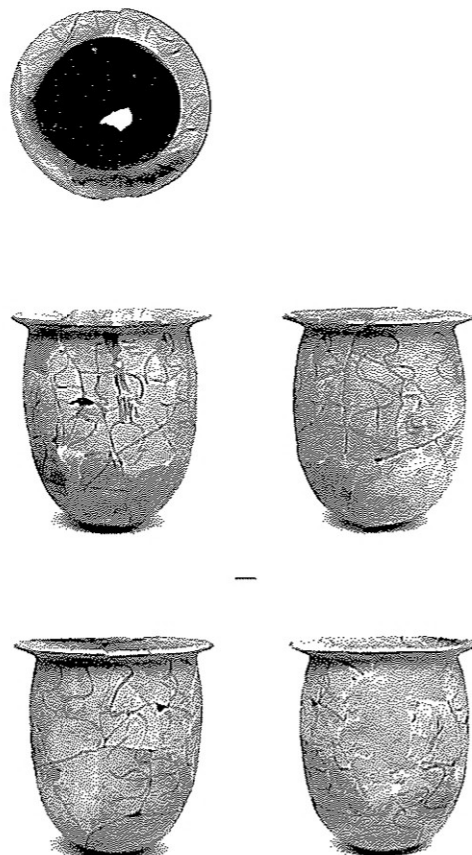
土師器の長胴甕であり、体部全体に、直線と曲線を組み合わせた複雑な記号状のものや、楕円に直線を組み合わせたものが墨書で描かれる。明確な人面表現は特に認められず、描出された内容は不明である。人面が簡略化され、抽象表現になったものであろうか。631と類似する。(合田)



631 人面墨書土器 奈良中頃～平安初頭
 讚良郡糸里遺跡 (RD28.9・h31.7) 文献.634・721

621と同じ流路から出土。土師器の長胴甕であり、丸底のほぼ中央に穿孔がある。人面の墨書は、やや不明瞭であるが1面のみ描かれる(左中)。人面は、眉を横1本線、目を横2本線、鼻を円形に描き、その下に2段に分けて引かれた数本の縦線は、口髭と顎髭であろうか。口は表現していないようである。体部にはそのほか、縦方向にS字状の曲線が加えられる。口縁部内面にはS字状の連続した長い曲線が描かれる。

本流路では、人面墨書土器が個体判別可能なもの約35点、破片約180点検出されている。都城とその周辺以外の遺跡で、二桁以上の出土点数を数える例は本遺跡を含め4箇所前後と少ない。他にも絵馬、人形、斎串など律令祭祀に関連する遺物が出土しており、北河内地域でも規模が大きな水辺の祭祀場だったと考えられる。本流路は他とは違い蛇行せず直流しており、護岸や杭列も検出されていることから、この流路のみ直流するように規制していたことが窺える。(合田)





632

632 漆容器集合 飛鳥
難波宮跡
(主体:md8~12) 文献716

前期難波宮の北西隅部、内裏西方倉庫群のすぐ北側に位置する谷から出土。3007点の漆容器が出土しており、その大半は須恵器である。甗、壺、短頸壺、平瓶、提瓶、甕などがあり、猿投窯、湖西窯など東海系の須恵器が含まれる。土器の破断面にも漆膜が多くみられることから、漆の移し替えの際に人為的に割られている状況が看取できる。(合田)

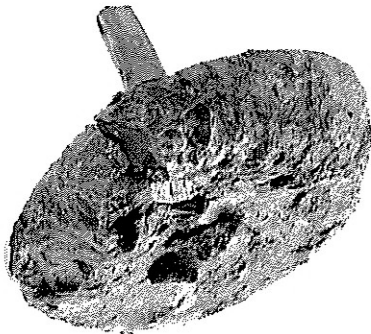
633



633 漆容器(木栓・紙残存) 飛鳥
難波宮跡
(右:RD4.4・h3.8) 文献716

632漆容器と同じ谷から出土。漆容器として用いられた須恵器小形壺の口縁部で、木栓や紙が残るものである。木栓は口縁部の内側に合わせるように裁頭円錐形であり、下方の隙間には紙とみられるものを充填している。木栓の中心には穿孔があり、上面ではこの孔から噴出した漆が固着する。漆の保存や漆容器の使い方を知る資料として意義深い。(合田)

634



634 漆容器(木栓) 飛鳥
難波宮跡
(D5.3・T4.9) 文献716

632漆容器と同じ谷から出土。円盤状をした漆容器の木栓である。中心には方柱形の棒が差し込まれており、その上端は、不規則ではあるが面取りされている。円盤の下面は厚く漆が付着するが、上面は部分的に漆が付着するのみである。漆入りの容器を、なかば栓をあけた状態で傾けて使用したのであろうか。漆容器の使い方的一端が窺える。(合田)

635

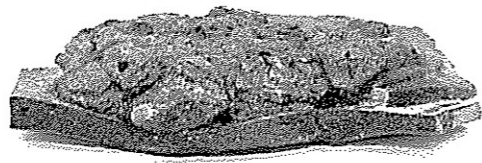


635 漉し布 飛鳥
難波宮跡
(右下:W3.9・L8.6) 文献716

632漆容器と同じ谷から出土。漆の漉し布が固まったものである。平織りの布目痕が残り、絞り目が明瞭である。漆の漉し布や漆を掻き出す際に用いたと考えられるヘラ状の木製品が多量の漆容器とともに出土したことから、各地から集積された漆に含む不純物を取りのぞきつつ移し替えるという作業が、この地で行われていたことが明らかとなった。(合田)

636 窯壁溶着須恵器 飛鳥
上の山遺跡 (w6.8・ℓ10.3) 文献.758

弥生時代～古代の建物跡が拡がる段丘縁辺の流路から出土。須恵器杯蓋の溶着資料で、宝珠つまみをもつ杯蓋の上面に、須恵器杯身底部と窯壁が溶着する。周辺に須恵器窯が存在した可能性を示す。古墳後期～奈良時代の須恵器窯である交野市大谷北窯、同大谷窯、枚方市藤阪窯、同藤阪宮山窯とともに、北河内地域の古代須恵器生産を考えるうえで重要となる。(合田)

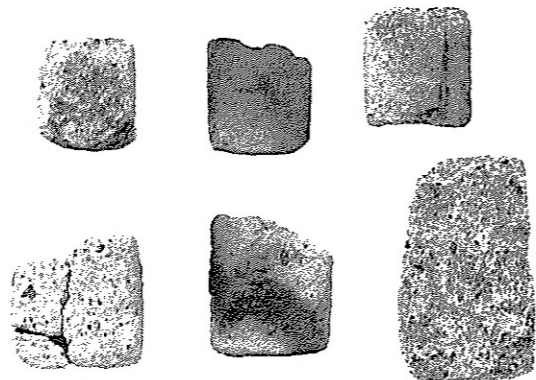


637

637 凝灰岩切石 飛鳥
はざみ山遺跡 (右下:W22.4・ℓ37.2) 文献.707

集落内の溝や柱穴など様々な地点から出土。

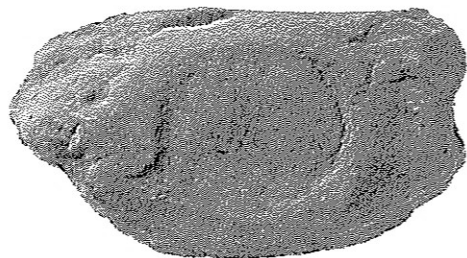
大形と小形のものがあり、小形のなかには両面に段状の加工があるものも存在する。うろこ状の加工痕がみられることから、手斧などによって平滑に整えられたことが窺える。寺院の基壇化粧に用いられた可能性があるが、煤の付着や被熱の痕跡からは竈の構築材として使用されたものとも考えられる。(合田)



638

638 礎石 奈良か
高宮遺跡 (W32.5・L23.5) 文献.856

古代寺院である寝屋川市高宮廃寺が立地する丘陵から南側へ一つ谷を隔てた、丘陵の南斜面に拡がる古代～中世の集落から出土。平面が不整形な長円形をした平たい礎石であり、中央に径約16cmの穴が浅く設けられており柱座としている。1点のみの検出であり、周辺にこれと組み合わせるような柱穴は不明で、建物規模は判らない。中世帰属の可能性もある。(合田)



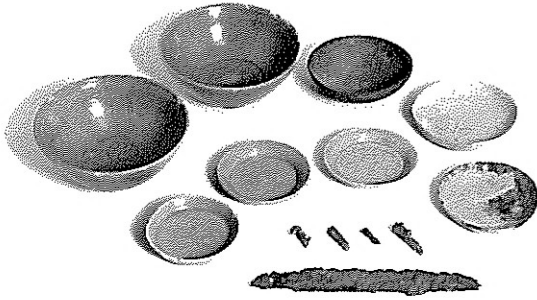
639

639 火葬骨 平安前期
津田遺跡 (左上:w2.5・ℓ4.7) 文献.845

墓壙内の514(左)灰釉陶器長頸壺から出土。壺は逆位に据えられ、口縁部に打ち欠き、体部中位に焼成後穿孔がある。美濃東部産と推定される。骨は「火葬骨、変形強、下顎骨の切歯部と頭骨の縫合部のみ同定可。成人と推測」と鑑定を得た。本遺跡では他に、近い時期の壺を用いた火葬墓がある。それらも尾張や播磨という他地域産壺である点が注意される。(合田)



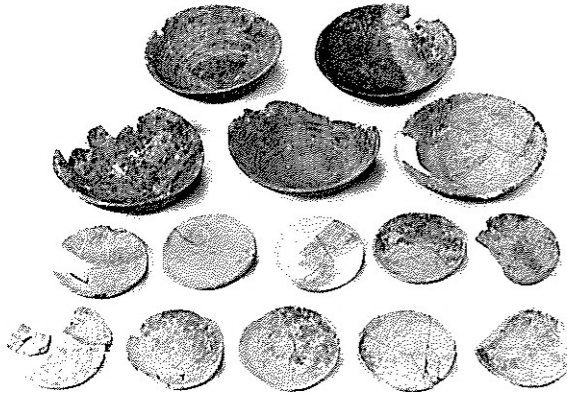
640



640 墓出土品一括 鎌倉
津田遺跡 (左端:RD16.8・H7.5) 文献.845

周囲を石列で囲った墓から出土。鉄釘が検出されたことから、木棺が納められていたと考えられる。墓内からは、龍泉窯系の青磁碗・皿、同安窯系の青磁皿、瓦器椀、土師器皿、鉄製短刀などが検出された。遺跡内には安土・桃山期の812石仏もあり、また灰釉陶器を納めた平安時代の墓も何基か見つかっている。墓所として長く利用された場所だったことが判る。(伊藤)

641



641 土師器・瓦器一括(墓出土) 鎌倉
高宮遺跡 (奥左:RD13.6・H3.8) 文献.856

平面長方形の土壙墓から出土。烏帽子や大腿骨が検出されたことにより、頭を北に向けた屈葬で葬られていたことが判明。この時期の埋葬方法を知る貴重な発見である。本遺跡は国指定史跡の寝屋川市高宮廃寺跡に近接するが、周辺からは烏帽子が遺存する同様の墓や木炭塚の墓がやや多く見つかっており、高宮廃寺の廃絶時期を考えるうえで重要な資料である。(伊藤)

642



642 土師器・瓦器一括 鎌倉
伽羅橋遺跡 (左下:RD7.5・H1.5) 文献.708

深さ0.9mの土坑からまとまって出土。本遺構は、他の土坑よりもやや深く断面はU字状を呈する。土器などを廃棄するための遺構と考えている。土師器皿は下層から出土しており、完形に近いものが多い。使用された痕跡が少ないという特徴があることから、一時に使用され投棄されたと推測できる。瓦器椀は和泉型で、高台がなくなった段階のものである。(伊藤)

643



643 土師器一括 鎌倉～室町
巢本遺跡 (手前ほぼ中央:RD7.8・H1.6) 文献.826

耕作地境の畦畔脇に掘られた溝からまとまって出土。土器の重なり具合から、南の畦畔側から廃棄された様子が窺えた。大半は土師器皿で、その量は遺物収納コンテナ4箱分に及ぶ。大形と小形のものに大別でき、製作技法の違いなどによってさらに7種に細分できた。このほか瓦器椀や瓦質土器火鉢・足釜、白磁、陶器、砥石、銭なども検出されている。(伊藤)

644 土師器一括 鎌倉～室町
花屋敷遺跡 (左端:RD14.2・H2.9) 文献.764

L字状に曲がる大溝から出土。瓦器や陶器、青磁などのほか、織機部材、下駄・草履^{せうり}などの履物、毬打^{きうちょう}(毬杖とも表記)の毬^{まり}、漆器椀、曲物底板などの木製品、2点の木筒も共伴している。周辺から建物などは見つかっていないが、大溝は中世の屋敷地を区画する施設と考えられている。土師器皿は、上部出土品と最下層出土品とに形態的な差異が認められた。(伊藤)



645

645 土師器一括 鎌倉～南北朝
花屋敷遺跡 (左奥:RD7.7・H1.2) 文献.764

上記の大溝埋没後に築かれた長方形の土坑から、完形の状態で多数出土。指頭圧痕が残るものと残らないものなど、大きく3種に分類できる。土坑の埋土には焼土や炭を含んでおり、周辺からは同様の埋土のピット7基が土坑を囲むように検出されている。近接して導水・貯水施設が見つまっていることから、宗教的な施設であった可能性が考えられている。(伊藤)



646

646 土師器ほか一括(井戸枠転用ほか) 鎌倉
池内遺跡 (中央上:RD31.6・h24.6) 文献.843

条里制に基づく正方位の水田が埋没したのちに構築された井戸から出土。土師質の羽釜2個体は井戸枠として転用されたものであるが、このほかにも内面に落ち込んだ破片があることから、3段以上積まれていたことが推定できる。口縁部は内傾し、端部が短く外側に曲げられ肥厚した玉縁状となる。土師器・瓦器の小皿なども検出されている。(伊藤)

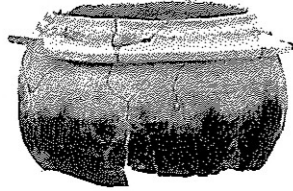


647

647 土師質羽釜(井戸枠転用ほか) 平安末～鎌倉
伽羅橋遺跡 (RD28.2～29.5) 文献.708

全て井戸から出土。右上以外は井戸枠に転用されていたものである。外面はヘラケズリであるが、右上のみケズリ後にヘラミガキ状のナデが施されている。本遺跡では、この資料のような土師質の羽釜は多くが井戸枠として転用されているが、瓦質の羽釜については井戸からの出土は少なく、溝や土坑からの検出が多いという興味深い特徴がある。(伊藤)

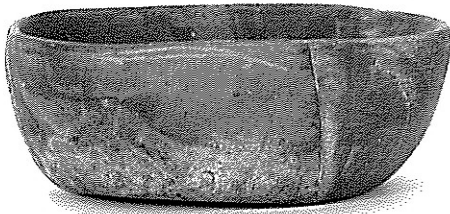




648 土師質羽釜（井戸枠転用） 鎌倉
巢本遺跡 (右:RD28.5・h21.8) 文献.826

井戸枠に転用されていたもので、積まれていた8段以外に、抜き取り穴内から4個体分の破片が見つかり、本来は12段積まれていたことが判明。羽釜の下には曲物も1段据えられている。12個体中3個体は土師質、残りは瓦質で、外面または内外面に煤の付着が認められる。井戸からは土師器皿、瓦器椀、唐草文軒平瓦、毬打の毬などが出土している。(伊藤)

649



649 瓦器（輪花椀） 鎌倉
玉櫛遺跡 (rd8.5・H3.2) 文献.602

よく似たものが同一遺構面の柱穴と土坑から出土。写真は柱穴からの検出例である。口縁部内面と外面の端部近くに細い横方向のヘラミガキを施し、外面にのみヘラによる縦位の刻線を入れる。見込み部には波文状の暗文が施されている。土坑検出のものは、内外面の対応する位置に縦位刻線が加えられている。柱穴例のほうが若干丁寧な作りである。(伊藤)

650



650 瓦質土器（播鉢） 室町
巢本遺跡 (rd31.0・H13.2) 文献.792

埋土に焼土や炭を含む隅丸方形の浅い土坑から出土。周辺では鋳物生産が行われたことを示す遺物も検出されている。片口の和産播鉢で、本遺跡からはこのほかにも数点が出土しており、生駒山を越えた門真市域にも流通していたことが判る。体部は内湾しつつ立ち上がり、口縁部は外反して丸くおさめる。内面には8条1単位の播目^{すりめ}を刻む。(伊藤)

651

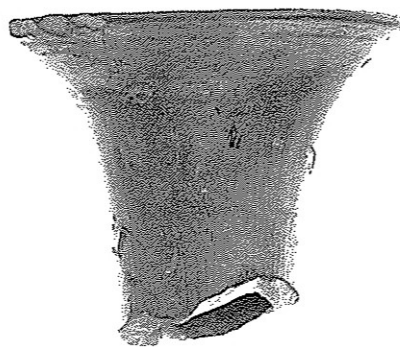


651 瓦質土器（小壺） 鎌倉
勝部遺跡 (RD2.8・H4.6) 文献.625

井戸から出土。遺構には井戸枠として曲物が3段残っていたが、土層断面の観察から、さらに上部に何らかの井戸枠が積み重ねられていた可能性が考えられる。他の井戸には内部に瓦器椀を埋置するような状況がみられ、この井戸では土師器皿1点が正置した状態で見つかり、小壺の胎土は精緻で、頸部と肩部との境にヘラミガキを1条めぐらす。(伊藤)

652 瓦質土器（仏花瓶） 室町
巢本遺跡 (rd11.0・h7.5) 文献.826

648の井戸に近接する井戸から出土。こちらの井戸は木組みの井戸枠であるが、検出面には拳大の石が散乱していたことから、井戸枠上端は石組みであったと考えられる。土師器皿、瓦質土器火鉢、備前焼播鉢なども検出されているが、やや時期幅がみられるようである。本例の口縁部は強く外反し、端部は丸くおさめる。内外面には隙間なく密なミガキを施す。（伊藤）



653

653 瓦質土器（深鉢） 鎌倉
巢本遺跡 (bd12.0・h17.6) 文献.826

溜池状の土坑から出土。平底で、体部は直線的に立ち上がる。内面はナデで、外面下半は報告書ではナデとなっているが、再確認したところ横方向のケズリであった。652と同様に、瓦質土器のなかでは特異な器種である。このほか本遺跡からは大般若経の木簡、墨書土器、瓦など、周辺に中世寺院の存在を示す遺物が数多く検出されており注目される。（伊藤）



654

654 瓦質土器（羽釜） 室町
巢本遺跡 (RD16.8・H16.0) 文献.792

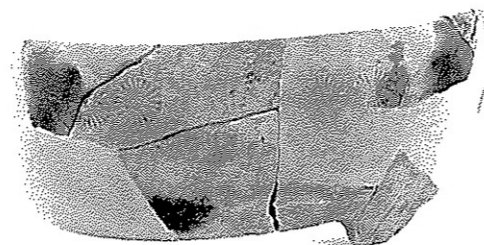
長さ約 17 m を測る長方形土坑の底面直上から、ほぼ完形の状態で出土。内面には横方向のハケメがみられ、口縁部直下には2孔一対の把手用の孔が2箇所に設けられている。周辺からは鉄鋳物生産が行われていたことを示す埴塼などが検出されており、この土坑からも、溶解炉の内面が溶融してできたと考えられるガラス質滓が出土している。（伊藤）



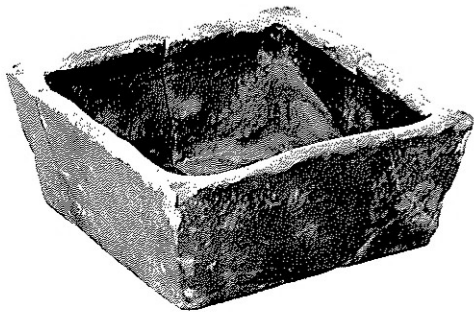
655

655 瓦質土器（火鉢） 南北朝
粟生間谷遺跡 (rd39.9・H15.2) 文献.592

崖の肩部に沿った集石遺構から出土。角礫を単層に敷いた遺構で、本品は、北半部の礫間に石鍋とともに破片の状態で含まれていた。破碎後に礫とともに敷かれたものと考えられる。周辺からは骨片が含まれる焼土坑が多数見つかっており、丘陵上が中近世を通じて火葬の場として利用されていたことが判る。火鉢外面には2個一対の菊花文スタンプを押す。（伊藤）



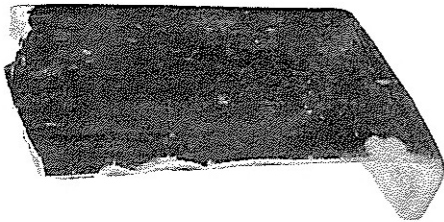
656



656 瓦質土器 (火鉢) 中世末～江戸
若宮遺跡 (底辺 19.8・h10.2) 文献.760

井戸から出土。方形で、底部を含め5枚の粘土板を貼り合わせ成形している。脚はなく、口縁端部は使用による損傷が著しい。出土遺構には江戸前・中期の遺物が大量に含まれていたことから、当例もその時期に降る可能性がある。本遺跡は中世後期から連綿と続いた集落跡で、若宮神社跡の背後に位置し、泉佐野市檀波羅蜜寺跡との関係も指摘されている。(伊藤)

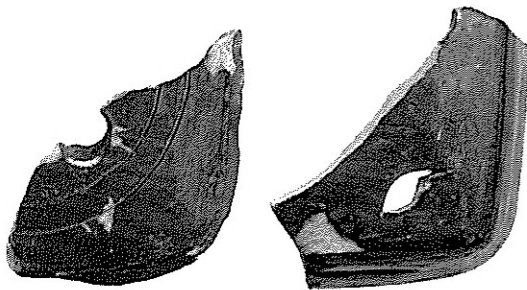
657



657 瓦質土器 (方形香炉蓋) 戦国
瓜生堂遺跡 (h7.8・ℓ13.4) 文献.631・720

溝から出土。天井部は中央に向かってゆるやかに膨らみ、外面は、上・側面とも横方向に、角の面取り部のみ縦方向に密に磨く。天井部には煙を排出するための勾玉形の透かし孔があることから、香炉の蓋と考えられるが、セットとなる身はこれまで見つかっていない。火鉢と考えられている656のような瓦質土器が香炉の身であった可能性も考えておきたい。(伊藤)

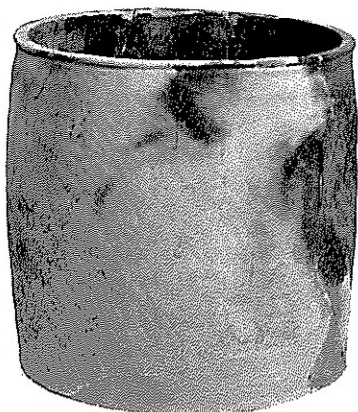
658



658 瓦質土器 (方形香炉蓋) 室町
花屋敷遺跡 (左:ℓ7.1,右:h6.7) 文献.875

上記の瓜生堂遺跡に隣接する遺跡において、ともに溝から出土。657と類似する香炉蓋と考えられるもので、外面はミガキで、天井部に透かし孔をもち、左は天井部外面に線刻がある。香炉は652仏花瓶と同様に一般村落ではみられないやや特異な遺物であり、瓜生堂遺跡から本遺跡の周辺に、寺院あるいはそれに関連する施設が存在した可能性を示唆している。(伊藤)

659

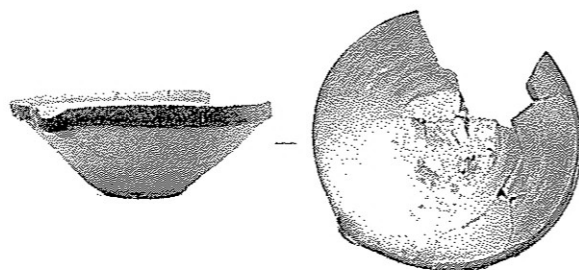


659 瓦質井戸枠 中世後期～近世
大和川今池遺跡 (RD62・H60) 文献.837

深さ1.8mを測る平面楕円形の井戸から出土。井戸枠として使用されていた瓦質製品で、外面は板状工具によるナデ、内面はハケメ調整とする。井戸内には2段が残存していたが、枠内からはさらに2個体分の破片が確認されており、本来は井戸枠が4段で、遺構面は調査時の検出面よりもさらに井戸枠1個体分ほど高い位置であったことが復原できる。(伊藤)

660 東播系須恵器（片口鉢） 鎌倉
粟生間谷遺跡 (RD25.0・H9.1) 文献.592

土坑から、多量の礫とともに破片状態で出土。片口鉢で、底部の4箇所に孔が穿たれている。孔の径は0.3cmであるが、外面に径2cm前後の抉りが認められ、焼成後に外面より穿たれたと思われる。鉢本来の使用法以外に転用しようとしたと考えられるが、器壁の割れ目やひびの状態から、穿孔作業中に破損し廃棄された可能性が高い。13世紀のものである。(信田)

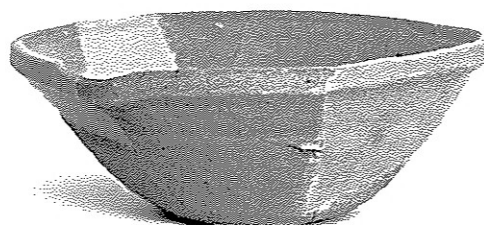


661

661 東播系須恵器（片口鉢） 鎌倉
津田遺跡 (rd28.2・H10.4) 文献.845

古代～中世の包含層から出土。

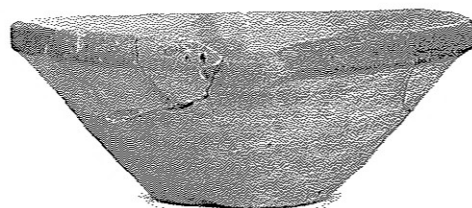
660・662と同種の片口鉢で、播磨東部地域（兵庫県神戸市から明石市にかけて）で生産され西日本を中心として広域に流通した、東播系須恵器を代表する器種である。大阪府内では、中世前期の遺跡から普遍的に検出される。口縁端部の型式変化が顕著で、本例は660よりやや新しい。13～14世紀のものである。(信田)



662

662 東播系須恵器（片口鉢） 鎌倉
瓜生堂遺跡 (RD26.4・H10.6) 文献.631

井戸の曲物枠内から、土師器皿、青磁碗底部などとともに投棄されたような状態で出土。13～14世紀のものでほぼ完形に復原された。この片口鉢の大量生産、流通により、調理器具として鉢が普及し定着する。中世後期になると、より硬質で播目を有する備前焼播鉢等にとってかわられるが、商品流通や調理法の歴史を考えるうえでも興味深い遺物である。(信田)



663

663 常滑焼（鶯口壺） 鎌倉
有池遺跡 (RD5.3・H9.9) 文献.755

2基のピットから出土した破片が接合。

注ぎ口をもつ小形の壺で、鶯口壺と呼ばれる。大形の甕・壺以外の常滑焼確認例は大阪府内では比較的少ないといえるが、集落内の出土状況からは生活雑器として使用されたことが窺える。千葉県篠本城跡出土の同壺は、内面に鉄分が厚く付着しており、鉄漿（お菌黒）壺として使用したことが想定されている。(信田)



664



664 常滑焼 (壺) 鎌倉私部南遺跡 (RD18.5・H36.8) 文献.865

井戸の埋土上層から破片の状態出土。井戸枠を抜き取った後に廃棄されたと考えられる。

ほぼ完形に復原できた、愛知県知多半島で生産された常滑焼の広口壺である。665の甕とともに、中世常滑窯を特徴付ける大形貯蔵容器である。甕同様、口縁部の型式変化が顕著で時期決定の指標とされる。本例は13世紀後葉～14世紀前葉のものである。(信田)

665

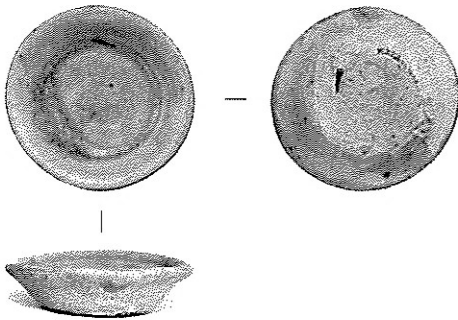


665 常滑焼 (甕・井戸枠転用) 鎌倉伽羅橋遺跡 (RD46.4・h72.2) 文献.708

井戸から出土。底部および体部の一部が打ち欠かれた状態で据えられており、井戸枠として転用されていたと思われる。

ヘラで描かれた記号状の刻文を肩部にもつ。この大甕に代表される特産商品として大量生産された常滑焼は、列島規模で流通した。その背景には、海運を利用した流通網の発達があるといわれている。(信田)

666

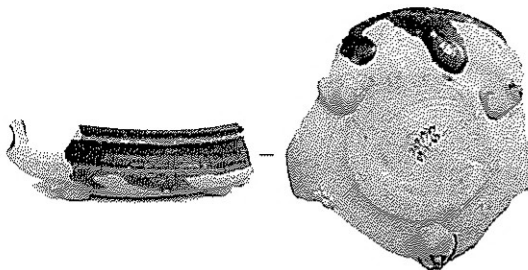


666 瀬戸焼 (豆皿) 鎌倉玉櫛遺跡 (RD4.8・H1.5) 文献.827

集落遺構群中の土坑から出土。

愛知県瀬戸市域で生産された瀬戸焼の豆皿である。内面に灰釉が施されており、外面には釉垂れが認められる。底部外面に糸切り痕を残す。瀬戸窯は中世における国内唯一の施釉陶器生産窯である。他の中世窯が特定の器種を量産して広域流通させるなか、中国製陶磁器を模倣した多種類の製品を流通させた。(信田)

667



667 瀬戸焼 (香炉) 室町吹田操車場遺跡 (rd7.0・H2.3) 文献.867

包含層から出土。

瀬戸焼の袴腰形香炉である。3足が付き、鉄釉がかかる。本例は15世紀後葉のものであるが、瀬戸窯における香炉生産は13世紀後葉以降に定着する。多くの中世窯が日用雑器生産を主とするなか、施釉陶器窯としての瀬戸窯がもつ価値性を象徴する器種の一つといえる。香炉の普及を考えるうえでも興味深い。(信田)

668 瀬戸焼（天目椀） 室町
玉櫛遺跡 (rd12.0・H7.0) 文献827

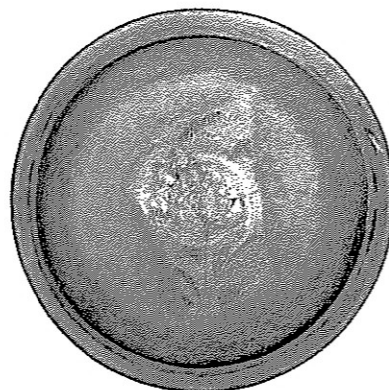
集落遺構群中の土坑から出土。瀬戸焼の天目椀である。高台は削り出し、内面および体部外面に鉄釉を施す。瀬戸焼の釉は、灰釉と鉄釉に大別される。鎌倉時代初期、瀬戸焼の成立当初は灰釉のみであったが、13世紀後葉以降、酸化鉄を利用した鉄釉も用いられるようになる。天目椀は鉄釉に限られるが、これは中国建窯産天目茶椀を模倣しているためである。（信田）



669

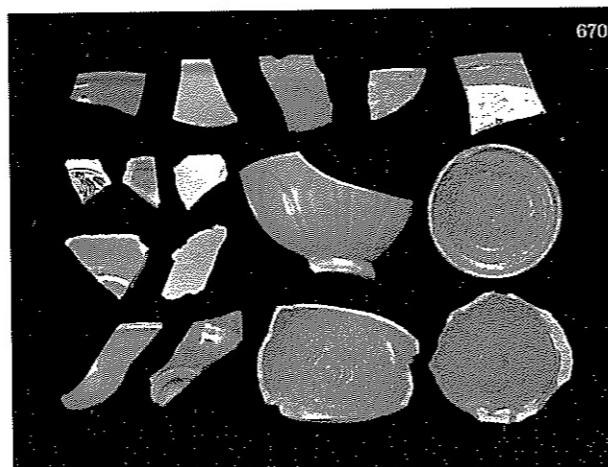
669 中国製陶器（黄釉鉄絵盤） 平安後期～鎌倉
玉櫛遺跡 (rd31.2・h8.7) 文献602

包含層から出土。中国福建省磁窯窯産の黄釉鉄絵盤である。鉄絵で花文を描く。黄釉を内面から口縁部外面にかけて施し、口縁部内面は拭き取って露胎とする。口縁部には目跡が認められ、底部は上げ底状である。京都や博多などの都市や流通拠点以外での出土は稀である。都市京都に近く淀川の水運に恵まれた当地域の歴史を考えるうえで貴重な資料である。（信田）



670 陶磁器類集合 鎌倉～室町
花屋敷遺跡 (右中:RD9.0・H2.4) 文献764

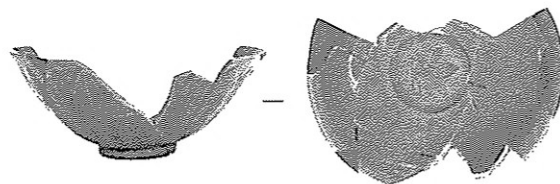
13世紀後葉～15世紀の集落から出土。瀬戸焼には折縁小皿（鉄釉）、皿、平椀、筒型香炉（灰釉）がある。青磁碗は龍泉窯系で、外面に鎬蓮弁文、見込みに印花文をもつ。青花（染付）皿は見込みに如意雲文を描く。白磁の壺かと思われる破片もある。瀬戸焼香炉と青磁碗の一つは、漆で割れ目を継いでいる。多彩な陶磁器類が屋敷の主の生活ぶりを髣髴とさせる。（信田）



671

671 青磁（碗） 鎌倉
粟生間谷遺跡 (rd16.7・H6.9) 文献592

包含層から出土。中国浙江省西南部の山間に営まれた龍泉窯の青磁碗である。外面に二重の鎬蓮弁文、見込みに印花文をもつ。釉は明るいオリーブ灰色である。壘付から底部外面は釉がかかっておらず露胎である。「印花」とは、陶磁器の装飾法の一つで、型押しすることにより器壁に文様を施す。本例では、陰刻で草花が表現されている。（信田）



672



672 青磁(碗) 鎌倉
津田遺跡 (RD15.6・H6.8) 文献.845

包含層から出土。

龍泉窯の青磁碗である。外面に二重の鎬蓮弁文を刻み、オリーブ灰色の釉を施す。「鎬蓮弁文」とは、花卉の中軸ラインを峰状に高くした蓮の花弁文様である。南宋から元代の龍泉窯の青磁碗・盤等に最もよくみられる文様の一つである。ヘラを用いた片切り彫りの手法により、花卉の輪郭を表現している。(信田)

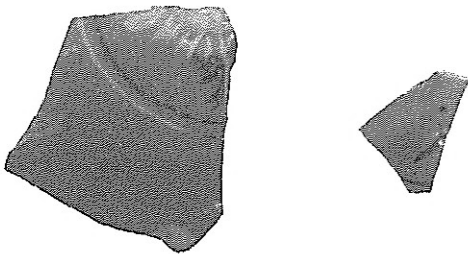
673



673 青磁(碗) 鎌倉・戦国
巢本遺跡 (上:H6.8,下:RD12.5) 文献.792・826

ともに土坑群から出土。上の鎬蓮弁文青磁碗は、13世紀の遺跡から普遍的に検出される。南宋時代、龍泉窯が青磁生産量を飛躍的に増やし、日本の輸入量も拡大していくなか、日常品として普及していったと思われる。下の明時代の青磁は、南宋・元代のものと比べ粗製品が目立ち釉調も暗く濁っている。青花の普及とともに次第に減少していくことになる。(信田)

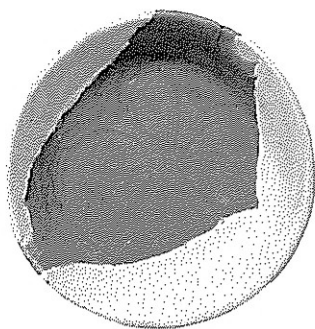
674



674 青磁(瓶・高麗青磁) 鎌倉
玉櫛遺跡 (左:ℓ5.5,右:ℓ2.8) 文献.827

集落内の溝等から出土。外面に白黒の象嵌文様をもつ小片である。文様には二重の円のなかに花文かと思われる文様をおさめたものと、図式化された雲鶴文の2種がみられる。内面はヨコナデが施され、釉が流下する。胎土に黒色粒を含む。13～14世紀のもので、梅瓶などの肩部かと思われる。出土例は稀少であり、都市・鎌倉ほかでの検出が知られている。(信田)

675

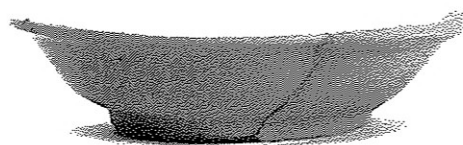


675 青磁(皿) 平安後期～鎌倉
池島・福万寺遺跡 (rd9.7・H2.5) 文献.872

耕作土層から出土。体部中位で屈曲し、口縁部が立ち上がる器形である。高台はなく、底部は平らである。見込みに櫛状の工具で花文を描く。オリーブ灰色の釉を施す。同時期の青磁皿には、無文のもの、ヘラを用いた片彫りにより花文や魚文を描くもの、櫛目を加えるものなどがある。平安後期から鎌倉時代にかけての集落遺跡ほかから出土する。(信田)

676 白磁（端反皿） 戦国
三宅西遺跡 (rd11.2・H3.0) 文献.832

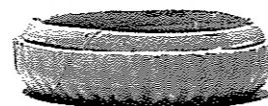
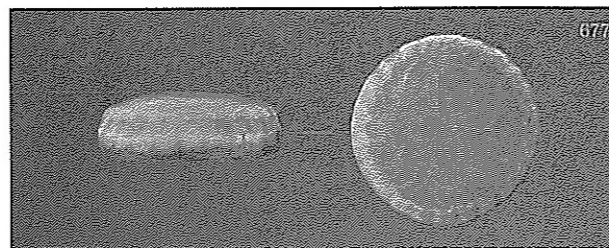
大規模な落込みから出土。口縁部の形から端反皿と呼ばれる皿である。器壁は比較的薄く、灰白色の釉が施されている。15世紀後半～16世紀の白磁を代表する器種の一つである。この15世紀後半～16世紀は、青花が普及していく時期にあたっている。16世紀代になると、次第に碗や皿は、白磁、青磁から青花へとその比重を移していくことになる。(信田)



677 青白磁（合子） 鎌倉
高宮遺跡 (上:RD5.8,下:RD6.2) 文献.856

上の蓋はピット、下の身は土墳墓から出土。

青白磁平型合子である。型を用いて成形しており、側面を菊形に作り出す。蓋天井部の文様も印花の手法により浮き出させている。青白磁は影青とも呼ばれ、青みをおびた透明釉を特徴とする。景德鎮窯を中心とする江西省、福建省、広東省など中国南部一帯の窯で、宋から元代にかけて量産された。(信田)



678 単弁八弁薬研彫軒丸瓦 鎌倉
津田遺跡 (D13.6・ℓ11.0) 文献.845

包含層から出土。

花卉中軸の稜はくぼませて表現している。中央の中房の蓮子は、中心に1点とその周辺は円周となった圏線によって表現されている。瓦当外縁の幅が広く高さが低い特徴から14～15世紀に属し、12～13世紀の文様を模した復古瓦と考えられる。

(市本)



679 菊花文軒丸瓦 鎌倉
津田遺跡 (D10.0・ℓ5.4) 文献.845

3建物から出土。

瓦当径が約10cmの小形軒丸瓦である。12葉の菊花文であり、周縁に珠文がめぐる。3建物は礎石を伴う建物であり、約5000点の瓦、552鏡像・699懸仏などの青銅製品が出土しており、瓦葺きの仏堂の存在が想定される。678・687をはじめとする他の出土瓦と同様の時期にあたると考えられる。(市本)



678

679

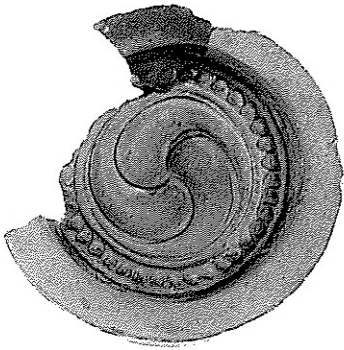
680



680 梵字軒丸瓦 鎌倉～室町
大和川今池遺跡 (d16.0・ℓ3.2) 文献.837
流路から出土。

内区に梵字のキリークを配し、外区には珠文を密にめぐらせる。内区と外区の間には二重の圏線がある。文様構成としては13・14世紀代と考えられる。キリークは阿弥陀の意で、同時期の梵字をあしらった軒丸瓦によく用いられる。当時の阿弥陀信仰の盛行ぶりを窺わせる資料である。(奥村)

681



681 巴文軒丸瓦 鎌倉
巢本遺跡 (D14.7・ℓ15.6) 文献.826
55 溝上層から出土。

三巴文であり、巴頭部が尖り太く、三巴は隙間なく尾がのびる。珠文帯の内・外側には圏線があり、内側は巴文の尾とは独立している。珠文は大きく、密に配置されている。外縁幅は広く、高さは高い。丸瓦部は厚みがあり大振りである。同遺構から出土した土器の年代と整合する。(市本)

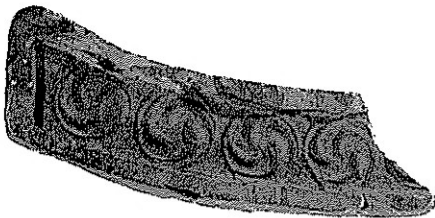
682



682 巴文軒丸瓦 室町
若宮遺跡 (d15.0・ℓ17.6) 文献.636

H1 溝から出土。人為的に掘削された地割りに合った区画溝から、多量の瓦とともに検出されている。巴頭部は丸く、尾は長くのびるが独立している。巴の横断面は四角い。外側の珠文帯には圏線を有さない。外縁は幅が広くなりはじめが、高さは低い。瓦当の一部が欠損しており、丸瓦との接合部をよく観察することができる。(市本)

683



683 巴文軒平瓦 鎌倉
巢本遺跡 (w13.9・T4.3) 文献.826
940 土坑から出土。

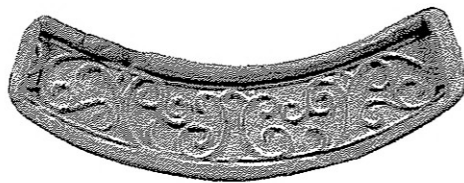
三巴文を7単位配置したと推定される。巴文の頭部は尖り、尾は独立せずに三つの尾は円周を描く圏線になっている。顎裏面は曲線を描くが、顎凸面を有する。当該期には、一般的に巴文は軒丸瓦に用いられるが、本例のように軒平瓦に使用されることもある。

(市本)

684 均整唐草文軒平瓦 鎌倉
玉櫛遺跡 (W25.0・T6.6) 文献.602

土坑 90062 から出土。

中心飾りは背向する「C」字を山形文でつなぎ、左右に唐草を2回反転させる。瓦当左右端を切り詰めたため、左右端の圏線はなく、唐草も非対称である。京都尊勝寺を建立する際に、播磨系瓦屋から供給されたものである。兵庫県神出堂ノ前窠跡から出土している。(市本)



685

685 均整唐草文軒平瓦 鎌倉
玉櫛遺跡 (w26.0・T6.2) 文献.602

自然流路 30019 上層から出土。

684と同様の中心飾りがあり左右に唐草がのびる。圏線はない。瓦当左右端は切り詰めている。684と同じく、播磨系瓦屋から尊勝寺へ供給された瓦だが、生産地は特定されていない。当調査では播磨系瓦が4点検出され、錫杖の一部と考える環状青銅製品等もみられ、寺院関連施設の存在も推定されている。(市本)

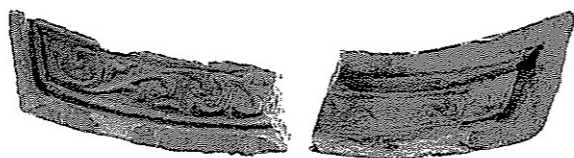


686

686 唐草文軒平瓦 鎌倉か
巢本遺跡 (左:w12.7, 右:w13.7) 文献.826

938 土坑から出土。

左は、瓦当両端から中心に向かってのびる背向唐草文と考えられる。唐草とそれにめぐる圏線も突出度が大きくしっかりと表現されている。顎断面は曲線を呈する。右は、蓮華を中心飾りとした唐草文である。顎裏面と平瓦凸面との断面形態が屈曲している。同遺構から出土した土器の年代と整合する。(市本)

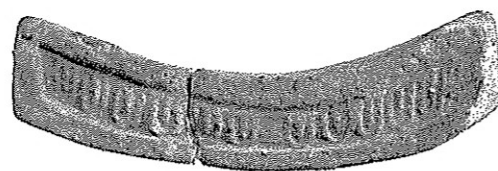


687

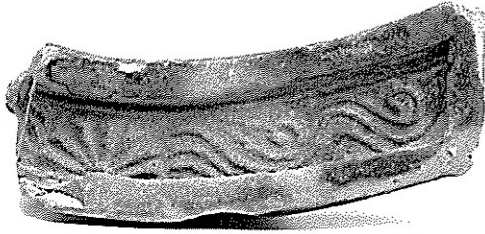
687 剣頭文軒平瓦 鎌倉
津田遺跡 (W15.5・T3.2) 文献.845

3 建物から出土。

平瓦部の大きさが20×16cm足らずの小形軒平瓦である。剣頭文は陽刻で表現されており、1単位ごとに独立している。二次焼成を受けており、灰色ないし褐灰色を呈する。顎断面形態は、平瓦部が厚いため顎の出はあまりみられない。679 菊花文軒丸瓦と対となる。(市本)



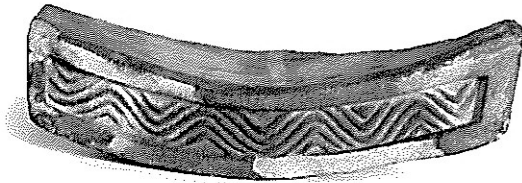
688



688 水波文軒平瓦 室町
花屋敷遺跡
(w13.0・T4.8) 文献.875

9022 溝から出土。同遺構は南北方向を指向する溝で、条里に基づく区画溝の可能性が考えられる。溝からは土器、木製品、石製品、鉄製品など多様な遺物が検出されている。中心飾りは半裁菊花文で、退化した唐草文が左右にのびるが水波文とも考えられる。圏線は上部のみ存在する。顎裏面と平瓦凸面は屈曲する。瓦当面には離れ砂が観察される。 (市本)

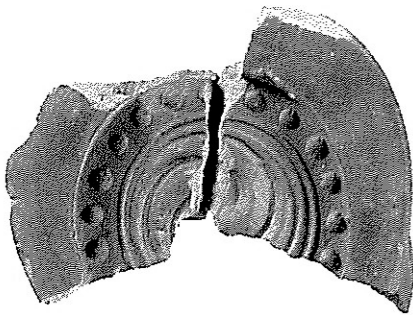
689



689 波状文軒平瓦 室町
大和川今池遺跡
(W21.2・T4.5) 文献.837

680 と同じ流路から出土。
内区に波形文様を施す。凹面・凸面ともに丁寧なナデが施されており、布目痕跡等は残らない。顎部分は貼り付け技法により成形されている。瓦当文様と顎の成形方法から 15 世紀代のものと考えられる。この流路からは、680 のほかにも中世瓦が多量に出土しており、調査地近辺に寺院があったと想定される。(奥村)

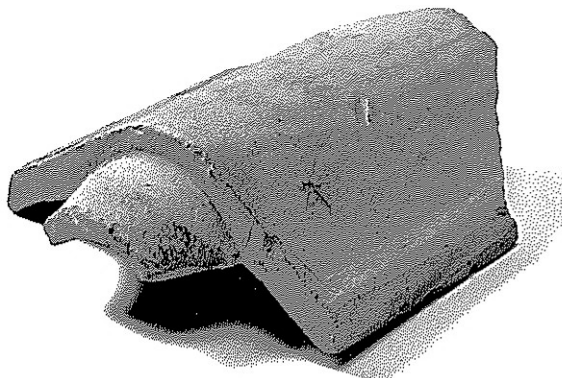
690



690 巴文鳥衾瓦 室町
玉櫛遺跡
(h8.5・ℓ6.0) 文献.602

溝 90144 から出土。
棟の端部に使用される鳥衾瓦の瓦当部分の破片である。瓦当部は、内区に三巴文、圏線を挟んで外区に推定 20 個の珠文をめぐらせる。巴文頭部は丸く、尾は長くのびるが圏線とは独立している。珠文帯の外側には圏線はない。外縁は幅広く、高さは低い。 (市本)

691



691 雁振瓦 室町
若宮遺跡
(h10.4・W29.0) 文献.636

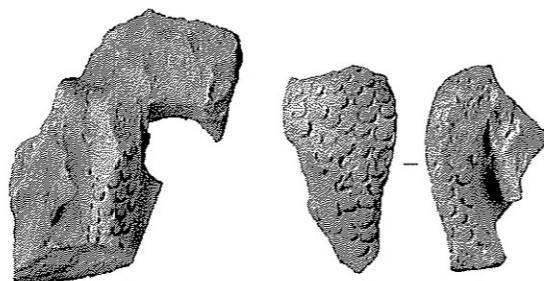
H 10 土坑から出土。建物棟部分の最上段に使用される、雁振瓦と呼ばれる道具瓦である。端部は欠損するが、欠損部分側の凹面に玉縁との接着部分のくぼみがみられることから、長辺は 35cm 前後と推定される。なお、出土土坑は地割りに合う区画溝の内側に位置するが、区画溝からは同期瓦の検出が多量にあり、755 文字瓦(「檀波羅蜜寺」銘)も含まれる。 (市本)

692 鬼瓦 室町
花屋敷遺跡 (左:w26.2,右:w10.0) 文献.875

左は南北方向を指向する 9022 溝、右は 9179 落込みから出土。

左は、鬼瓦の鬼板部分と顔の頬部分の破片と考えられる。この資料の様相から、右も同等の頬部分の破片と推定される。筒状工具の先端を使って刺突し、半円文様で装飾している。

(市本)



693

693 鬼瓦 室町
若宮遺跡 (左:w10.0・ℓ18.2) 文献.636

ともに H 1 溝から出土。左は、鬼瓦の左目、眉、左耳、鼻孔の破片である。背面鬼板部分の端部も一部残存する。眉毛は焼成前の線刻により波状に表現している。顔面の隆起は鬼板部分から約 12cm 残存しており、室町時代にみられる隆起が大きな鬼瓦と考えられる。右は、鬼瓦の断片と考えられ、外周輪郭の連珠文様帯は筒状工具の先端を使用している。

(市本)



694

694 鬼瓦 室町
瓜生堂遺跡 (w10.9・ℓ14.1) 文献.631

99-1 区の包含層から出土。同層からは 12～16 世紀の遺物が検出されている。調査地周辺では、11 世紀～12 世紀前半に大規模な整地を行い、若干高くなった範囲に集落が営まれ、それは 14 世紀頃まで存在するようである。本品は、鬼板の向かって右端部で、口から顎髭部分の破片と想定される。外周輪郭の連珠文様帯はない。

(市本)

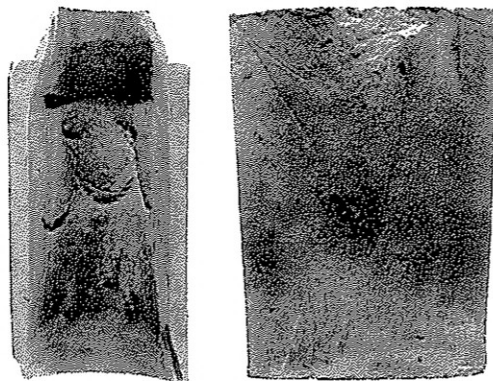


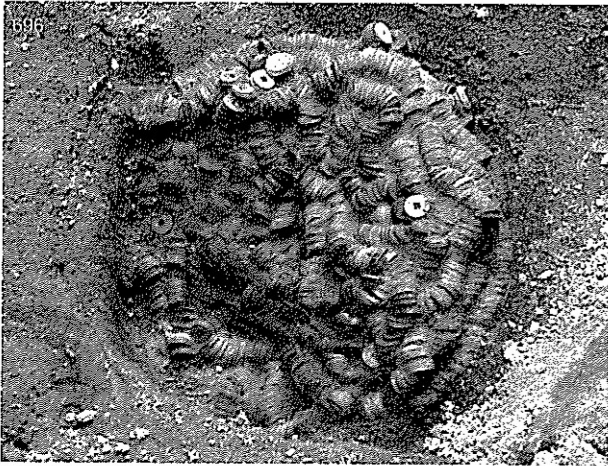
695

695 丸瓦・平瓦 室町
上私部遺跡 (左:L30.6,右:L31.0) 文献.790

左は 1 区田面上層から出土。凸面には縄タタキ痕があり、凹面には粘土板を巻いた時の布筒の痕跡とやや玉縁寄りに大きく垂れ下がった吊り紐の圧痕がみられる。吊り紐は布筒の外側にあり、山部分には結び目が観察できる。右は畦畔 2 用水溝から出土。凸面は粗いナデ調整で糸切り痕と離れ砂がみられる。両者とも同時期に相当する瓦である。

(市本)

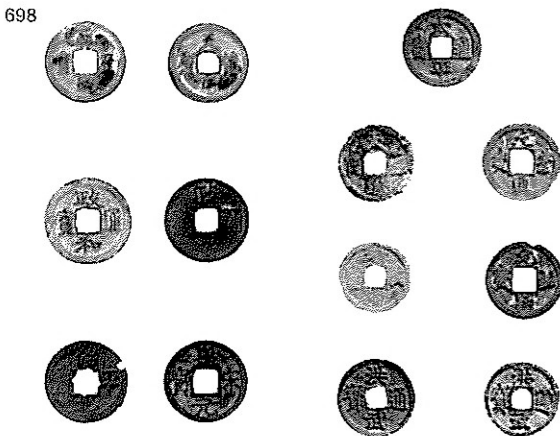




696 埋納銭 室町
 花屋敷遺跡 (主体:D2.5・T0.2) 文献.875
 径0.45 mの円形土坑から出土。土坑は調査区支保鋼立杭の圧入により傾いて検出された。銭貨は15390枚を数える。写真のように列をなしており、本来は緡銭の状態だったと考えられる。緡銭は、弧状に土坑壁に沿い、または直線的に平行して、整然と埋納されたことが窺われる。初鑄年の最古は五銖銭(11点含)、最新は至大通寶(14世紀初頭)である。(島崎)



697 埋納銭 室町
 池島・福万寺遺跡 (D2.4・T0.2~0.3) 文献.861
 坪境に位置する溝から出土。溝は坪境の交差点付近でL字状に屈曲し、その部分から51枚がまとめて検出された。一部、東から離れているものもあるが、緡銭の状態で出土している。初鑄が最も新しいものは永楽通寶である。本遺跡では、これまでも坪境付近で銭貨が出土することが指摘されており、地鎮として意図的に銭貨を埋納したものと考えられる。(島崎)



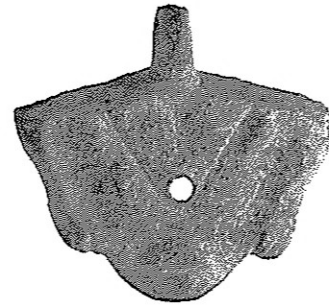
698 銭貨 鎌倉~室町
 上私部遺跡(左)・私部南遺跡(右) (左上:D2.5,右下:D2.3) 文献.790-865
 左は、中世耕作土層および畦畔、水口下のくぼみなどの水田域から出土。いずれも宋銭。
 右が出土した調査地は、平坦部と谷部に分けられ、前者では耕作溝のほか建物等が存在し、後者は主に水田として利用される。銭貨は両域から出土したが、掲載以外のものも含めて、谷部耕作土層からの検出が目立つ。下2点は明銭、他は宋銭。(島崎)



699 懸仏 鎌倉~室町
 津田遺跡 (W2.1・L3.6) 文献.845
 礎石建物周辺から出土。
 懸仏は神仏習合下、鏡を模した円板に尊像を装着して吊り下げたもので、本例は懸仏の尊像部である。左手の持物部分は欠損している。菩薩坐像か。台座には蓮弁を表す。背面には鏡板に固定するための突起を有し、上下に貫通する孔が穿たれる。なお、腹部の孔は地金の腐食によるものと考えられる。(島崎)

700 鑿座 室町
津田遺跡 (W2.8・L2.6) 文献.845

699と同じ礎石建物周辺から出土。懸仏を吊すための金具である。円板状の鏡板の左右上部に付く。鋳造品と考えられる。礎石建物周辺では699・700の青銅製品のほか、552鏡像（青銅製・十一面観音線刻）といった宗教関連遺物が出土している。他に多量の瓦が検出されている。このような遺物から、礎石建物は仏堂のような建物であったと考えられる。（島崎）



701

701 和鏡 鎌倉
高宮遺跡 (左:w3.5・ℓ6.8) 文献.856

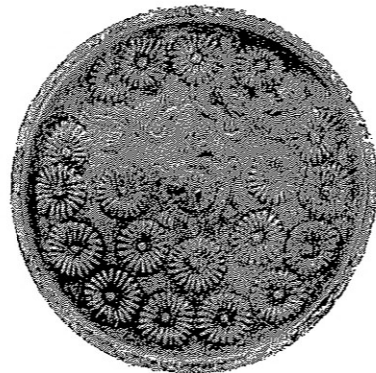
丘陵地の裾部にある土壙墓から出土。708短刀を副葬した土壙墓とは約40m離れる。他に677（下）青白磁合子の身が共伴した。遺存状況が悪く詳細は不明であるが、背面の一部に蓬萊山、もしくはその周囲の水波を表現したとみられる曲線が確認できる。鏡面・背面ともに絨織質が付着しており、絹などの布で包まれていたと考えられる。（島崎）



702

702 和鏡 室町
巢本遺跡 (D7.3・T0.5) 文献.826

居住域内の大溝から出土。大溝は周辺の遺構に重複して設けられているため検出遺物の時期幅は広いが、掘削時期は14世紀以降と考えられる。他に瓦が多数出土している。鏡背の文様は菊花散双鶴文である。界圏は有さず、左右対称に立体感のある菊花を背面一杯に散りばめる。亀形を呈した鈕の上方には向かい合った2羽の鶴を描く。（島崎）



703

703 筭 鎌倉～室町
上私部遺跡 (W1.1・L12.9) 文献.838

中世耕作土層から出土。

銅製。胴部中央に樋定規を有する。写真右端の耳かきは頸部と同じ幅で小振りで、樋定規を有する面と反対側に作られる。胴と竿の境界は不明瞭である。筭は、頭髪や身嗜みの手入れ道具で、刀の鞘に入れて携帯した。なお、同じく刀に付属する小柄・目貫と同じ作者・図柄で揃ったものは特に三所物という。（島崎）



704

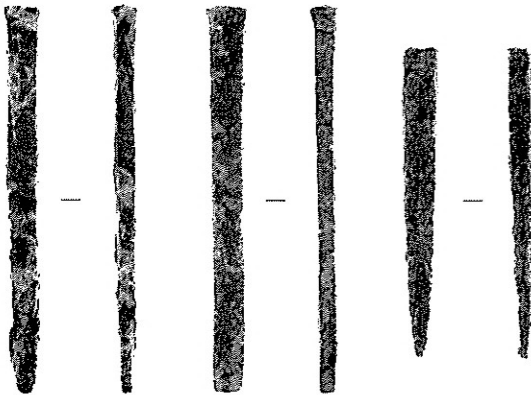


704 鉄先 鎌倉～室町 讚良郡条里遺跡 (上:ℓ24.0,下:ℓ23.7) 文献830

704～706は鉄製農耕具である。本遺跡では中世の条里水田を検出しており、これらは水田域検出品としては一般的なものである。当例は耕作土層から出土。

鉄先の断片で、ともに、木製鉄本体を装着するため断面V字状になった部分は遺存するが、刃部側(写真左)は欠損している。側面は、下例が直線的なのに対し、上例では湾曲している。(島崎)

705



705 馬鉄歯 鎌倉 讚良郡条里遺跡 (左:ℓ19.2,中:L19.9,右:ℓ12.5) 文献831

704と同じく耕作土層から出土。右は、左・中より短く、先端付近は断面円形を呈している。使用による摩滅の結果と考えられ、よく使い込まれていることが判る。左・中は長さ約20cmと似通った大きさであるが、中例は先端まで断面方形を保っているのに対し、左例は先端がやや丸みをおび細くなっている。これも使用によるものであろう。(島崎)

706

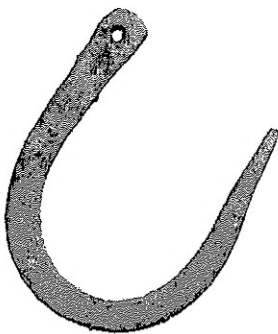


706 鎌 南北朝 玉櫛遺跡 (w3.0・ℓ13.9) 文献827

704・705とは異なり、集落内の井戸から出土。井戸枠は桶で2段分遺存していた。桶内からは、下から土師器皿、折敷片、本資料である鉄鎌、曲物片が重なった状態で検出された。

刃部先端側を欠損するが、先細りになった基部端は内側に曲がる鉤状を呈する。木製の柄に装着する際にひっかけて固定する部分である。(島崎)

707



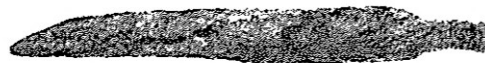
707 棹秤鉤 室町か 池島・福万寺遺跡 (W0.5・L4.2) 文献872

中世の島島から出土。
真鍮製で、平面形はU字状を呈する。棹秤は秤の一種で、鉤は棹の一端に吊り下げて、量る物をひっかける部品である。上端部付近に吊り下げるための円形の孔を有する。また、鉤下端部内側には使用による摩擦痕が認められる。鉤の大きさから100匁(375g)～500匁(1875g)の感量と推測できる。(島崎)

708 短刀 鎌倉

高宮遺跡 (W3.0・ℓ25.5) 文献856

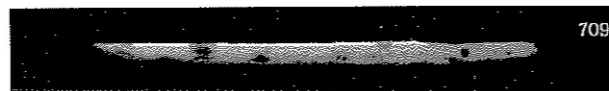
丘陵地裾部の土壙墓から出土。他に土師器皿、烏帽子が共伴している。刀身は完存するが、茎は先端が一部欠ける。刀身には反りはみられない。被葬者は男性であった可能性が高い。土壙墓周辺では13世紀を中心とする掘立柱建物群や墓を確認しているが、701・708などの副葬品からは、一般的な集落ではなく有力者の屋敷地といった性格が考えられよう。(島崎)



709 短刀 鎌倉

玉櫛遺跡 (W2.9・ℓ29.4) 文献827

集落の区画大溝から出土。刀身は鑄のない平造、棟は断面山形の庵棟^{いかりむね}をなす。折り返し鍛錬による筋が切先まで直線状に通る総柃目肌である(X線写真)。大和伝^{やまとでん}の作風にあたる。刃には研ぎ減りが認められる。茎尻は栗尻。柄は厚さの異なる板を合わせ、厚い側に茎をおさめる挟り込みを入れる。鍔^{はばき}は柄と一体作りで漆を塗布する。樹種はモクレン属。(島崎)



710

710 短刀 鎌倉

若宮遺跡 (W2.4・L33.2) 文献636

遺跡の西端部に位置する径1mのいびつな円形を呈する土壙墓から出土。土師器皿5枚とともに検出された。折れ曲がった状態で出土し、一部に欠損もみられるが、茎は完存。全長33.2cm(約1尺)を測り、そのうち刀身は21.2cm(約7寸)である。刀身に反りはみられない。刀身の両側に鞘の一部と考えられる木質が確認できる。(島崎)



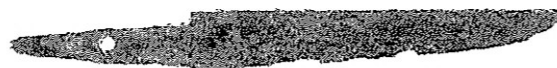
711

711 短刀・刀子 平安後期～鎌倉

巢本遺跡 (上:ℓ23.2,下:L13.9) 文献826

上は、ややいびつな円形を呈する井戸から出土。茎には目釘孔が穿たれる。井戸からは他に、穿孔を有する土師器皿や馬の上顎歯4本が検出されている。

下は、隅丸方形を呈する土坑(井戸か)から出土。刀身部長が6.8cmと上に比べて短い。棟はゆるやかに湾曲し、先端は細く尖る。研ぎ減りが著しく、棟も研磨して使用されたものと考えられる。(島崎)



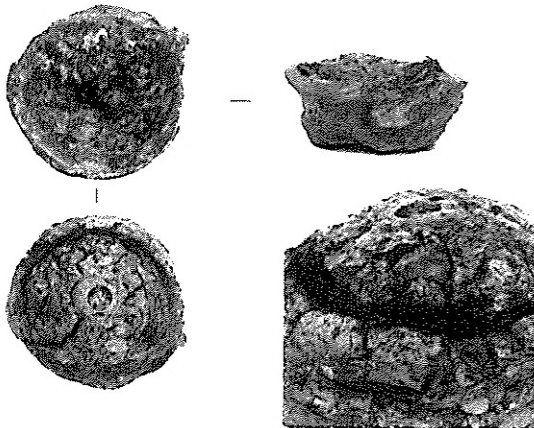
712



712 雁又鏃 中世
讚良郡条里遺跡 (W2.8・L14.0) 文献.831

中世の耕作土層から出土。先端が2方に分かれ、Y字状を呈する雁又形の鉄鏃である。鏃身は縦に長く、長さは茎の約2/3を測る。狩猟用の野矢として使用されるものであるが、水田域から出土している点が注目できる。東大阪・八尾市池島・福万寺遺跡でも中世の水田域からの検出がみられ、本来の目的のほかに儀礼などで使用された可能性も考えられよう。(島崎)

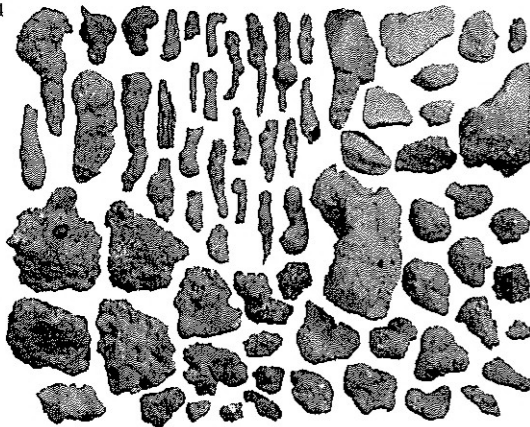
713



713 埴塙 鎌倉
巢本遺跡 (RD17.6・H8.3) 文献.792

長さ15m、幅1.8～2.4mと長い長方形を呈する400土坑の底面直上から出土。粘土を厚く被せて、鉄の溶解に使用した転用容器である。脚部がわずかに遺存しており(左下)、土師器の高杯状器種を転用したものか。内面から口縁部外面にかけ鉍滓が厚く付着し、内面には木炭の付着もある。外面には藁縄が巻かれ炭化して残る部分もみられる(右下)。(島崎)

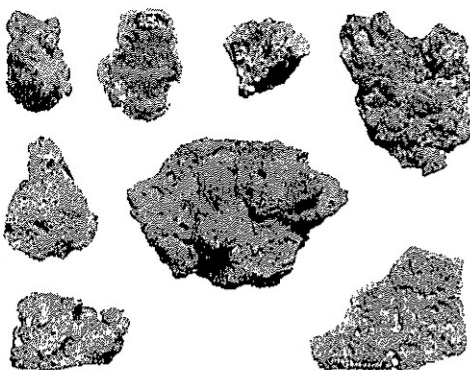
714



714 鉄滓・鉄釘ほか 鎌倉
津田遺跡 (上中央釘1例:w0.4・ℓ7.1) 文献.845

径2.9～3.3mのいびつな円形を呈する堅穴から出土。左上が鉄釘、右上が鞆の羽口、下半が鉄滓である。堅穴には鍛冶炉と作業台と考えられる台石(玢岩)が備えられ、堅穴内のピットからも鉄釘や鉄滓が多く検出されている。このことから、堅穴は鍛冶工房と考えられる。同遺構の周辺では、製炭窯の可能性のある焼土坑も検出されている。(島崎)

715



715 鉍滓 鎌倉～室町
花屋敷遺跡 (左上:ℓ4.4, 右下:ℓ6.9) 文献.764

中世～近世の包含層および中世期の遺構から出土。本遺跡では区画溝を伴う集落を検出しており、中央例は13世紀後半～14世紀末の土器や木筒を含む多量の木製品が出土した区画溝最下層、左端3点はピットから検出された。714のような関連遺構は確認できていないが、集落内で鍛冶作業が行われていた可能性を示す遺物である。(島崎)

716 土鈴 鎌倉～室町
 巢本遺跡 (MD2.1・H2.4) 文献.792

大規模な堤で区画される土坑群中の長方形土坑から出土。小形で中空の胡桃状の形態をなし、全面にヘラケズリによる面取りを施す。上端には紐通し孔、下端には切り込み、中には玉を有する、完全な状態で遺存した。同遺構からは他に土器細片しか検出されず、詳しい時期決定は難しいが、同遺構面の他遺構の時期から14世紀後半～15世紀と考えられる。(川瀬)



717

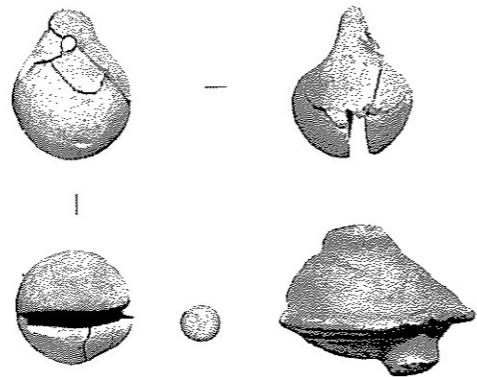
717 土鈴・鈴玉・瓦質ミニチュア羽釜 中世
 花屋敷遺跡 (左上:H3.0,右下:rd34) 文献.764

いずれも中世の包含層から出土。

土鈴はほぼ完形で、716と同様に紐通し孔、切り込みをもつ。この土鈴の玉と思われる径0.9cmの土製品も伴出している。

右下のミニチュアの瓦質羽釜は、口縁部から体部が残り、脚部を欠損する。

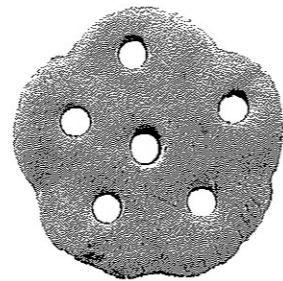
(川瀬)



718

718 用途不明土製品 中世
 玉櫛遺跡 (W5.6・L5.6) 文献.602

調査時の側溝から出土。そのため詳細時期は不明。外形は5弁の花形をなす、粘土を薄く板状にのぼした製品である。中央に一つ、花卉状部に各一つ、計6箇所径0.3cm程度の孔を有する。仮に蓮の花托を模しているとするれば、密教系の仏具か香炉の蓋とも考えられる。ただし、煤は付着しないので、火を焚く環境下で使用したかは不明である。(川瀬)

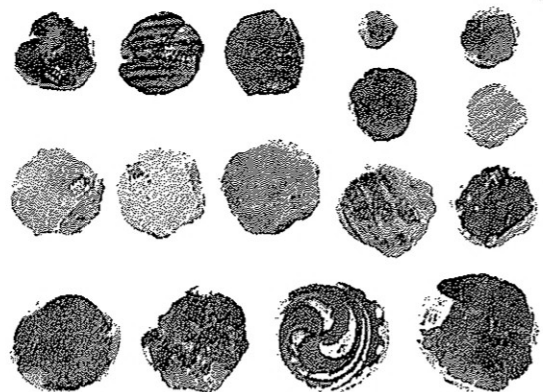


719

719 円板状土製品 鎌倉ほか
 伽羅橋遺跡 (右下:W7.1・L7.0) 文献.708

土坑や包含層から出土。

土器や瓦の破片周縁を打ち欠き円形状に整形したもので、全部で16点報告される。上段左から2例は瓦質土器甕、3例目は陶器、他は瓦の破片を転用再加工したものである。瓦片のほとんどは丸瓦であるが、下段右から2例目は三巴文軒丸瓦、3例目は文様不明だが軒丸瓦の瓦当面で、表面に煤が付着する。(川瀬)



720



720 瓦質ミニチュア三足羽釜・羽釜 鎌倉
巢本遺跡 (左:RD4.8, 右:RD4.3) 文献.826

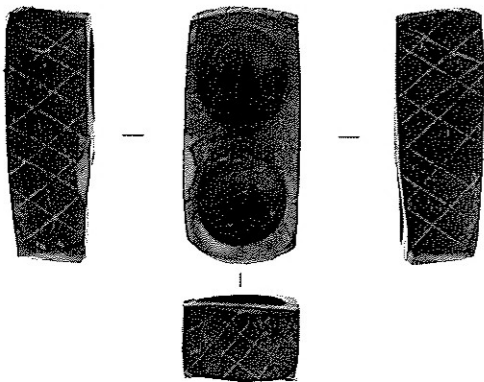
左は包含層から出土。

瓦質土器の三足羽釜の小形模造品で、内面に丁寧なナデを施し、脚部は最上部以外が欠損する。

右は土坑から出土。

瓦質土器の羽釜の小形模造品で、口縁部および体部はナデ、底部は指オサエを施す。内面に煤が付着する。(川瀬)

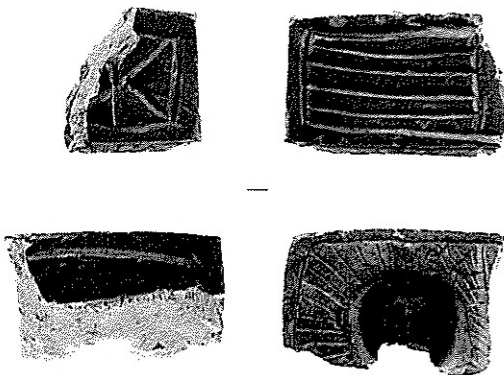
721



721 瓦質ミニチュア竈 鎌倉
巢本遺跡 (H2.6・L7.4) 文献.792

包含層から出土。ほぼ完形品で、長方体の瓦質製品の上面に、径2.5cm程度のくぼみ穴を2箇所並べてあげ、4側面には斜格子文を施す。造り付けの竈を模したものと推定でき、13世紀後半～14世紀初頭の所産と考えられる。同様の製品片(722)が交野市有池遺跡で、また、箕面市粟生間谷遺跡では類似形態の滑石製品が確認されている。(川瀬)

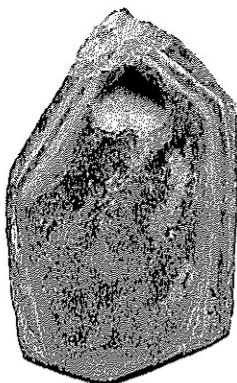
722



722 瓦質ミニチュア竈 鎌倉
有池遺跡 (w5.6・ℓ3.9) 文献.755

東西方向の浅い溝から出土。この溝からは他に瓦器、土師器、白磁が検出された。もとは長方体の製品だが、部分的にしか遺存しない。上面(右下)には、円形のくぼみ穴をもち、放射線状などのヘラ描きを施す。遺存2側面(上)にも、縁取り線や平行線ほかのヘラ描きが見られる。721と同じく、ミニチュア竈ではないかと推測される。(川瀬)

723



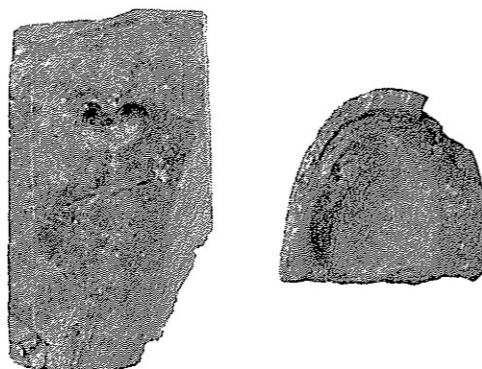
723 石硯 平安後期～鎌倉
小阪合遺跡 (W4.4・ℓ7.0) 文献.704

包含層(1層)から出土。

両短辺に角をもち、楕円形というよりは亀甲状の外形をなす。片短辺部以外の上面縁辺には、細い沈線が2条めぐる。海部はハート形を逆にした猪ノ目形である。墨痕は確認できない。裏面には4～5字の文字ともとれる細い線刻があるが、判読できない。12～13世紀のものである。(川瀬)

724 石硯 鎌倉
玉櫛遺跡 (左:L14.1,右:l7.1) 文献.827

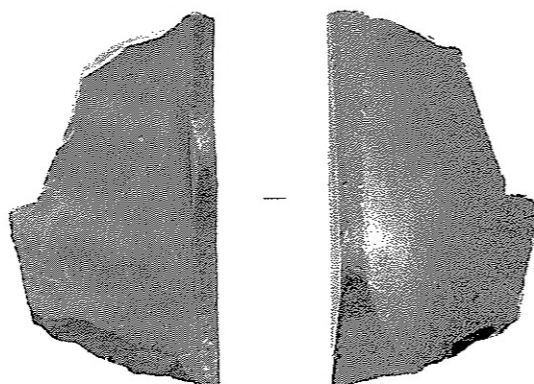
ともに包含層から出土。左は長方形の硯で、下方右端を欠損。上面縁辺に沿って細い沈線が四周に入る。ハート形に見える猪ノ目形海を有する。黒色頁岩製。右は上方約半分のみが残存。楕円形の形態かと推測される。硯は、円形、風字形、楕円形、台形、長方形と変化する傾向にあるので、左例より古いと考えられる。黒色頁岩起源の泥質ホルンフェルス製。(川瀬)



725 石硯 室町
粟生間谷遺跡 (w5.0・l8.9) 文献.592

崖肩部の素掘り井戸から出土。井戸には人頭大の礫と瓦質土器羽釜・甕・鍋・火鉢、土師器皿・鍋、瓦器椀、須恵器鉢・甕、国産陶器、青磁等を多量に含む。

凝灰岩質頁岩製。断片だが、やや裾拡がり状の形態を呈し脚付きであるので、風字硯かと推測できる。遺存する部分は全面丁寧に研磨して作られている。一部に墨痕が確認できる。14世紀後葉。(川瀬)



726 温石 鎌倉
津田遺跡 (W8.2・L10.0) 文献.845

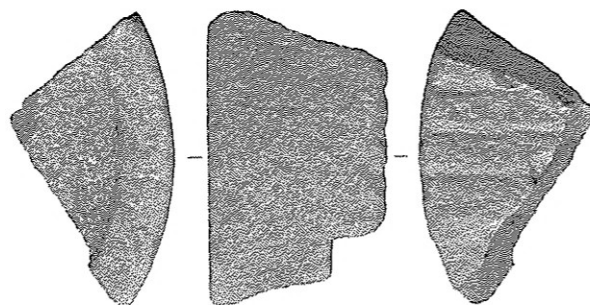
包含層から出土。12～13世紀のものと思われる。
温石とは、石を火で暖めたものを懐に入れ暖房具とした、いわゆる昔のカイロで、「懐石」の語源となった。本例は滑石製石鍋の転用品である。口縁部(写真左)を活かし平面台形に整形しているが、断面は石鍋の形のまま湾曲し、鐙は削り取られている。上辺には首から吊り下げるためか径0.8cmの孔をもつ。(川瀬)



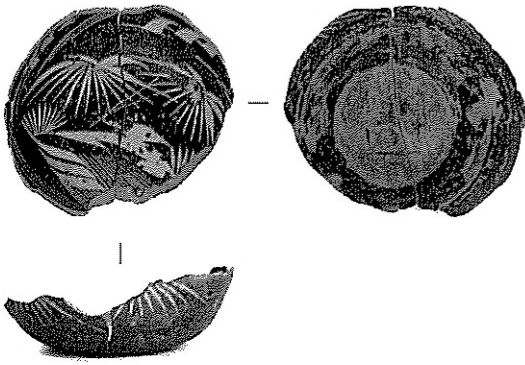
727 挽臼 室町
花屋敷遺跡 (H8.6・w7.9) 文献.875

区画溝と思われる南北方向の大溝から出土。この遺構からは、多様な遺物が検出された。

本例は回転させる上臼の一部で、下面(写真右)に溝目が刻まれているが、全体の1/4以下しか残らず、6分画、8分画などの分画数は不明である。相当使用された挽臼で、下面の減り具合が著しい。材質は砂岩で、14世紀のものと思われる。(川瀬)



728

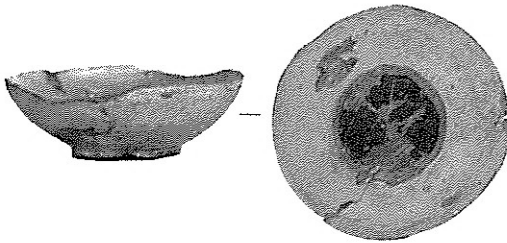


728 漆器碗 鎌倉
玉櫛遺跡 (md14.1・h4.8) 文献827

上段に桶、下段に曲物を枠として転用した、平面円形の井戸から出土。この遺構からは他に瓦器、土師器、須恵器、国産陶器などが検出された。

本例は、内外面黒漆塗の体部に、赤漆で植物文が描かれる。鎌倉時代の典型的な漆器碗である。底部外面には漆は塗られず、ケズリ痕が明瞭で筋状の加工痕がみられる。トチノキ製。13世紀代と思われる。(川瀬)

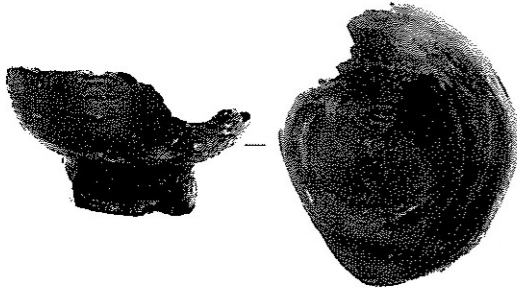
729



729 漆器碗 鎌倉
玉櫛遺跡 (RD13.6・H4.5) 文献827

728と同遺構面の南北溝から出土。溝には東西方向の木杭列に竹材を編み込んだ堰状構造物が存在しており、土師器、須恵器、灰釉陶器、陶器、短刀、木製品など多種多様な遺物が検出された。本例は、内外面赤漆で、口縁端部と高台が黒漆である。柁目取りで、底部外面に「×」線刻をもつ。ケンボナシ属製。同遺構からは、よく似た漆器碗がもう1点出土した。(川瀬)

730

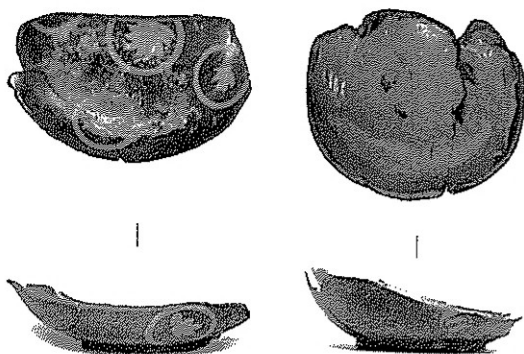


730 漆器碗 鎌倉～室町
巢本遺跡 (RD14.2・H7.6) 文献792

直線的にのびる大溝から出土。この遺構からは土師器皿、瓦器碗、東播系須恵器、瓦などが検出された。

漆器碗は3点出土したが、いずれも底部外面に違った線刻が施されていた。碗の口径、器高に比べて、高台が高いのが特徴である。本例は内外面ともに黒色漆が塗布され、底部外面には「ミイ」とも読める線刻がみられる。(川瀬)

731



731 漆器碗 室町
花屋敷遺跡 (左:BD8.0,右:BD6.0) 文献764

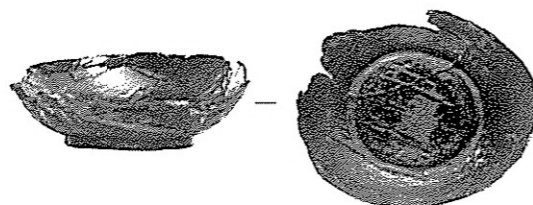
導水管の竹筒を伴った埋桶(貯水施設)から出土。他に土師器皿、瓦質土器羽釜、漆器碗2点、竹籠となる網代製品4点以上が伴出した。15世紀の遺構である。左は、内外面に黒漆を塗り、丸窓内に笹の文様を描く。右は、外面は黒漆を塗り、丸窓に三の字状文を赤漆で描く。内面は赤漆で、底部外面には笹文様が木地に彫られる。2点ともトチノキ製。(川瀬)

732 漆器椀 室町
花屋敷遺跡 (RD12.4・H4.6) 文献.765

溝の底に伏せられたような状態で出土。他に丸瓦、平瓦、下駄、瓦質土器羽釜、獣骨などが検出された。

本例は、内外面に黒漆を塗り、体部外面のおそらく4方向に赤漆で草文を描く。トチノキ製。他の遺物から判断して、おそらく15世紀のものと思われる。731と同遺跡のものだが、こちらの方が新しいか。

(川瀬)

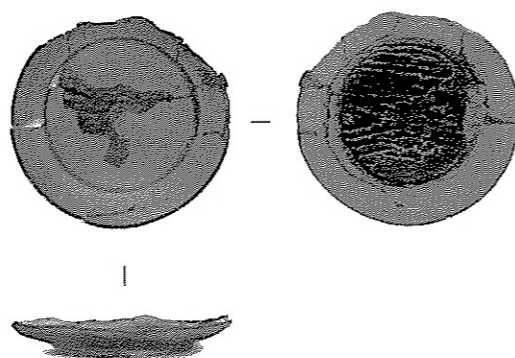


733

733 漆器皿 鎌倉
玉櫛遺跡 (RD13.7・H2.1) 文献.827

729と同じ溝の下層から出土。同層からは「蘇民将来」の呪符木筒も検出された。本例は、内外面赤漆で、一部、口縁端部と底部は黒漆塗。無文様の漆器で、同様の椀や皿が本遺構から数点出土している。単純・簡素化された大量生産品といえる。このような内外面赤漆、高台部黒漆、無文の漆器が近世にかけて一般化する。板目取りで、クリ製。

(川瀬)



734

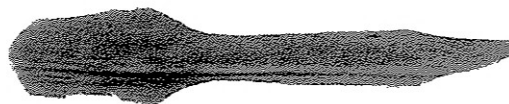
734 杓子 室町
巢本遺跡 (w5.5・L27.0) 文献.792

曲物や結桶を重ねて井戸枠とした井戸から出土。他に土師器、瓦器、東播系須恵器、焼締陶器、瓦、柄杓などの木製品が伴出した。

本例は、器面調整のない板を使用し、側縁を削り出し製作している。

15世紀頃のものである。

(川瀬)

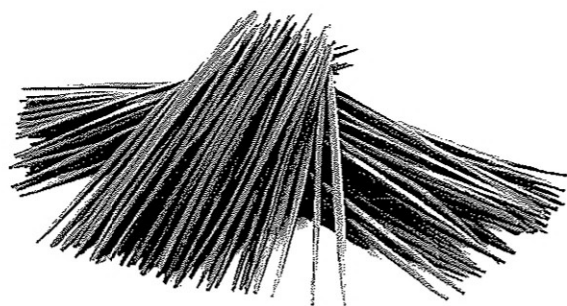


735

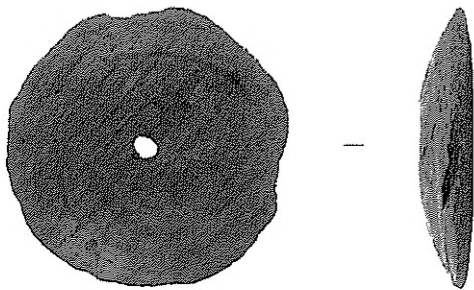
735 箸 鎌倉
巢本遺跡 (W0.3～0.6・L19.2～23.2) 文献.826

掘立柱建物の北東部にある790土坑から出土。

112本もの大量の箸が検出された。共伴の土師器皿や瓦器椀から13世紀中葉と考えられる。箸は、断面ほぼ円形で、両端部を細く削る。長さは20.6～21.6cmにおさまるものが大半である。便所遺構に伴う繻木かとも考えられるが、その関連では埋土から瓜の種子数点が確認されたのみで、箸の可能性が高い。(川瀬)



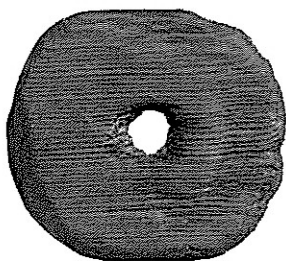
736



736 紡錘車 室町
巢本遺跡
(D5.3・T1.0) 文献.792

人為的に埋められた、上部が方形縦板横棧組み、下部が桶組み構造の井戸から出土。紡輪は、紡茎（紡軸）と呼ばれる棒を、中心にあけた孔に差し込んで糸紡ぎに使用する弾み車である。二つ合わせて紡錘車と呼ばれる。使用する際には広い面が上になり、糸に撚りかける回転を安定させる役目をもつ。なお本例のように、紡輪単体でも紡錘車と表現される。（佐伯）

737

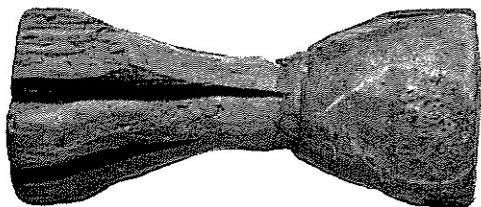


737 紡錘車 中世
私部南遺跡
(D7.6・T1.2) 文献.865

谷から出土。

736 同様、紡輪で、材質はスギである。紡輪には、他の材質として土製、石製、骨角製等がある。弥生時代から検出例があり、古墳時代には裁頭円錐形の滑石製や碧玉製のものもみられ、同後期には鋸歯文を線刻した製品がみられる。実用的なもの、祭祀にかかわるものの二者がある。（佐伯）

738

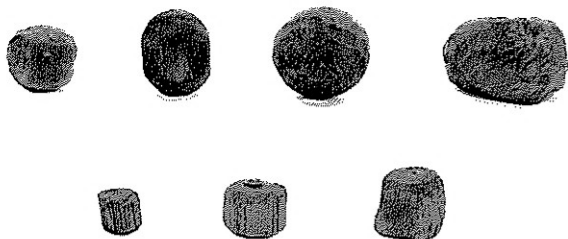


738 木錘 鎌倉
玉櫛遺跡
(MD3.8・L9.0) 文献.827

中世集落に伴う、幅6m以上、深さ1.6mの大規模な溝の最下層から出土。

材質はバラ科ナシ亜科である。この木錘（ツチノコ）は、ムシロや俵を編む際に使用する木錘に比べ、大きさも小振りで、材質もカシではなく軽めの材であることから、背負子の肩紐等の組み紐を編む織り機に使用したと考えられる。（佐伯）

739



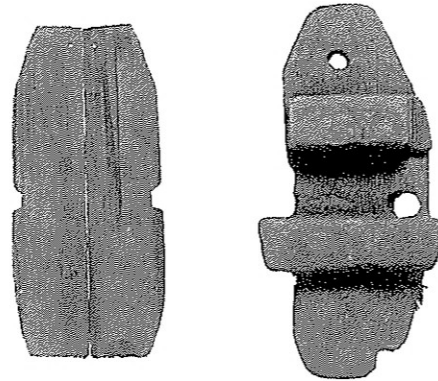
739 毬打の毬 鎌倉～室町
巢本遺跡
(左端:H4.5・W4.5) 文献.826

中世集落内の井戸や土坑から出土。

いずれも心持ち材である。毬打（毬杖とも表記）は、2チームが毬杖（長柄の槌）で毬を打ち合い、毬門と呼ばれるゴールに多くの玉を打ち入れた側が勝ちとなる遊びである。遊びとして一般に広まったが、やがてすたれ、現在では正月に行われる儀式の一つとして伝わっている。（佐伯）

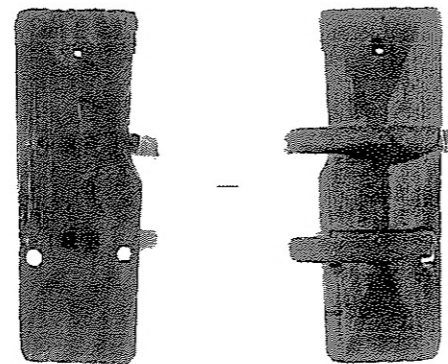
740 草履芯・下駄 鎌倉～室町
花屋敷遺跡 (左:L16.4, 右:L22.5) 文献.764

中世集落内の屋敷地を区画すると考えられる溝から出土。左の草履芯は、文字通り草履の芯となるスギの板で、これを藁で覆い緒を付ける。このような草履は中世に特徴的にみられ、広島県草戸千軒町遺跡などからも出土している。右の下駄は、台と歯を一つの木から削り出して作る、連歯下駄と呼ばれるタイプである。(佐伯)



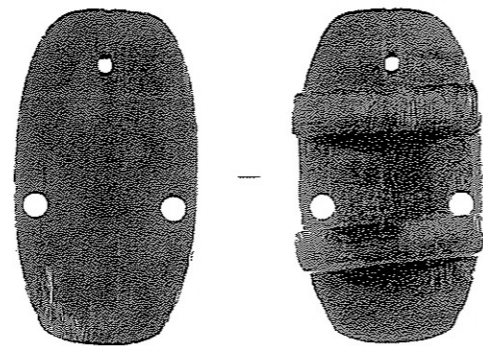
741 下駄 中世
讃良郡条里遺跡 (W10.2・L23.3) 文献.831

中世の耕作土層から出土。
足を乗せる台の下面に溝を切り、歯を差し込み柄で固定する、差歯下駄と呼ばれるタイプである。樹種はセンダンである。台部分の平面形は長方形で、横断面は逆三角形を呈する。緒の後ろの孔が歯よりも後方にあけられているのが特徴である。(佐伯)



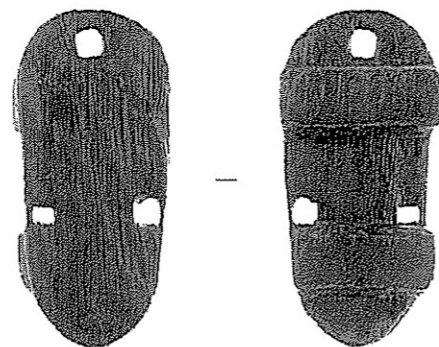
742 下駄 鎌倉
巢本遺跡 (W7.2・L11.8) 文献.792

中世の溝から出土。
連歯下駄である。他に掲載している下駄よりもやや小振りである。台部分の平面形は概ね楕円形を呈する。前歯が後歯に比べてやや低くなっている。前後の緒孔の間隔が5cm程度と狭く、全体の長さも一般的な下駄の半分ほどの大きさであることを考えると、子供用の下駄であろうか。(佐伯)

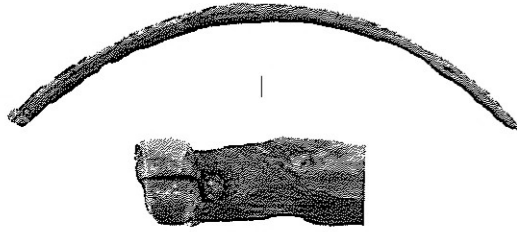


743 下駄 鎌倉
巢本遺跡 (W9.2・ℓ19.0) 文献.826

中世に堆積したラミナがみられる砂層から出土。
連歯下駄で、前の緒の孔の位置が、やや左寄りにあけられていることから、右足用と考えられる。また緒の孔が、740～742と異なり四角形を呈している。前歯に比べて後歯が低く、前歯・後歯ともに左側の摩滅が著しい。このことも、本資料が右足用であったことを物語るものであろう。(佐伯)



744



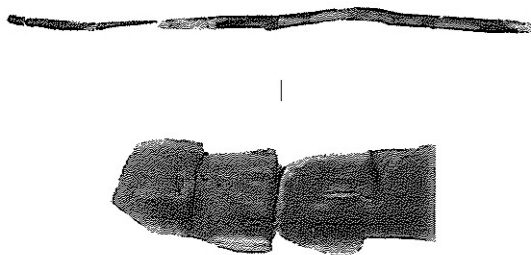
744 弓 室町
 小阪合遺跡 (w1.9・ℓ44.7) 文献.704

中世集落の屋敷地を区画すると考えられる溝から出土。

丸木弓の直弓で、材はカヤである。弓弦をかける弮の直下には、木釘が差し込まれている。

本例は丸木弓であるが、平安中期以降には、木と竹を張り合わせる複合弓が作られ、以降はそれらが主流となる。 (佐伯)

745



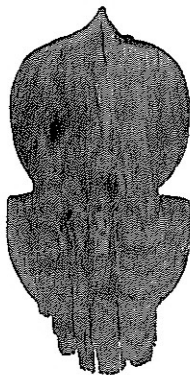
745 棒状木製品 平安後期～鎌倉初頭
 巢本遺跡 (md1.3・ℓ77.3) 文献.792

中世の堆積層から出土。

心持ち材で、端部に4段の刻みがみられる。反対側は欠損している。全体的に節目がちであり、枝を利用したものと思われる。端部の刻みを装飾と考え、まじない等の道具と考えるのか、これを弮とし丸木弓と考えるか、具体的な用途は不明である。

(佐伯)

746



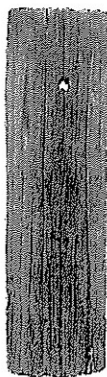
746 板塔婆 室町～戦国
 池島・福万寺遺跡 (w12.1・ℓ24.2) 文献.793

中世の島島耕作土層から出土。

板塔婆は板卒塔婆ともいい、五輪塔を板でかたどったものである。上部から空・風・火・水・地を表し、表面にはそれに合わせた梵字「カ」「キャ」「ラ」「バ」「ア」が墨書されることがある。本資料は、上記の空・風の部分に相当するものである。

(佐伯)

747



747 呪符木簡 室町
 玉櫛遺跡 (W3.0・ℓ10.6) 文献.602

中世の耕作溝から出土。表面に「九々八十一」「蘇民将来子孫□」「八九七十二(逆字)」と3行にわたり墨書している。上部に釘孔があり、おそらく呪言を表にして家入口に打ち付けたと考えられる。疫病除け・厄除けの呪符である。8世紀代から同様の検出例が確認される。現在でも厄除けとしてみられ、三重県の一部地域では正月の門飾りとして使われている。(佐伯)

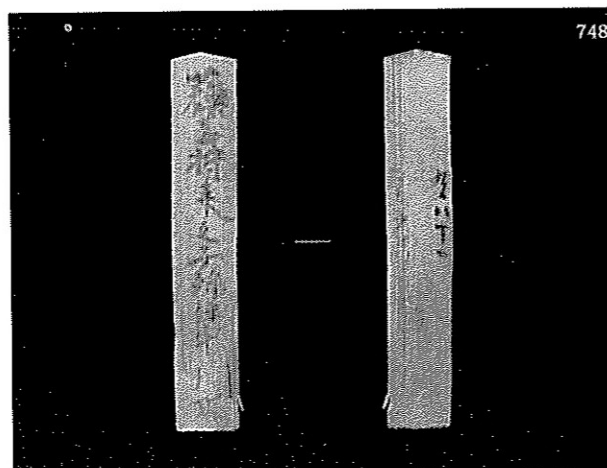
748 呪符木簡

鎌倉

玉櫛遺跡

(W2.7・L15.6) 文献.827

中世集落の水路と考えられる溝から出土。スギの薄い板の表面には「蘇民将来之子孫住宅門也」、裏面には2行で「九、八十一」「八九七十二(逆字)」と墨書されている。上端は、山形に整形される。疫病除け・厄除けの呪符木簡である。裏面の文言は、「物忌札」によくみられ、「不浄を出さず、他を入れしめず」というまじないに關係して用いられたとされる。(佐伯)



748

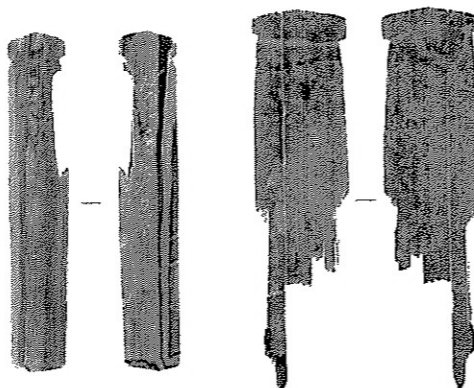
749 呪符木簡・転読札

鎌倉

巢本遺跡

(左:L21.1,右:ℓ23.6) 文献.826

ともに井戸から出土。左は、上端を宝珠形に削り出し、表に「昔蘇民将来□□□□」、裏に「南無五大方井」と墨書される。□はおそらく「之住宅也」と推測できる。疫病・厄除けの呪符木簡である。右は、上端の両側面を削りくびれを出した圭頭にし、表に「一日大般若経転□」と墨書される。下部が欠損するが、おそらく「読」が続いていたと考えられる。(佐伯)



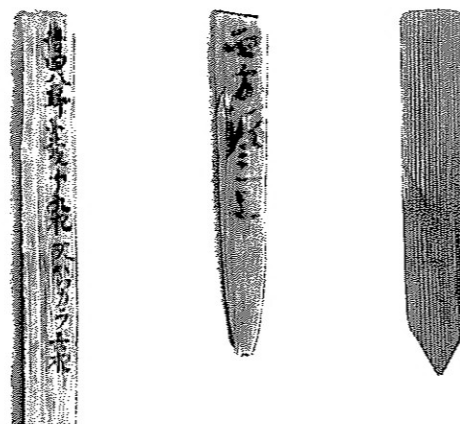
749

750 木簡類

鎌倉～室町

花屋敷遺跡 (左:ℓ22.0,中:L11.8,右:L16.5) 文献.764・765

左・中は溝、右は落込みから出土。左はヒノキ材で上部は切断、下部は欠損する。「□田八郎小麦十九把又ハ□カラ六把」と墨書され、後者の□は「芋」かと考える。中はスギ材で上部は折り取り、下端は尖り気味に加工され、「西方源三上」と墨書される。ともに物品取引の木簡だろう。右はコウヤマキ材で一端が尖る。荷札状だが墨書はなく用途不明である。(佐伯)



750

751 柿経

戦国

池島・福万寺遺跡

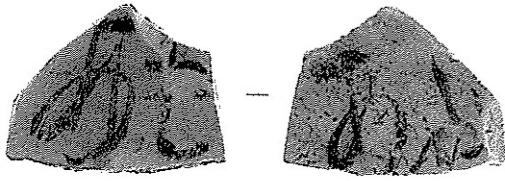
(w1.7・ℓ9.8) 文献.840

水路最上部から出土。上半と下端が欠損する。非常に薄く、台鉋たいかんなで削り作られている。柿経こけらきょうは通常一面に17字ずつの文字を写経し、20枚～40枚を一束とする。本例は、一面に「量無辺阿僧祇善」と法華経第五卷の従地涌出品第十五の84行目の一部が墨書されることから、欠損する上半には「各自其仏言 世尊 此諸無」と書かれていたのであろう。(佐伯)



751

752



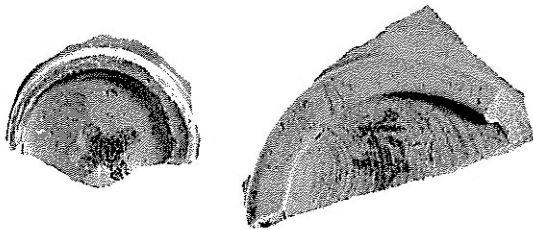
752 墨書土器 鎌倉
巢本遺跡 (w4.2・ℓ3.3) 文献.826

中世の土坑から出土。

土師器皿の見込みに「あむ」、底部に「あ□」と墨書されている。破片であり、前後に他の文字が続くのかは判然としない。用途は不明であるが、見込みに墨書があることから、日常のものではなく、何らかのまじないにかかわる可能性が考えられる。

(佐伯)

753



753 墨書陶磁器 室町
私部南遺跡 (左:bd4.6, 右:bd8.2) 文献.865

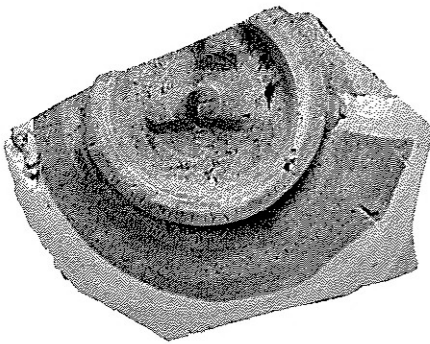
ともに中世の耕作土層から出土。

釉薬のかかっていない高台内側に墨書がみられる。左の青磁碗には「×」とあるが、右の灰釉陶器鉢の墨書は判読できない。

おそらく、多くある器のうち他と区別するために書かれたのではないかと考えられる。

(佐伯)

754

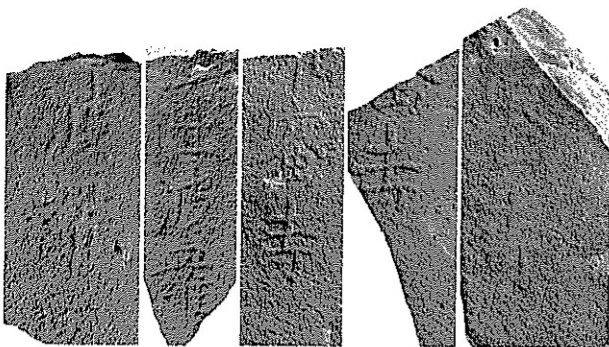


754 墨書磁器 鎌倉
玉櫛遺跡 (BD4.2・h2.5) 文献.827

集落内の水路と考えられる溝から出土。溝は幅約8.5 m、深さ約1.2 mで、しがらみのような構造物もある。日常雑器のほか輸入陶磁器、漆器碗、短刀などが検出されている。本品は底部外面が露胎である以外は内外面とも施釉された白磁碗で、高台内側に「上」の墨書がある。「上」は、平安～鎌倉時代によくみられ、奉ることを意味するという解釈もある。

(佐伯)

755



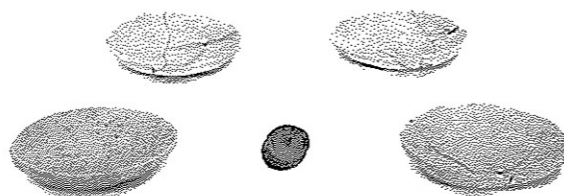
755 文字瓦 室町
若宮遺跡 (文字部ℓ7.9～12.0) 文献.636

L字状溝から、多量の瓦とともに出土。欠損するが、「檀波羅蜜寺」と読める陽刻や陰刻がなされた平瓦である。多くは凸面にみられるが、凹面に転写されたと考えられる反転陰刻の例も他にある。檀波羅蜜寺は聖徳太子開創伝承が残る寺で、「日根野荘日根野村荒野絵図」や九条家文書などにも名を留める。応永6(1399)年、大内義弘の乱で焼失といわれる。

(佐伯)

756 火葬遺構出土品一括 江戸前期
栗生間谷遺跡 (左下:RD10.8・H2.3) 文献592

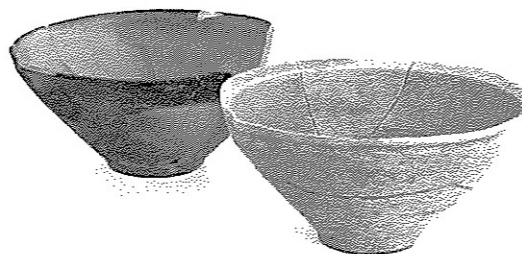
火葬遺構と想定される焼土坑から出土。いずれも埋土下層(炭層)の上面で検出。土師質土器皿には被熱痕跡がみられないことから、収骨後に置かれたものと推定される。寛永通寶は6枚が重なった状態で出土。著しく焼け歪み、全てが溶着していることから、火葬時に伴っていたのであろう。いわゆる六道銭である。江戸時代の葬送儀礼を示す貴重な資料である。(新海)



757

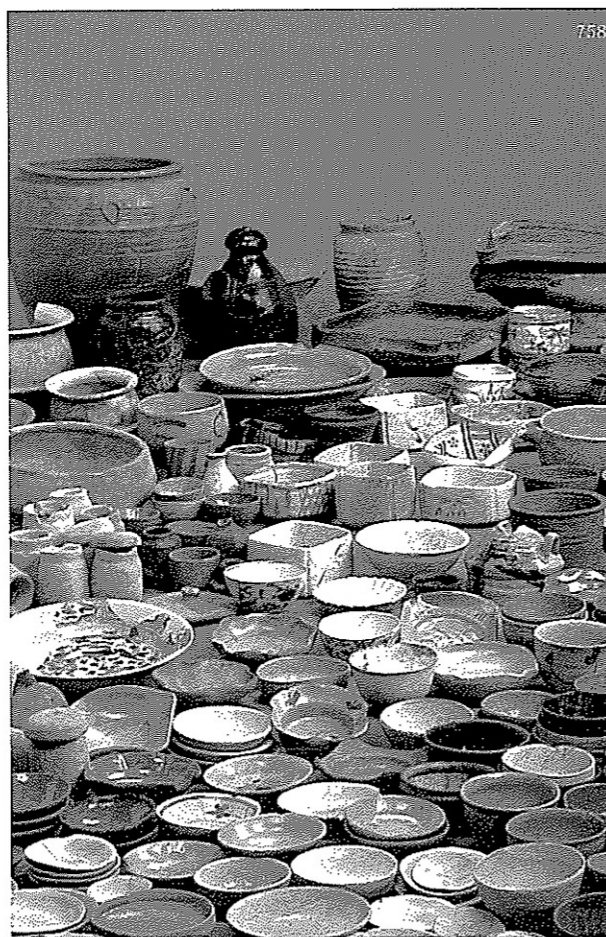
757 墓出土瓦質土器(播鉢) 安土・桃山
大尾遺跡 (右:RD31.4・H15.2) 文献599

墓壙と想定される遺構から出土。ともに火葬骨の上に被せられていたと推定され、土壙底面に伏せた状態で埋置されていた。播鉢は、底部からやや内湾しながら斜め上方に立ち上がる体部をもち、口縁部は強いヨコナデによって外反する。内面には11条を1単位とする播目を放射状に7単位施す。大和産であろうか。近世初頭の葬送儀礼を示す貴重な資料である。(新海)

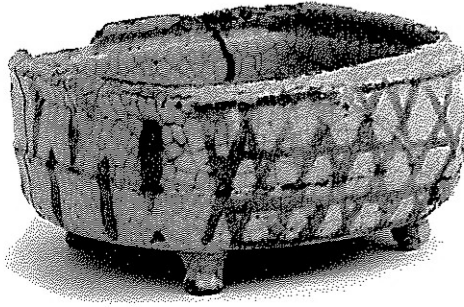


758 堀出土土器・陶磁器一括 安土・桃山
大坂城跡 (左奥:RD27.6・H32.4) 文献716

豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀83から出土。堀は幅20m以上、検出長150m以上を測り、堀底に障壁が設けられる障子堀である。三の丸築造による大規模な造成工事に伴う慶長3(1598)年の掘削が推定され、大坂冬の陣の講和後、慶長19(1614)年12月下旬から翌1月下旬の間に、徳川方によって一気に埋め戻され姿を消した。発掘調査により、埋め戻し時に行われた様々な工法や行為が詳らかになった。堀の客土からは、多様な器種構成を示す国産陶器(唐津・備前・丹波・信楽・瀬戸美濃・織部・志野焼)や輸入陶磁器(李朝白磁・青花・呉須赤絵・華南三彩)、瓦質・土師質土器(皿・瓦灯・茶釜・炮烙等)の出土があった。陶磁器類以外にも、多岐にわたる貴重な品々(後掲811・815・816・818~820・824ほか)が検出された。これらの遺物は使用時期が限定できる資料として、多面的に極めて重要な位置を占める。また、茶道具を想起させる資料も多く興味深い。(新海)



759



759 志野焼（向付） 安土・桃山
大坂城跡 (H6.2・W12.4) 文献716

豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀から出土。志野焼は長石釉の下に鉄絵が描かれるのが特徴。大坂で志野焼がみられるのは慶長3（1598）年の三の丸普請以降。本例はやや丸味をもつ角向付で、4側面に異なる文様が描かれる。底部外面の四隅に柱状の脚が付き、中央には輪ドチ痕が残る。漆継による修復があることから、大切に使用されたことが判る。 (新海)

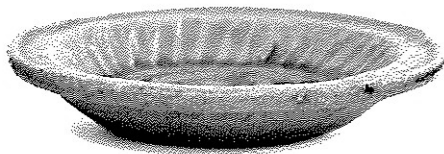
760



760 志野織部焼（向付） 安土・桃山
大坂城跡 (H9.4・W9.8) 文献716

豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀から出土。変形による“歪みの美”と胎土や釉薬を使い分ける斬新なデザインで個性豊かな器を作り出した織部焼が、大坂でみられるようになるのは慶長19（1614）年の大坂冬の陣に近い頃。本例は志野織部焼の向付。口縁部は2箇所をくぼませて平面凸形を呈する。鉄絵により、側面は横線と蔓草文で、口縁部は皮鯨で飾る。 (新海)

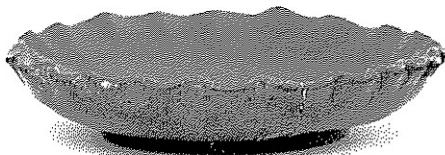
761



761 瀬戸美濃焼（灰釉折縁ソギ皿） 安土・桃山
大坂城跡 (RD11.2・H2.3) 文献567

大坂城三の丸跡にある豊臣前期の井戸から出土。井戸枠として16段以上の桶を重ねた深い井戸である。本例は瀬戸美濃焼の灰釉折縁ソギ皿。口縁部は水平に折り曲げ、端部を折り返して玉縁状に仕上げる。体部内面は丸ノミによるソギが施される。豊臣前期では出土国産陶器の主体が瀬戸美濃焼である。そのなかでも確認量が多い折縁ソギ皿は主要な器であった。 (新海)

762



762 瀬戸美濃焼（鉄釉ヒダ皿） 安土・桃山
大坂城跡 (RD10.4・H2.4) 文献567

大坂城三の丸跡で検出した豊臣前期の土坑から出土。瀬戸美濃焼の鉄釉ヒダ皿である。底部から口縁部に向けてやや内湾しながら立ち上がり、口縁端部には連続したヒダを施している。上記のとおり、豊臣前期で検出される国産陶器の主体が瀬戸美濃焼である。そのなかでも確認量が比較的多くみられる鉄釉ヒダ皿は主要な器として使用されていた。 (新海)

763 瀬戸美濃焼（天目椀） 安土・桃山
大坂城跡 (RD11.5・H6.2) 文献.567

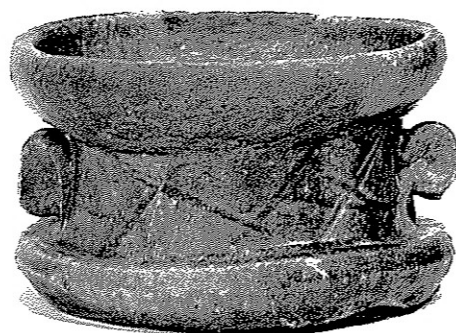
大坂城三の丸跡で検出した豊臣前期の溝から出土。瀬戸美濃焼の鉄釉天目椀である。胴部は直線的に斜め上方に開き、口縁部は上方にまっすぐ立ち上がり、端部がやや外反する。高台は削り出し高台で、高台脇は水平に仕上げる。腰部・高台を残して鉄釉を施す。天目椀のなかには内面に擦痕がみられる例があり、茶陶としての使用を窺わせる出土資料も存在する。(新海)



764

764 伊賀信楽焼（水指） 安土・桃山
大坂城跡 (RD15.6・H9.8) 文献.716

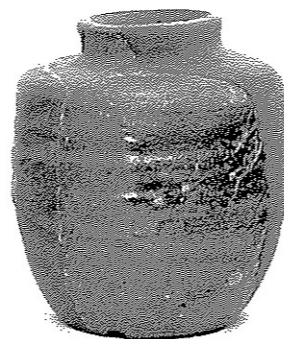
豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀から出土。伊賀信楽焼は種壺や播鉢等の日常雑器が焼かれたが、茶の湯の侘び茶への関心とともに茶陶も焼かれるようになる。水指や花生が注目され“破格の美”を代表する一つとなった。本例は胴締め水指。胴部には彫込み文様が描かれ、耳が2箇所が付く。鉄釉とビロード釉がかけ分けられる。美濃伊賀焼の可能性もある。(新海)



765

765 備前焼（茶入） 安土・桃山
大坂城跡 (rd3.5・H7.5) 文献.567

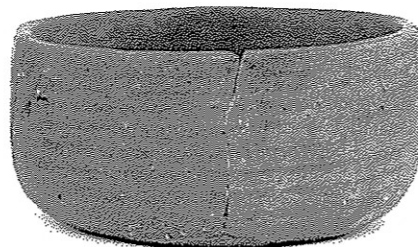
大坂城三の丸跡の豊臣前期包含層から出土。備前焼は日本六古窯に数えられ、甕や壺、播鉢等の日常雑器が主体に焼かれたが、茶の湯における侘び茶への関心とともに茶陶としての人気が高まった。本例はそうした茶陶の一つである肩衝茶入。肩が張り、直立する短い口縁部をもつ。素朴ながら重厚さがみられるため、茶の湯の席でも存在感を放っていたであろう。(新海)



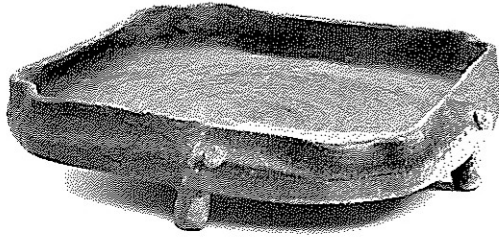
766

766 備前焼（建水） 安土・桃山
大坂城跡 (RD16.8・H8.1) 文献.567

大坂城三の丸跡の豊臣前期に営まれた金属加工工房をもつ区画にある廃棄土坑から出土。土坑からは陶磁器以外にも漆器、下駄、羽子板等の木製品など多岐にわたる遺物が検出されている。本例は備前焼の建水。底部から口縁部に向けて、やや内湾しながら立ち上がる。口縁端部は内側を少し肥厚させつつ、丸くおさめる。茶陶に用いられたのであろうか。(新海)



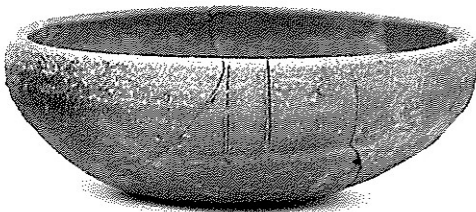
767



767 備前焼（水盤） 安土・桃山
大坂城跡 (H6.4・w16.2) 文献716

豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀から出土。本例は平面方形を呈する。口縁部は内傾し、コーナー部分は入隅状に変形させる。底部外面には径約2cm、高さ約3cmの脚が2箇所に残る。また、脚上方の胴部外面中位には、径約1cmの円形浮文が2箇所に見られる。水盤状の大形製品（復原一辺約32cm）である。茶の湯の席で花器として使用されたものであろうか。（新海）

768



768 備前焼（鉢） 安土・桃山
大坂城跡 (RD17.0・H6.3) 文献567

大坂城三の丸跡の豊臣前期に営まれた金属加工工房をもつ区画にある土坑から出土。底部から口縁部に向け内湾しながら立ち上がる備前焼の鉢。口縁端部は面取り状になっており、やや尖り気味に仕上げる。口縁部外面には端部から垂下する2条の沈線状のヘラ記号が見られる。茶陶としての人気が高まった時期の所産。懐石道具として使用されたのであろうか。（新海）

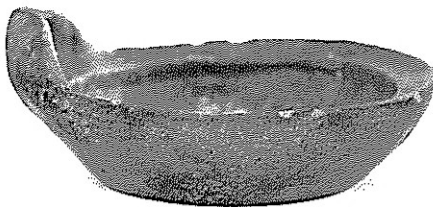
769



769 備前焼（香炉） 安土・桃山
大坂城跡 (RD7.6・H5.8) 文献567

大坂城三の丸跡の豊臣前期に営まれた金属加工工房をもつ区画にある廃棄土坑から出土。土坑からは陶磁器以外にも漆器、下駄、羽子板等の木製品など多岐にわたる遺物が検出されている。本例は備前焼の香炉である。下膨れの胴部をもち、頸部はややすぼまる。口縁端部は内側に折り返して「て」の字状を呈する。底部外面には3方向に三角形の脚が付く。（新海）

770

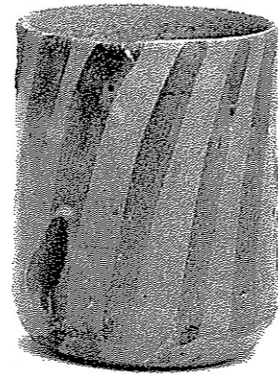


770 備前焼（灯明具） 安土・桃山
大坂城跡 (RD10.0・H4.4) 文献567

大坂城三の丸跡の谷底で、雛壇状に拡がる豊臣前期の区画にある埋桶から出土。備前焼は16世紀後半、窯の大形化と量産体制がピークを迎え、生産される器種も多岐にわたるようになった。本例は当該期に焼かれた灯明具である。平底の皿で、口縁端部から少し下がった胴部内面に段がめぐって受け口状になる。また口縁端部に接するように片口状の突起が付く。（新海）

771 唐津焼（向付） 安土・桃山
大坂城跡 (RD7.4・H9.0) 文献.716

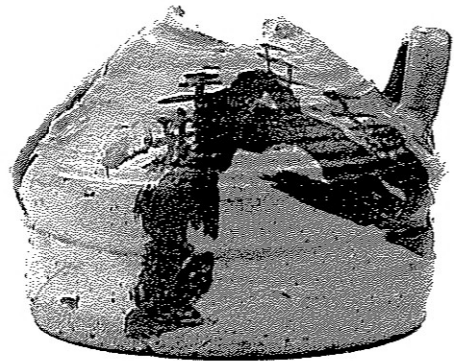
豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀から出土。唐津焼では珍しい筒向付である。底部は露胎で碁笥底。胴部外面には鉄絵で縞模様が描かれる。同意匠のものが高槻市高槻城跡の土坑からも出土している。徳川方に埋められた大坂城の堀と、大坂冬の陣や大坂夏の陣の際に徳川方の補給基地となった高槻城跡の両者で出土しているのは、時代背景を考えると大変興味深い。(新海)



772

772 唐津焼（壺） 安土・桃山
大坂城跡 (BD12.0・h9.4) 文献.716

豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀から出土。胴部の3方向に、立ち木のある山文を鉄絵で描き、その間の肩部に逆U字形の把手を3箇所にもっていたと思われる唐津焼の壺である。胴部内面の上半には同心円文の当て具痕が残る。底部が広く重心が低い安定した器形で、船徳利状を呈している。茶の湯の席で花器として重用されたものであろうか。(新海)



773

773 澹瓶 安土・桃山
大坂城跡 (BD12.3・H22.7) 文献.716・847・848

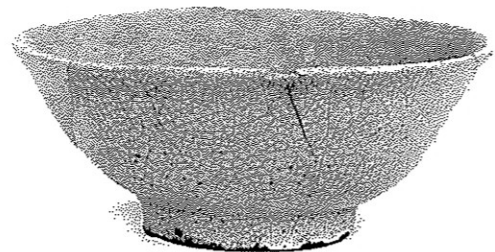
豊臣氏大坂城の大手口に伴う堀から出土。上部には宝珠形のつまみ、肩部には1箇所の不整円形の口を作り出す。外面には鉄釉をかける。同様器形をもつ陶器が九州の初期の薩摩焼や高取焼系の窯跡などでも出土している。文禄・慶長の役による渡来陶工によって生産されたものと考えられ、江戸時代に普遍化する澹瓶の初現段階のものとして重要な位置を占める。(江浦)



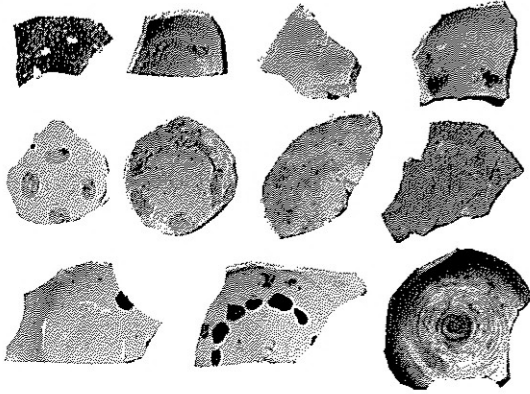
774

774 李朝白磁（碗） 安土・桃山
大坂城跡 (rd15.8・H6.6) 文献.716

堀 83 から出土。堀は、菅平右衛門宛木簡が検出されたため、慶長 19 (1614) 年末、短期間に埋められた蓋然性が高い。内面見込みに6箇所以上にわたり黒褐色の砂目積み痕がある。他に同様の朝鮮王朝製の白磁碗が2点出土している。共伴する国産陶磁器には各種陶器、初期薩摩焼または高取焼系の 773 澹瓶、貿易陶磁器には青花白磁、呉須赤絵、華南三彩がある。(三好)



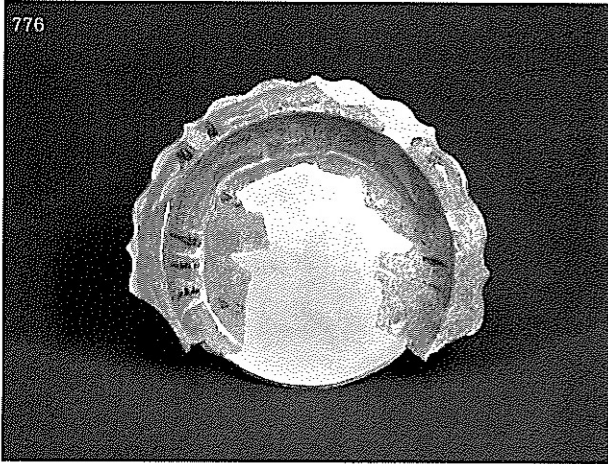
775



775 朝鮮王朝製陶磁器集合 江戸
堺環濠都市遺跡 (右下:rd10.4・H3.4) 文献.802

中段左から2番目と下段左端は天正3(1575)年以前の整地土、中段左端と下段中央は17世紀後半の137土坑、他は16世紀前・後葉の遺物を含む中世整地土I~IIIから出土。淡褐色系を呈する素地に白泥質の釉をかける碗(椀)と皿である点では共通するが、下段右端1点のみが見込みに渦巻きを彫る技法と釉が粉引となる。他は特徴的な砂目積み痕が観察できる。(三好)

776



776 華南三彩(盤) 安土・桃山~江戸
堺環濠都市遺跡 (RD30.4・H5.1) 文献.803

17世紀後半~18世紀前半の104土坑から出土。施釉は緑釉を基調とし、文様部に黄釉と褐釉とを分け分けており、近世以前の堺環濠都市では50例以上の類品が知られる。口縁部は稜花状を呈し、内面には草花文、口縁周縁部には宝珠と飛雲文を描出する。破断面には黒漆が付着し、破損後に修復したと考えられる。補修しながら100年以上伝世したことを窺わせる。(三好)

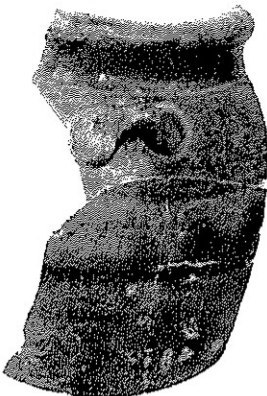
777



777 華南三彩(盤) 安土・桃山
大坂城跡 (rd29.4・H4.8) 文献.855

池2中層から出土。遺構面は、大坂城三の丸築造以降の豊臣後期段階に相当する。やや砂質をおびた灰色の精良陶土を用い、口縁部は稜花状に仕上げられる。内外面全体に黄緑~明緑色を呈する釉薬がかけられ、内面には外縁に花草文、周縁に宝珠と飛雲文をそれぞれ印刻と線刻によって描き出す。共伴する陶磁器類には中国製青花白磁も含まれる。(三好)

778

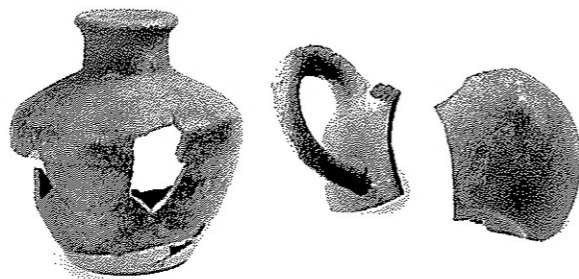


778 中国製陶器(黄釉双耳壺) 安土・桃山
堺環濠都市遺跡 (rd10.6・h15.8) 文献.802

16世紀中・後葉の遺物を含む中世整地土Iから出土。本層は天正3(1575)年の火災以前に敷き均されたものである。薄手の作り込みで丁寧に仕上げられ、素地には精良陶土を用いる。外面には黄釉が施され、内面は無釉。通有の中国製陶器壺と比べ小形である。ともに出土した貿易陶磁器には龍泉窯系青磁、白磁、青花白磁、朝鮮王朝製白磁、褐釉壺がある。(三好)

779 中国製陶器(黒釉瓶・宜興窯急須) 安土・桃山~江戸
堺環濠都市遺跡 (左:h11.0, 右:h4.9) 文献.802

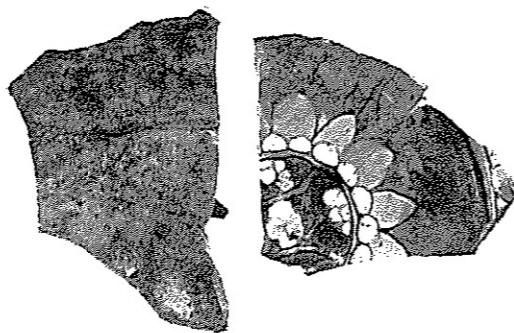
左は294土坑、右は盛土から出土。ともに近世遺構・
包含層検出の資料。左の瓶は底部が露胎となる以外、
外面全体に黒釉が施され、体部中央には成形時の段継
が観察される。右は年代特定できないが、上海の西方、
太湖の辺にある江蘇省宜興窯の急須である。丁寧かつ
薄手の仕上がりで、底部に刻印の一部が残る。急須は
煎茶の嗜好に伴い流入し広まった。(三好)



780

780 中国製軟質施釉陶器(皿) 江戸
堺環濠都市遺跡 (左:bd11.9, 右:rd21.5) 文献.802

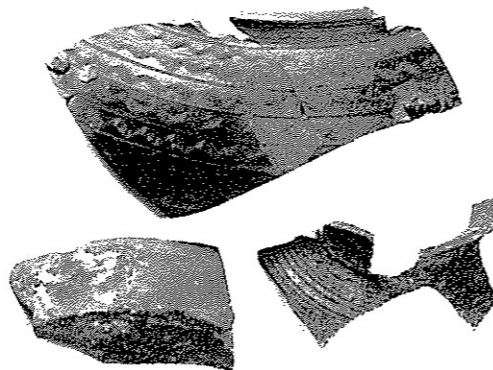
左は106土坑、右は17世紀後葉~18世紀前葉の136
土坑から出土。うち右では、赤褐色の素地に白化粧土
をかけ、内面見込みと口縁部には鉄釉で輪郭を描出し
た後、黄・白・紫の釉薬を充填させ花文を表現し、そ
の周囲と外面に緑釉を施す。同区でさらに若干の同種
片が確認されたが、類例が知れず国産類品とも特徴が
異なるため、華南地方に産地が求められている。(三好)



781

781 東南アジア製陶器(壺) 江戸
堺環濠都市遺跡 (上:rd33.4・h14.8) 文献.802

上は136土坑、下左は攪乱部、下右は218土坑から
出土。うち上では、体部上位に5帯の櫛描波状文と直
線文とを交互に施し、半環状の耳を5箇所に付す。共
伴した陶磁器には、見込みに蛇の目の釉剥がない肥前
焼系磁器碗、銅緑釉と透明釉をかけ分けた内野山窯系
の肥前焼陶器碗、同じく鉄釉の施された甕があるため、
遺構時期は18世紀頃までに限定される。(三好)



782

782 タイ製陶器(鉄絵突鉢) 江戸
堺環濠都市遺跡 (md28.0・h9.2) 文献.802

17世紀中・後葉の遺物を含む近世整地土Ⅲから出
土。素地を鉢形(突鉢)に成形した後、内外面のなか
ほどまで白化粧土をかけ、さらに外面に鉄絵で草花文
や斜格子文を描出し、最後に透明釉を施し仕上げる。
タイ北部スコタイ産と推定され、宋胡録とも呼ばれる。
中国商人を介し国内へ搬入され、安土・桃山時代には
茶道の隆盛とともに広くもてはやされた。(三好)





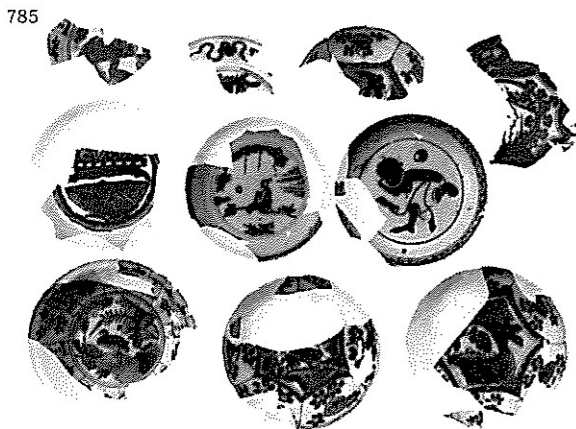
783 ベトナム製陶器（長胴壺） 江戸
堺環濠都市遺跡（左:rd7.2,右:BD9.9）文献.802

左は078土坑と17世紀後葉～18世紀前半の遺物を含む近世整地土Ⅱ出土片が、右は068・125土坑出土片がそれぞれ接合し、後者の内面には白色の付着物が観察される。別個体だが、双方とも褐色を呈する点、無釉で非常に硬く焼き締めた^{きつ}炆器である点で共通する。なお本調査区で出土した近世の東南アジア産輸入陶磁器で、割合が最も高いのがこれらの壺であった。（三好）



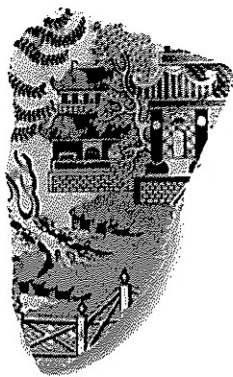
784 ベトナム製陶器（鉄絵印花文碗） 江戸
大坂城跡（RDI6.4・H4.8）文献.716

大量の塵芥を一括廃棄した18世紀後葉の土坑5から出土。底部以外の全面に白化粧土がかけられ、内面の中央と四方および外面には、鉄釉の印花による菊花形の文様が押捺される。最終的には透明釉をかけ、内面の見込みを蛇の目状に釉剥した後に上焼される。共伴品には備前、丹波、瀬戸美濃、肥前系、京・信楽系ほかの国産陶磁器類などがある。（三好）



785 中国製磁器（青花皿・鉢） 近世
堺環濠都市遺跡（左下:rd14.0・H4.2）文献.802

第4面162埴列建物から出土。遺構面は慶長20（1615）年、大坂夏の陣で灰燼に帰した被災面である。多量の瓦のほか、掲出した景德鎮窯^{けいとくちん}の青花白磁を中心とし、若干の漳州窯^{しょうしやう}染付白磁やベトナム製陶器、備前、瀬戸美濃、肥前系などの国産陶磁器が伴出した。当資料の描出文様には、芙蓉手、山名手のほか擬人化したサル、花鳥草木、獅子、玉がある。（三好）



786 イギリス製軟質磁器（銅版転写皿） 近世
堺環濠都市遺跡（bd13.2・h0.8）文献.802

近世盛土層から出土。内面見込みに楼閣風の建物と柳の木などが青色顔料で描かれるため、ウィローパターンやブルーウィローと呼ばれる硬質陶器と判明する。この図案は18世紀後葉、ポーンチャイナでも名を馳せるミントン社創始者トーマス・ミントンによって発案されたともいわれる。鎖国の江戸時代、当地の情勢や動向を探るうえで興味深い資料といえる。（三好）

787 巴文軒丸瓦 安土・桃山
津田遺跡 (D15.0・ ϕ 16.2) 文献.845

礎石建物を覆う包含層から出土。

内区に左巻きの巴文を3単位配し、外区には珠文をめぐらせる。外縁は2.5cmと幅広であるが、外区との段差は0.7cmと低い。瓦当面全体に、粘土を笥から抜きやすくするために離れ砂を使用した痕跡が認められる。文様構成と外縁の形状から判断して、16世紀代のものと考えられる。(奥村)



788

788 桐文軒丸瓦・桔梗文軒丸瓦 安土・桃山
大坂城跡 (左:d16.4, 右:D14.0) 文献.716

豊臣氏大坂城大手口に伴う堀から出土。左は五七の桐文軒丸瓦、右は桔梗文軒丸瓦である。五七桐文瓦はJ R 森ノ宮駅周辺や大阪府庁、大阪歴史博物館周辺で、桔梗文瓦は大阪城南側の馬場町付近や北西側の石町での出土が知られている。桐文は豊臣家から下賜されて初めて使用できるとされており、有力大名等の限定された階層の屋敷に葺かれていたものだろう。(新海)



789

789 宝珠唐草文軒平瓦 安土・桃山
津田遺跡 (W25.0・L28.8) 文献.845

787と同じ包含層から出土。

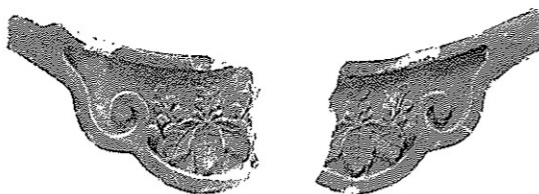
内区の中に宝珠を配し、そこから左右外側に向かって唐草文様が3回転半展開する。顎部分は貼り付け技法により成形されている。瓦当文様と顎の成形方法から、787同様、16世紀代のものと考えられる。調査地では礎石建物が検出されており、787・789はその建物に用いられたものと推定できる。(奥村)



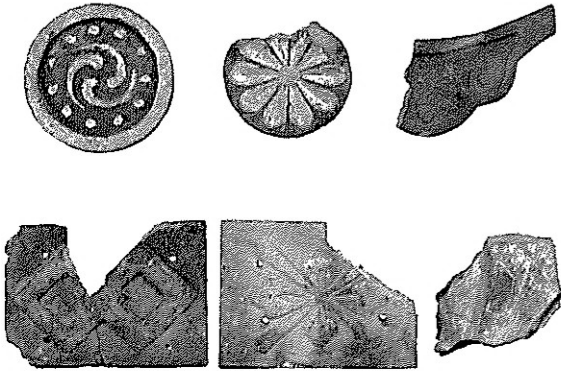
790

790 桐文軒平瓦 安土・桃山
大坂城跡 (左:w28.6, 右:w25.0) 文献.716

豊臣氏大坂城大手口に伴う堀から出土。外縁内側の下方が蕨手状になり、内区中央に五七の桐文を配する。下外縁の中央を下に突出させた形状で、朝鮮の滴水瓦を思わせる。このような意匠の瓦は、文禄・慶長の役に参戦した大名の居城に好んで採用され、城郭の中心部を飾り、金箔瓦や家紋瓦と並んで権力を誇示する道具として使用されたと考えられている。(新海)



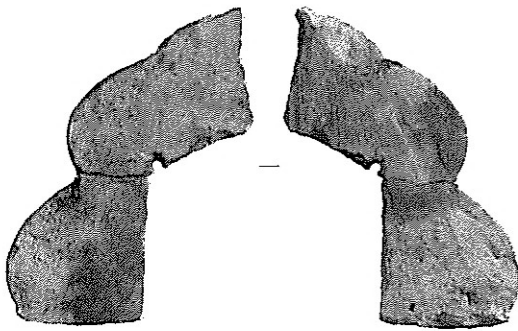
791



791 金箔瓦 安土・桃山
大坂城跡 (左上:D14.2・ℓ2.8) 文献716

大坂城二の丸大手口の西堀から出土。堀は大坂冬の陣後に埋め立てられたため、これらは豊臣期大坂城に葺かれていたといえる。金箔瓦は、軒瓦等の瓦当面に漆を塗布し金箔を貼り付けたもので、岐阜県織田信長居館跡や信長築城の滋賀県安土城に初源をみる。他に京都府伏見城・聚楽第などからも出土しており、織豊政権と直接かかわる政治的産物と理解できる。(奥村)

792



792 鬼瓦 安土・桃山
津田遺跡 (w6.0・ℓ20.4) 文献845

787・789と同じ包含層から出土。波形の鬼瓦である。釘穴が1箇所穿たれているが、左右対称でもう1箇所あったと推定される。焼成は須恵質で、燻しはかからない。一部しか残存しないが、破片の内側には丸瓦をまたぐための袴部があったと思われる。787・789同様、16世紀代の礎石建物に使われたものと考えられる。(奥村)

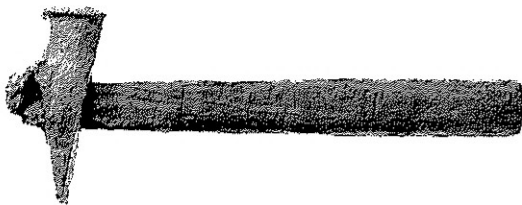
793



793 井戸瓦 近世
池島・福万寺遺跡 (W25.1・L28.6) 文献841

井戸枠として使用されていた平瓦。広端と狭端の差はなく、井戸枠専用に使われたものである。凹面中央に「山本新田」の陰刻がある。山本新田は、元禄～宝永年間の大和川大改修にともない、旧玉串川流域で開かれた新田である。新田の位置は調査地からわずかに離れるものの、この瓦は新田開発と井戸の掘削が一連の事業であった可能性を示唆する遺物である。(奥村)

794



794 金槌 安土・桃山
大坂城跡 (W10.0・L26.0) 文献716

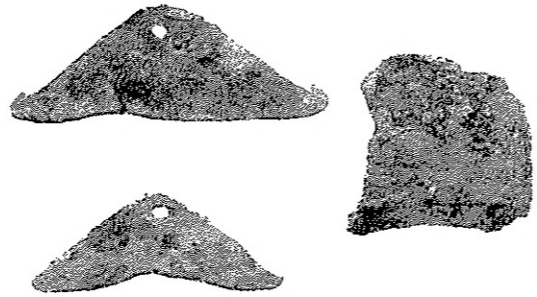
整地層中の遺構162から出土。小口的一方が平ら(平頭)で、もう一方が円形(丸頭)の金槌である。丸頭のほうは中央がやや膨らんだゆるい球面形をなす。柄の側面に鋸形の線刻が施されており、製作者か所有者を示すものと思われる。それより柄尻寄りには線状の刻みが連続してみられ、すべりどめを意図した工夫がなされているようである。(鹿野)

795 火打金・鉄釜

近世

私部南遺跡 (左上:W10.0・L3.6) 文献.865

いずれも包含層から出土。左2点は火打金で、二等辺三角形を呈し、頂部に孔があく。古来、火を起こす方法には、木と木を摩擦する方式と石や金属類を打撃してその火花で発火する方式がある。火打金は後者に属し、石と打撃して発火する道具である。右は鉄釜と思われる破片で、底部から胴部にかけての屈曲部分に相当すると推測できる。(鹿野)



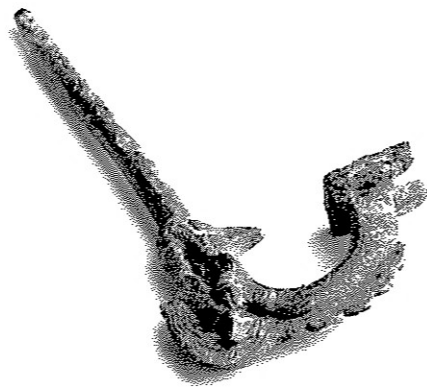
796

796 錠前

江戸

堺環濠都市遺跡 (W3.5・L6.7) 文献.803

包含層から出土。銅製錠前の牡金具である。龍をモチーフとした意匠であり、龍の口から弦部が飛び出している。龍の首には細線で鱗が陰刻され、頭部から首の背には鱗がみられる。鱗にも細い線でひだ状の文様が刻まれる。口元の下にある三角形の突起は顎髭を表現したものだらう。いわゆる海老錠とよばれる錠前に相当する。(鹿野)



797

797 刀装具

安土・桃山

大坂城跡 (W1.6・L8.2) 文献.716

3調査区から出土。小刀の柄にあたる部分のもので、小柄という。本来はこれに穂先が伴う。刀の外装(拵)の鞘口辺りに設けられた櫃に収められた。小縁の付かない棒小柄で、戸尻(柄端部)は一文字である。沈線によって3分割された区画にそれぞれ文様を線刻する。地文は魚々子である。右端の文様は北条氏の家紋の「三つ鱗」の可能性が有る。(鹿野)



798

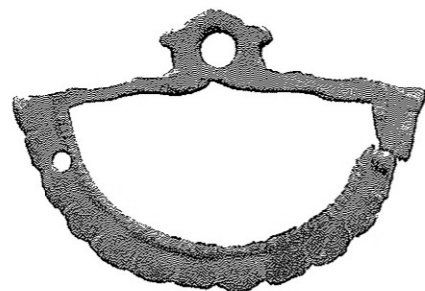
798 提子提梁座

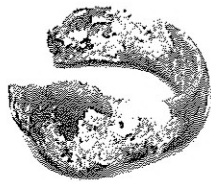
安土・桃山

津田遺跡 (W5.9・L4.0) 文献.845

上部層から出土。

背銅製の提子の提梁の座である。提子は注ぎ口がある金属製の鍋に似た容器で、持ち手部分である提梁が付く。主に酒を入れる容器として使用された。環状部の左右にある径2mmの孔に鋸を打ち本体に留める。向かって右側の孔には鋸が残っている。上部の径5mmの孔で提梁と接合したと想定される。(鹿野)

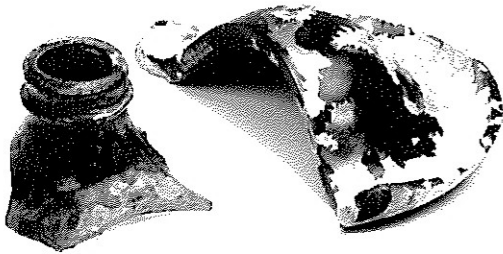




799 銀製指輪 江戸～明治
堺環濠都市遺跡 (D2.0・w0.7) 文献.802・885
埋蔵の内側から出土。

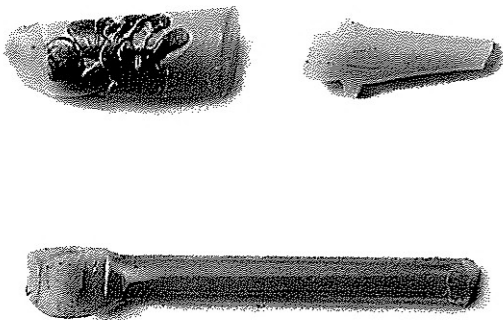
銀製とみられる指輪で、細長く板状に延ばしたものを輪にし、接合部分に円盤状の飾りを付けている。飾り部分には、六角形の文様が彫り込まれている。当時としては極めておしゃれな装飾品であり、往時における堺の繁栄度を知る資料といえる。

(鹿野)



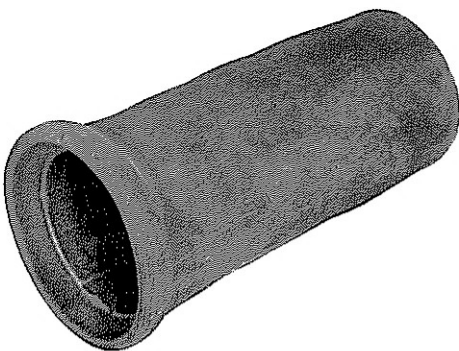
800 ワインボトル (オランダ製) 江戸
堺環濠都市遺跡 (左:RD3.6・h4.2) 文献.802

左は土坑から出土。緑色のガラス製で、口縁直下にガラス紐を巻き付けている。角瓶と思われる。右は道路側溝から出土。緑色のガラス製で、底部外面には製作時におけるポンテ竿の痕が残る。澱を溜めるために上げ底になっている。フラスコ型やオニオン型と呼ばれるワインボトルである。江戸や長崎でも発見されており、舶来品として珍重されたことであろう。(鹿野)



801 ガラス製簪 江戸
大西遺跡・若宮遺跡 (上左:ℓ2.1,上右:ℓ1.7,下:ℓ4.9) 文献.756

土坑および包含層から出土。いずれもガラス製の簪^{かんざし}である。上左は、淡青色の本体に紺色のガラスで装飾文様を施す。花をあしらったものと思われる。上右は、突起があるタイプ。下は、やや透明感のある青色を呈する。先端が耳搔き状になっている。こうしたきらびやかな簪を指に差し、華やかに飾った様子を髣髴とさせる資料である。(鹿野)

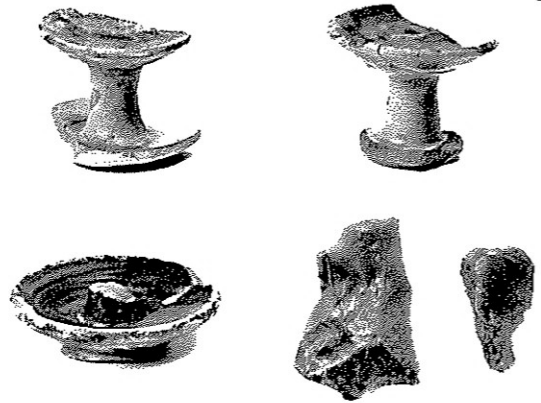


802 瓦質土管 江戸
池島・福万寺遺跡 (RD12.9・L26.1) 文献.828

井戸の最下層から出土。
瓦質の土管である。粘土紐を巻き上げる、もしくは粘土帯を積み重ねて円筒形に成形し、焼き上げたものである。一方に受け部を作り、これをいくつも接続させて導水施設とする。土管には、玉縁を付けて接続するものと、本例のようにソケットを付けて接続するものの大きく2種類が認められるようである。(鹿野)

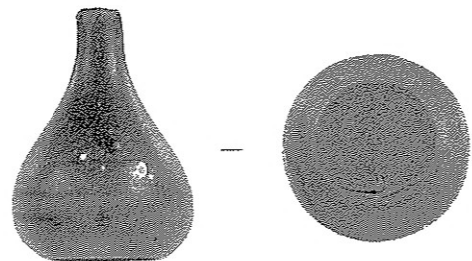
803

803 灯明皿・乗燭・火打石 江戸
大西遺跡・若宮遺跡 (左上:RD5.7, 右下:l 3.3) 文献.756
いずれも包含層および盛土から出土。上2例は白泥
釉・透明釉がかかる脚付の受付灯明皿である。この上
に皿を1枚置き、灯油を入れ芯を浸して火を灯し、垂
れた油が受けに溜まる仕組みの灯蓋である。下左は、
鉄釉がかかる乗燭である。灯油を入れた容器に直接灯
芯を置き、火を灯することができる。以上は軟質陶器製。
下右2例は緑色チャート製火打石である。 (鹿野)



804

804 ままごと道具 (ミニチュア船徳利) 江戸
小路遺跡 (BD1.8・h3.4) 文献.714
溝から出土。
船徳利のミニチュアである。ロクロ成形で作られて
おり、釉は暗褐色で胎土は密である。底部には糸切り
痕跡が明瞭に残る。江戸時代の遺跡からは様々な器の
ミニチュアが出土しており、そうしたものはいずれも、
ままごと道具とされていることから、本資料も同様に
遊玩具と位置付けられる。 (鹿野)



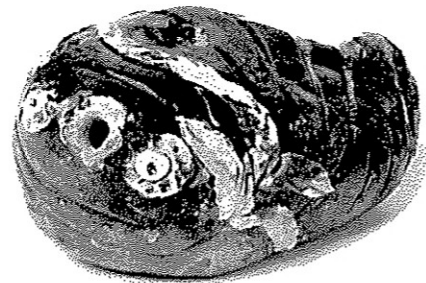
805

805 水滴 (瀬戸美濃焼) 安土・桃山
大坂城跡 (H3.0・L6.5) 文献.585
包含層から出土。
ウサギの形をし、背の中央と口に穿孔がなされた
瀬戸美濃窯の織部鉄釉の水滴である。体部は赤土を
用い、白土を貼り付けて顔や足を作る。全体に透明
釉をかけ、部分的に緑釉をかけているため、胎土の
赤色と白色、釉の緑色による三彩となっている。
(鹿野)

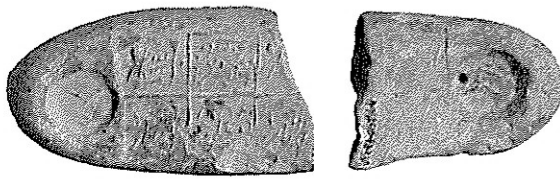


806

806 水滴 (陶器) 江戸
堺環濠都市遺跡 (W4.0・L5.6) 文献.803
第6面土坑から出土。
アワビに海草が絡みついた様子を模した陶器製の水滴
である。頂部中央とアワビ特有の貝殻の孔の一つに穿
孔がなされている。裏面以外に鉄釉がかけられ、海草
とアワビ貝殻にみられる孔の部分には白釉が施されて
いる。7.3ccの容量をもつ。805 同様、瀬戸美濃窯産の
可能性が高い資料である。 (鹿野)



807



807 銭貨模造品 江戸
瓜生堂遺跡 (左:ℓ5.8,右:ℓ4.1) 文献.875

ともに包含層から出土。
江戸時代に通用した秤量貨幣としての銀貨である丁銀を模した土製品である。丁銀は、なまこ形をしており、表面に「寶」「寶常是」「常是」の文言や大黒像の図像の極印が打たれている。本資料は、円形のくぼみのなかに「文」の一字があることから、元文丁銀もしくは文政丁銀を模したものと推定される。(鹿野)

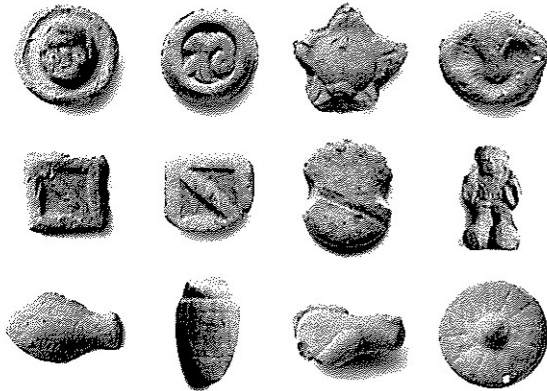
808



808 銭貨模造品 近世
池島・福万寺遺跡 (左:ℓ5.0,右:ℓ2.7) 文献.761

ともに包含層から出土。左は、807と同じく丁銀を模した土製品。同様に円形のくぼみのなかに「文」の一字があることから、元文丁銀もしくは文政丁銀を模したものと推定される。右は、文政南鐐二朱銀を模した土製品。分銅のような形をした文様の中心に孔があげられている。その下の文字は、本来「常是」となるところが「常戎」とされている。(鹿野)

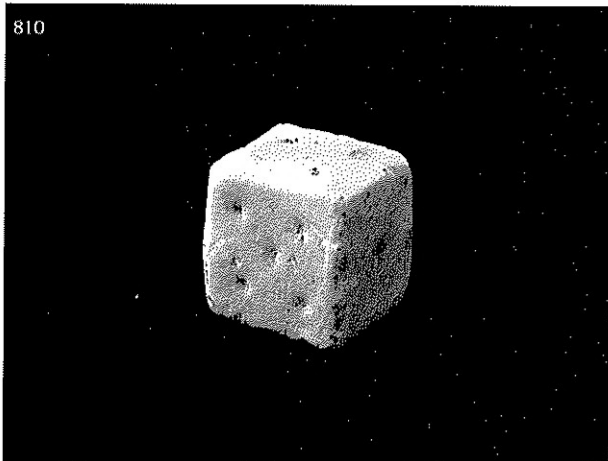
809



809 泥面子・玩具 江戸
大西遺跡・若宮遺跡 (左上:W3.0・L2.9) 文献.756

いずれも包含層から出土。
泥面子や土製玩具、土人形である。粘土で型抜きし素焼きしたものである。お多福、「ね」、分銅、大黒天、魚、イヌといったように様々な意匠がある。全て土製の遊玩具である。なかでも、泥面子を用いた遊びは、江戸時代の子供たちの中で流行った賭け事遊びとして知られる。(鹿野)

810

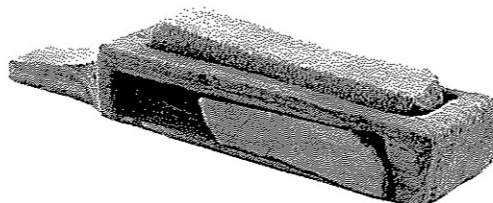


810 石製サイコロ 安土・桃山～江戸
巢本遺跡 (一辺L1.5～1.9) 文献.826

包含層から出土。
賽の目は、丸くくぼませ墨を塗布して表現されている。1の裏には6が、2の裏には5が、3の裏には4があり、目の位置は現代のサイコロと全く同じである。サイコロを使用した遊びとして双六等があげられるが、そうした遊びに興じる姿を髣髴とさせる資料である。(鹿野)

811 台付き砥石 安土・桃山
大坂城跡 (W5.2・L19.0) 文献716

大坂冬の陣の講和後に埋め戻された可能性が高い、豊臣期大坂城に関連する堀83から出土。上面と右側面の2箇所には砥石が嵌め込まれた台付の砥石である。上面は荒砥、右側面は中砥。砥石の形状に合わせ台を削り貫く。台の持ち手側面に貫通しない小穴があるが意図は判然としない。向きを違えるだけで研ぎの工程を変えることができ、極めて機能的である。(鹿野)



812 石仏 安土・桃山
津田遺跡 (左端:W24.0・L48.0) 文献845

第1面で検出された石仏列である。4体の石仏は、顔を西に向け、南北に並んで立った状態で見つかった。石仏に膝から下の表現はなく、その部分以下は土に埋まっていた。いずれも光背と像容を一石で作る光背石仏である。像容は阿弥陀如来で、左右の手を胸の下で合わせ定印(じょういん)を結んでいる。石材は、全て弱片麻状黒雲母花崗岩と鑑定されている。(鹿野)



813

813 石仏 安土・桃山～江戸
池島・福万寺遺跡 (W51.7・L44.5) 文献793

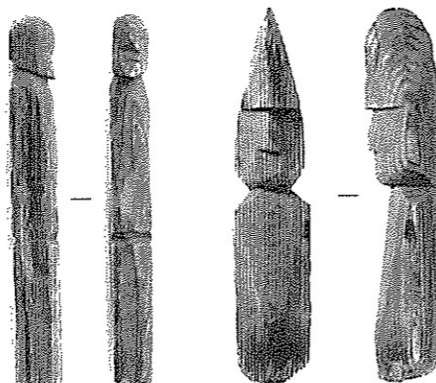
土坑から出土。石仏の彫られた面を下にして、杭を固定する支えに転用されていた。四角い石材の広い面に、2体の座像石仏を浮き彫りにしている。像容の具体はやや不鮮明であるが、立像姿の類似双仏石を参考にすれば、阿弥陀と地藏を表現したものであろうか。正面は平滑に仕上げているが、裏面の加工は粗い。石材は花崗岩である。(鹿野)



814

814 人形 江戸
堺環濠都市遺跡 (左:L14.6, 右:L14.4) 文献803

廃棄土坑から出土。左の棒状人形の頭部は、口と頤(もとが)が立体的に造形される。また、頭部直下を削り込んで頭部が表現される。右の一本作りの人形頭は、鼻と頤を作り出して顔貌を表現する。頭部正面は頂部に向けて先細りとなり、側面は半楕円形を呈しており、烏帽子を表現しているものと考えられる。これらは厄除けや祈禱に用いたものであろうか。(後川)



815



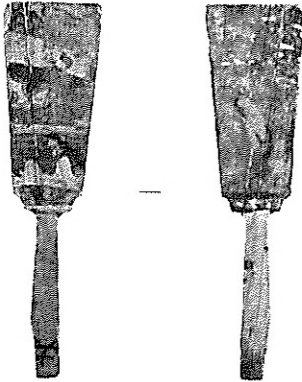
815 傘
大坂城跡

安土・桃山

(w15.0・ℓ65.6) 文献.716

堀から出土。傘の部材は、骨と柄の一部、^{てもとろくろ}手元轆轤が遺存した。骨は柿渋様の黒色塗料を塗布した竹製で、手元轆轤と柄は木製である。柄は黒漆塗りだが、下端は漆が塗布されず先細りに削られる。下端は柄の継ぎ部分にあたるため、金具が装着されていた可能性がある。手元轆轤を柄上部に押し上げると、時代劇でもお馴染みの傘が開く。
(後川)

816



816 羽子板
大坂城跡

安土・桃山

(W7.6・L28.2) 文献.716

堀から出土。表・裏・側面ともに彩色がみられる。表面は墨と顔料で描かれた絵柄が残存し、顔料は一部剥落する。彩色は3色以上の顔料を使用しており、衣冠束帯の男性像と女性像が描かれている。男性像は冠を墨で、顔面はおそらく顔料で、束帯は墨で輪郭を描く。女性像は髪を墨で、顔面と着物は墨で輪郭を描く。裏面中央には鳥が描かれている。
(後川)

817



817 数珠
大坂城跡

安土・桃山

(各珠:D1.6~1.8) 文献.716

墓から出土。108点の玉で構成される。球形に近い種実を穿孔し、数珠として用いた。T字形に穿孔された2点の辻玉は、母珠である。この数珠は、人骨の手首付近から出土しており、もともとその手首にかけられていたものと考えられる。人骨は老婆とされており、一緒に副葬された銭貨6枚を入れた漆器椀とともに、この老婆の死出の持ち物であった。
(後川)

818



818 将棋駒
大坂城跡

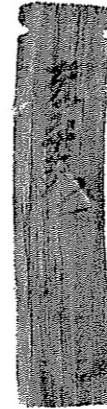
安土・桃山

(W2.6・L3.1) 文献.716

堀を埋めた整地層から出土。「金将」の将棋駒である。文字は漆書で隆起しており、駒の平面形状に合わせて、「金」よりも「将」の文字を大きく用いて、ズッシリとした重量感を字面に醸し出している。当時の一級品である水無瀬駒の特徴を有し、駒尻が厚く、流麗な文字である。下部の小さな欠損は、ネズミなどの齧歯類に齧られたものである。
(後川)

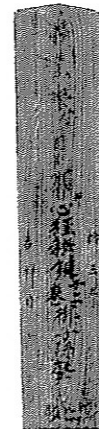
819 木簡 安土・桃山
大坂城跡 (W3.3・L13.7) 文献716

堀から出土。荷札木簡で、表面上方には「菅平右衛門様」、下方には「赤右衛門」とも読める人名が書かれる。菅平右衛門は、豊臣水軍の将として活躍するが、関ヶ原の戦いに敗れた後は、藤堂高虎の傘下となる。藤堂家の文書には、慶長19(1614)年12月26日に、藤堂高虎と大坂城の堀の埋め戻しをめぐって口論となり切腹した記事が残る。(後川)



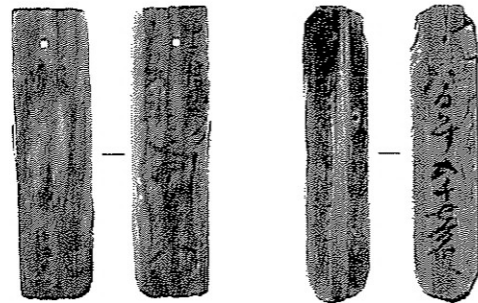
820 木簡 安土・桃山
大坂城跡 (W11.3・L52.2) 文献716

堀から出土。中央最上には梵字の「ウン」、以下は「奉持日天尊并心経秘鍵十二卷御子孫繁昌処」と書かれる。また、右側に「慶長拾三年」、左側に「極月吉祥日」と年月が記される。慶長13(1608)年12月のある日、子孫繁栄を祈って日天尊にかかわる經典ならびに心経秘鍵(空海が書いた般若心経の解説)を読んで、祈った折の御札である。(後川)



821 木簡 安土・桃山
大坂城跡 (左:L9.7,右:L12.9) 文献567

包含層から出土。左の長方形のものは、「申三月廿五日」「刑マ右衛門」と墨書される。「申」は慶長元(1596)年である可能性が高い。右の下端部が丸いものは、「十二月」「たるかす」等と墨書され、師走に運び込まれた樽の数ほかを表現する。他に出土した液用枡との関連から樽中身は液体と推測されるが、液体には酒などが候補にあげられる。樹種はヒノキ。(後川)

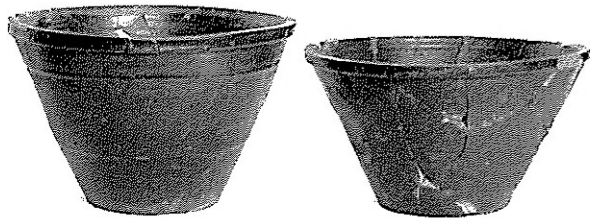


822 墨書土器 安土・桃山
堺環濠都市遺跡 (左:RD7.8,右:RD10.0) 文献802

左は焼土層から出土。底外面に和歌が墨書され、右列は「おやしきの」と判読できる。焼土層は屋敷地直上に堆積しており、和歌は在りし日の屋敷を頭句に使用したものか。右は整地土から出土。内面に五芒星、カーン(梵字)、九字(格子線)や「仁王般若経」「宇(?)賀福神」「天如□□」が書かれる。宗教・呪術的な符や文言等から地鎮に使用されたと考えられる。(後川)



831

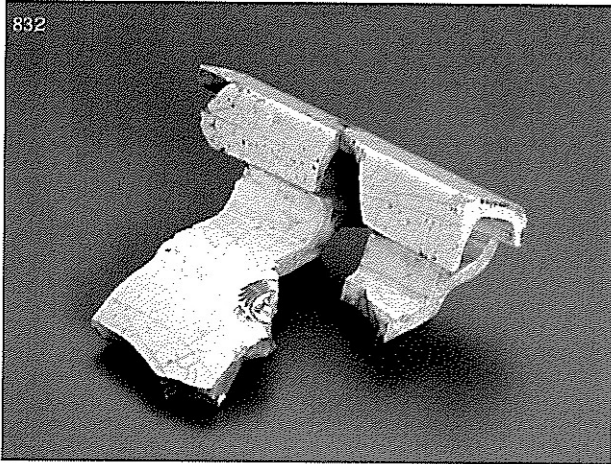


831 便槽鉢 大正～昭和
禁野本町遺跡 (左:RD57.0,右:RD60.5) 文献884

禁野火薬庫の便所から出土。両者とも陶器。左は、大正時代の職工厠の便槽鉢。体部に製作接合時の段が残る。底部外面には、何事か墨書されている。右は、昭和14～20年に存在した男便所の便槽鉢。左の鉢よりもすらっとした形態である。

両者とも内面に尿石などの付着はなく、容量はさして大きくはない。維持管理の方法が気になる。(本間)

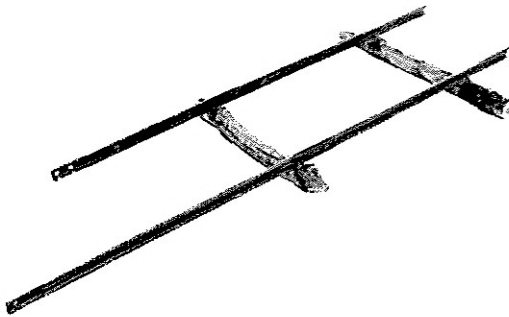
832



832 衛生陶器 明治～大正
旧大阪府庁舎跡 (h12.5・w14.0) 文献881

大正5年増改築竣工棟の煉瓦造柵内から出土。手洗いと考えられる。外面のロゴは半分ほどしか残存しないが、類例が明治41年竣工の福島県猪苗代町在の旧有栖川宮家別邸天鏡閣に設けられた客室便所の腰掛便器にある。それはNとSのイニシャルにウイングとクラウンのマークが付くもので、本例も同様と考えてよい。同ロゴの国内確認はこれらのみである。(市村)

833



833 レール・枕木 昭和か
下池田遺跡 (レール:H44・W3.6) 文献835

煉瓦用粘土採掘坑から出土。トロッコ用「4kgレール」と枕木である。軌間約66cm、径7～8cmのアカマツ製枕木の両端に孔があり、そこに犬釘を打ちレールを締結する。昭和10年前後の地形図には、海側の大阪窯業岸和田工場から東へのびる軽便軌道が描かれている。本レールはそれにつながる支線用で、泉州地域の個別具体的な煉瓦製造の一端が窺える。(市村)

834



834 煙管 明治か
久宝寺遺跡 (W1.0・L11.6) 文献759

耕作土層から出土。

煙管は、雁首と羅宇と吸口からなる羅宇煙管が一般的だが、これは全体が真鍮製で、胴部断面が角形の延べ煙管。表面に旭日旗と「大勝利」の線刻がみられる。旭日旗は、日章と16条(本例では19条あり)の旭光を用いて明治初期に陸軍の軍旗として制定された。日清戦争あるいは日露戦争の記念品か。(本間)

835 砲弾関連品集合 昭和
 禁野本町遺跡 (中央奥:BD14.7・h35.0) 文献.712
 禁野火薬庫の各所から出土。

本遺跡の2度の発掘調査では、砲弾やその破片が約900点も出土した。日本陸軍のものを主体とするが、なかには輸入品や鹵獲品も存在する。

検出した砲弾破片の大多数は、自発的な爆発というよりは外部からの刺激によるものであるために、概して破片が大きく完形に近いものもあった。(本間)




836 砲弾関連品集合 大正～昭和
 禁野本町遺跡 (右奥:BD12.0・H24.3) 文献.884

禁野火薬庫の熔填作業場や箱詰作業場などから出土。底径1.2～14.0cmの薬莖である。中央手前にある径約8cmのものは九二式歩兵砲の薬莖であろう。底部中央に爆管が入ったままのもの、底部に製造所(大阪陸軍造兵廠など)・製造年(大正3年～昭和14年)・材質(真鍮など)が刻印されたもの、内部に絹や麻製の薬包が残っていたものもある。(本間)

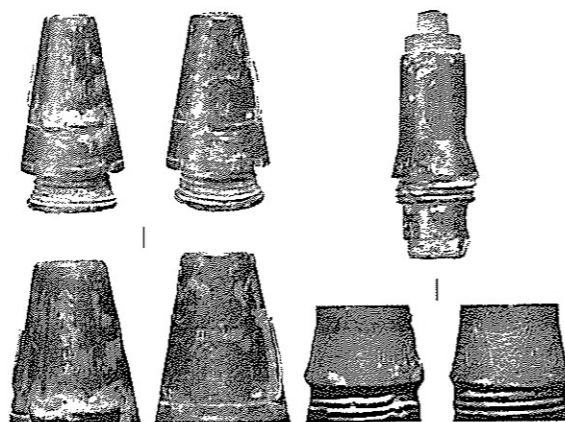


837 砲弾関連品 昭和
 禁野本町遺跡 (左:MD3.1,右:MD2.9) 文献.712

2点とも禁野火薬庫の火工場周辺から出土。

左は八八式瞬発信管。「八八式 野山加」「昭十三 11」「阪」「」(大阪陸軍造兵廠を示す)の刻印がある。爆発の衝撃でネジ切り部がゆがむ。真鍮製。

右も信管か。径0.7cmの穴が2個、ネジ切りが3箇所ある。中華民国24(1935)年を表す「廿四年十月廿四日」が右横書きされる。真鍮製。(本間)



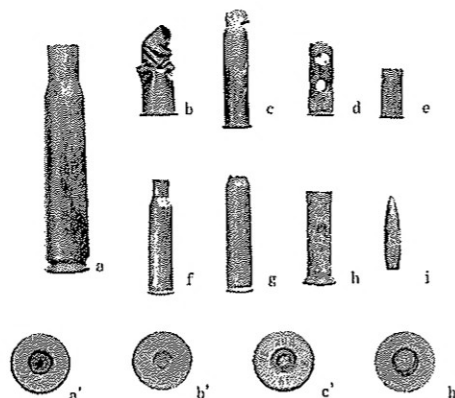
838 砲弾関連品 昭和
 禁野本町遺跡 (a:MD2.0・H9.9) 文献.712

禁野火薬庫の各所から出土。

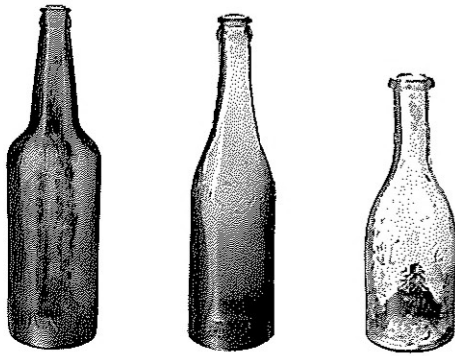
a・f・gは薬莖。iは鉛製の小銃弾頭。下部に幅0.1cmの溝があり弾帯が装着されていたと推測できる。その他は撃発式雷管。いずれも真鍮製。

薬莖や雷管の底面中央に打撃を与えるための鉤があり、周囲には簡略に各種情報が刻印されている。

(本間)



839



839 ガラス瓶 明治～昭和
吹田操車場遺跡 (左:H28.8, 中:H24.0, 右:H15.0) 文献873

いずれも上部層から出土。左は大日本麦酒株式会社製ビール瓶、中は有馬鉾泉銘サイダー瓶。調査地近接のアサヒビール(吹田工場)は、明治39年～昭和24年に大日本麦酒だった。その大日本麦酒は、有馬鉾泉を買収した日本麦酒鉾泉を昭和8年に買収しており、中例は買収後にブランド名として有馬鉾泉を使用したものか。右は萩乃家銘の牛乳瓶。(市村)

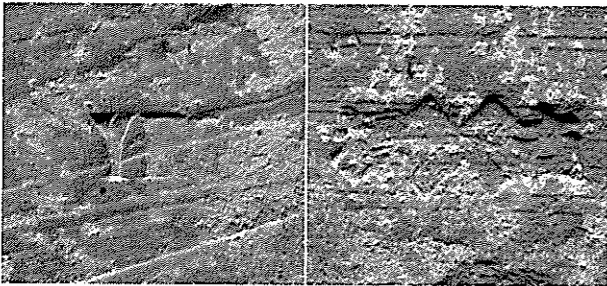
840



840 煉瓦 明治
旧大阪府庁舎跡 (左:L23.8, 右:L23.1) 文献881

左は明治7年竣工棟、右は大正5年増改築竣工棟から出土。刻印はともに「はんふじゅさんしょ」と読み、明治5・6年にのみ存在した授産所出張授産所での製造と考えうるが、銘意匠の違いの意味は不明である。右例は増改築時に転用されたものである。明治7年竣工府庁舎の使用煉瓦の具体や、当時の大阪での煉瓦製造の詳細を知るうえで貴重資料である。(市村)

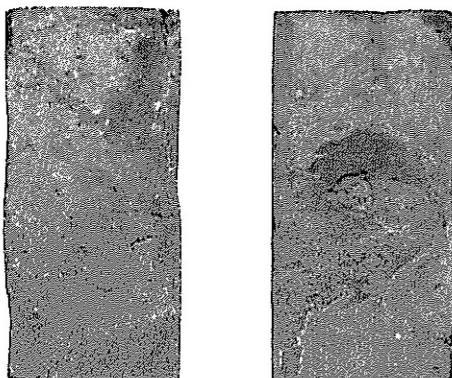
841



841 煉瓦(刻印) 明治～大正
旧大阪府庁舎跡 (左:Y字L0.8, 右:刻印L4.0) 文献881

左は大正5年増改築竣工棟、右は上層から出土。左は「YEGAWA」銘の前半のみ残存。同銘は明治4年竣工の造幣寮^{せんぱくかん}布観(大阪市)で確認できる。つまり府庁新築に造幣寮残品を使用し、さらに府庁改築にも転用した煉瓦となる。右は「標×商」銘の岸和田煉瓦で、類例は大正3年以前とされる同志社女子大学ジェームズ館(京都府)にあり府庁の増改築期とあう。(市村)

842



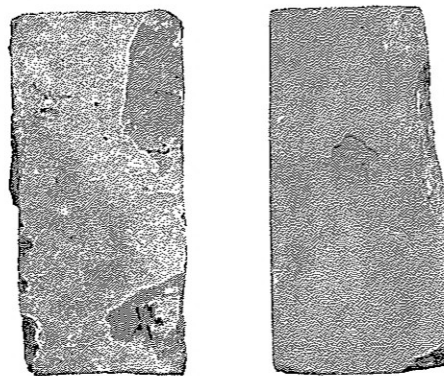
842 煉瓦 大正
旧大阪府庁舎跡 (左:L22.3, 右:L23.1) 文献881

ともに大正5年増改築竣工棟から出土。左は岸和田煉瓦株式会社製で、社印の「×」印刻印が残る。機械成形によるため、^{おさ}平(最広面)にケズリ痕がある。右は大阪窯業株式会社製で、社印の「○」印刻印が残る。機械を用いない手抜き成形である。843も含めこれらから、大正5年竣工の増改築に際して使用された煉瓦のバリエーションを知ることができる。(市村)

843

843 煉瓦 大正
旧大阪府庁舎跡 (左:L22.1,右:L23.0) 文献881

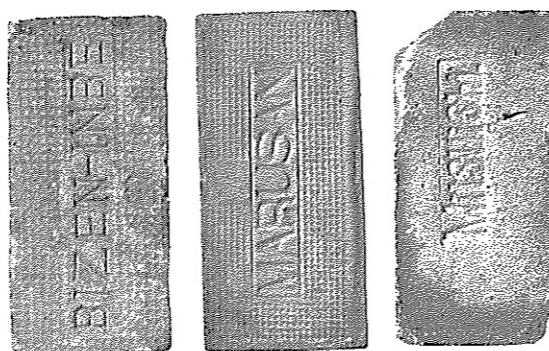
ともに大正5年増改築竣工棟から出土。左は堺煉瓦株式会社製で、社印の「火」印は平(最広面)の端部ぎわに施される。他の煉瓦より胎土に砂礫が目立つ。右は日本煉瓦株式会社製で、「凸」印の刻印を社印とし、そのなかに数字や文字等が確認できる。大阪は国内煉瓦製造において主要位置を占めたが、842も含めこの4社は府内でも名の知れた会社だった。(市村)



844

844 耐火煉瓦 大正
旧大阪府庁舎跡 (左:L23.6,中:L23.3,右:L23.2) 文献881

いずれも大正5年増改築竣工棟から出土。左は「BIZEN-INBE」銘で、岡山県備前陶器株式会社か日本窯業備前支社製、中は「MARUSAN」銘で、大阪市丸三耐火煉瓦製造所製、右は「Mitsubishi」銘で、岡山県三石耐火煉瓦株式会社か三石名を冠する某社製であろう。これらが、旧大阪府庁舎跡の大正期暖炉に用いられた耐火煉瓦を製造した主要3社である。(市村)



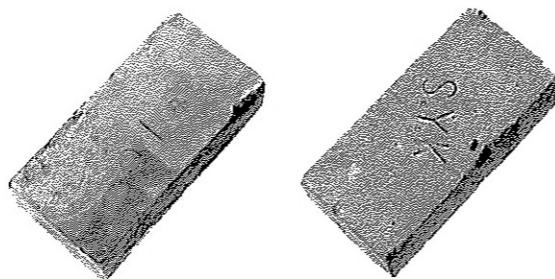
845

845 煉瓦・耐火煉瓦 明治～大正か
禁野本町遺跡 (左:L22.8,右:L22.9) 文献712

禁野火薬庫の火薬庫や土塁先端の煉瓦構造物などから大量に出土。数的には、大阪窯業株式会社と岸和田煉瓦株式会社の製品が主体を占める。

左は大阪窯業株式会社の製品。平(最広面)に社印+縦棒+「チ」が横書き方向で押印される。

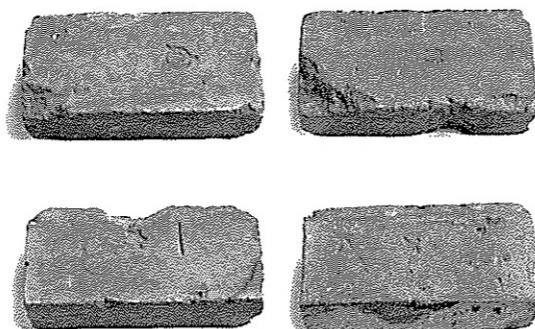
右は唯一の耐火煉瓦。平に山陽窯業株式会社を示す「S.Y.K」と、小口に「竹カ」が押印される。(本間)

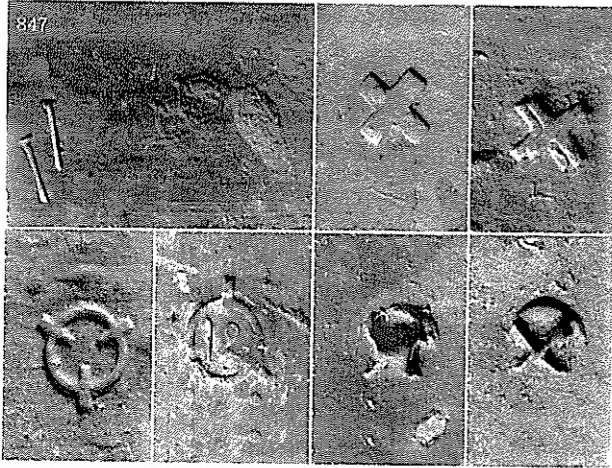


846

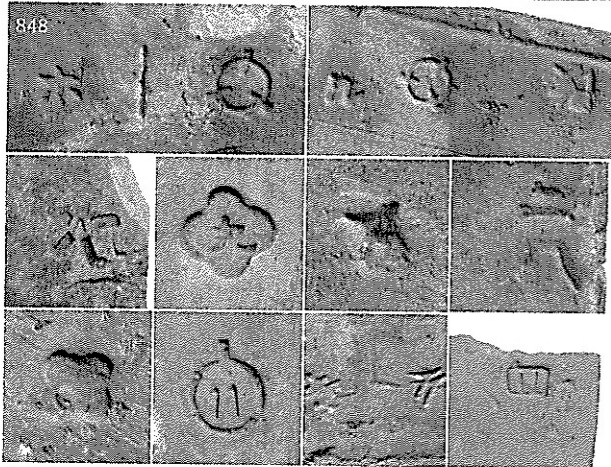
846 煉瓦 明治～大正か
禁野本町遺跡 (L22.7～23.0) 文献884

禁野火薬庫の各所から出土。左上は大阪窯業株式会社、右2点は岸和田煉瓦株式会社、という出土数の多い2社製品。左下は六芒星が刻印されるが製作所不明。他に日本煉瓦株式会社や堺煉瓦株式会社などの製品が少数ある。これらのサイズは、大正13年制定の日本標準規格(長さ210mm、幅100mm、厚さ60mm)よりも長さや幅が1割ほど大きなものが多い。(本間)



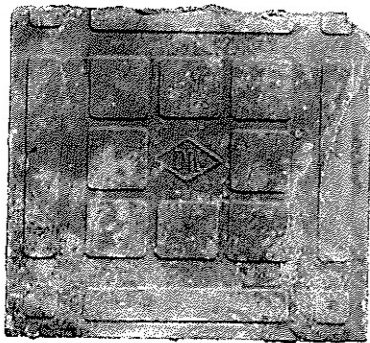


847 煉瓦刻印各種 明治～大正か
 禁野本町遺跡（刻印-左下:L2.7,右上:L2.0）文献712
 禁野火薬庫の各所から出土。製作所は、刻印で判明する。左3点は、「O」と「Y」を組み合わせたような大阪窯業の社印。うち上例は社印が二重にさらに釘が2本押される。右4点は、十文字あるいは×に似た岸和田煉瓦の社印。うち上2例は普遍的な十文字のタイプで、下2例は手描きの×に似ており、押印が不完全なために「L」字状に見えることもある。（本間）



848 煉瓦刻印各種 明治～大正か
 禁野本町遺跡（刻印-左下:L2.8,右下:L1.5）文献884
 禁野火薬庫の各所から出土。平成22・23年度調査の検出煉瓦のうち観察・計測できたものは419点で、うち社印など刻印のある例が325点（78%）も占める。各社刻印は、上段が大阪窯業、中段左から堺煉瓦、日本煉瓦、岸和田煉瓦、不明、下段左から日本煉瓦、大阪窯業、岸和田煉瓦、不明。仔細に観察すると、社印の変形や、線や文字の付加もみられ興味深い。（本間）

849



849 タイル（淡陶製） 昭和
 旧大阪府庁舎跡（w15.2・ℓ14.0）文献881
 大正5年増改築竣工棟から出土。裏面中央の菱形とその内側のDKマークは、淡陶製品であることを示す。同社は、明治18年設立で、兵庫県北阿万村（現、南あわじ市）に製造工場がある。発掘調査も行われており、同社タイルは編年研究が進んでいる。この製品は昭和戦前頃のもので、府庁舎後に設けられた工業奨励館に伴うタイルである。（市村）

850

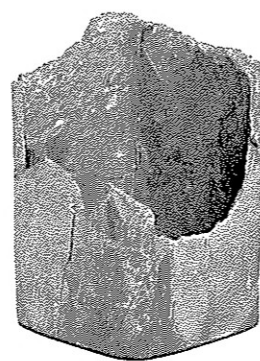


850 土管 明治
 旧大阪府庁舎跡（RD19.0・H34.0）文献881
 明治7年竣工棟の中央ドーム部切石間から出土。
 L字状曲管で、両端に通常の土管が接続していた。旧府庁舎で象徴的であった中央ドームからの雨水を、ドーム直下で東西方向に築かれた暗渠へ排水する中継部分にあたる土管であろう。明治新築時に設置されたと推定できる。生産地は不明だが、常滑産ではない。堺産の可能性もあるが不明確である。（市村）

851 煙突 大正
旧大阪府庁舎跡 (h27.3・w18.3) 文献.881

大正5年増改築竣工の南翼から出土。

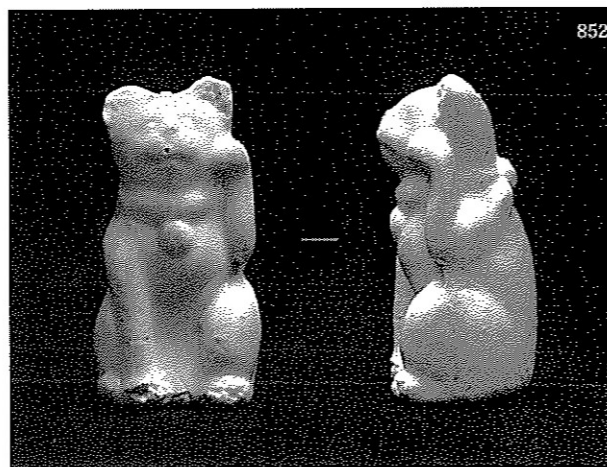
暖炉に伴う煙突（煙道管）である。北翼では土管を煙突に使用する暖炉があったが、本例は暖炉煙突専用の土製品である。類例が、明治21年竣工、同42年増築の、栃木県那須塩原市所在の旧青木周蔵那須別邸にある。本品はそれとは形態をやや異にするが、例の少ない国産と考えられる煙道管の新例を加えた。（市村）



852 白磁招き猫 近世～近代
若山遺跡 (H6.9・W3.7) 文献.855

近世以降と考えられる用水路から出土。

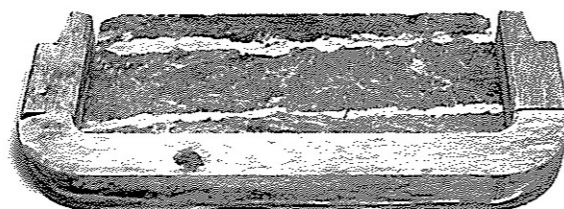
招き猫は、江戸期の遅くとも幕末には存在したと考えられている。上げる手や色調により、様々ないわれがあるという。近年の招き猫は手前に小判をあしらった形態が多いが、本例は非常にシンプルな造形である。白磁であることから、その大規模生産地である瀬戸産の可能性はある。（市村）



852

853 暖炉石材 大正
旧大阪府庁舎跡 (W98.9・L51.5) 文献.881

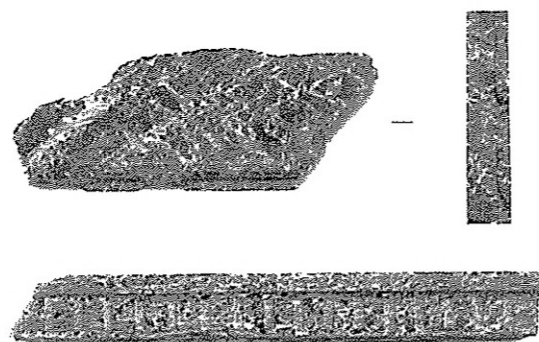
大正5年増改築竣工の南翼から出土。暖炉の焚口前面に設置された石材である。いわゆる大理石である結晶質石灰岩製で、左側、右側、正面と、それらの間の板石の計四つのパーツで構成される。調査で確認できた旧府庁暖炉前面の石材の確実な例はこれのみだが、同様な形状の痕跡が現地で確認できており、いずれの暖炉にもこのような石材が配されたのだろう。（市村）



853

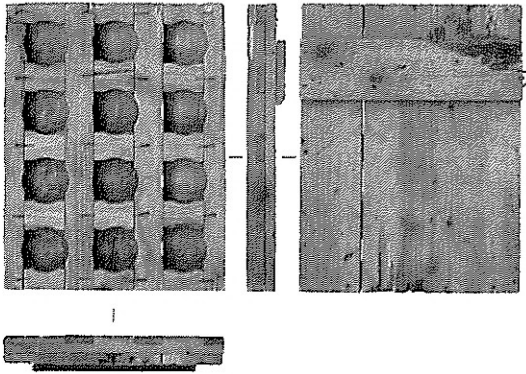
854 石製品（装飾材） 大正か
旧大阪府庁舎跡 (上:ℓ41.5,下:ℓ47.0) 文献.881

大正5年増改築竣工の南翼から出土。853と部位は異なり具体的な位置は不明だが、同様に暖炉を飾った石材の可能性はある。大理石の一種である礫質石灰岩製で、2点とも端面に細かい加工が施される。機能時に正面となるのは、上例が幅1.5cmの断面方形の溝が彫られる側、下例が長辺2.7cm、短辺9mmの長方形くぼみが連続して施されている側と考えられる。（市村）



854

855

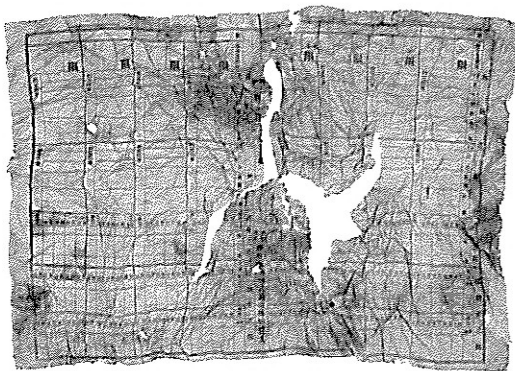


855 砲弾保管台 昭和
禁野本町遺跡 (W38.5・L50.5) 文献.884

禁野火薬庫の昭和14年爆発後の層から出土。

底板とする板材の上に、砲弾の側面にあわせて弧状に切り込みを入れた複数の板材を巧みに組み合わせ、径約8cm、深さ約3cmの穴を12個作り出している。ビールケースのように、ここに口径3インチ(7.62cm)ないし8cmの砲弾(あるいは薬莖)を立てて保管していたのであろう。材質はスギ。(本間)

856

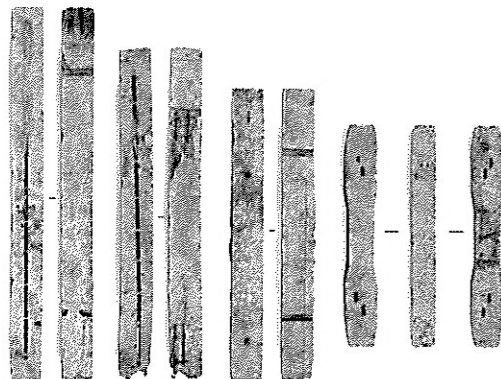


856 売買帳 大正~昭和
禁野本町遺跡 (W32.0・L24.0) 文献.884

禁野火薬庫に伴うピットから、マスクの紙箱などとも出土。B4判の紙で、中央には縦に「売買元帳」「株式会社神戸米穀株式取引所仲買人」と記され、他に「売買之部」「証拠金之部」「限月及銘柄」「約定代金」といった文字や日付を書き込む欄が多数用意されている。軍隊と民間との具体的な取引が窺える資料である。

(本間)

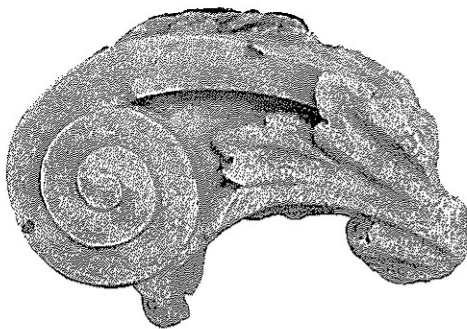
857



857 枕木 昭和
禁野本町遺跡 (左からL177, L158, L137, L105) 文献.884

禁野火薬庫の軽便軌道跡から出土。全てコンクリート製。左3本は、軌道分岐部に用いられた直方体の枕木。分岐に即して長さが異なり、犬釘の位置に融通を利かすために孔ではなく溝が切っている。右端は一般的な形状のもので、レールを受ける部分が少し太くなり犬釘用の孔が計4箇所ある。昭和2年の大阪毎日新聞の紙面が転写された枕木もあった。(本間)

858



858 柱頭飾り 大正
旧大阪府庁舎跡 (w25.2・ℓ44.0) 文献.881

大正5年増改築竣工の南翼から出土。南翼西側正面玄関の柱頭部隅に配されたと考えうる。モルタル製でアカンサス(ハアザミ)の葉をモチーフにしたコリント式と呼ばれる柱頭飾り。明治新築の柱頭飾りは詳細不明だが、大正増改築時にそれを倣い製作されたものがこれだろう。本例により、古写真等でわずかにしか確認できなかった当初品の具体像が得られた。(市村)

文 献 目 録

(財)大阪文化財センター、(財)大阪府埋蔵文化財協会、(財)大阪府文化財調査研究センター、(財)大阪府文化財センター、および(公財)大阪府文化財センターが発行した文献を年次順に記列。ただし、現地説明会資料等のパンフレット類は原則として除外した。

(七)：(財)大阪文化財センター発行、(協)：(財)大阪府埋蔵文化財協会発行、(調七)：(財)大阪府文化財調査研究センター発行、(府七)：(財)大阪府文化財センター発行、(公府七)：(公財)大阪府文化財センター発行

<u>1972年度</u>		033 泉大津助松岡地開発予定地内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
【報告書類】		034 猪名川流域下水道原田処理場拡張用地内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
001 大阪府泉南郡阪南町自然田地区埋蔵文化財分布調査報告書 (七)		035 如意谷(2)事業地区における埋蔵文化財発掘調査概略報告書 (七)
002 主要地方道枚方・富田林線・泉佐野線バイパス(大阪外環状線)予定路線内埋蔵文化財分布調査報告書 (七)		036 みどり山古墳群試掘調査報告書【逐次刊行物】 (七)
003 柏原市本堂所在亀の瀬本堂地区内埋蔵文化財分布調査報告書 (七)		037 大阪文化誌 第5号 (七)
		038 大阪文化誌 第6号 (七)
<u>1973年度</u>		<u>1977年度</u>
【報告書類】		【報告書類】
004 大阪府和泉市内田町及び唐国町所在埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)		039 藤井寺市立道明寺中学校LL教室新設工事に伴う林道跡発掘調査報告書 (七)
005 大阪府柏原市内高井田所在村本建設株式会社開発計画地区内埋蔵文化財分布調査概要報告書 (七)		040 南河内道路に関する第3回埋蔵文化財予察調査報告書 (七)
006 亀の瀬地すべり対策工事に伴う柏原市雁戸尾畑地区埋蔵文化財分布調査報告書 (七)		041 寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事に伴う亀井遺跡発掘調査報告書 (七)
007 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内亀井遺跡他2遺跡第1次発掘調査報告書 (七)		042 大阪府管水道事業第6次拡張事業揚送水管布設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書【逐次刊行物】 -高槻市二子山古墳・土保山古墳周濠確認のための調査- (七)
008 大阪府柏原市高井田所在遺跡試掘調査報告書【逐次刊行物】 (七)		043 応神陵茶山遺跡発掘調査報告書【逐次刊行物】 (七)
009 大阪文化誌 第1号【その他】 (七)		044 大阪文化誌 第7号 (七)
010 和泉の古代生活 (七)		045 大阪文化誌 第8号 (七)
		046 大阪文化誌 第9号 (七)
		047 大阪文化誌 第10号 (七)
		048 大阪文化誌 第2巻(合冊本) (七)
<u>1974年度</u>		<u>1978年度</u>
【報告書類】		【報告書類】
011 大阪府池田市伏尾地区埋蔵文化財分布調査報告書 (七)		049 長原 (七)
012 中央環状線内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)		050 池上遺跡 第2分冊 土器編 (七)
013 泉南郡熊取町埋蔵文化財分布調査報告書 (七)		051 池上遺跡 第3分冊の1 石器編 (七)
014 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内瓜生堂遺跡他5遺跡第1次発掘調査中間報告書 (七)		052 池上遺跡 第3分冊の2 石器編 (七)
015 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内遺跡第1次発掘調査報告書 (七)		053 池上遺跡 第4分冊の1 木器編 (七)
016 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内瓜生堂遺跡他5遺跡第1次発掘調査報告書 (七)		054 池上遺跡 第4分冊の2 木器編 (七)
017 都市計画道路松原～泉大津線建設予定地内遺跡試掘分布調査報告書【逐次刊行物】 (七)		055 淡輪・箱作海岸地区海岸環境整備事業に伴う田山遺跡試掘調査報告書 (七)
018 大阪文化誌 第2号 (七)		056 太子町西山地区特定土地区画整理事業予定地内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
019 大阪文化誌 第3号【その他】 (七)		057 富田林市市道伏見堂東西線新設工事予定地内明八塚周濠部試掘調査報告書 (七)
020 文化財写真集1 (七)		【逐次刊行物】
		058 大阪文化誌 第11号 (七)
<u>1975年度</u>		<u>1979年度</u>
【報告書類】		【報告書類】
021 大阪瓦斯河内ラインガス導管埋設予定地内久宝寺遺跡、城山遺跡試掘調査報告書 (七)		059 大阪府都市計画街路貝塚中央線新設工事予定地内脇浜・島中・石才近義堂遺跡試掘調査報告書 (七)
022 日本住宅公団鈴の宮団地開発計画に伴う蜂田鈴の宮遺跡発掘調査報告書 (七)		060 池上・四ツ池遺跡 第6分冊 自然遺物編 (七)
023 寺門団地他3団地開発予定地内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)		061 瓜生堂【逐次刊行物】 (七)
024 美原町真福寺所在遺跡試掘調査報告書 (七)		062 大阪文化誌 第12号 (七)
025 国道166号線バイパスに関する第2回埋蔵文化財予察調査報告書 (七)		063 大阪文化誌 第13号 (七)
026 大阪府道高速大阪松原線建設に伴う瓜破遺跡試掘調査報告書 (七)		064 大阪文化誌 第3巻(合冊本)【その他】 (七)
027 都市計画道路貝塚中央線建設予定地内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)		065 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第1回 (七)
028 大和川環境整備事業柏原地区高水敷整正工事に伴う船橋遺跡試掘調査報告書 (七)		<u>1980年度</u>
029 泉南郡阪南町島取地区埋蔵文化財分布調査報告書【逐次刊行物】 (七)		【報告書類】
030 大阪文化誌 第4号 (七)		066 亀井・城山 (七)
031 大阪文化誌 第1巻(合冊本) (七)		067 巨摩・瓜生堂【その他】 (七)
		068 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第2回 (七)
<u>1976年度</u>		069 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第3回 (七)
【報告書類】		
032 大和川環境整備事業柏原地区高水敷整正工事に伴う船橋遺跡試掘調査報告書Ⅱ (七)		

1981年度		119	長原 (その2)	(七)
	【報告書類】	120	大堀城跡Ⅱ・Ⅲ	(七)
070	亀井遺跡	121	山賀 (その5・6)	(七)
	【逐次刊行物】	122	久宝寺南 (その3)	(七)
071	大阪文化誌 第14号	123	亀井北 (その1)	(七)
	【その他】	124	亀井北 (その2)	(七)
072	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第4回	125	亀井北 (その3)	(七)
073	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第5回	126	亀井 (その2)	(七)
074	図録 考古展「河内平野を掘る」	127	城山 (その1)	(七)
		128	城山 (その2)	(七)
		129	城山 (その3)	(七)
1982年度		130	松原市観音寺遺跡第2次発掘調査概要	(七)
	【報告書類】	131	丹上遺跡 (その1)	(七)
075	大堀城跡発掘調査報告書	132	丹上遺跡 (その2)	(七)
076	田山遺跡	133	真福寺遺跡	(七)
	【逐次刊行物】	134	小阪遺跡 (その1)	(七)
077	大阪文化誌 第15号	135	向井池遺跡 報告書第1輯	(協)
	【その他】	136	別所遺跡 報告書第2輯	(協)
078	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第6回	137	阪南町内埋蔵文化財 報告書第3輯	(協)
079	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第7回	138	西大路遺跡・今木庵寺遺跡 事業報告1	(協)
080	シンポジウム 邪馬台国の謎を解く	139	堺砲台 報告書第4輯	(協)
081	10年のあゆみ	140	仏並遺跡 報告書第5輯	(協)
082	図書目録		【その他】	
		141	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第12回	(七)
		142	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第13回	(七)
		143	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第3回	(七)
		144	文化財講座資料集 1985年度	(七)
		145	河内の遺宝	(七)
		146	泉州の遺跡-昭和60年度発掘調査成果展-	(協)
		147	図書目録追録	(七)
1983年度			1986年度	
	【報告書類】		【報告書類】	
083	大堀城跡	148	新家 (その1)	(七)
084	西岩田	149	久宝寺北 (その1~3)	(七)
085	若江北	150	久宝寺南 (その1)	(七)
086	山賀 (その1)	151	久宝寺南 (その2)	(七)
087	山賀 (その2)	152	亀井 (その3)	(七)
088	山賀 (その3)	153	丹上遺跡 (その4・6)	(七)
089	山賀 (その4)	154	太井遺跡 (その1)	(七)
090	友井東 (その2)	155	太井遺跡 (その2)	(七)
091	亀井	156	太井遺跡 (その3)	(七)
092	新家 (その2)	157	福田遺跡 (その1)	(七)
093	新家 (その3)	158	小阪遺跡 (その2)	(七)
094	巨摩・若江北 (その2)	159	小阪遺跡 (その3)	(七)
095	佐堂 (その2) - I	160	小阪遺跡 (その4)	(七)
096	三田市地区特定土地区画整理事業施工地区内 片添遺跡第1次発掘調査報告書	161	河内平野遺跡群の動態 I	(七)
097	府道松原泉大津間遺跡発掘調査報告書 I	162	福瀬遺跡・仏並遺跡 事業報告 2	(協)
098	府道松原泉大津間遺跡発掘調査報告書 II	163	勝浜遺跡 報告書第6輯	(協)
099	観音寺遺跡第1次発掘調査概要報告書	164	畠中遺跡 報告書第7輯	(協)
100	成合遺跡第1次発掘調査概要	165	芝ノ垣外遺跡 報告書第8輯	(協)
	【逐次刊行物】	166	阪南丘陵埋蔵文化財 報告書第9輯	(協)
101	大阪文化誌 第16号	167	滑瀬遺跡 報告書第10輯	(協)
102	大阪文化誌 第17号	168	壱部池田遺跡 報告書第11輯	(協)
	【その他】	169	信太山遺跡 報告書第12輯	(協)
103	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第8回		【その他】	
104	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第9回	170	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第14回	(七)
105	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第1回	171	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第15回	(七)
		172	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第4回	(七)
		173	文化財講座資料集 1986年度	(七)
		174	発掘速報展 河内鎬物師の周辺	(七)
		175	第2回 泉州の遺跡-昭和61年度発掘調査成果展-	(協)
		176	弥生・古墳時代の大陸系土器の諸問題	(協)
1984年度			1987年度	
	【報告書類】		【報告書類】	
106	亀井遺跡Ⅱ	177	福田遺跡 (その2)	(七)
107	友井東 (その1)	178	丹上遺跡 (その3・5)	(七)
108	佐堂 (その1)	179	日置荘遺跡 (その1)	(七)
109	美園	180	日置荘遺跡 (その2)	(七)
110	成合寺	181	日置荘遺跡 (その3)	(七)
	【逐次刊行物】	182	日置荘遺跡 (その4)	(七)
111	大阪文化誌 第18号	183	小阪遺跡 (その5)	(七)
	【その他】	184	小阪遺跡 (その6・6-2)	(七)
112	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第10回	185	小阪遺跡 (その7・7-2)	(七)
113	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第11回			
114	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第2回			
115	文化財講座資料集 1984年度			
116	近畿自動車道大阪線遺物整理事業基本マニュアル			
1985年度				
	【報告書類】			
117	上原地区区画整理事業予定地内分布調査報告書			
118	佐堂 (その2) - II他			

186	箕土路遺跡	報告書第13輯	(協)	252	山直中遺跡Ⅱ	報告書第52輯	(協)
187	向井代遺跡	報告書第14輯	(協)	253	小田遺跡	報告書第53輯	(協)
188	三田遺跡	報告書第15輯	(協)	254	池田寺遺跡Ⅱ	報告書第54輯	(協)
189	金剛寺遺跡	報告書第16輯	(協)	255	唐国泉谷遺跡	報告書第55輯	(協)
190	脇浜遺跡Ⅱ	報告書第17輯	(協)	256	大馬遺跡	報告書第56輯	(協)
191	箱作ミノバ石切場跡	報告書第18輯	(協)	257	上町遺跡	報告書第57輯	(協)
192	貝掛遺跡	報告書第19輯	(協)	258	水込遺跡	報告書第58輯	(協)
193	井山城跡	報告書第20輯	(協)		【その他】		
194	平井遺跡	報告書第21輯	(協)	259	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第20回		(七)
195	山直中遺跡	報告書第22輯	(協)	260	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第21回		(七)
196	西大路遺跡	報告書第23輯	(協)	261	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第7回		(七)
197	山ノ内遺跡B・山直北遺跡	報告書第24輯	(協)	262	文化財講座資料集 1989年度		(七)
198	上フジ遺跡	報告書第25輯	(協)	263	第5回 泉州の遺跡 5年間の発掘調査成果		(協)
199	石才南遺跡	報告書第26輯	(協)	264	企画展 第2回発掘速報展-堺市日置荘・福田・小阪遺跡-		(七)
200	仏並遺跡Ⅱ	報告書第27輯	(協)	265	墳輪窓の検討・発表会資料 大阪の墳輪窓		(七)
	【その他】						
201	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第16回		(七)		1990年度		
202	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第17回		(七)				
203	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第5回		(七)		【報告書類】		
204	文化財講座資料集 1987年度		(七)	266	日置荘遺跡(その2-3, その6-2)		(七)
205	遺跡調査基本マニュアル		(七)	267	小阪遺跡(南その2-2)		(七)
206	山直郷とその周辺		(協)	268	大庭寺遺跡Ⅰ		(七)
207	第3回 泉州の遺跡-昭和62年度発掘調査成果展-		(協)	269	大庭寺遺跡Ⅱ・伏尾遺跡		(七)
				270	大坂城跡の発掘調査Ⅰ		(七)
	1988年度			271	池島・福万寺遺跡発掘調査概要		(七)
	【報告書類】			272	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅱ		(七)
208	小阪遺跡(その6-3)		(七)	273	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅲ		(七)
209	小阪遺跡(その7-3)		(七)	274	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅳ		(七)
210	小阪遺跡(その8-8-2)		(七)	275	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅴ		(七)
211	小阪遺跡(その9)		(七)	276	河内平野遺跡群の動態Ⅱ		(七)
212	小阪遺跡(南その1)		(七)	277	黒石遺跡	報告書第59輯	(協)
213	日置荘遺跡(その5)		(七)	278	陶邑・伏尾遺跡A	報告書第60輯	(協)
214	虫取遺跡	報告書第28輯	(協)	279	山ノ内遺跡Ⅱ・山直北遺跡	報告書第61輯	(協)
215	和泉寺遺跡	報告書第29輯	(協)	280	三ヶ山西遺跡	報告書第62輯	(協)
216	橋本遺跡	報告書第30輯	(協)	281	石才南遺跡Ⅱ・清見遺跡Ⅱ	報告書第63輯	(協)
217	清見遺跡	報告書第31輯	(協)	282	池園遺跡Ⅱ	報告書第64輯	(協)
218	湊海岸遺跡	報告書第32輯	(協)	283	池田寺遺跡Ⅲ	報告書第65輯	(協)
219	岡中西遺跡	報告書第33輯	(協)	284	加治・神前・高申遺跡	報告書第66輯	(協)
220	山ノ内遺跡A	報告書第34輯	(協)	285	母山遺跡	報告書第67輯	(協)
221	岩瀬遺跡Ⅱ	報告書第35輯	(協)	286	中間遺跡	報告書第68輯	(協)
222	今木遺跡	報告書第36輯	(協)	287	脇浜遺跡Ⅲ	報告書第69輯	(協)
223	山田海岸遺跡	報告書第37輯	(協)		【逐次刊行物】		
224	羽倉崎遺跡	報告書第38輯	(協)	288	御大阪文化財センター通信 Na.4・5		(七)
225	福瀬遺跡	報告書第39輯	(協)	289	御大阪文化財センター通信 Na.6		(七)
226	高向遺跡	報告書第40輯	(協)		【その他】		
227	陶邑・大庭寺遺跡	報告書第41輯	(協)	290	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第22回		(七)
	【逐次刊行物】			291	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第23回		(七)
228	御大阪文化財センター通信 Na.1		(七)	292	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第8回		(七)
229	御大阪文化財センター通信 Na.2		(七)	293	文化財講座資料集 1990年度		(七)
230	御大阪文化財センター通信 Na.3		(七)	294	御大阪文化財センター考古学ブックス-考古学者の考古学		(七)
231	大阪府埋蔵文化財協会研究紀要 1		(協)		1991年度		
	【その他】						
232	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第18回		(七)		【報告書類】		
233	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第19回		(七)	295	小阪遺跡		(七)
234	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第6回		(七)	296	大坂城跡の発掘調査2		(七)
235	文化財講座資料集 1988年度		(七)	297	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅵ		(七)
236	大阪文化財論集		(七)	298	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅶ		(七)
237	第4回 泉州の遺跡-昭和63年度発掘調査成果展-		(協)	299	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅷ		(七)
				300	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅸ		(七)
	1989年度			301	河内平野遺跡群の動態Ⅴ		(七)
	【報告書類】			302	経部池西遺跡Ⅲ	報告書第70輯	(協)
238	太井遺跡(その4ほか)・日置荘遺跡(その1-2)		(七)	303	池田寺遺跡Ⅳ	報告書第71輯	(協)
239	日置荘遺跡(その2-2・その6)		(七)	304	陶邑・伏尾遺跡AⅡ	報告書第72輯	(協)
240	小阪遺跡(南その2)		(七)	305	吉井遺跡	報告書第73輯	(協)
241	貝の池遺跡 事業報告3		(協)	306	兵主庵寺跡	報告書第74輯	(協)
242	池園遺跡	報告書第42輯	(協)		【逐次刊行物】		
243	池田寺遺跡	報告書第43輯	(協)	307	御大阪文化財センター通信 Na.7		(七)
344	伏尾遺跡B	報告書第44輯	(協)	308	御大阪文化財センター通信 Na.8		(七)
245	二俣池北遺跡・上フジ遺跡	報告書第45輯	(協)	309	大阪文化財研究 創刊号		(七)
246	平井遺跡Ⅱ	報告書第46輯	(協)	310	大阪文化財研究 第2号		(七)
247	三軒屋遺跡	報告書第47輯	(協)		【その他】		
248	高向遺跡Ⅱ	報告書第48輯	(協)	311	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第24回		(七)
249	福瀬遺跡Ⅱ	報告書第49輯	(協)	312	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第25回		(七)
250	陶邑・大庭寺遺跡Ⅱ	報告書第50輯	(協)	313	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第9回		(七)
251	経部池西遺跡Ⅱ	報告書第51輯	(協)	314	文化財講座資料集 1991年度		(七)
				315	図録 大坂城跡の調査 1		(七)

- 316 第6回 泉州の遺跡－平成2年度発掘調査成果展－ (協)
- 317 日根荘とその周辺－空港関連事業の調査から－ (協)
- 318 シンポジウム日根荘総合調査が語るもの
－中世荘園世界の解明をめざして－ (協)

1992年度

【報告書類】

- 319 巨摩・若江北 (その3) (七)
- 320 新家 (その5) (七)
- 321 河合遺跡 (七)
- 322 伏尾遺跡Ⅱ (七)
- 323 都市計画道路大阪モノレール建設に伴う
和道遺跡発掘調査概要報告書 (七)
- 324 一般府道本堂高井田線改良工事に伴う
菅谷地区埋蔵文化財分布調査報告書 (七)
- 325 池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅲ (七)
- 326 河内平野遺跡群の動態Ⅵ
【逐次刊行物】 (七)
- 327 大阪文化財センター通信 No.9 (七)
- 328 大阪文化財研究 第3号 (七)
- 329 大阪文化財研究 第4号 (七)
- 330 大阪文化財研究 20周年記念増刊号 (七)
- 331 研究紀要 Vol.1 (七)
- 【その他】 (七)
- 332 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第26回 (七)
- 333 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第27回 (七)
- 334 近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第10回 (七)
- 335 文化財講座資料集 1992年度 (七)
- 336 図録 大坂城跡の調査 2 (七)
- 337 みる・きく・ふれるの原始・古代のコメ作り
－農耕の技術とまつり－ (七)
- 338 図録 農耕の技術とまつり－池島・福万寺遺跡の調査から－ (七)
- 339 20年のあゆみ (七)
- 340 第7回 泉州の遺跡－平成3年度の調査成果から－ (協)

1993年度

【報告書類】

- 341 大坂城跡の発掘調査3 (七)
- 342 瓜生堂遺跡発掘調査報告 (七)
- 343 清堂遺跡 (七)
- 344 丹上遺跡 (その8) (七)
- 345 新金岡更池遺跡 (七)
- 346 宮の前遺跡・螢池東遺跡・螢池西遺跡 (七)
- 347 陶邑・大庭寺遺跡Ⅲ 報告書第75輯 (協)
- 348 大西・中間遺跡Ⅱ 報告書第76輯 (協)
- 349 仏並遺跡Ⅲ 報告書第77輯 (協)
- 350 芝ノ垣外遺跡Ⅱ 報告書第78輯 (協)
- 351 日根野遺跡 報告書第79輯 (協)
- 352 上フジ遺跡Ⅲ・三田古墳 報告書第80輯 (協)
- 353 三ヶ山西遺跡Ⅱ 報告書第81輯 (協)
- 354 中間遺跡Ⅲ・上町東遺跡 報告書第82輯 (協)
- 355 男里遺跡 報告書第83輯 (協)
- 356 上町遺跡Ⅱ 報告書第84輯 (協)
- 357 日根荘総合調査報告書 (協)
- 【逐次刊行物】 (七)
- 358 大阪文化財センター通信 No.10 (七)
- 359 大阪文化財センター通信 No.11 (七)
- 360 大阪文化財研究 第5号 (七)
- 361 大阪文化財研究 第6号 (七)
- 362 大阪府埋蔵文化財協会研究紀要2 (協)
- 【その他】 (七)
- 363 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第28回 (七)
- 364 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第29回 (七)
- 365 近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第11回 (七)
- 366 文化財講座資料集 1993年度 (七)
- 367 図録 大坂城跡の調査 3 (七)
- 368 第8回 泉州の遺跡－須恵器の始まりをさぐる－ (協)

1994年度

【報告書類】

- 369 大坂城跡の発掘調査4 (七)
- 370 福田遺跡 (七)
- 371 日置荘遺跡 (七)
- 372 池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅴ (七)

- 373 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅤⅠ (七)
- 374 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅤⅡ (七)
- 375 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅤⅢ (七)
- 376 丹上 (その7)・観音寺 (その3) (七)
- 377 丹上遺跡 (その9)・観音寺遺跡 (その4) (七)
- 378 巨摩・若江北遺跡発掘調査報告－第4次－ (その4) (七)
- 379 野々井遺跡 報告書第85輯 (協)
- 380 野々井西遺跡・ON 231号窯跡 報告書第86輯 (協)
- 381 三軒屋遺跡Ⅱ 報告書第87輯 (協)
- 382 棚原遺跡 報告書第88輯 (協)
- 383 末廣遺跡・中間遺跡・松原遺跡 報告書第89輯 (協)
- 384 陶邑・大庭寺遺跡Ⅳ 報告書第90輯 (協)
- 385 志紀遺跡 報告書第91輯 (協)
- 386 東奈良遺跡 報告書第92輯 (協)
- 【逐次刊行物】 (七)
- 387 大阪文化財センター通信 No.12 (七)
- 388 大阪文化財センター通信 No.13 (七)
- 389 大阪文化財研究 第7号 (七)
- 390 大阪文化財研究 第8号 (七)
- 391 研究紀要 Vol.2 (七)
- 392 大阪府埋蔵文化財協会研究紀要3 (協)
- 393 大阪文化財センター考古学ブックス2－大阪考古学文獻目録 (七)
- 394 大阪文化財センター考古学ブックス3－静古雑録
【その他】 (七)
- 395 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第30回 (七)
- 396 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第31回 (七)
- 397 近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第12回 (七)
- 398 文化財講座資料集 1994年度 (七)
- 399 図録 大坂城跡の調査 4 (七)
- 400 古代の木の道具展 (七)
- 401 図書目録 (七)
- 402 第9回 泉州の遺跡展
－平成5年度発掘調査成果・堺市下田遺跡の銅鐸と木製品－ (協)
- 403 10年のあゆみ (協)

1995年度

【報告書類】

- 404 西大井遺跡 報告書第1集 (調七)
- 405 新家遺跡 第6次発掘調査報告書 報告書第2集 (調七)
- 406 中嶋遺跡他 3区・8～13区 報告書第3集 (調七)
- 407 久宝寺遺跡・竜華地区 試掘調査報告書 報告書第5集 (調七)
- 408 久宝寺遺跡・竜華地区 (その1) 発掘調査報告書 報告書第6集 (調七)
- 409 植田池・長滝・安松遺跡 報告書第7集 (調七)
- 410 太井遺跡 報告書第8集 (調七)
- 411 陶邑・大庭寺遺跡Ⅴ 報告書第10集 (調七)
- 412 余部遺跡 報告書第11集 (調七)
- 413 深井清水町遺跡 報告書第12集 (調七)
- 414 史跡 池上曾根 95 (調七)
- 415 大坂城跡の発掘調査5 (調七)
- 416 大坂城跡の発掘調査6 (調七)
- 417 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅤⅣ (調七)
- 418 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅤⅤ (調七)
- 419 河内平野遺跡群の動態Ⅲ
【逐次刊行物】 (調七)
- 420 大阪文化財研究 統合記念第9号 (調七)
- 421 O C C H 大文研通信 No.1 (調七)
- 422 O C C H 大文研通信 No.2 (調七)
- 423 O C C H 大文研通信 No.3 (調七)
- 【その他】 (七)
- 424 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第32回 (調七)
- 425 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第33回 (調七)
- 426 文化財講座資料集 1995年度 (調七)
- 427 摂河泉発掘資料精選 (調七)
- 428 考古学から災害と復興を考える (調七)
- 429 図録 大坂城跡の調査 5 (調七)
- 430 発掘速報展 大阪'96 (調七)

1996年度

【報告書類】

- 431 粟生岩阪遺跡 報告書第4集 (調七)
- 432 安成川総合開発事業に伴う文化財等総合調査中間報告書 報告書第9集 (調七)
- 433 土井の木遺跡発掘調査報告書 報告書第13集 (調七)
- 434 箱作今池遺跡発掘調査報告書 報告書第14集 (調七)
- 435 巨摩・若江北遺跡発掘調査報告－第5次－ 報告書第15集 (調七)

436	日根野遺跡	報告書第16集	(調七)	【逐次刊行物】	(調七)
437	浜寺元町遺跡	報告書第17集	(調七)	498 大阪文化財研究 第14号	(調七)
438	下田遺跡	報告書第18集	(調七)	499 大阪文化財研究 第15号	(調七)
439	真福寺遺跡	報告書第19集	(調七)	500 O C C H 大文研通信 No.10	(調七)
440	陶邑・伏尾遺跡Ⅲ A地区	報告書第20-1集	(調七)	501 O C C H 大文研通信 No.11	(調七)
441	野々井遺跡Ⅱ	報告書第20-2集	(調七)	502 O C C H 大文研通信 No.12	(調七)
442	加治・神前・畠中遺跡Ⅱ	報告書第21集	(調七)	【その他】	
443	池島・福万寺遺跡発掘調査概要X V		(調七)	503 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第37回	(調七)
444	池島・福万寺遺跡発掘調査概要XⅥ		(調七)	504 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第38回	(調七)
445	池島・福万寺遺跡発掘調査概要X XⅡ		(調七)	505 文化財講座資料集 1998年度	(調七)
446	池島・福万寺遺跡発掘調査概要X XⅢ		(調七)	506 年報 平成9年度	(調七)
447	池島・福万寺遺跡発掘調査概要X XⅣ		(調七)	507 大陸文化へのまなざし-発掘速報展 大阪-	(調七)
448	三ツ島遺跡		(調七)		
449	箕面北部丘陵地区埋蔵文化財発掘調査報告書		(調七)	<u>1999年度</u>	
	【逐次刊行物】			【報告書類】	
450	大阪文化財研究 第10号		(調七)	508 尺度遺跡Ⅰ	報告書第44集 (調七)
451	大阪文化財研究 第11号		(調七)	509 徳大寺遺跡	報告書第45集 (調七)
452	O C C H 大文研通信 No.4		(調七)	510 井関・亀川遺跡発掘調査報告書	報告書第46集 (調七)
453	O C C H 大文研通信 No.5		(調七)	511 久保田遺跡発掘調査報告書	報告書第47集 (調七)
454	O C C H 大文研通信 No.6		(調七)	512 池島・福万寺遺跡Ⅰ	報告書第48集 (調七)
	【その他】			513 溝昨遺跡(その1・2)	報告書第49集 (調七)
455	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第34回		(調七)	514 溝昨遺跡(その3・4)	報告書第50集 (調七)
456	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第35回		(調七)	515 小阪合遺跡	報告書第51集 (調七)
457	文化財講座資料集 1996年度		(調七)	516 難波宮跡北西の発掘調査	(調七)
458	発掘速報展 大阪'97		(調七)	517 河内平野遺跡群の動態Ⅶ	(調七)
459	年報Ⅰ 平成7年度		(調七)	518 河内平野遺跡群の動態Ⅷ	(調七)
	<u>1997年度</u>			519 史跡 池上曾根 97・98	(調七)
	【報告書類】			【逐次刊行物】	
460	宮の前遺跡・蛭池東遺跡・麻田藩陣屋跡・蛭池遺跡・	報告書第22集1	(調七)	520 大阪文化財研究 第16号	(調七)
	蛭池南地区・蛭池西遺跡	報告書第22集2	(調七)	521 大阪文化財研究 第17号	(調七)
461	蛭池遺跡(その3-2)発掘調査報告書	報告書第23集	(調七)	522 O C C H 大文研通信 No.13	(調七)
462	田井中遺跡(1~3次)・志紀遺跡(防1次)	報告書第24集	(調七)	523 O C C H 大文研通信 No.14	(調七)
463	蔵塚古墳	報告書第25集	(調七)	524 O C C H 大文研通信 No.15	(調七)
464	志紀遺跡(その4)	報告書第26集	(調七)	【その他】	
465	久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅱ	報告書第27集	(調七)	525 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第39回	(調七)
466	大庭寺・伏尾遺跡	報告書第28集	(調七)	526 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第40回	(調七)
467	丹上遺跡	報告書第29集	(調七)	527 文化財講座資料集 1999年度	(調七)
468	船橋遺跡	報告書第30集	(調七)	528 発掘速報展 大阪2000	(調七)
469	総持寺遺跡	報告書第31集	(調七)	529 発掘Ⅱ あおまだに	(調七)
470	玉櫛遺跡	報告書第32集	(調七)	530 年報 平成10年度	(調七)
471	東奈良遺跡	報告書第32集-2	(調七)	531 研究調査報告 第2集	(調七)
472	東奈良遺跡	報告書第33集	(調七)	<u>2000年度</u>	
473	山直中遺跡Ⅲ	報告書第34集	(調七)	【報告書類】	
474	観音寺遺跡		(調七)	532 河原城遺跡Ⅰ	報告書第52集 (調七)
475	史跡 池上曾根 96		(調七)	533 大和川今池遺跡(その1・2)	報告書第53集 (調七)
476	池島・福万寺遺跡発掘調査概要XⅣ		(調七)	534 小島北磯遺跡	報告書第54集 (調七)
477	池島・福万寺遺跡発掘調査概要X X		(調七)	535 向出遺跡	報告書第55集 (調七)
478	池島・福万寺遺跡発掘調査概要X XⅠ		(調七)	536 佐保栗栖山砦跡	報告書第56集 (調七)
479	河内平野遺跡群の動態Ⅳ		(調七)	537 栗栖山南墳墓群	報告書第57集 (調七)
	【逐次刊行物】			538 椋谷石切場跡	報告書第58集 (調七)
480	大阪文化財研究 第12号		(調七)	539 住吉宮の前遺跡	報告書第59集 (調七)
481	大阪文化財研究 第13号		(調七)	540 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅲ	報告書第60集 (調七)
482	O C C H 大文研通信 No.7・8合併号		(調七)	541 長尾台地区・杉・氷室地区・津田城遺跡、 有池遺跡、門真遺跡群	報告書第61集 (調七)
483	O C C H 大文研通信 No.9		(調七)	542 小阪遺跡Ⅱ	報告書第62集 (調七)
	【その他】			543 伽羅橋遺跡発掘調査報告書	報告書第63集 (調七)
484	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第36回		(調七)	544 伯耆北遺跡	報告書第64集 (調七)
485	文化財講座資料集 1997年度		(調七)	545 池島・福万寺遺跡発掘調査概要X XⅤ	(調七)
486	発掘速報展 大阪'98		(調七)	546 男里遺跡発掘調査資料集	(調七)
487	年報Ⅱ 平成8年度		(調七)	【逐次刊行物】	
488	研究調査報告 第1集		(調七)	547 大阪文化財研究 第18号	(調七)
	<u>1998年度</u>			548 大阪文化財研究 第19号	(調七)
	【報告書類】			549 O C C H 大文研通信 No.16	(調七)
489	貝塚市東山丘陵遺跡群	報告書第35集	(調七)	550 O C C H 大文研通信 No.17	(調七)
490	小畑遺跡	報告書第36集	(調七)	551 O C C H 大文研通信 No.18	(調七)
491	楠木石切場跡	報告書第37集	(調七)	【その他】	
492	庄田遺跡	報告書第38集	(調七)	552 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第41回	(調七)
493	中之社遺跡他発掘調査報告書	報告書第39集	(調七)	553 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第42回	(調七)
494	彩都(国際文化公園都市)馬廻地城の 歴史・文化総合調査報告書	報告書第40集	(調七)	554 文化財講座資料集 2000年度	(調七)
495	駒ヶ谷遺跡	報告書第41集	(調七)	555 発掘速報展 大阪2001-難波宮と大坂城-	(調七)
496	吹田操(川場)遺跡	報告書第42集	(調七)	556 年報 平成11年度	(調七)
497	田原谷古墳群	報告書第43集	(調七)	557 公開劇「コメと出会った縄文人」(パンフ)	(調七)

2001年度

【報告書類】

558 大和川今池遺跡（その3・4） 報告書第65集 (調七)

559 吹田操車場遺跡・吹田操車場遺跡B地点 報告書第66集 (調七)

560 駒ヶ谷遺跡Ⅱ 報告書第67集 (調七)

561 河原城遺跡Ⅱ 報告書第68集 (調七)

562 丹上遺跡・真福寺遺跡 報告書第69集 (調七)

563 伽羅橋 報告書第70集 (調七)

564 津田城遺跡 報告書第71集 (調七)

565 向山遺跡発掘調査報告書 報告書第72集 (調七)

566 志紀遺跡（その2・3・5・6） 報告書第73集 (調七)

567 大坂城址Ⅱ 報告書第74集 (調七)

568 亀川遺跡 報告書第75集 (調七)

569 西浦東遺跡 報告書第76集 (調七)

570 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅩⅥ (調七)

571 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅩⅦ (調七)

572 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅩⅧ (調七)

573 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅩⅩ (調七)

【逐次刊行物】

574 大阪文化財研究 第20号 (調七)

575 大阪文化財研究 第21号 (調七)

576 O C C H 大文研通信 No.19 (調七)

577 O C C H 大文研通信 No.20 (調七)

578 O C C H 大文研通信 No.21 (調七)

【その他】

579 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第43回 (調七)

580 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第44回 (調七)

581 文化財講座資料集 2001年度 (調七)

582 発掘速報展大阪 大河内展 (調七)

583 年報 平成12年度 (調七)

2002年度

【報告書類】

584 讃良郡糸里遺跡、小路遺跡、打上遺跡、茄子作遺跡、
難波大亀谷遺跡・長尾窟跡群、長尾東地区 報告書第77集 (府七)

585 大坂城跡発掘調査報告Ⅰ 報告書第78集 (府七)

586 池島・福万寺遺跡2 報告書第79集 (府七)

587 宿久庄遺跡 報告書第80集 (府七)

588 麻田藩陣屋跡 報告書第81集 (府七)

589 杉中貫谷遺跡 報告書第82集 (府七)

590 耳原遺跡 報告書第83集 (府七)

591 粟生間谷遺跡～旧石器・縄紋時代編～ 報告書第84集 (府七)

592 粟生間谷遺跡～古代・中世編～ 報告書第85集 (府七)

593 粟生岩阪北遺跡、宿久庄北遺跡、佐保遺跡 報告書第86集 (府七)

594 淡遺跡他 報告書第87集 (府七)

595 郡戸遺跡 報告書第88集 (府七)

596 豊川遺跡 報告書第89集 (府七)

597 大和川今池遺跡（その5・その6・その7） 報告書第90集 (府七)

598 杉遺跡 報告書第91集 (府七)

599 大尾遺跡 報告書第92集 (府七)

600 門真西地区、讃良郡糸里遺跡西地区、讃良郡糸里遺跡、
大尾遺跡・太秦遺跡・太秦古墳群、打上遺跡、寝屋南遺跡、
寝屋東遺跡、私部南遺跡、東倉治遺跡、津田城遺跡東地区
報告書第93集 (府七)

601 新上小阪遺跡 報告書第94集 (府七)

602 玉脚遺跡Ⅱ 報告書第95集 (府七)

603 駒ヶ谷遺跡Ⅲ 報告書第96集 (府七)

604 尺度遺跡Ⅱ 報告書第97集 (府七)

【逐次刊行物】

605 大阪文化財研究 第22号 (府七)

606 大阪文化財研究 第23号 (府七)

607 O C C H No.22 (府七)

608 O C C H No.23 (府七)

609 O C C H No.24 (府七)

【その他】

610 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第45回 (府七)

611 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第46回 (府七)

612 平成14年度 文化財講座資料集 (府七)

613 摂河泉発掘資料精選Ⅱ (府七)

614 大阪文化財論集Ⅱ (府七)

615 30年のあゆみ (府七)

616 過去からのメッセージ～大阪発掘30年～ (府七)

617 平成14年度 勸大阪府文化財センター・日本民家集落博物館
共同研究発表会 住居に関する総合的研究 (府七)

618 平成14年度 勸大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究
発表会 弥生時代のはじまり (府七)

619 平成14年度 勸大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究
発表会「河内名所図会」にあらわれた遺跡の研究 (府七)

620 古墳出現期の土師器と実年代 シンポジウム資料集 (府七)

621 年報 平成13年度 (府七)

622 研究調査報告 第3集 (府七)

2003年度

【報告書類】

623 讃良郡糸里遺跡（その2） 報告書第98集 (府七)

624 太秦古墳群 報告書第99集 (府七)

625 勝部遺跡 報告書第100集 (府七)

626 讃良郡糸里遺跡、寝屋南遺跡、寝屋東遺跡、
倉治遺跡、津田城遺跡 報告書第101集 (府七)

627 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅳ 報告書第102集 (府七)

628 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅴ 報告書第103集 (府七)

629 淀川河床遺跡（その1）（確認）03-1 報告書第104集 (府七)

630 釜池遺跡02-1 報告書第105集 (府七)

631 瓜生堂遺跡1 報告書第106集 (府七)

632 瓜生堂遺跡2 報告書第107集 (府七)

633 瓜生堂遺跡3 報告書第108集 (府七)

634 讃良郡糸里遺跡（その1） 報告書第109集 (府七)

635 尺度遺跡Ⅲ 報告書第110集 (府七)

636 淡遺跡他Ⅱ 報告書第111集 (府七)

637 高宮遺跡（その2） 報告書第112集 (府七)

638 小路遺跡（その3） 報告書第113集 (府七)

639 讃良郡糸里遺跡（その3） 報告書第114集 (府七)

640 高宮遺跡～遺構編～ 報告書第115集 (府七)

641 小阪合遺跡（その2） 報告書第116集 (府七)

642 池島・福万寺遺跡発掘調査概要31 (府七)

643 史跡 池上曾根 99 (府七)

【逐次刊行物】

644 大阪文化財研究 第24号 (府七)

645 大阪文化財研究 第25号 (府七)

646 O C C H No.25 (府七)

647 O C C H No.26 (府七)

648 O C C H No.27 (府七)

649 民家集落ふるさとだより No.22 (府七)

650 民家集落ふるさとだより No.23 (府七)

【その他】

651 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第47回 (府七)

652 大阪府埋蔵文化財研究会資料 第48回 (府七)

653 平成15年度 前期文化財講座資料集 (府七)

654 平成15年度 後期文化財講座資料集 (府七)

655 財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・
大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館
2002年度 共同研究成果報告書 (府七)

656 平成15年度 勸大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究
発表会 北の文化～総縄文の世界～ (府七)

657 平成15年度 勸大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究
発表会 墳墓と墓誌 (府七)

658 カルチュアはっとり No.1 民家の今昔 (府七)

659 カルチュアはっとり No.2 世界遺産白川郷 (府七)

660 カルチュアはっとり No.3 ここまでわかった考古学
壱形土器の語るもの (府七)

661 ここまでわかった考古学 考古学と実年代 (府七)

662 ここまでわかった考古学 最古の土師器 (府七)

663 年報 平成14年度 (府七)

2004年度

【報告書類】

664 総持寺遺跡Ⅱ 報告書第117集 (府七)

665 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅵ 報告書第118集 (府七)

666 東雲遺跡隣接地 報告書第119集 (府七)

667 東倉治遺跡Ⅰ 報告書第120集 (府七)

668 岩田遺跡 報告書第121集 (府七)

669 小路遺跡（その2） 報告書第122集 (府七)

670 寝屋東遺跡Ⅰ 報告書第123集 (府七)

671 津田遺跡、東倉治遺跡、茄子作遺跡他 報告書第124集 (府七)

672 大尾遺跡Ⅱ 報告書第125集 (府七)

673 太秦遺跡・太秦古墳群Ⅰ 報告書第126集 (府七)

674 男里遺跡 報告書第127集 (府七)

675 船橋遺跡Ⅱ 報告書第128集 (府七)

676 船橋遺跡Ⅲ 報告書第129集 (府七)

677	寝屋東遺跡Ⅱ	報告書第130集	(府七)	734	2005年度 朝大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究 発表会 須恵器生産の成立と展開	(府七)
678	太秦遺跡・太秦古墳群 大尾遺跡 高宮遺跡	報告書第131集	(府七)	735	カルチュアはっとり No.7 むかしの道具(発掘民具)1. 農具	(府七)
679	池島・福万寺遺跡発掘調査概要X X X 【逐次刊行物】		(府七)	736	カルチュアはっとり No.8 はたおりの歴史展	(府七)
680	大阪文化財研究 第26号		(府七)	737	ここまでわかった考古学 太秦古墳群発掘調査成果	(府七)
681	大阪文化財研究 第27号		(府七)	738	ここまでわかった考古学 弥生ムラの風景	(府七)
682	O C C H No.28		(府七)	739	北河内発掘! -緑立つ道に歴史わきたつ-	(府七)
683	O C C H No.29		(府七)	740	北河内発掘! -緑立つ道に歴史わきたつ-	(府七)
684	O C C H No.30		(府七)	741	シンポジウム 河内平野における古墳の出現	(府七)
685	民家集落ふるさとだより No.21 【その他】		(府七)	742	シンポジウム 世界の文化遺産を語る	(府七)
686	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第49回		(府七)	743	古式土師器の年代学	(府七)
687	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第50回		(府七)	744	日本民家集落博物館(絵巻書)	(府七)
688	平成16年度 文化財講座資料集		(府七)	745	日本民家集落博物館(版画)	(府七)
689	財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・ 大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館 2003年度 共同研究成果報告書		(府七)	746	年報 平成16年度	(府七)
690	2004年度 朝大阪府文化財センター・日本民家集落博物館 共同研究発表会 住居に関する総合的研究(3)		(府七)	747	研究調査報告 第4集	(府七)
691	2004年度 朝大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究 発表会 東海の弥生文化		(府七)	2006年度		
692	2004年度 朝大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究 発表会 古墳出土金工製品の目録比較研究		(府七)	【報告書類】		
693	カルチュアはっとり No.4 考古学と模型		(府七)	748	片山荒池遺跡	報告書第145集 (府七)
694	カルチュアはっとり No.5 山に生きる人々		(府七)	749	東倉治遺跡Ⅱ	報告書第146集 (府七)
695	カルチュアはっとり No.6 ここまでわかった考古学 古墳時代の池島・福万寺遺跡		(府七)	750	はざみ山遺跡2	報告書第147集 (府七)
696	ここまでわかった考古学 瓜生堂遺跡の最新研究		(府七)	751	有池遺跡Ⅱ	報告書第148集 (府七)
697	ここまでわかった考古学 久宝寺遺跡の最新成果		(府七)	752	平池遺跡	報告書第149集 (府七)
698	久宝寺遺跡発掘調査成果		(府七)	753	田井中遺跡	報告書第150集 (府七)
699	シンポジウム「難波宮」・「大坂城」 「難波宮」-宮城北辺をさぐる-発表要旨		(府七)	754	上私部遺跡Ⅰ	報告書第151集 (府七)
700	シンポジウム「難波宮」・「大坂城」 「大坂城」-秀吉の大坂城縄張りをさぐる-発表要旨		(府七)	755	有池遺跡Ⅰ	報告書第152集 (府七)
701	第15回 考古学国際交流研究会 発表資料		(府七)	756	大西遺跡、若宮遺跡	報告書第153集 (府七)
702	日本民家集落博物館(絵巻書)		(府七)	757	私部南遺跡Ⅰ	報告書第154集 (府七)
703	年報 平成15年度		(府七)	758	上の山遺跡Ⅱ	報告書第155集 (府七)
	2005年度			759	久宝寺遺跡・竜巻地区発掘調査報告書Ⅳ	報告書第156集 (府七)
	【報告書類】			760	若宮遺跡	報告書第157集 (府七)
704	小阪谷遺跡(その3)	報告書第132集	(府七)	761	池島・福万寺遺跡3	報告書第158集 (府七)
705	弓削ノ庄遺跡他	報告書第133集	(府七)	762	寝屋南遺跡・呉山遺跡	報告書第159集 (府七)
706	福井遺跡	報告書第134集	(府七)	763	讃良郡糸里遺跡V	報告書第160集 (府七)
707	はざみ山遺跡	報告書第135集	(府七)	764	花屋敷遺跡Ⅰ	報告書第161集 (府七)
708	伽羅橋遺跡Ⅲ	報告書第136集	(府七)	765	花屋敷遺跡Ⅱ	報告書第162集 (府七)
709	上の山遺跡Ⅰ	報告書第137集	(府七)	【逐次刊行物】		
710	讃良郡糸里遺跡Ⅳ	報告書第138集	(府七)	766	大阪文化財研究資料 第30号	(府七)
711	童子畑遺跡・童子畑北遺跡	報告書第139集	(府七)	767	大阪文化財研究資料 第31号	(府七)
712	禁野木町遺跡	報告書第140集	(府七)	768	O C C H No.31	(府七)
713	太秦遺跡・太秦古墳群Ⅲ	報告書第141集	(府七)	769	O C C H No.35	(府七)
714	小路遺跡Ⅲ	報告書第142集	(府七)	770	O C C H No.36	(府七)
715	太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ	報告書第143集	(府七)	771	民家集落ふるさとだより No.28	(府七)
716	大坂城址Ⅲ	報告書第144集	(府七)	772	民家集落ふるさとだより No.29	(府七)
717	池島・福万寺遺跡発掘調査概要32		(府七)	【その他】		
718	池島・福万寺遺跡発掘調査概要33		(府七)	773	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第53回	(府七)
719	池島・福万寺遺跡発掘調査概要34 【逐次刊行物】		(府七)	774	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第54回	(府七)
720	大阪文化財研究 第28号		(府七)	775	平成18年度 文化財講座資料集	(府七)
721	大阪文化財研究 第29号		(府七)	776	2006年度 朝大阪府文化財センター・日本民家集落博物館 共同研究発表会 住居に関する総合的研究(5)	(府七)
722	O C C H No.31		(府七)	777	2006年度 朝大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究 発表会 比較・検証 南九州弥生文化の実像	(府七)
723	O C C H No.32		(府七)	778	2006年度 朝大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究 発表会 摂河泉古代寺院の総合的研究	(府七)
724	O C C H No.33		(府七)	779	カルチュアはっとり No.9 むかしの道具(発掘民具)2. 漁具	(府七)
725	民家集落ふるさとだより No.25		(府七)	780	カルチュアはっとり No.10 企画展示 禁野火薬庫の調査	(府七)
726	民家集落ふるさとだより No.26		(府七)	781	ここまでわかった考古学 出土木器が語る考古学	(府七)
727	民家集落ふるさとだより No.27 【その他】		(府七)	782	ここまでわかった考古学 弥生人現れる	(府七)
728	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第51回		(府七)	783	シンポジウム 古墳時代に生きた渡来人の軌跡	(府七)
729	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第52回		(府七)	784	シンポジウム 木器研究最前線! 出土木器が語る考古学	(府七)
730	平成17年度 文化財講座資料集		(府七)	発表資料集		
731	財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・ 大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館 2004年度 共同研究成果報告書		(府七)	785	第17回 考古学国際交流研究会 発表要旨	(府七)
732	2005年度 朝大阪府文化財センター・日本民家集落博物館 共同研究発表会 住居に関する総合的研究(4)		(府七)	786	年報 平成17年度	(府七)
733	2005年度 朝大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究 発表会 弥生後期集落の景観的研究		(府七)	787	研究調査報告 第5集	(府七)
	2007年度			【報告書類】		
	【報告書類】			788	山賀遺跡	報告書第163集 (府七)
				789	植松遺跡	報告書第164集 (府七)
				790	上私部遺跡Ⅱ	報告書第165集 (府七)

791	新上小阪遺跡Ⅱ	報告書第166集	(府七)			
792	栗本遺跡Ⅰ	報告書第167集	(府七)	847	大阪文化財研究 第35号	(府七)
793	池島・福万寺遺跡4	報告書第168集	(府七)	848	大阪文化財研究 第36号	(府七)
794	倉治遺跡	報告書第169集	(府七)		【その他】	
795	湊遺跡他Ⅲ	報告書第170集	(府七)	849	財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館	
796	上の山遺跡Ⅲ	報告書第171集	(府七)		2007年度 共同研究成果報告書	(府七)
797	八尾南遺跡	報告書第172集	(府七)	850	年報 平成20年度	(府七)
798	讃良郡奈里遺跡Ⅵ	報告書第173集	(府七)	851	研究調査報告 第7集	(府七)
799	茄子作遺跡	報告書第174集	(府七)			
800	津田遺跡	報告書第175集	(府七)			
801	寝屋東遺跡、太秦遺跡・太秦古墳群、大尾遺跡、讃良郡奈里遺跡、砂遺跡	報告書第176集	(府七)			
802	堺環濠都市遺跡Ⅰ (SKT959 地点)	報告書第177集	(府七)			
803	堺環濠都市遺跡Ⅱ (SKT960 地点)	報告書第178集	(府七)			
804	池島・福万寺遺跡5	報告書第179集	(府七)			
805	史跡池上曽根遺跡発掘調査報告書2001～2007					
	【逐次刊行物】					
806	大阪文化財研究 第32号		(府七)			
807	大阪文化財研究 第33号		(府七)			
808	O C C H №37		(府七)			
809	O C C H №38		(府七)			
810	O C C H №39		(府七)			
	【その他】					
811	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第55回		(府七)			
812	大阪府埋蔵文化財研究会資料 第56回		(府七)			
813	平成19年度 文化財講座資料集		(府七)			
814	財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館		(府七)			
	2005年度 共同研究成果報告書					
815	財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館		(府七)			
	2006年度 共同研究成果報告書					
816	2007年度 勸大阪府文化財センター・日本民家集落博物館 共同研究発表会 住居に関する総合的研究(6)		(府七)			
817	2007年度 勸大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究発表会 土間・近畿地方を中心に-		(府七)			
818	2007年度 勸大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究発表会 埋葬施設からみた弥生墳丘墓と前期古墳		(府七)			
819	池島・福万寺遺跡と周辺の文化財		(府七)			
820	シンポジウム 弥生人の住まいを探る -長原遺跡・八尾南遺跡・久宝寺遺跡-		(府七)			
821	年報 平成18年度		(府七)			
822	研究調査報告 第6集		(府七)			
	2008年度					
	【報告書類】					
823	吹田操車場遺跡Ⅲ	報告書第180集	(府七)			
824	船橋遺跡Ⅳ	報告書第181集	(府七)			
825	讃良郡奈里遺跡Ⅶ	報告書第182集	(府七)			
826	栗本遺跡Ⅱ	報告書第183集	(府七)			
827	玉櫛遺跡Ⅲ	報告書第184集	(府七)			
828	池島・福万寺遺跡6	報告書第185集	(府七)			
829	池島・福万寺遺跡7	報告書第186集	(府七)			
830	讃良郡奈里遺跡Ⅷ	報告書第187集	(府七)			
831	讃良郡奈里遺跡Ⅸ	報告書第188集	(府七)			
832	三宅西遺跡	報告書第189集	(府七)			
	【逐次刊行物】					
833	大阪文化財研究 第34号		(府七)			
	【その他】					
834	年報 平成19年度		(府七)			
	2009年度					
	【報告書類】					
835	下池田遺跡	報告書第190集	(府七)			
836	大和川今池遺跡Ⅰ-難波大道の調査-	報告書第191集	(府七)			
837	大和川今池遺跡Ⅱ	報告書第192集	(府七)			
838	上私部遺跡Ⅲ 有池遺跡Ⅲ	報告書第193集	(府七)			
839	山賀遺跡Ⅱ	報告書第194集	(府七)			
840	池島・福万寺遺跡8	報告書第195集	(府七)			
841	池島・福万寺遺跡9	報告書第196集	(府七)			
842	上の山遺跡Ⅳ	報告書第197集	(府七)			
843	池内遺跡	報告書第198集	(府七)			
844	太井遺跡・余部日殿遺跡	報告書第199集	(府七)			
845	津田遺跡Ⅱ	報告書第200集	(府七)			
846	吹田操車場遺跡Ⅳ	報告書第201集	(府七)			
	【逐次刊行物】					
847	大阪文化財研究 第35号		(府七)			
848	大阪文化財研究 第36号		(府七)			
	【その他】					
849	財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館		(府七)			
	2007年度 共同研究成果報告書					
850	年報 平成20年度		(府七)			
851	研究調査報告 第7集		(府七)			
	2010年度					
	【報告書類】					
852	大和川今池遺跡Ⅲ	報告書第202集	(府七)			
853	久宝寺遺跡	報告書第203集	(府七)			
854	三宅西遺跡Ⅱ	報告書第204集	(府七)			
855	若山遺跡	報告書第205集	(府七)			
856	高宮遺跡-遺物編-、太秦遺跡、高宮遺跡、讃良郡奈里遺跡	報告書第206集	(府七)			
		報告書第207集	(府七)			
857	私部南遺跡Ⅱ	報告書第208集	(府七)			
858	植松遺跡2	報告書第209集	(府七)			
859	新上小阪遺跡Ⅲ	報告書第210集	(府七)			
860	讃良郡奈里遺跡Ⅹ	報告書第211集	(府七)			
861	池島・福万寺遺跡10	報告書第212集	(府七)			
862	池島・福万寺遺跡11	報告書第213集	(府七)			
863	若江北遺跡・北島池遺跡	報告書第214集	(府七)			
864	大和川今池遺跡Ⅳ	報告書第215集	(府七)			
865	私部南遺跡Ⅲ 有池遺跡 上私部遺跡 上の山遺跡	報告書第216集	(府七)			
866	吹田操車場遺跡Ⅴ-吹田操車場遺跡・同C地点・明和池遺跡-	報告書第217集	(府七)			
867	吹田操車場遺跡Ⅵ	報告書第217集	(府七)			
	【逐次刊行物】					
868	大阪文化財研究 第37号		(府七)			
869	大阪文化財研究 第38号		(府七)			
	【その他】					
870	年報 平成21年度		(府七)			
	2011年度					
	【報告書類】					
871	池島・福万寺遺跡12	報告書第218集	(府七)			
872	池島・福万寺遺跡13	報告書第219集	(府七)			
873	吹田操車場遺跡Ⅶ	報告書第220集	(府七)			
874	大和川今池遺跡・天莖西遺跡	報告書第221集	(府七)			
875	瓜生堂遺跡4 岩田遺跡2 花屋敷遺跡3	報告書第222集	(府七)			
	【逐次刊行物】					
876	大阪文化財研究 第39号		(府七)			
877	大阪文化財研究 第40号		(府七)			
	【その他】					
878	年報 平成22年度		(府七)			
	2012年度 -本書関係・対象の既刊分のみ記載(以下続刊予定分は省略)					
	【報告書類】					
879	鬼虎川遺跡	報告書第223集	(府七)			
880	金龍寺旧境内跡	報告書第224集	(府七)			
881	旧大阪府庁舎跡	報告書第225集	(府七)			
882	明和池遺跡2	報告書第226集	(府七)			
883	池内遺跡2	報告書第227集	(府七)			
884	禁野木町遺跡2	報告書第228集	(府七)			
	【その他・追補】					
885	発掘された大阪2007-水都大阪の国際交流史-	大阪府立弥生文化博物館図録38(2008年)				
886	鉄とヤマト王権 邪馬台国から百舌鳥・古市古墳群の時代へ	大阪府立近つ飛鳥博物館図録52(2010年)				
887	大阪府遺跡年表(1977年度)		(七)			
888	掘ったらでてきた むかしのくらし(1996年度)		(調七)			
889	日本民家集落博物館開館50周年記念誌(2006年度)		(府七)			
890	カルチュアはっとり №11		(府七)			
	つわもの達の夢-追悼 藤澤一夫・鳥越憲三郎・堅田直(2007年度)		(府七)			
891	ここまでわかった考古学 大阪の古墳時代を考える(2007年度)		(府七)			
892	ここまでわかった考古学 山賀遺跡の最新調査成果(2007年度)		(府七)			

遺跡索引 Index for each site

site name	Location in Osaka prefecture	relic No. (※)
粟生間谷遺跡 Aomadani	箕面市粟生間谷東ほか Minoh C.	(古代：An.) 495・499・523・524、 (中世：Me.) 655・660・671・725、(近世：E-Mo.) 756
有池遺跡 Ariike	交野市青山 Katano C.	(縄文：Jo.) 055、(古墳：Ko.) 310、 (中世：Me.) 663・722
池内遺跡 Ikeuchi	松原市天美北・天美東 Matsubara C.	(旧石器：Pa.) 010、(弥生：Ya.) 076・080・081・165・ 175・181・195・197・204・207、 (古代：An.) 481・482・496・497・510・520・543・ 545・546・549・571・572・574・576・608、 (中世：Me.) 646
池島・福万寺遺跡 Ikeshima-fukumanji	東大阪市池島町、八尾市福万寺町 Higashiosaka C., Yao C.	(縄文：Jo.) 023～025・038・042～047・066～068・ 073・074、 (弥生：Ya.) 082・091・114・159・162・166・167・170・ 193・194・201・208・218・219・221・226・228・230 ～232・236・239・242・244・246・258、 (古墳：Ko.) 300・302・318・331・350・369・370・ 389・394・413、(古代：An.) 548・609～615、 (中世：Me.) 675・697・707・746・751、 (近世：E-Mo.) 793・802・808・813
岩田遺跡 Iwata	東大阪市岩田町 Higashiosaka C.	(弥生：Ya.) 268、(古代：An.) 550
上の山遺跡 Uenoyama	交野市私部西、枚方市茄子作南町 Katano C., Hirakata C.	(古墳：Ko.) 311・329・401・465、 (古代：An.) 502・636
上町東遺跡 Uemachi-higashi	泉佐野市旭町・大宮町 Izumisano C.	(古代：An.) 480
植松遺跡 Uematsu	八尾市植松町 Yao C.	(弥生：Ya.) 185、(古墳：Ko.) 336・337・354・395、 (古代：An.) 601・623
太秦遺跡・太秦古墳群 Uzumasa, Uzumasa tumuli	寝屋川市太秦高塚町・打上新町 Neyagawa C.	(弥生：Ya.) 171・173・180・182・183・216、 (古墳：Ko.) 325・326・362
瓜生堂遺跡 Uryudo	東大阪市若江西新町・岩田町・西岩 田ほか Higashiosaka C.	(弥生：Ya.) 077・089・100・102～106・110・113・ 115・130・148・151～156・169・176・184・198・ 211・212・233・238・249・252・253・262・263、 (古代：An.) 490・544・553、 (中世：Me.) 657・662・694、(近世：E-Mo.) 807
大坂城跡 Osaka jo (Osaka castle)	大阪市中央区大手前ほか Osaka C.	(古墳：Ko.) 398、(近世：E-Mo.) 758～774・777・ 784・788・790・791・794・797・805・811・815～ 821・824
大西遺跡 Onishi	泉佐野市高松北・若宮町・大西 Izumisano C.	(近世：E-Mo.) 801・803・809
奥山遺跡 Okuyama	寝屋川市寝屋 Neyagawa C.	(古墳：Ko.) 313
男里遺跡 Onosato	泉南市男里・馬場・幡代 Sennan C.	(弥生：Ya.) 134・157・210
勝部遺跡 Katsube	豊中市走井 Toyonaka C.	(弥生：Ya.) 118・147、(古墳：Ko.) 314・406、 (中世：Me.) 651
上私部遺跡 Kamikisabe	交野市青山 Katano C.	(古墳：Ko.) 309・315・322・345・351・376・388・ 408・409・421・444、(中世：Me.) 695・698・703
亀田遺跡 Kameda	東大阪市衣摺 Higashiosaka C.	(弥生：Ya.) 137

私部南遺跡 Kisabe-minami	交野市私部南・向井田 Katano C.	(旧石器：Pa.) 009・011・012、(縄文：Jo.) 018・027・028・056・064・072、(弥生：Ya.) 083・085・098・160・223、(古墳：Ko.) 316・321・327・328・348・385・387・399・400・410・416・417・422・426・439・457、(古代：An.) 512・550、(中世：Me.) 664・698・737・753、(近世：E-Mo.) 795
鬼虎川遺跡 Kitoragawa	東大阪市西石切町・宝町 Higashiosaka C.	(弥生：Ya.) 108・109・172・191・192・209
伽羅橋遺跡 Kyarabashi	高石市高師浜 Takaishi C.	(弥生：Ya.) 107、(古代：An.) 536、(中世：Me.) 642・647・665・719
旧大阪府庁舎跡 Kyu osaka fuchosha (Former osaka prefectural government office)	大阪市西区江之子島 Osaka C.	(近現代：Mo.) 832・840～844・849～851・853・854・858
久宝寺遺跡 Kyuhoji	東大阪市大蓮東、八尾市神武町・西久宝寺・龍華町・北亀井町・亀井町ほか Higashiosaka C., Yao C.	(縄文：Jo.) 035・039～041・061・062・065、(弥生：Ya.) 111・123・141・143・149・150・163・178・188・200・202・203・224・225・255・257、(古墳：Ko.) 269～272・275・277・278・280～284・288～291・294・297～299・301・304・305・373～375・403・427・430～432・446・452・456・458・461・467・469・470・476、(古代：An.) 487・551・553・583・606・624、(近現代：Mo.) 830・834
禁野本町遺跡 Kin'yahommachi	枚方市禁野本町 Hirakata C.	(古代：An.) 483・498・501・503・507・535・538・540・603・604、(近現代：Mo.) 831・835～838・845～848・855～857
郡戸遺跡 Kozu	羽曳野市郡戸 Habikino C.	(旧石器：Pa.) 005～007、(縄文：Jo.) 049、(古墳：Ko.) 396・423、(古代：An.) 505・570
小阪合遺跡 Kozakaai	八尾市南小阪合町・青山町・若草町 Yao C.	(古墳：Ko.) 274・276・285～287・307・324・341・347・360・420、(古代：An.) 488・504・511・530・568・607、(中世：Me.) 723・744
駒ヶ谷遺跡 Komagatani	羽曳野市飛鳥・大黒・駒ヶ谷 Habikino C.	(古墳：Ko.) 319
金龍寺旧境内跡 Konryuji kyu keldai (Former konryuji temple grounds)	高槻市成合南の町 Takatsuki C.	(古代：An.) 567・573
堺環濠都市遺跡 Sakai kango toshi (Sakai moated city)	堺市堺区戎之町東・少林寺町東ほか Sakai C.	(近世：E-Mo.) 775・776・778～783・785・786・796・799・800・806・814・822・825・826
讃良郡桑里遺跡 Saragun jori (Sara district land subdivision)	寝屋川市高宮・小路北町・小路南町・讃良東町・新家・楠根南町、四條畷市砂ほか Neyagawa C., Shijonawate C.	(旧石器：Pa.) 001・002、(縄文：Jo.) 014・017・031・032・037・051～053・057・059・060・063・070、(弥生：Ya.) 075・079・087・090・093・094・164・174・234・235・237・245・261・264、(古墳：Ko.) 296・308・317・320・323・330・333～335・338～340・342・343・355～357・363・364・371・377・378・380～384・386・390～393・397・404・411・412・414・415・418・419・424・425・434～438・440～443・445・447・449・451・453～455・459・460・463・464・471～475、(古代：An.) 489・575・585・586・588・591・592・595・596・598・625～631、(中世：Me.) 704・705・712・741
下池田遺跡 Shimoikeda	岸和田市下池田町 Kishiwada C.	(弥生：Ya.) 117・119・132・135・136、(古墳：Ko.) 359・372、(近現代：Mo.) 833
尺度遺跡 Shakudo	羽曳野市尺度・蔵之内・西浦 Habikino C.	(古墳：Ko.) 295・466
宿久庄西遺跡 Shukunosho-nishi	茨木市宿久庄 Ibaraki C.	(縄文：Jo.) 054

小路遺跡 Shoji	寝屋川市高宮・小路北町 Neyagawa C.	(縄文：Jo.) 015、(弥生：Ya.) 248・254、 (古墳：Ko.) 273、(古代：An.) 534・621・622、 (近世：E-Mo.) 804
新上小阪遺跡 Shin-kamikosaka	東大阪市新上小阪 Higashiosaka C.	(弥生：Ya.) 097・099・101・122・125・128・129・ 158・256・257・259、(古墳：Ko.) 407、 (古代：An.) 508・519・521・533・605
吹田操車場遺跡 Suita soshajo (Suita marshalling yard)	吹田市芝田町 Suita C.	(旧石器：Pa.) 004、 (古代：An.) 513・522・529・532・602、 (中世：Me.) 667、(近現代：Mo.) 827～829・839
巢本遺跡 Sumoto	門真市北巢本町・宮前町 Kadoma C.	(古代：An.) 479・485・491・617～620、 (中世：Me.) 643・648・650・652～654・673・681・ 683・686・702・711・713・716・720・721・730・734 ～736・739・742・743・745・749・752、 (近世：E-Mo.) 810
総持寺遺跡 Sojiji	茨木市三島丘・三島町・総持寺 Ibaraki C.	(古代：An.) 477
田井中遺跡 Tainaka	八尾市田井中・空港・志紀町西 Yao C.	(弥生：Ya.) 078・161
大尾遺跡 Daibi	寝屋川市高宮あさひ丘 Neyagawa C.	(弥生：Ya.) 196・199、(古墳：Ko.) 379、 (近世：E-Mo.) 757
高宮遺跡 Takamiya	寝屋川市高宮・小路北町 Neyagawa C.	(旧石器：Pa.) 003、(古墳：Ko.) 344・349・385、 (古代：An.) 638、(中世：Me.) 641・677・701・708
玉櫛遺跡 Tamakushi	茨木市玉櫛 Ibaraki C.	(古墳：Ko.) 358・448、(古代：An.) 517・577・ 600・616、(中世：Me.) 649・666・668・669・674・ 684・685・690・706・709・718・724・728・729・ 733・738・747・748・754
津田遺跡 Tsuda	枚方市津田・津田南町 Hirakata C.	(縄文：Jo.) 013・016、(古代：An.) 506・514・515・ 518・547・552・557～560・599・639、 (中世：Me.) 640・661・672・678・679・687・699・ 700・714・726、 (近世：E-Mo.) 787・789・792・798・812・823
茄子作遺跡 Nasuzukuri	枚方市茄子作南町 Hirakata C.	(古墳：Ko.) 311・402・433・450・462
難波宮跡 Naniwanomiya-ato (Naniwa palace)	大阪市中央区大手前ほか Osaka C.	(古代：An.) 493・531・537・539・541・580～582・ 590・593・594・597・632～635
寝屋東遺跡 Neya-higashi	寝屋川市寝屋 Neyagawa C.	(古代：An.) 509
はざみ山遺跡 Hazamiyama	藤井寺市さくら町 Fujiidera C.	(旧石器：Pa.) 008、(縄文：Jo.) 050、 (古代：An.) 478・484・494・500・525～527・542・ 556・561～563・565・569・578・587・589・637
花屋敷遺跡 Hanayashiki	東大阪市吉田 Higashiosaka C.	(中世：Me.) 644・645・658・670・688・692・696・ 715・717・727・731・732・740・750
東倉治遺跡 Higashi-kuraji	交野市東倉治 Katano C.	(古墳：Ko.) 405、(古代：An.) 516
船橋遺跡 Funahashi	藤井寺市船橋町・川北・大井、柏原 市大正 Fujiidera C., Kashiwara C.	(縄文：Jo.) 029・030、(弥生：Ya.) 096、 (古代：An.) 486・492・554・555・564・579・584
湊遺跡 Minato	泉佐野市中庄・湊 Izumisano C.	(古墳：Ko.) 352・353
三宅西遺跡 Miyake-nishi	松原市三宅西・三宅中 Matsubara C.	(縄文：Jo.) 019～022、(弥生：Ya.) 144・158・177・ 189・190・206、(古墳：Ko.) 279・312・332・346・428、 (中世：Me.) 676

八尾南遺跡 Yao-minami	八尾市若林町 Yao C.	(弥生：Ya.) 112・120・121・126・127・133・138～ 140・142・145・146・168、 (古墳：Ko.) 292・293・303・306
山賀遺跡 Yamaga	八尾市新家町、東大阪市若江南町 Yao C., Higashiosaka C.	(縄文：Jo.) 026、(弥生：Ya.) 084・086・092・ 095・116・179・186・187・205・213～215・220・ 227・240・241・243・247・260・265～267、 (古墳：Ko.) 394
大和川今池遺跡 Yamatogawa-imaike	大阪市東住吉区矢田、堺市北区常盤 町、松原市天美西・天美我堂・天美 北ほか Osaka C., Sakai C., Matsubara C.	(縄文：Jo.) 048、(弥生：Ya.) 131、 (古墳：Ko.) 361・365～368・429、(古代：An.) 528・566、(中世：Me.) 659・680・689
弓削ノ庄遺跡 Yugenosho	東大阪市柏田本町・柏田西 Higashiosaka C.	(縄文：Jo.) 033・034・036・058・069・071、 (弥生：Ya.) 088・217、(古墳：Ko.) 468
若江北遺跡 Wakae-kita	東大阪市若江西新町 Higashiosaka C.	(弥生：Ya.) 124・222・229・250・251
若宮遺跡 Wakamiya	泉佐野市高松北・上町・大宮町・若 宮町 Izumisano C.	(中世：Me.) 656・682・691・693・710・755、 (近世：E-Mo.) 801・803・809
若山遺跡 Wakayama	松原市上田 Matsubara C.	(近現代：Mo.) 852

※ Pa. : Paleolithic . Jo. : Jomon period , Ya. : Yayoi period . Ko. : Kofun period , An. : Ancient times (Asuka, Nara and Heian period)
 Me. : Medieval period (Kamakura, Muromachi and Sengoku period), E-Mo. : Early Modern times (Azuchi-Momoyama and Edo period),
 Mo. : Modern times (Meiji, Taisho and Showa period)

INDEX (Page16 ~ 232)

- 001 backed blade : Palaeolithic period : Sara district land subdivision site
- 002 backed blade : Palaeolithic period : Sara district land subdivision site
- 003 backed blade : Palaeolithic period : Takamiya site
- 004 backed blade : Palaeolithic period : Suita marshalling yard site
- 005 backed blade : Palaeolithic period : Koze site
- 006 backed blade : Palaeolithic period : Koze site
- 007 backed blades : Palaeolithic period : Koze site
- 008 backed blades : Palaeolithic period : Hazamiyama site
- 009 boot-shaped keeled point : Palaeolithic period :
Kisabe-minami site
- 010 scraper : Palaeolithic period : Ikeuchi site
- 011 stone tools like microblades : Palaeolithic period :
Kisabe-minami site
- 012 microcore : Palaeolithic period : Kisabe-minami site
- 013 Jomon potteries : Initial Jomon period (Jinguji type, Kouzanji type) : Tsuda site
- 014 Jomon pottery (deep bowl) : Early Jomon period (Kita-shirakawa-kaso III type) :
Sara district land subdivision site
- 015 Jomon pottery (deep bowl) : Early Jomon period (Kita-shirakawa-kaso III type) : Shoji site
- 016 Jomon potteries (deep bowls) :
Middle Jomon period (Funamoto type) : Tsuda site
- 017 Jomon potteries (deep bowls) : Middle Jomon period (Kita-shirakawa C type) : Sara district land subdivision site
- 018 Jomon potteries (deep bowls) : Middle/Late Jomon period :
Kisabe-minami site
- 019 Jomon pottery (bowl) : Late Jomon period (Kita-shirakawa-joso type 3) : Miyake-nishi site
- 020 Jomon pottery (deep bowl) : Late Jomon period (Kita-shirakawa-joso type 3) : Miyake-nishi site
- 021 Jomon pottery (shallow bowl) : Late Jomon period (Kita-shirakawa-joso type 3) : Miyake-nishi site
- 022 Jomon potteries (shallow bowls) : Late Jomon period (Kita-shirakawa-joso type 3) : Miyake-nishi site
- 023 Jomon pottery (deep bowl) : Late Jomon period (Motosumiyoshiyama I type) : Ikeshima-fukumanji site
- 024 Jomon pottery (deep bowl) : Late Jomon period (Motosumiyoshiyama I type) : Ikeshima-fukumanji site
- 025 Jomon pottery (deep bowl) : Late Jomon period (Motosumiyoshiyama II type) : Ikeshima-fukumanji site
- 026 Jomon potteries (deep bowls) : Late Jomon period (Miyataki type) : Yamaga site
- 027 Jomon pottery (shallow bowl) : Final Jomon period (Shigasato III b/ IV type) : Kisabe-minami site
- 028 Jomon pottery (shallow bowl) : Final Jomon period :
Kisabe-minami site
- 029 Jomon pottery (shallow bowl) : Final Jomon period (*Tottaimon-doki* : clay band design pottery) :
Funahashi site
- 030 Jomon pottery (jar) : Final Jomon period (Nagahara type, clay band design pottery) : Funahashi site
- 031 Jomon and Yayoi potteries : Final Jomon/Early Yayoi period : Sara district land subdivision site
- 032 Jomon pottery (deep bowl, reused to coffin) :
Final Jomon period : Sara district land subdivision site
- 033 Jomon pottery (deep bowl, reused to coffin) :
Final Jomon period : Yugenosho site
- 034 Jomon pottery (chaffs impression) : Final Jomon period :
Yugenosho site
- 035 Jomon potteries (shallow bowls) : Final Jomon period (*Fusenmon-doki* : raised line design pottery) : Kyuhoji site
- 036 Jomon pottery (shallow bowl) : Final Jomon period (*Fusenmon-doki* : raised line design pottery) :
Yugenosho site
- 037 Jomon pottery (shallow bowl) : Final Jomon period (*Fusenmon-doki* : raised line design pottery) :
Sara district land subdivision site
- 038 Jomon pottery (boat-shaped bowl) : Final Jomon period (*Fusenmon-doki* : raised line design pottery) :
Ikeshima-fukumanji site
- 039 clay figurine (*Dogu*) : Final Jomon/Early Yayoi period :
Kyuhoji site
- 040 clay figurine (*Dogu*) : Final Jomon/Early Yayoi period :
Kyuhoji site
- 041 clay figurine (*Dogu*) : Final Jomon/Early Yayoi period :
Kyuhoji site
- 042 clay figurine (*Dogu*) : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 043 clay figurine (*Dogu*) : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 044 hand molding baked clay object : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 045 boat shaped baked clay object : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 046 ring shaped baked clay object : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 047 clay net sinker : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 048 tanged point : Incipient/Initial Jomon period :
Yamatogawa-imaike site
- 049 tanged point : Incipient/Initial Jomon period :

- Kozu site
- 050 tanged point, stone arrowheads :
Incipient Jomon period : Hazamiyama site
- 051 stone implements : Early Jomon period :
Sara district land subdivision site
- 052 stone implements : Early Jomon period :
Sara district land subdivision site
- 053 stone implements : Late Jomon period :
Sara district land subdivision site
- 054 tanged stone scraper : Early Jomon period :
Shukunoshō-nishi site
- 055 unfinished stone arrowhead (crystal) : Jomon period :
Ariike site
- 056 retouched flake (obsidian) : Jomon period :
Kisabe-minami site
- 057 polished stone axe : Early Jomon period :
Sara district land subdivision site
- 058 polished stone axe : Final Jomon/Early Yayoi period :
Yugenoshō site
- 059 polished stone spatulate tool (crystalline schist) :
Middle Jomon period : Sara district land subdivision site
- 060 saddlequern : Middle Jomon period :
Sara district land subdivision site
- 061 stone pendant : Final Jomon/Early Yayoi period :
Kyuhoji site
- 062 beast shaped curved bead : Final Jomon/Early Yayoi period :
Kyuhoji site
- 063 double-edged stone club : Late Jomon period :
Sara district land subdivision site
- 064 sword-shaped stone object : Late Jomon period :
Kisabe-minami site
- 065 stone rod : Final Jomon period : Kyuhoji site
- 066 stone rod : Final Jomon period : Ikeshima-fukumanji site
- 067 stone rod : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 068 stone rod : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 069 stone rod : Final Jomon/Early Yayoi period :
Yugenoshō site
- 070 stone rods : Final Jomon/Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 071 piled remains of sanukite : Final Jomon/Early Yayoi period :
Yugenoshō site
- 072 jade : Jomon period : Kisabe-minami site
- 073 ornament of wild boar fang : Final Jomon period :
Ikeshima-fukumanji site
- 074 ornament of wild boar fang : Final Jomon/Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 075 Yayoi potteries : Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 076 Yayoi potteries : Early Yayoi period : Ikeuchi site
- 077 Yayoi potteries : Early Yayoi period : Uryudo site
- 078 Yayoi potteries (jar, bowl : reused to coffin) :
Early Yayoi period : Tainaka site
- 079 Yayoi pottery (jar) : Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 080 Yayoi pottery (jar) : Early Yayoi period : Ikeuchi site
- 081 Yayoi pottery (jar) : Early Yayoi period : Ikeuchi site
- 082 Yayoi pottery (jar) : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 083 Yayoi pottery (jar) : Early Yayoi period :
Kisabe-minami site
- 084 Yayoi pottery (jar) : Early Yayoi period : Yamaga site
- 085 Yayoi pottery (jar) : Early Yayoi period :
Kisabe-minami site
- 086 Yayoi pottery (small jar) : Early Yayoi period :
Yamaga site
- 087 Yayoi potteries (pots) : Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 088 Yayoi pottery (pot) : Early Yayoi period : Yugenoshō site
- 089 Yayoi pottery (pot) : Early Yayoi period : Uryudo site
- 090 Yayoi pottery (pot, firing failure) : Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 091 Yayoi pottery (pedestaled dish) : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 092 Yayoi potteries (pedestaled dish, bowl) :
Early Yayoi period : Yamaga site
- 093 Yayoi pottery (bowl-shaped vessel) : Final Jomon/Early
Yayoi period : Sara district land subdivision site
- 094 Yayoi potteries (exfoliated joining parts) : Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 095 Yayoi potteries : Early/Middle Yayoi period : Yamaga site
- 096 Yayoi potteries : Middle Yayoi period : Funahashi site
- 097 Yayoi potteries (jars) : Middle Yayoi period :
Shin-kamikosaka site
- 098 Yayoi pottery (pitcher, Settsu type) :
Middle Yayoi period : Kisabe-minami site
- 099 Yayoi pottery (lid) : Middle Yayoi period :
Shin-kamikosaka site
- 100 Yayoi pottery (legged bowl) : Middle Yayoi period :
Uryudo site
- 101 Yayoi potteries (offering to square-shaped moated burials) :
Middle Yayoi period : Shin-kamikosaka site
- 102 Yayoi potteries (offering to square-shaped moated burials) :
Middle Yayoi period : Uryudo site
- 103 Yayoi potteries (offering to square-shaped moated burial) :
Middle Yayoi period : Uryudo site
- 104 Yayoi potteries (offering to square-shaped moated burial) :

- Middle Yayoi period ; Uryudo site
- 105 Yayoi potteries (offering to square-shaped moated burial) :
Middle Yayoi period ; Uryudo site
- 106 Yayoi potteries (offering to square-shaped moated burial) :
Middle Yayoi period ; Uryudo site
- 107 Yayoi potteries (jars, offering to square-shaped moated
burial/others) ; Middle Yayoi period ; Kyarabashi site
- 108 porous pottery ; Middle Yayoi period ; Kitoragawa site
- 109 repaired pottery (pedestaled dish) ; Middle Yayoi period ;
Kitoragawa site
- 110 Yayoi potteries ; Late Yayoi period ; Uryudo site
- 111 Yayoi pottery (jar) ; Late Yayoi period ; Kyuhoji site
- 112 Yayoi pottery (jar) ; Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 113 Yayoi pottery (basket weave pattern jar) ;
Late Yayoi period ; Uryudo site
- 114 Yayoi pottery (narrow-necked jar) ; Late Yayoi period ;
Ikeshima-fukumanji site
- 115 Yayoi pottery (long-necked jar) ; Late Yayoi period ;
Uryudo site
- 116 Yayoi pottery (long-necked jar, lacquer stuck) ;
Late Yayoi period ; Yamaga site
- 117 Yayoi pottery (jar) ; Late Yayoi/Earlier Kofun period ;
Shimoikeda site
- 118 Yayoi pottery (legged jar) ; Late Yayoi period ;
Katsube site
- 119 Yayoi pottery (legged narrow-necked jar) ;
Late Yayoi period ; Shimoikeda site
- 120 Yayoi pottery (pot, paddle mark as slanting lattice) ;
Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 121 Yayoi potteries (pots, paddle mark as slanting lattice) ;
Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 122 Yayoi pottery (legged pot) ; Late Yayoi period ;
Shin-kamikosaka site
- 123 Yayoi pottery (legged pot) ; Late Yayoi period ;
Kyuhoji site
- 124 Yayoi pottery (pot) ; Middle/Late Yayoi period ;
Wakae-kita site
- 125 Yayoi pottery (pedestaled dish) ; Late Yayoi period ;
Shin-kamikosaka site
- 126 Yayoi pottery (bowl, paddle mark as ^ shape) ;
Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 127 Yayoi pottery (bowl, paddle mark as slanting lattice) ;
Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 128 Yayoi pottery (lipped bowl) ; Late Yayoi period ;
Shin-kamikosaka site
- 129 Yayoi pottery (legged bowl) ; Late Yayoi period ;
Shin-kamikosaka site
- 130 Yayoi pottery (legged bowl) ; Late Yayoi period ;
Uryudo site
- 131 Yayoi pottery (jar stand) ; Late Yayoi period ;
Yamatogawa-imaie site
- 132 Yayoi pottery (irregular form jar) ; Late Yayoi/Earlier
Kofun period ; Shimoikeda site
- 133 Yayoi pottery (leather bag shape) ; Late Yayoi period ;
Yao-minami site
- 134 pottery (pitcher or legged jar) with incised raised
floor building picture ; Middle Yayoi period ;
Onosato site
- 135 pottery with incised raised floor building picture ;
Middle Yayoi period ; Shimoikeda site
- 136 pottery with incised dragon picture ; Late Yayoi period ;
Shimoikeda site
- 137 pottery (jar) with incised dragon picture ;
Late Yayoi period ; Kameda site
- 138 pottery (jar) with incised dragon picture ;
Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 139 pottery (jar) with incised dragon picture ;
Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 140 pottery (jar) with incised picture ;
Late Yayoi/Earlier Kofun period ; Yao-minami site
- 141 pottery (jar) with incised arc-band pattern (*Kotaimon*) ;
Late Yayoi period ; Kyuhoji site
- 142 pottery (lid) with incised arc-band pattern ;
Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 143 pottery (jar) with incised fish picture ;
Late Yayoi period ; Kyuhoji site
- 144 potteries of descended from Plain pottery (*Mumon-doki*) ;
Middle Yayoi period ; Miyake-nishi site
- 145 pottery (pedestaled dish) of descended from *Yamashiro*
(or others) region ; Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 146 pottery (jar stand) of descended from northern Kinki
(*Kita-kinki*) region ; Late Yayoi period ; Yao-minami site
- 147 pottery (jar stand) of introduced from Setouchi region ;
Late Yayoi period ; Katsube site
- 148 pottery (bowl) of introduced from Setouchi region ;
Late Yayoi period ; Uryudo site
- 149 pottery (jar) of introduced from *Kibi* region ;
Late Yayoi period ; Kyuhoji site
- 150 pottery (short-necked jar) of introduced from
Kagawa (*Sanuki*) region ; Late Yayoi period ; Kyuhoji site
- 151 pottery (long-necked jar) of introduced from Kagawa
(*Sanuki*) ; Late Yayoi period ; Uryudo site
- 152 potteries (pots) of introduced from Kagawa (*Sanuki*) ;
Late Yayoi period ; Uryudo site
- 153 pottery (pedestaled dish) of introduced from Kagawa
(*Sanuki*) ; Late Yayoi period ; Uryudo site
- 154 pottery (jar) of introduced from Tokushima (*Awa*) ;
Late Yayoi/Earlier Kofun period ; Uryudo site

- 155 pottery (pot) of introduced from Kochi (*Tosa*) :
Late Yayoi period : Uryudo site
- 156 pottery (pot) of introduced from Kochi (*Tosa*) :
Late Yayoi period : Uryudo site
- 157 octopus traps : Middle Yayoi period : Onosato site
- 158 bronze arrowheads : Middle/Late Yayoi period :
Miyake-nishi site/Shin-kamikosaka site
- 159 face shaped baked clay object : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 160 animal shaped baked clay object : Late Yayoi period :
Kisabe-minami site
- 161 spoon shaped baked clay object : Early Yayoi period :
Tainaka site
- 162 blunt missiles : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 163 clay curved bead : Yayoi period : Kyuhoji site
- 164 ring shaped baked clay object : Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 165 clay spindles : Early yayoi period : Ikeuchi site
- 166 clay net sinkers : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 167 plastery burnt soils : Middle Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 168 burnt soils : Late Yayoi period : Yao-minami site
- 169 large bifacially beveled stone axe : Early Yayoi period :
Uryudo site
- 170 flat plano-convex stone axe : Middle Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 171 flat plano-convex stone axes (reuse of stone reaping
knives) : Middle Yayoi period : Uzumasa site
- 172 quadrangular polished stone axe with unifacially
beveled edge : Middle Yayoi period : Kitoragawa site
- 173 quadrangular polished stone axe with unifacially
beveled edge : Middle Yayoi period : Uzumasa site
- 174 quadrangular polished stone axe with unifacially
beveled edge : Early/Middle Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 175 stone reaping knives (finished, unfinished) :
Early Yayoi period : Ikeuchi site
- 176 stone reaping knives (finished, unfinished) :
Middle Yayoi period : Uryudo site
- 177 stone reaping knives (finished, unfinished) :
Middle Yayoi period : Miyake-nishi site
- 178 stone reaping knives : Late Yayoi period : Kyuhoji site
- 179 polished stone arrowhead : Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 180 polished stone arrowhead : Middle Yayoi period :
Uzumasa site
- 181 polished stone point : Early/Middle Yayoi period :
Ikeuchi site
- 182 polished stone dagger : Middle Yayoi period :
Uzumasa site
- 183 polished stone dagger : Middle Yayoi period :
Uzumasa site
- 184 iron sword shaped polished stone dagger :
Middle Yayoi period : Uryudo site
- 185 chipped stone dagger : Early Yayoi period : Uematsu site
- 186 chipped stone dagger : Early/Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 187 chipped stone dagger : Middle Yayoi period : Yamaga site
- 188 chipped stone dagger : Middle Yayoi period : Kyuhoji site
- 189 chipped stone dagger : Middle Yayoi period :
Miyake-nishi site
- 190 unfinished chipped stone dagger : Middle Yayoi period :
Miyake-nishi site
- 191 chipped stone dagger : Middle Yayoi period :
Kitoragawa site
- 192 stone tool like a chipped stone dagger :
Middle Yayoi period : Kitoragawa site
- 193 chipped stone dagger : Early/Middle Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 194 chipped stone dagger : Middle Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 195 chipped stone dagger : Middle Yayoi period : Ikeuchi site
- 196 chipped stone dagger : Middle Yayoi period : Daibi site
- 197 chipped stone arrowheads : Early/Middle Yayoi period :
Ikeuchi site
- 198 chipped stone arrowheads (relate to grave) :
Middle Yayoi period : Uryudo site
- 199 chipped stone arrowheads (relate to grave) :
Middle Yayoi period : Daibi site
- 200 chipped stone arrowhead : Early Yayoi period :
Kyuhoji site
- 201 chipped stone arrowhead : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 202 chipped stone points : Early/Middle Yayoi period :
Kyuhoji site
- 203 stone knife : Early/Middle Yayoi period : Kyuhoji site
- 204 scraper : Early Yayoi period : Ikeuchi site
- 205 chipped stone reaping knife : Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 206 re-assembled set of flakes : Middle Yayoi period :
Miyake-nishi site
- 207 stone spindles (finished, unfinished) : Early Yayoi period :
Ikeuchi site
- 208 stone net sinkers : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 209 stone hammer : Middle Yayoi period : Kitoragawa site

- 210 stone hammer : Middle Yayoi period : Onosato site
- 211 modified pumices : Late Yayoi period : Uryudo site
- 212 stone blunt missiles : Early Yayoi period : Uryudo site
- 213 cylindrical jasper bead : Early/Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 214 greenschist stone made object (curved bead shape) :
Early/Middle Yayoi period : Yamaga site
- 215 greenschist stone made object (curved bead shape) :
Early/Middle Yayoi period : Yamaga site
- 216 jade curved bead : Middle Yayoi period : Uzumasa site
- 217 stone bead : Middle Yayoi period : Yugenosho site
- 218 stone rod : Early Yayoi period : Ikeshima-fukumanji site
- 219 stone rod : Early Yayoi period : Ikeshima-fukumanji site
- 220 stone rod : Early Yayoi period : Yamaga site
- 221 wooden combination spade : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 222 simple wood-block technique spade : Middle Yayoi period :
Wakae-kita site
- 223 wooden fork-shaped hoe : Early Yayoi period :
Kisabe-minami site
- 224 wooden flat hoe : Late Yayoi period : Kyuhoji site
- 225 wooden hoe : Early Yayoi period : Kyuhoji site
- 226 wooden hoe : Early Yayoi period : Ikeshima-fukumanji site
- 227 unfinished wooden hoe : Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 228 wooden hoe : Late Yayoi period : Ikeshima-fukumanji site
- 229 wooden hoe : Late Yayoi period : Wakae-kita site
- 230 wooden hoe : Late Yayoi period : Ikeshima-fukumanji site
- 231 splash guard : Middle/Late Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 232 splash guard : Late Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 233 paddy-field clog : Middle Yayoi period : Uryudo site
- 234 paddy-field clog : Early/Middle Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 235 wooden reaping knife : Middle Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 236 pestles : Early Yayoi period : Ikeshima-fukumanji site
- 237 mallet : Middle Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 238 mallet : Middle Yayoi period : Uryudo site
- 239 wooden pedestaled dish : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 240 wooden pedestaled dish : Early/Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 241 unfinished wooden pedestaled dish : Early Yayoi period :
Yamaga site
- 242 wooden bowl : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 243 body of wooden lidded vessel :
Early/Middle Yayoi period : Yamaga site
- 244 wooden platter : Yayoi period : Ikeshima-fukumanji site
- 245 wooden dippers/unknown wooden object :
Early Yayoi period : Sara district land subdivision site
- 246 unfinished wooden dipper : Early Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 247 wooden spoon : Early Yayoi period : Yamaga site
- 248 part of wooden chair : Late Yayoi/Earlier Kofun period :
Shoji site
- 249 wooden object for smoothing or paddy field sledge :
Middle Yayoi period : Uryudo site
- 250 paddy field sledge : Middle Yayoi period :
Wakae-kita site
- 251 wooden carry flame : Middle Yayoi period :
Wakae-kita site
- 252 wooden ladder : Late Yayoi period : Uryudo site
- 253 wooden door : Middle Yayoi period : Uryudo site
- 254 wooden conduit : Late Yayoi/Earlier Kofun period :
Shoji site
- 255 textile equipment : Late Yayoi period : Kyuhoji site
- 256 textile equipment : Middle Yayoi period :
Shin-kamikosaka site
- 257 wooden arrowheads : Middle/Late Yayoi period :
Kyuhoji site/Shin-kamikosaka site
- 258 wooden spear : Late Yayoi period :
Ikeshima-fukumanji site
- 259 knife-shaped wooden object : Middle Yayoi period :
Shin-kamikosaka site
- 260 ornament-shaped wooden object : Early Yayoi period :
Yamaga site
- 261 wooden bird-shaped effigy : Middle Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 262 board of round shaped head : Late Yayoi period :
Uryudo site
- 263 unknown wooden object : Late Yayoi period : Uryudo site
- 264 carbonized rices : Early Yayoi period :
Sara district land subdivision site
- 265 ornament of wild boar fang : Early/Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 266 nock-shaped bone object of wild boar metacarpal :
Early/Middle Yayoi period : Yamaga site
- 267 modified shark vertebra : Early/Middle Yayoi period :
Yamaga site
- 268 milk teeth from burial jar : Middle Yayoi period :
Iwata site
- 269 Haji wares (offering to tumulus) : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site (No.29 tumulus)
- 270 Haji wares (offering to tumulus) : Early Kofun period :

- Kyuhoji site (No.15 tumulus)
- 271 Haji wares (jars, offering to tumulus) :
Early Kofun period : Kyuhoji site (No.1 tumulus)
- 272 Haji wares (jars, offering to tumulus) :
Early Kofun period : Kyuhoji site (No.22 tumulus)
- 273 Haji wares (jars with composite rim, offering to tumulus) :
Earlier Kofun period : Shoji site
- 274 Haji wares (jars) of introduced from Tokai/Tokushima
(Awa) region : Earlier/Early Kofun period : Kozakaai site
- 275 Haji wares (jars) of introduced from Hokuriku/Tokushima
(Awa) region : Earlier/Early Kofun period : Kyuhoji site
- 276 Haji ware (large jar with compound rim) of introduced
from Kagawa (Sanuki) region : Early Kofun period :
Kozakaai site
- 277 Haji ware (large jar with compound rim, offering to
tumulus) of introduced from Kagawa (Sanuki) region :
Early Kofun period : Kyuhoji site (No.1 tumulus)
- 278 Haji ware (large jar with compound rim) of introduced
from Kagawa (Sanuki) region : Earlier/Early Kofun period :
Kyuhoji site
- 279 Haji ware (jar) made of two types of clay paste :
Early Kofun period : Miyake-nishi site
- 280 Haji ware (Yayoi form legged pot) : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site
- 281 Haji wares (Shonai form pot) : Early Kofun period :
Kyuhoji site (No.1 tumulus)
- 282 Haji ware (pot) of introduced from Tokushima (Awa) region :
Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 283 Haji ware (pot) of introduced from Kagawa (Sanuki) region :
Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 284 Haji ware (legged pot) of introduced from Tokai region :
Earlier Kofun period : Kyuhoji site (No.49 tumulus)
- 285 Haji ware (pot) of introduced from Tokushima (Awa) region :
Early Kofun period : Kozakaai site
- 286 Haji wares (pots) of introduced from Kibi region :
Earlier Kofun period : Kozakaai site
- 287 Haji ware (pot) of introduced from San'in region :
Early Kofun period : Kozakaai site
- 288 Haji ware (pedestaled dish) : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site (No.48 tumulus)
- 289 Haji ware (pedestaled dish) : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site (No.34 tumulus)
- 290 Haji ware (pedestaled dish) of introduced from Tokai region :
Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 291 Haji ware (pedestaled dish) of introduced from Tokai region :
Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 292 Haji ware (decorated jar stand) : Earlier Kofun period :
Yao-minami site
- 293 Haji ware (jar stand) of introduced from Awaji region :
Earlier Kofun period : Yao-minami site
- 294 Haji ware (decorated jar stand) of introduced from
Hokuriku region : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 295 Haji ware (pot stand, hand dram form : *tsuzumi-gata*) of
introduced or descended from San'in region : Earlier/
Early Kofun period : Shakudo site
- 296 Haji ware (bowl) of introduced or descended from
Shiga (Oumi) region : Earlier Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 297 Haji ware (legged bowl) : Earlier/Early Kofun period :
Kyuhoji site (No.44 tumulus)
- 298 Haji ware (handwarmer-shaped, *Teaburi-gata*) with incised
pattern/picture : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
(No.44 tumulus)
- 299 Haji ware (handwarmer-shaped, *Teaburi-gata*) with incised
pattern : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
(No.44 tumulus)
- 300 Haji ware (handwarmer-shaped, *Teaburi-gata*) with incised
pattern : Earlier Kofun period : Ikeshima-fukumanji site
- 301 Haji ware (leather bag shape) : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site
- 302 Haji ware (tripartite jar) : Early Kofun period :
Ikeshima-fukumanji site
- 303 Haji ware (jar, clay band imitation of basket) :
Earlier Kofun period : Yao-minami site
- 304 Haji ware (basket weave pattern jar) :
Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 305 Haji ware (basket weave pattern bowl) :
Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 306 Haji ware (basket weave pattern bowl) :
Earlier Kofun period : Yao-minami site
- 307 Haji wares : Middle Kofun period : Kozakaai site
- 308 Haji ware (stove) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 309 Haji ware (jar stand, modeled after Sue ware) :
Middle Kofun period : Kamikisabe site
- 310 Haji wares (stand forms) : Middle Kofun/Asuka period :
Ariike site
- 311 Sue wares : Middle Kofun period :
Uenoyama site/Nasuzukuri site
- 312 Sue wares/stonewares (*Toshitsu-doki*) /Haji wares :
Middle Kofun period : Miyake-nishi site
- 313 relics from tumulus (stone chamber) : Late Kofun period :
Okuyama site (No.1 tumulus)
- 314 Sue ware (jar stand) : Middle Kofun period : Katsube site
- 315 Sue ware (jar stand) : Middle Kofun period :
Kamikisabe site
- 316 Sue ware (jar stand) : Middle Kofun period :
Kisabe-minami site

- 317 Sue wares (jar stands) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 318 Sue ware (jar stand) : Middle Kofun period :
Ikeshima-fukumanji site
- 319 Sue ware (jar stand) : Late Kofun period : Komagatani site
- 320 Sue ware (jar, modelled after Haji ware) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 321 Sue ware (pot, reused to well curb) : Middle Kofun period :
Kisabe-minami site
- 322 Sue ware (pot, modelled after Haji ware/Korean style pottery) :
Middle Kofun period : Kamikisabe site
- 323 Sue ware (pedestaled dish with lid) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 324 Sue ware (pedestaled dish without lid) :
Middle Kofun period : Kozakaai site
- 325 Sue wares (pedestaled dishes without lid) :
Middle Kofun period : Uzumasa tumuli
- 326 Sue ware (pedestaled dish without lid) :
Middle Kofun period : Uzumasa tumuli (No.K3)
- 327 Sue ware (drink server : *Haso*) : Middle Kofun period :
Kisabe-minami site
- 328 Sue ware (bowl with ear) : Middle Kofun period :
Kisabe-minami site
- 329 Sue wares (bowls with ear) : Middle Kofun period :
Uenoyama site
- 330 Sue ware (bowl with ear) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 331 stoneware (*Toshitsu-doki*) : Early Kofun period :
Ikeshima-fukumanji site
- 332 stoneware of introduced from Paekche (*Kudara*) :
Middle Kofun period : Miyake-nishi site
- 333 stonewares with pattern like footprint of bird :
Middle Kofun period : Sara district land subdivision site
- 334 Sue ware (pot, Korean style) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 335 Sue ware (pot, Korean style) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 336 Sue ware (pot, Korean style) : Middle Kofun period :
Uematsu site
- 337 Sue ware (pot, Korean style) : Middle Kofun period :
Uematsu site
- 338 Korean style pottery (*Kanshiki-kei-doki*, long body pot) :
Middle Kofun period : Sara district land subdivision site
- 339 Korean style pottery (pot) : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 340 Korean style pottery (cooking pot) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 341 Korean style pottery (steaming vessel) :
Middle Kofun period : Kozakaai site
- 342 Korean style pottery (flat bottomed bowl) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 343 Korean style pottery (flat bottomed bowl) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 344 Korean style potteries (flat bottomed bowls) :
Middle Kofun period : Takamiya site
- 345 Korean style pottery (flat bottomed bowl) : Middle Kofun period :
Kamikisabe site
- 346 Korean style pottery (made of tile-clay) : Middle Kofun period :
Miyake-nishi site
- 347 Korean style pottery (pedestaled dish, black polished) :
Middle Kofun period : Kozakaai site
- 348 Sue ware (drinking horn cup) : Middle/Late Kofun period :
Kisabe-minami site
- 349 Sue ware (pedestaled dish, modelled after Haji ware) :
Middle/Late Kofun period : Takamiya site
- 350 Haji ware (dish) of introduced from Kanto region :
Late Kofun period : Ikeshima-fukumanji site
- 351 Silla (*Shiragi*) pottery (long neck jar) : Late Kofun period :
Kamikisabe site
- 352 salt-making potteries : Late Yayoi/Earlier Kofun period :
Minato site
- 353 salt-making potteries : Earlier Kofun period :
Minato site
- 354 salt-making pottery (pot form) : Early Kofun period :
Uematsu site
- 355 salt-making pottery (pot form) : Early/Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 356 salt-making pottery (pot form) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 357 salt-making potteries : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 358 salt-making potteries : Middle/Late Kofun period :
Tamakushi site
- 359 octopus traps : Final Yayoi/Earlier Kofun period :
Shimoikeda site
- 360 large ceremonial vessel stand (*Tokushu-kidai*) form
haniwa : Early Kofun period : Kozakaai site
- 361 *haniwa* cylinders (reused to coffin) : Early Kofun period :
Yamatogawa-imaike site
- 362 *haniwa* cylinders : Middle Kofun period :
Uzumasa tumuli (No.17)
- 363 *haniwa* cylinders/house-shaped *haniwa* :
Middle Kofun period : Sara district land subdivision site
- 364 Iwami type shield-shaped *haniwa*/sword-shaped *haniwa* :
Late Kofun period : Sara district land subdivision site
- 365 house-shaped *haniwa* : Early Kofun period :
Yamatogawa-imaike site
- 366 house-shaped *haniwa* : Early Kofun period :

- Yamatogawa-imaike site
- 367 house-shaped *haniwa* : Early Kofun period :
Yamatogawa-imaike site
- 368 house-shaped *haniwa* (roofs) : Early Kofun period :
Yamatogawa-imaike site
- 369 small imitative bronze mirror : Early Kofun period :
Ikeshima-fukumanji site
- 370 earrings : Late Kofun period : Ikeshima-fukumanji site
- 371 earrings : Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 372 bronze arrowhead : Earlier Kofun period : Shimoikeda site
- 373 bronze arrowheads : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 374 bronze arrowhead : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 375 iron arrowhead : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 376 iron arrowhead : Late Kofun/Asuka period :
Kamikisabe site
- 377 iron arrowheads : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 378 iron arrowheads : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 379 iron sword : Late Yayoi/Early Kofun period : Daibi site
- 380 iron sword (or spear) : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 381 iron socketed spearhead : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 382 iron sickle : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 383 iron small knife with antler grip : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 384 iron fish hock : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 385 flat iron ingots : Middle Kofun period :
Kisabe-minami site/Takamiya site
- 386 metal ring : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 387 tuyere : Late Kofun period : Kisabe-minami site
- 388 casting related relics : Late Kofun period :
Kamikisabe site
- 389 molds : Earlier Kofun period : Ikeshima-fukumanji site
- 390 bird-shaped Sue ware : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 391 horse-shaped clay figure : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 392 sword-shaped clay figure : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 393 U-shaped flat clay figure (use for stove fire box) :
Middle Kofun period : Sara district land subdivision site
- 394 clay vessel supports : Earlier/Early Kofun period :
Ikeshima-fukumanji site/ Yamaga site
- 395 miniature pottery (stove) : Late Kofun/Asuka period :
Uematsu site
- 396 Sue ware spindle : Middle Kofun period : Kozu site
- 397 Haji ware spindles : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 398 stoneware coffin : Late Kofun period : Osaka Castle
- 399 baked clay object offering to tumulus : Middle/Late
Kofun period : Kisabe-minami site
- 400 potter's anvil : Middle Kofun period :
Kisabe-minami site
- 401 Sue ware kiln wall materials : Middle Kofun period :
Uenoyama site
- 402 Sue ware burning tools : Middle Kofun period :
Nasuzukuri site
- 403 cylindrical beads (green tuff) : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site
- 404 cylindrical beads (steatite) : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 405 cylindrical beads (green tuff) /globular bead (glass) :
Early Kofun period : Higashi-kuraji site
- 406 cylindrical beads (jasper) /small mortar-shaped bead
(steatite) : Early Kofun period : Katsube site
- 407 cylindrical beads (steatite) /curved bead (steatite) :
Middle Kofun period : Shin-kamikosaka site
- 408 small mortar-shaped beads (steatite) /globular bead
(glass) /glass splinter : Late Kofun/Asuka period :
Kamikisabe site
- 409 beads/steatite goods : Middle/Late Kofun period :
Kamikisabe site
- 410 steatite goods : Middle/Late Kofun period : Kisabe-minami site
- 411 steatite goods (finished/unfinished) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 412 small mortar-shaped beads (steatite) : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 413 curved bead (jasper) : Early Kofun period :
Ikeshima-fukumanji site
- 414 curved beads (steatite) : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 415 compound curved bead (steatite) : Middle/Late Kofun
period : Sara district land subdivision site
- 416 compound curved bead (steatite) : Middle/Late Kofun period :
Kisabe-minami site
- 417 compound curved bead (steatite) : Late Kofun period :
Kisabe-minami site
- 418 spindles made of steatite : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 419 spindles made of steatite : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 420 spindle made of steatite : Middle/Late Kofun period :

- Kozakaai site
- 421 spindles made of steatite : Middle/Late Kofun period :
Kamikisabe site
- 422 spindle made of steatite : Late Kofun period :
Kisabe-minami site
- 423 spindle made of steatite : Late Kofun/Asuka period :
Kozu site
- 424 bead whetstone : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 425 whetstone : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 426 whetstones : Late Kofun period : Kisabe-minami site
- 427 stone pestle : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site (No.49 tumulus)
- 428 stone pestles : Middle Kofun period : Miyake-nishi site
- 429 stone mortar : Early Kofun period :
Yamatogawa-imaike site
- 430 stone mortars : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 431 line incising stone object : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site
- 432 gravels : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 433 wooden hoe : Earlier Kofun period : Nasuzukuri site
- 434 unfinished wooden hoe : Earlier Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 435 wooden wide hoe : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 436 wooden hoe : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 437 wooden axe shaft : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 438 wooden axe shafts : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 439 wooden sickle handle : Kofun period : Kisabe-minami site
- 440 wooden carry flames : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 441 pommel : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 442 scabbards : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 443 wooden bows : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 444 wooden bows : Late Kofun period : Kamikisabe site
- 445 prism-shaped wooden arrowhead : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 446 wooden shield : Early Kofun period : Kyuhoji site
- 447 cante : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 448 cante : Late Kofun period : Tamakushi site
- 449 loop stirrups : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 450 textile equipment : Middle Kofun period : Nasuzukuri site
- 451 textile equipments : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 452 wooden prow : Earlier Kofun period : Kyuhoji site
- 453 parts of planked boat (reused to well curb) :
Late Kofun period : Sara district land subdivision site
- 454 wooden broadside plates : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 455 boat-shaped wooden object : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 456 boat-shaped wooden object : Early Kofun period :
Kyuhoji site
- 457 wooden door (reused to well curb) : Middle Kofun period :
Kisabe-minami site
- 458 wooden door : Early Kofun period :
Kyuhoji site (No.15 tumulus)
- 459 wooden doors (reused to well curb) : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 460 wooden door : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 461 part of wooden chair (back plate) : Late Kofun period :
Kyuhoji site
- 462 part of wooden desk (tabletop) : Late Kofun period :
Nasuzukuri site
- 463 part of wooden desk (leg) : Middle Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 464 part of wooden desk (leg) : Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 465 wooden trough with two legs : Earlier Kofun period :
Uenoyama site
- 466 wooden trough : Earlier/Early Kofun period : Shakudo site
- 467 wooden bail : Early Kofun period : Kyuhoji site
- 468 wooden bail : Early Kofun period : Yugenosho site
- 469 wooden pail made by carving : Earlier Kofun period :
Kyuhoji site
- 470 wooden container made by carving : Earlier/Early Kofun period :
Kyuhoji site
- 471 lid of wooden container made by carving : Middle/Late
Kofun period : Sara district land subdivision site
- 472 wooden container made by joinery : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 473 wooden dish : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 474 ceremonial stick : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 475 wooden clog : Middle/Late Kofun period :
Sara district land subdivision site
- 476 wooden unknown object : Earlier Kofun period :

- Kyuhoji site
- 477 Haji/Sue wares : Asuka period : Sojiji site
- 478 Haji/Sue wares : Asuka period : Hazamiyama site
- 479 Haji/Ga wares (*Gaki*, fumed gery-black potteries) :
Late Heian period : Sumoto site
- 480 Sue/Ga wares, others : Late Heian period :
Uemachi-higashi site
- 481 Haji wares : Middle Heian period : Ikeuchi site
- 482 Haji ware (cup) : Middle Heian period : Ikeuchi site
- 483 Haji ware (irregular pedestaled dish) : Late Nara period :
Kin' yahommachi site
- 484 Haji wares (kneading bowl/coarse bowl) : Asuka period :
Hazamiyama site
- 485 Haji ware (bowl) : Late Heian period : Sumoto site
- 486 Haji ware (steaming vessel) : Asuka period :
Funahashi site
- 487 Haji ware (cooking pot) : Nara period : Kyuhoji site
- 488 Haji ware (flanged kettle, reused to well curb) :
Nara period : Kozakaai site
- 489 Haji wares (pots with perforation) : Late Nara period :
Sara district land subdivision site
- 490 Haji ware (buried coins pot) : Early Heian period :
Uryudo site
- 491 Haji wares (flanged kettles) : Late Heian period :
Sumoto site
- 492 Haji ware (stove) : Asuka period : Funahashi site
- 493 Haji ware (stove) : Nara period : Naniwa palace
- 494 Haji wares (hand modeling potteries) : Middle Heian period :
Hazamiyama site
- 495 Haji wares (plates made by turntable) : Late Heian period :
Aomadani site
- 496 Haji wares (white color potteries) : Middle Heian period :
Ikeuchi site
- 497 smoked Haji wares (*Kokushoku-doki*) : Middle Heian period :
Ikeuchi site
- 498 smoked Haji ware (water dropper) : Early Heian period :
Kin' yahommachi site
- 499 Ga ware (small cup) : Late Heian/Earlier Kamakura period :
Aomadani site
- 500 Sue wares (lids, made in Kosai-kilns) : Asuka period :
Hazamiyama site
- 501 Sue wares (long-necked jars) : Final Nara/Earlier Heian period :
Kin' yahommachi site
- 502 Sue ware (small jar) : Ancient times : Uenoyama site
- 503 Sue ware (small jar) : Early Heian period :
Kin' yahommachi site
- 504 Sue wares (small jars) : Early Heian period :
Kozakaai site
- 505 Sue ware (small jar with four handles, *Shijiko*) :
- Early Heian period : Koza site
- 506 Sue ware (double-handled jar, *Sojiko*, cinerary urn) :
Early Heian period : Tsuda site
- 507 Sue wares (pots) : Nara period : Kin' yahommachi site
- 508 Sue ware (pot) : Asuka/Nara period : Shin-kamikosaka site
- 509 Sue ware (platter leg) : Asuka period : Neya-higashi site
- 510 green glazed stoneware (plate) : Middle Heian period :
Ikeuchi site
- 511 green glazed stonewares (plate/small cup) :
Early Heian period : Kozakaai site
- 512 green glazed stoneware (triad legs jar)/
ash-glazed stoneware (plate) : Early Heian period :
Kisabe-minami site
- 513 ash-glazed stoneware (cup) : Middle Heian period :
Suita marshalling yard site
- 514 ash-glazed stonewares (jars, cinerary urns) :
Early/Middle Heian period : Tsuda site
- 515 ash-glazed stonewares (jar with four handles, cinerary
urn/small bottle) : Early Heian period : Tsuda site
- 516 ash-glazed stoneware (jar, cinerary urns) : Middle Heian
period : Higashi-kuraji site
- 517 Tokoname ware (incised three lines on jar body, *Sankinko*) :
Late Heian period : Tamakushi site
- 518 Tokoname ware (pot) : Final Heian period : Tsuda site
- 519 Silla (*Shiragi*) style stoneware (long-necked jar) :
Asuka period : Shin-kamikosaka site
- 520 celadons (made in Eshu kilns) : Early Heian period :
Ikeuchi site
- 521 celadon (cup, made in Eshu kilns) : Early Heian period :
Shin-kamikosaka site
- 522 celadon (cup, made in Eshu kilns) : Early Heian period :
Suita marshalling yard site
- 523 bluish white porcelain (lidded vessel) : Late Heian period :
Aomadani site
- 524 white porcelains (plate, cup) :
Late Heian/Earlier Kamakura period : Aomadani site
- 525 stove diverted from *haniwa* cylinder :
Final Kofun/Asuka period : Hazamiyama site
- 526 chimney diverted from *haniwa* cylinder : Asuka period :
Hazamiyama site
- 527 sluice pipe diverted from *haniwa* cylinder :
Asuka period : Hazamiyama site
- 528 well curb diverted from *haniwa* cylinder :
Asuka/Nara period : Yamatogawa-imaike site
- 529 round eave tile : Asuka period :
Suita marshalling yard site
- 530 round eave tile : Asuka period : Kozakaai site
- 531 round eave tile : Middle Nara period : Naniwa palace
- 532 round eave tile : Middle Nara period :

- Suita marshalling yard site
- 533 round eave tile : Late Nara period :
Shin-kamikosaka site
- 534 round eave tile : Late Nara period : Shoji site
- 535 round eave tile : Late Nara period :
Kin' yahommachi site
- 536 round eave tile : Late Heian period : Kyarabashi site
- 537 flat eave tile : Middle Nara period : Naniwa palace
- 538 flat eave tile : Late Nara period : Kin' yahommachi site
- 539 flat eave tile : Middle Nara period : Naniwa palace
- 540 flat eave tile : Late Nara period : Kin' yahommachi site
- 541 tiles (*sen*) : Middle Nara period : Naniwa palace
- 542 iron axe : Asuka period : Hazamiyama site
- 543 iron axe : Middle Heian period : Ikeuchi site
- 544 iron spade edge : Final Nara/Earlier Heian period :
Uryudo site
- 545 iron sickle : Early/Middle Heian period : Ikeuchi site
- 546 equipment of sword : Middle/Late Heian period :
Ikeuchi site
- 547 iron tweezers : Early Heian period : Tsuda site
- 548 bronze bells : Early/Middle Heian period :
Ikeshima-fukumanji site
- 549 rectangular-shaped belt plaque,others : Nara/Early
Heian period : Ikeuchi site
- 550 bronze rectangular-shaped belt plaques :
Nara/Early Heian period : Iwata site/Kisabe-minami site
- 551 bronze strap end : Nara period : Kyuhoji site
- 552 bronze mirror engraving *Juichimen Kannon Bosatsu* :
Late Heian period : Tsuda site
- 553 glass beads : Nara/Heian period : Kyuhoji site/Uryudo site
- 554 relics of handcraft production : Asuka period :
Funahashi site
- 555 molds of glass beads : Asuka period : Funahashi site
- 556 porous baked clay objects : Asuka period :
Hazamiyama site
- 557 mold of Buddhist image : Nara period : Tsuda site
- 558 mold of Buddhist image : Nara period : Tsuda site
- 559 tile with Buddhist image : Asuka/Nara period : Tsuda site
- 560 tile with Buddhist image : Nara period : Tsuda site
- 561 clay rattles : Asuka period : Hazamiyama site
- 562 clay masks : Asuka period : Hazamiyama site
- 563 semicircle-shaped baked clay object :
Asuka period : Hazamiyama site
- 564 tile-like baked clay object : Asuka period :
Funahashi site
- 565 horse-shaped clay figure : Asuka/Nara period :
Hazamiyama site
- 566 horse-shaped clay figure : Asuka/Nara period :
Yamatogawa-imalke site
- 567 horse-shaped clay figure : Nara period :
Former konryuji temple grounds
- 568 miniature Haji wares (stove/kettle) : Early Heian period :
Kozakaai site
- 569 stoneware inkslabs : Asuka period : Hazamiyama site
- 570 stoneware inkslab : Early Heian period : Koze site
- 571 stoneware inkslab : Early/Middle Heian period :
Ikeuchi site
- 572 leg of stoneware inkslab : Heian period : Ikeuchi site
- 573 rectangular-shaped belt plaque : Nara period :
Former konryuji temple grounds
- 574 rectangular-shaped belt plaque : Nara/Heian period :
Ikeuchi site
- 575 rectangular-shaped belt plaque, roundish belt fitting :
Nara/Heian period : Sara district land subdivision site
- 576 plane beads : Middle Heian period : Ikeuchi site
- 577 stone inkslab : Late Heian/Kamakura period :
Tamakushi site
- 578 boat-shaped wooden object : Asuka period :
Hazamiyama site
- 579 wooden axe shaft : Asuka period : Funahashi site
- 580 wooden footwear : Asuka period : Naniwa palace
- 581 wooden table : Asuka/Nara period : Naniwa palace
- 582 koto bridge : Nara period : Naniwa palace
- 583 chest (reused to well curb) : Nara period : Kyuhoji site
- 584 part of wooden umbrella : Late Heian period :
Funahashi site
- 585 wooden broadside plates (reused to well curb) :
Asuka period : Sara district land subdivision site
- 586 bottom of boat timbers (reused to well curb) :
Asuka period : Sara district land subdivision site
- 587 bottom of boat timbers (reused to well curb) :
Asuka period : Hazamiyama site
- 588 wooden door (reused to well curb) : Late Nara period :
Sara district land subdivision site
- 589 wooden effigies : Asuka period : Hazamiyama site
- 590 wooden effigies : Asuka/Nara period : Naniwa palace
- 591 human-shaped effigies : Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 592 human-shaped effigies : Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 593 votive tablet picturing a horse : Nara period :
Naniwa palace
- 594 votive tablet picturing a horse : Nara period :
Naniwa palace
- 595 votive tablet picturing a horse : Middle Nara/Earlier
Heian period : Sara district land subdivision site
- 596 votive tablet picturing a horse : Middle Nara/Earlier
Heian period : Sara district land subdivision site

- 597 wooden writing tablet : Asuka period : Naniwa palace
- 598 wooden writing tablet : Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 599 Sue ware incised character : Nara period : Tsuda site
- 600 inscribed character pottery (Ga ware) :
Late Heian period : Tamakushi site
- 601 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Middle Nara period :
Uematsu site
- 602 ink-inscribed pottery (Sue ware) : Nara period :
Suito marshalling yard site
- 603 ink-inscribed pottery (Sue ware) : Nara period :
Kin' yahommachi site
- 604 ink-inscribed potteries (Sue wares) : Late/Final Nara period :
Kin' yahommachi site
- 605 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Early Heian period :
Shin-kamikosaka site
- 606 ink-inscribed potteries (Haji wares) : Earlier Heian period :
Kyuhoji site
- 607 ink-inscribed potteries (Haji wares) :
Early Heian period : Kozakaai site
- 608 ink-inscribed pottery (smoked Haji ware) :
Early/Middle Heian period : Ikeuchi site
- 609 ink-inscribed potteries (Haji wares) : Early Nara period :
Ikeshima-fukumanji site
- 610 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Early Nara period :
Ikeshima-fukumanji site
- 611 ink-inscribed potteries (Haji wares) : Early Nara period :
Ikeshima-fukumanji site
- 612 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Late Nara period :
Ikeshima-fukumanji site
- 613 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Early Heian period :
Ikeshima-fukumanji site
- 614 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Early/Middle Heian period :
Ikeshima-fukumanji site
- 615 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Early/Middle Heian period :
Ikeshima-fukumanji site
- 616 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Late Heian period :
Tamakushi site
- 617 ink-inscribed pottery (Ga ware) : Late Heian period :
Sumoto site
- 618 ink-inscribed pottery (Ga ware) : Late Heian period :
Sumoto site
- 619 ink-inscribed pottery (*Yamajawan*) : Late Heian period :
Sumoto site
- 620 ink-inscribed pottery (*Yamajawan*) : Late Heian period :
Sumoto site
- 621 potteries with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period : Shoji site
- 622 pottery with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period : Shoji site
- 623 pottery with something like human faces in black ink :
Final Nara/Earlier Heian period : Uematsu site
- 624 pottery with human faces in black ink :
Earlier Heian period : Kyuhoji site
- 625 pottery with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 626 pottery with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 627 pottery with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 628 pottery with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 629 pottery with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 630 pottery with something like human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 631 pottery with human faces in black ink :
Middle Nara/Earlier Heian period :
Sara district land subdivision site
- 632 lacquer vessels : Asuka period : Naniwa palace
- 633 lacquer vessels with wooden plug/paper : Asuka period :
Naniwa palace
- 634 wooden plug for lacquer vessel : Asuka period :
Naniwa palace
- 635 cloth strainers : Asuka period : Naniwa palace
- 636 welded Sue ware : Asuka period : Uenoyama site
- 637 hewn stones (tuffs) : Asuka period : Hazamiyama site
- 638 pillar base stone : Nara period : Takamiya site
- 639 cremated bones : Early Heian period : Tsuda site
- 640 grave goods : Kamakura period : Tsuda site
- 641 Haji/Ga wares (grave goods) : Kamakura period :
Takamiya site
- 642 Haji/Ga wares : Kamakura period : Kyarabashi site
- 643 Haji wares (plates) : Kamakura/Muromachi period :
Sumoto site
- 644 Haji wares (plates) : Kamakura/Muromachi period :
Hanayashiki site
- 645 Haji wares (plates) : Kamakura/Early Muromachi period :
Hanayashiki site
- 646 Haji wares (reused to well curb, others) : Kamakura period :
Ikeuchi site
- 647 Haji wares (flanged kettles, reused to well curb, others) :

- Final Heian/Kamakura period ; Kyarabashi site
- 648 Haji ware (flanged kettle, reused to well curb) :
Kamakura period ; Sumoto site
- 649 Ga ware (bowl) ; Kamakura period ; Tamakushi site
- 650 vessel made of tile-clay (mortar) ; Muromachi period ;
Sumoto site
- 651 vessel made of tile-clay (small jar) ; Kamakura period ;
Katsube site
- 652 vessel made of tile-clay (flower vessel for Buddhist
ceremony) ; Muromachi period ; Sumoto site
- 653 vessel made of tile-clay (deep bowl) ; Kamakura period ;
Sumoto site
- 654 vessel made of tile-clay (flanged kettle) :
Muromachi period ; Sumoto site
- 655 vessel made of tile-clay (*Hibachi*) ;
Early Muromachi period ; Aomadani site
- 656 vessel made of tile-clay (*Hibachi*) ; Final Medieval/Edo period ;
Wakamiya site
- 657 vessel made of tile-clay (lids of rectangle incense burner) :
Sengoku period ; Uryudo site
- 658 vessels made of tile-clay (lids of rectangle incense burner) :
Muromachi period ; Hanayashiki site
- 659 vessel made of tile-clay (well curb) ; Late Medieval period/
Early Modern times ; Yamatogawa-imaike site
- 660 Sue ware (lipped bowl) ; Kamakura period ; Aomadani site
- 661 Sue ware (lipped bowl) ; Kamakura period ; Tsuda site
- 662 Sue ware (lipped bowl) ; Kamakura period ; Uryudo site
- 663 Tokoname ware (jar) ; Kamakura period ; Ariike site
- 664 Tokoname ware (jar) ; Kamakura period ; Kisabe-minami site
- 665 Tokoname ware (pot, reused to well curb) :
Kamakura period ; Kyarabashi site
- 666 Seto ware (plate) ; Kamakura period ; Tamakushi site
- 667 Seto ware (incense burner) ; Muromachi period ;
Suita marshalling yard site
- 668 Seto ware (lustrous black iron-glazed stoneware) :
Muromachi period ; Tamakushi site
- 669 imported glazed earthenware (platter of yellow glaze
with underglaze iron decoration, made in Jiso kilns) :
Late Heian/Kamakura period ; Tamakushi site
- 670 glazed earthenwares/porcelains :
Kamakura/Muromachi period ; Hanayashiki site
- 671 celadon (cup) ; Kamakura period ; Aomadani site
- 672 celadon (cup) ; Kamakura period ; Tsuda site
- 673 celadons (cups) ; Kamakura/Sengoku period ; Sumoto site
- 674 *Korai* celadons (jars) ; Kamakura period ; Tamakushi site
- 675 celadon (plate, made in Doan kilns) ; Late Heian/
Kamakura period ; Ikeshima-fukumanji site
- 676 white porcelain (plate with outward-curving rim) :
Sengoku period ; Miyake-nishi site
- 677 bluish white porcelains (lidded vessels) ; Kamakura period ;
Takamiya site
- 678 round eave tile ; Kamakura period ; Tsuda site
- 679 round eave tile ; Kamakura period ; Tsuda site
- 680 round eave tile ; Kamakura/Muromachi period ;
Yamatogawa-imaike site
- 681 round eave tile ; Kamakura period ; Sumoto site
- 682 round eave tile ; Muromachi period ; Wakamiya site
- 683 flat eave tile ; Kamakura period ; Sumoto site
- 684 flat eave tile ; Kamakura period ; Tamakushi site
- 685 flat eave tile ; Kamakura period ; Tamakushi site
- 686 flat eave tiles ; Kamakura period ; Sumoto site
- 687 flat eave tile ; Kamakura period ; Tsuda site
- 688 flat eave tile ; Muromachi period ; Hanayashiki site
- 689 flat eave tile ; Muromachi period ;
Yamatogawa-imaike site
- 690 bird perch tile ; Muromachi period ; Tamakushi site
- 691 crowning tile ; Muromachi period ; Wakamiya site
- 692 terminal ridge-end tiles ; Muromachi period ;
Hanayashiki site
- 693 terminal ridge-end tiles ; Muromachi period ;
Wakamiya site
- 694 terminal ridge-end tile ; Muromachi period ; Uryudo site
- 695 round tile/flat tile ; Muromachi period ;
Kamikisabe site
- 696 deposit coins ; Muromachi period ; Hanayashiki site
- 697 deposit coins ; Muromachi period ;
Ikeshima-fukumanji site
- 698 coins ; Kamakura/Muromachi period ;
Kamikisabe site/Kisabe-minami site
- 699 Buddha image plaque hung on a wall :
Kamakura/Muromachi period ; Tsuda site
- 700 bronze hanging tool ; Muromachi period ; Tsuda site
- 701 bronze mirror ; Kamakura period ; Takamiya site
- 702 bronze mirror ; Muromachi period ; Sumoto site
- 703 ornamental bodkin ; Kamakura/Muromachi period ;
Kamikisabe site
- 704 spade blade tips ; Kamakura/Muromachi period ;
Sara district land subdivision site
- 705 harrows ; Kamakura period ;
Sara district land subdivision site
- 706 sickle ; Early Muromachi period ; Tamakushi site
- 707 steelyard hook ; Muromachi period ;
Ikeshima-fukumanji site
- 708 short sword ; Kamakura period ; Takamiya site
- 709 short sword ; Kamakura period ; Tamakushi site
- 710 short sword ; Kamakura period ; Wakamiya site
- 711 short sword/small knife ; Late Heian/Kamakura period ;
Sumoto site

- 712 fork-shaped arrowhead : Medieval period :
Sara district land subdivision site
- 713 crucible : Kamakura period : Sumoto site
- 714 slags/nails : Kamakura period : Tsuda site
- 715 slags : Kamakura/Muromachi period : Hanayashiki site
- 716 clay rattle : Kamakura/Muromachi period : Sumoto site
- 717 clay rattle/ball/miniature flanged kettle :
Medieval period : Hanayashiki site
- 718 baked clay object : Medieval period : Tamakushi site
- 719 circle objects (reuse of roof tiles, others) : Kamakura period :
Kyarabashi site
- 720 vessels made of tile-clay (miniature flanged kettles) :
Kamakura period : Sumoto site
- 721 vessel made of tile-clay (miniature stove) :
Kamakura period : Sumoto site
- 722 vessel made of tile-clay (miniature stove) :
Kamakura period : Arike site
- 723 stone inkslab : Late Heian/Kamakura period :
Kozakaai site
- 724 stone inkslabs : Kamakura period : Tamakushi site
- 725 stone inkslab : Muromachi period : Aomadani site
- 726 heated stone : Kamakura period : Tsuda site
- 727 hand-mill (upper millstone) : Muromachi period :
Hanayashiki site
- 728 lacquer ware (cup) : Kamakura period : Tamakushi site
- 729 lacquer ware (cup) : Kamakura period : Tamakushi site
- 730 lacquer ware (cup) : Kamakura/Muromachi period :
Sumoto site
- 731 lacquer wares (cups) : Muromachi period : Hanayashiki site
- 732 lacquer ware (cup) : Muromachi period : Hanayashiki site
- 733 lacquer ware (plate) : Kamakura period : Tamakushi site
- 734 wooden dipper : Muromachi period : Sumoto site
- 735 chopsticks : Kamakura period : Sumoto site
- 736 wooden spindle : Muromachi period : Sumoto site
- 737 wooden spindle : Medieval period : Kisabe-minami site
- 738 wooden weight : Kamakura period : Tamakushi site
- 739 wooden balls : Kamakura/Muromachi period : Sumoto site
- 740 sandal/wooden clog : Kamakura/Muromachi period :
Hanayashiki site
- 741 wooden clog : Medieval period :
Sara district land subdivision site
- 742 wooden clog : Kamakura period : Sumoto site
- 743 wooden clog : Kamakura period : Sumoto site
- 744 wooden arrow : Muromachi period : Kozakaai site
- 745 rod-like wooden object : Late Heian/Earlier Kamakura
period : Sumoto site
- 746 stupa : Muromachi/Sengoku period :
Ikeshima-fukumanji site
- 747 amulet wooden writing tablet : Muromachi period :
Tamakushi site
- 748 amulet wooden writing tablet : Kamakura period :
Tamakushi site
- 749 amulet wooden writing tablet/ wooden writing tablet :
Kamakura period : Sumoto site
- 750 wooden writing tablets : Kamakura/Muromachi period :
Hanayashiki site
- 751 shingle with sutra inscription : Sengoku period :
Ikeshima-fukumanji site
- 752 ink-inscribed pottery (Haji ware) : Kamakura period :
Sumoto site
- 753 ink-inscribed potteries (celadon/ash-glazed pottery) :
Muromachi period : Kisabe-minami site
- 754 ink-inscribed pottery (white porcelain) : Kamakura period :
Tamakushi site
- 755 roof tiles incised characters : Muromachi period :
Wakamiya site
- 756 relics of cremation remain : Early Edo period :
Aomadani site
- 757 vessels made of tile-clay (mortars, from the ruins of graves) :
Azuchi-Momoyama period : Daibi site
- 758 Early modern potteries : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 759 Shino ware (dish, *Mukouzuke*) : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 760 Shino/Oribe ware (dish, *Mukouzuke*) :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 761 Seto-Mino ware (ash-glazed plate) :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 762 Seto-Mino ware (iron-glazed plate with folded rim) :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 763 Seto-Mino ware (lustrous black iron-glazed stoneware) :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 764 Iga-Shigaraki ware (pitcher) : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 765 Bizen ware (tea container) : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 766 Bizen ware (waste-water container) :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 767 Bizen ware (basin) : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 768 Bizen ware (bowl) : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 769 Bizen ware (incense burner) : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 770 Bizen ware (lamp) : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 771 Karatsu ware (dish, *Mukouzuke*) : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 772 Karatsu ware (jar) : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 773 urinal : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 774 Joseon Dynasty white porcelain (cup) :

- Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 775 stonewares/porcelains made in Korea :
Edo period : Sakai moated city site
- 776 three-color-glazed pottery made in South China (platter) :
Azuchi-Momoyama/Edo period : Sakai moated city site
- 777 three-color-glazed pottery made in South China (platter) :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 778 Chinese glazed stoneware (yellow glazed double-handled jar) :
Azuchi-Momoyama period : Sakai moated city site
- 779 Chinese glazed stonewares (black glazed bottle/teapot made in Gikou kiln) : Azuchi-Momoyama/Edo period :
Sakai moated city site
- 780 Chinese glazed stonewares (plates) : Edo period :
Sakai moated city site
- 781 stonewares made in South-east Asia (jars) :
Edo period : Sakai moated city site
- 782 stoneware made in Thailand (bowl with underglaze iron decoration) :
Edo period : Sakai moated city site
- 783 stonewares made in Vietnam (long-necked jars) :
Edo period : Sakai moated city site
- 784 stoneware made in Vietnam (cup with underglaze iron decoration and flower-shaped stamp) :
Edo period : Osaka castle
- 785 Chinese blue-and-white porcelains : Early Modern times :
Sakai moated city site
- 786 British stoneware of Willow pattern :
Early Modern times : Sakai moated city site
- 787 round eave tile : Azuchi-Momoyama period : Tsuda site
- 788 round eave tiles : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 789 flat eave tile : Azuchi-Momoyama period : Tsuda site
- 790 flat eave tiles : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 791 roof tiles with gold : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 792 terminal ridge-end tile : Azuchi-Momoyama period :
Tsuda site
- 793 well curb tile : Early Modern times :
Ikeshima-fukumanji site
- 794 iron hammer : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 795 steels for striking a light/iron kettle : Early Modern times :
Kisabe-minami site
- 796 lock : Edo period : Sakai moated city site
- 797 decorative accessory for a sword :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 798 handle of *sake* bottle : Azuchi-Momoyama period :
Tsuda site
- 799 silver ring : Edo/Meiji period : Sakai moated city site
- 800 winebottles made in Dutch : Edo period :
Sakai moated city site
- 801 ornamental hairpins made of glass : Edo period :
Onishi site/Wakamiya site
- 802 tile-clay pipe : Edo period
Ikeshima-fukumanji site
- 803 stonewares (lump dishes/candlestick) /flints :
Edo period : Onishi site/Wakamiya site
- 804 stoneware (miniature *sake* bottle for toy) : Edo period :
Shoji site
- 805 Seto-Mino ware (water dropper) : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 806 stoneware (water dropper) : Edo period :
Sakai moated city site
- 807 coin imitation baked clay objects : Edo period :
Uryudo site
- 808 coin imitation baked clay objects : Early Modern times :
Ikeshima-fukumanji site
- 809 baked clay toys : Edo period :
Onishi site/Wakamiya site
- 810 dice : Azuchi-Momoyama/Edo period : Sumoto site
- 811 whetstone with board : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 812 stone Buddha images : Azuchi-Momoyama period : Tsuda site
- 813 stone Buddha image : Azuchi-Momoyama/Edo period :
Ikeshima-fukumanji site
- 814 wooden dolls : Edo period : Sakai moated city site
- 815 umbrella : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 816 battledore : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 817 Buddhist rosary : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 818 chessmen : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 819 wooden writing tablet : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 820 wooden writing tablet (talisman) : Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 821 wooden writing tablets : Azuchi-Momoyama period :
Osaka castle
- 822 ink-inscribed potteries (Haji wares) :
Azuchi-Momoyama period : Sakai moated city site
- 823 roof tile incised characters : Azuchi-Momoyama period :
Tsuda site
- 824 roof tiles incised characters :
Azuchi-Momoyama period : Osaka castle
- 825 top made of small water snails/clay imitation top :
Edo/Meiji period : Sakai moated city site
- 826 pieces made of shell : Azuchi-Momoyama period :
Sakai moated city site
- 827 earthen teapots used on the train : Showa period :
Suita marshalling yard site
- 828 earthen teapots used on the train/glass bottles/nest of boxes : Meiji/Showa period : Suita marshalling yard site
- 829 earthenware bowl/lid : Showa period :

- Suita marshalling yard site
- 830 earthen teapot used on the train/earthenware bottle :
Meiji/Taisho period : Kyuhoji site
- 831 earthenware bowls used to collect feces : Taisho/Showa
period : Kin' yahommachi site
- 832 sanitary earthenware (wash-basin) : Meiji/Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 833 rails with sleeper : Showa period : Shimoikeda site
- 834 pipe : Meiji period : Kyuhoji site
- 835 artillery shells : Showa period : Kin' yahommachi site
- 836 shell cases : Taisho/Showa period : Kin' yahommachi site
- 837 fuses : Showa period : Kin' yahommachi site
- 838 shells/shell cases : Showa period : Kin' yahommachi site
- 839 glass bottles (beer/soda/milk) : Meiji/Showa period :
Suita marshalling yard site
- 840 bricks : Meiji period :
Former osaka prefectural government office
- 841 bricks : Meiji/Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 842 bricks : Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 843 bricks : Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 844 firebricks : Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 845 brick/firebrick : Meiji/Taisho period :
Kin' yahommachi site
- 846 bricks : Meiji/Taisho period : Kin' yahommachi site
- 847 bricks : Meiji/Taisho period : Kin' yahommachi site
- 848 bricks : Meiji/Taisho period : Kin' yahommachi site
- 849 tile : Showa period :
Former osaka prefectural government office
- 850 earthenware pipe : Meiji period :
Former osaka prefectural government office
- 851 stovepipe : Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 852 beckoning cat made of white porcelain :
Early Modern/Modern times : Wakayama site
- 853 stone for stove fire hole : Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 854 stones for stove fire hole : Taisho period :
Former osaka prefectural government office
- 855 wooden safekeeping tool for artillery shell :
Showa period : Kin' yahommachi site
- 856 blotter document : Taisho/Showa period :
Kin' yahommachi site
- 857 concrete sleepers : Showa period : Kin' yahommachi site
- 858 capital : Taisho period :
Former osaka prefectural government office

Size codes of relics (cm)

R D : rim diameter	r d : estimated rim diameter
D : diameter	d : estimated diameter
M D : maximal diameter	m d : estimated maximal diameter
B D : bottom diameter	b d : estimated bottom diameter
H : height	h : remained height
W : width	w : remained width
L : length	ℓ : remained length
T : thickness	t : remained thickness

あ と が き

本書は、(公財)大阪府文化財センターの設立 40 周年記念事業のひとつとして刊行された。

今回の発掘資料精選は、2002 年出版のⅡ以降の 10 年間にわたる内容を収載した、いわば“センター財産目録・遺物編”の第三弾となる。味読いただけることを切に乞う次第である。

……、そして、多士済済のわがセンターがこれから進んでいく将来をかたく信じようと思う。

最後に、この 10 年のうちで現役のまま二人の職員、2008 年 10 月に田中龍男さんが、2010 年 11 月に上野貞子さんが他界されたこと、加えて、龍男さん発掘の出土品も、上野さん撮影の写真も本書に多く盛り込まれていること、これらの点を銘記してあらためて故人のご冥福を祈りたい。

2012 年 11 月

公益財団法人 大阪府文化財センター 設立 40 周年記念
『 撰 河 泉 発 掘 資 料 精 選 Ⅲ 』 刊 行 委 員 会

執筆	秋山 浩三	後川恵太郎	飯田 浩光	市村慎太郎	市本 芳三
	伊藤 武	井上 智博	入江 正則	江浦 洋	岡戸 哲紀
	岡本 圭司	岡本 茂史	奥村 茂輝	小野 久隆	金光 正裕
	亀井 聡	川瀬 貴子	河端 智	河本 純一	倉賀野 健
	黒須亜希子	合田 幸美	後藤 信義	駒井 正明	佐伯 博光
	笹栗 拓	佐藤 直紀	三宮 昌弘	鹿野 墨	信田真美世
	柴田妃三光	島崎 久恵	新海 正博	陣内 暢子	鈴 千夏
	角南なつみ	関本優美子	塚本 浩司	中尾 智行	永野 仁
	中村 淳磯	西村 歩	廣瀬 時習	福佐美智子	本間 元樹
	正岡 大実	松本 吉弘	水久保祥子	三好 孝一	森本 徹
	森屋美佐子	山口 誠治	若林 幸子		

(大阪府立弥生文化博物館・同近つ飛鳥博物館・(財)鳥取県教育文化財団に在職・出向者を含む)

写真 (故)上野 貞子 片山 彰一 立花 正治 (2008 年定年退職) ほか

編集 刊行委員会 (秋山 市村 川瀬 鹿野 信田 新海)

(以上、50 音順)

撰 河 泉 発 掘 資 料 精 選 Ⅲ

発 行 公益財団法人 大阪府文化財センター ©
2012.11.28 (設立 40 周年記念日)
〒 590-0105 大阪府堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号
TEL 072-299-8791 / FAX 072-299-8905
印刷・製本 株式会社 中島弘文堂印刷所

表 紙 シンボルマーク：美園古墳家形埴輪
裏表紙 カット：小路遺跡・讃良郡糸里遺跡
人面墨書土器
(本書Ⅱ部 621・625・627～629 参照)